トラクタ

取扱説明書



MT337
MT367

ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはトラクタをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのでご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は，ほ場でのロータリ耕うん作業，農業用作業機を装着しての農作業及び路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次の通り構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● **安全な作業をするための注意事項は？** **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● **使用前に知っておかなければならないことは？** **ご使用まえに** 1

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

● **各部のはたらきを知るには？** **各部のはたらき** 6

機械の主な名称について説明し，各装置の取扱いを説明しています。

● **トラクタを動かすには？** **運転のしかた** 35

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動・発進・走行・停止のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた，坂道での運転のしかた等を説明しています。

● **ほ場作業を行うには？** **作業のしかた** 45

作業に必要な装置の使いかたについて説明しています。

● **マイコンを使用して作業するには？** **マイコン装備機の取扱い** 55

マイコンの取扱いについて説明しています。

● **キャビンを使用するには？** **キャビン装備機の取扱い** 73

キャビン装備機の取扱いについて説明しています。

● **機械を長もちさせるには？** **手入れのしかた** 88

機械をつねに正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。

● **機械を長期格納するときは？** **長期格納のしかた** 112

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

● **故障かなと思ったら？** **不調時の処置** 114

異常を感じたらすぐ原因を調べ処置してください。

もくじ

安全作業のために ……(安全作業説明編)

ご使用まえに ……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 3
4．小型特殊自動車について…… 4

各部のはたらき ……6

1．各部の名称…… 6
2．運転装置の取扱い…… 8
　1．スイッチ，計器関係…… 8
　2．レバー，ペダル，シート関係……11
3．安全フレームの取扱い……22
　1．安全作業について……22
　2．安全フレームのたおしかた・おこしかた……23
4．電装関係の取扱い……24
　1．ヒューズの取扱い……24
5．油圧装置の取扱い……27
　1．コントロールレバーの操作［PAC装備機］…27
　2．ダッシング防止の調整［PAC装備機］…29
　3．作業機降下速度の調節……30
　4．パワーステアリングの取扱い……31
　5．フロントローダの取扱い……32
6．３点リンクの取扱い……33
　1．トップリンク……33
　2．作業機を取付けない時は……33
　3．ドローバ……33
　4．PTOキャップ……34
　5．ロータリの取付け……34

運転のしかた ……35

1．運転まえの点検……35
　1．点検項目……35
2．運転操作のしかた……36
　1．エンジンの始動……36
　2．発進のしかた……38
　3．走行のしかた……40
　4．停止のしかた……41
　5．自動車への積込み・積降ろし……43
　6．坂道での運転のしかた……44

作業のしかた ……45

1．ほ場作業のしかた……45
　1．ほ場への出入りのしかた……45
　2．作業に適した速度の選びかた……46
　3．デフロックの使いかた……49
　4．ほ場での旋回のしかた……49
2．作業に必要な装置の使いかた……50
　1．トレッドの調節のしかた……50
　2．３点リンクの取付け寸法の設定のしかた…52
　3．作業機の取扱い……54

マイコン装備機の取扱い ……55

1．マイコンの取扱い……55
　1．マイコンの機能……55
　2．マイコンの概要……55
　3．マイコン操作要領……56
2．ポジションコントロールレバーの取扱い…58
　1．操作部名称……58
　2．取扱い方法……58
3．耕深自動の取扱い……61
　1．操作部名称……61
　2．取扱い方法……61
4．傾斜自動の取扱い……64
　1．操作部名称……64
　2．取扱い方法……64
5．ドラフト自動の取扱い……66
　1．操作部名称……66
　2．取扱い方法……66
6．安全装置の取扱い……68
　1．安全装置……68
7．タイヤサイズ切替機能……68
8．作業機切替機能……68
　1．作業機切替……68
9．マイコン装備機の作業別，組合せ操作……69
　1．標準機……69
　2．パルシフト装備機……71

キャビン装備機の取扱い……73

1．各部の取扱い……73

1．ドア，リヤウインドウ・ルーフの開閉のしかた…73

2．スイッチの取扱い……75

1．スイッチの名称……75

2．取扱い方法……75

3．運転装置の取扱い……79

1．バックミラー……79

4．室内装備の取扱い……79

1．灰皿……79

2．カーステレオ……80

3．エアコン……84

手入れのしかた……88

1．定期点検整備表……88

2．給油・給脂・給水のしかた……90

1．給油・給脂・給水個所……90

2．給油・給脂・給水表……91

3．エンジンオイルの点検と交換……92

4．エンジンオイルフィルタの交換……93

5．燃料の補給……93

6．燃料フィルタの交換と掃除……94

7．エア抜き要領（エア抜き容易化装置）…94

8．冷却水の保守管理……95

9．ミッションオイルの点検と交換……97

10．油圧オイルフィルタの交換……98

11．フロントアクスルオイルの点検と交換……98

12．各部の給脂……99

13．ウォッシャ液の給水…… 100

3．各部の掃除のしかた…… 101

1．エアクリーナの掃除…… 101

2．ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除… 101

3．カーステレオの掃除［キャビン装備機］… 102

4．エアコンの掃除［キャビン装備機］…… 102

4．各部の点検と調整のしかた…… 103

1．ファンベルトの点検・調整…… 103

2．クラッチペダルの点検・調整…… 103

3．トーインの点検・調整…… 104

4．ブレーキペダルの点検・調整…… 105

5．タイヤの点検…… 106

6．ハンドルの点検…… 106

7．ホース類の点検…… 107

8．電気配線の点検と掃除…… 107

9．バッテリの点検と充電…… 108

10．コンプレッサベルトの張り調整［キャビン装備機］… 111

長期格納のしかた…… 112

1．機械の掃除・洗浄・格納…… 112

2．格納中の手入れ…… 113

3．再使用にあたって…… 113

不調時の処置…… 114

1．エンジン部…… 114

1．始動しない，または始動困難…… 114

2．エンジン出力不足およびエンジン自然停止… 115

2．走行・運転操作部…… 116

1．走らない，ブレーキがきかない…… 116

2．パワーステアリング…… 117

3．油圧部…… 118

1．油圧関係…… 118

4．電気・自動制御部…… 119

1．電気関係…… 119

2．自動制御関係［マイコン装備機］…… 119

5．キャビン部…… 120

1．キャビン関係…… 120

付表…… 121

1．主要諸元…… 121

2．電気配線図…… 122

3．主な消耗部品…… 128

1．エンジン関係…… 128

2．エアクリーナ，油圧ライン関係…… 128

3．電装関係…… 129

4．アタッチメント一覧表…… 130

5．潤滑油について…… 131

1．エンジンオイルについて…… 131

2．ミッション，フロントアクスルオイルについて… 131

3．三菱農機（純正油）マルチオイルペアについて… 132

6．トラクタ関連商品…… 133

7．用語解説…… 134

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠作業前の点検，整備，掃除をする時は……（安-6）

⚠エンジンを始動する時は……（安-11）

⚠作業機の装着および作業をする時は……（安-13）

⚠走行運転をする時は……（安-17）

⚠狭い道路，凸凹道，坂道，傾斜地で運転する時は……（安-19）

⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……（安-21）

⚠ほ場で作業をする時は……（安-22）

⚠１日の作業が終わったら……（安-23）

⚠長期格納する時は……（安-24）

2．表示ラベルについて……（安-26）

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項で説明している安全説明は**トラクタ全般**についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。 	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。 

⚠安全作業のポイント



- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転する

始業・点検　準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン，バッテリ，燃料タンクの周辺を掃除する
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースの点検
- 給油，冷却水の点検はエンジンが冷えている時に行う
- 燃料補給時は火気を近づけない
- 各部の締付けを確認する
- ブレーキの作動具合と左右の遊び量の点検
- ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認
- 方向指示器などの保安部品の作動確認
- 作業機を上げて点検するときは作業機降下速度調節グリップを「固定」の位置にして作業機の下に固定脚を置く
- トラクタを移動して作業機を着脱する時はトラクタと作業機の間に立たない
- 機械は改造しない
- 油脂類の廃却は，廃却設備のあるところで処理する

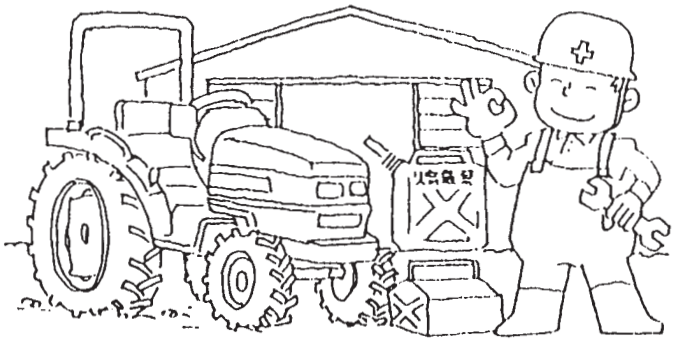
エンジン始動

- すべてのカバーを取付け，安全フレームをおこす
- トラクタや作業機の周囲から人を遠ざける
- 運転席に座り駐車ブレーキをかけ，シートベルトをする
- 主変速，副変速，PTO変速を「《N》（中立）」にし，クラッチペダルを踏む
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする

走行・運転

- 左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する
- PTO変速を「《N》（中立）」にし，ダイヤクイックターンを「切」にする





- 傾斜自動スイッチ，耕深自動スイッチの「切」を確認する［マイコン装備機］
- PAC/ドラフトコントロールレバーを《解除》にする［PAC装備機］
- トラクタや作業機に人や物を乗せない
- 発進時は周囲をたしかめる
- エンジンコントロールレバーを「低」にし，フートアクセルで走行する
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない

道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける
- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る
- 公道走行する時は作業機を装着しない
- 前後左右を確認し，低速車線を走る
- 夜間の移動はライトをつける
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

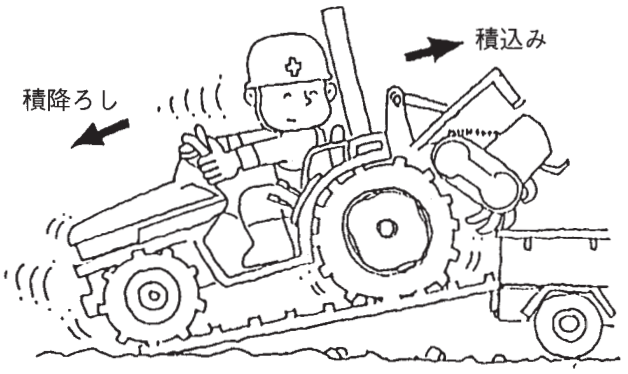
- 狭い農道や凸凹道は低速で走行する
- 対向車を避ける時，端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 登り坂では急発進しない
- 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使用する
- 坂道では走行クラッチを切らない，変速レバーを「《N》（中立）」にしない

停車・駐車

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，主変速・副変速，PTO変速を「《N》（中立）」にし作業機を降ろしてからエンジンを停止する
- 坂道では駐車しない
  （やむをえず駐車するときは歯止めをする）
- 機械を離れる時はキーを抜取る

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは強度，幅，長さ，すべり止め，フックのあるものを使用する
- アユミは自動車の荷台に対し真っ直ぐにかけ，フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械のまわりには人を近づけない
- PTO変速を「《N》（中立）」にする
- 積込みは後進，積降ろしは前進で低速で行う
- ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする
- アユミの上ではクラッチ操作や変速操作をしない
- 片ブレーキ，デフロックは使用しない



ほ場作業　ほ場の出入り

- PTO変速を「《N》（中立）」にする
- 左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する
- 低速であぜに対して直角に行う
- 高あぜ，溝越え，急傾斜はアユミを使用する
- 上がるときは後進，降りるときは前進で行う
- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う

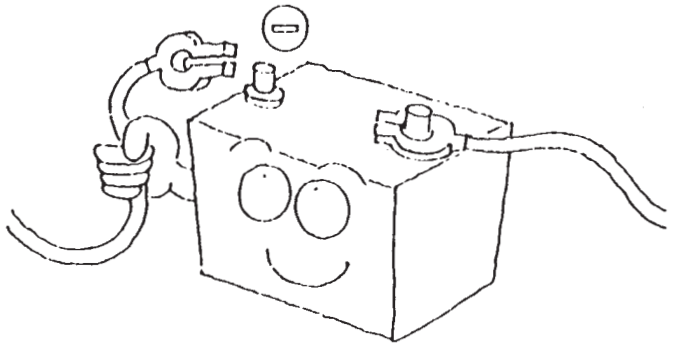


ほ場での作業

- 子供等，人をそばに近づけない。２人乗りはしない
- ウエイトがわりに人や物を乗せない
- 旋回時は周囲を確認する
- わき見運転や手放し運転はしない
- 急傾斜地では作業をしない
- デフロック使用後は解除を確認する
- けん引作業は純正ドローバを使用し，後車軸の高さより上では引っ張らない
- 疲労を感じたら無理に作業を続けず休憩をする

作業中途の点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 作業機の点検をする時は作業機降下速度調節グリップを「固定」にする
- エンジンまわりの点検はエンジンが冷えてから行う



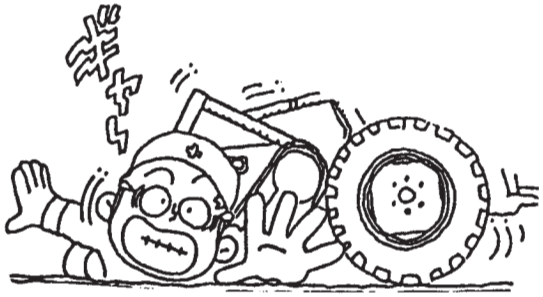
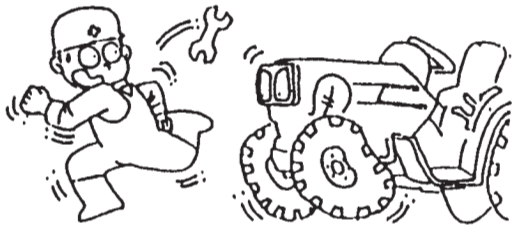
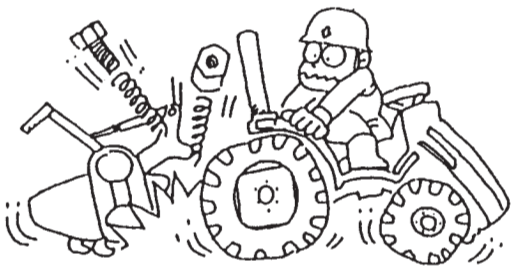
終業・格納　１日の作業が終わったら

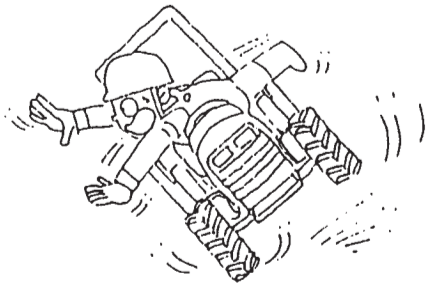
- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけて作業機を降ろしエンジンを停止してキーを抜取る
- エンジン，バッテリ，燃料タンク周辺を掃除する
- マフラ，ラジエータ等は冷えるまで直接触れない
- タイヤの交換，輪距の変更はジャッキと固定脚を使用する
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

長期格納

- 作業機は外すか，降ろしておく
- 燃料は満タンにし，燃料コックを閉めておく
- バッテリのアースコードを外すか，バッテリを取外す
- クラッチペダルを踏込んでペダルロックをかける
- 後輪の前後に歯止めをし，駐車ブレーキを解除する
- 部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談する

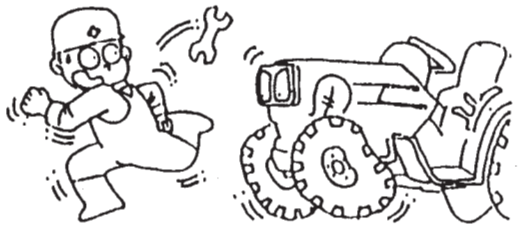
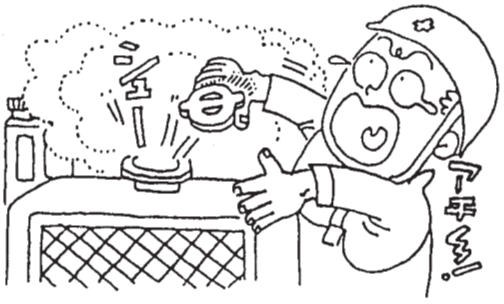
⚠作業前の一般的な注意事項

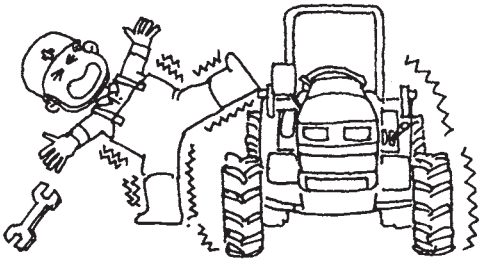
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
◆機械はほ場でのロータリ耕うん作業，農業用作業機を装着しての農作業及び路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。		思わぬ事故を引起こすことがあります。
◆機械は改造しないでください。		改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。
◆トラクタを使用する前後に点検を行い，異常個所は直ちに整備してください。 ◆1シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。		整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。
◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。		排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

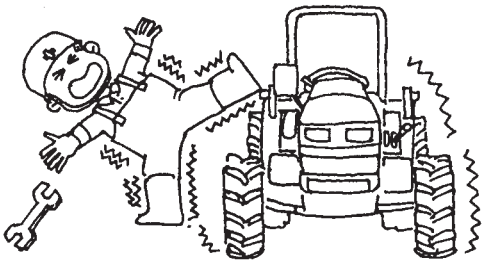
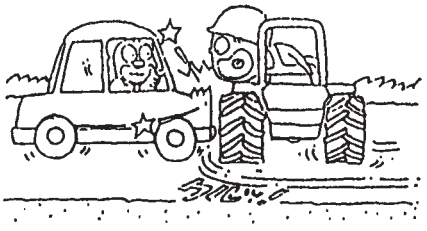
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
◆トラクタでの傷害事故の大半は転落・転倒事故です。安全フレームを装着してください。 ◆通常は安全フレームを「おこして」シートベルトを着用してください。 		転落や転倒した時は死亡または傷害事故になることがあります。 
◆機械に人や物を乗せたり，人を近づけないでください。 ● トラクタや作業機の上に人や物を乗せない。 ● 子供等，人を近づけない。		思わぬ事故を引起こす原因となります。 
◆トラクタへの飛び乗り，飛び降りはしないでください。		転落や転倒して，傷害事故を引起こすことがあります。 

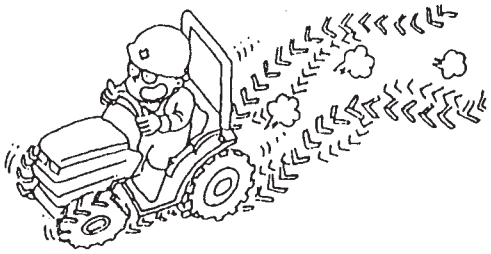
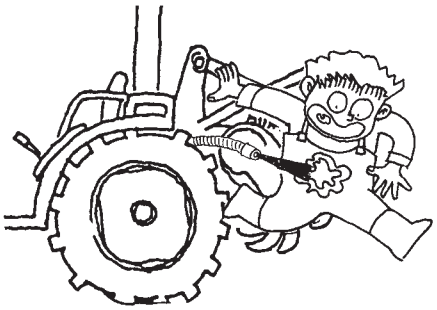
⚠作業前の点検・整備・掃除をする時は……

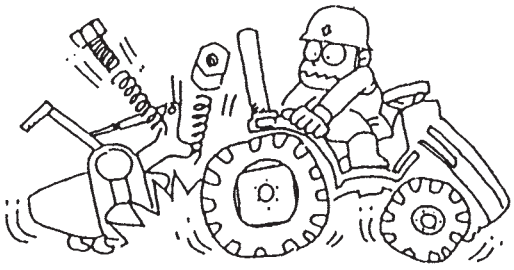
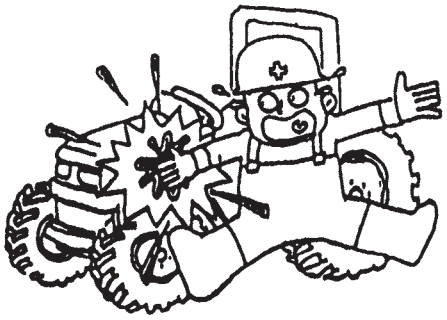
必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止させタイヤに歯止めをしてから行なってください。 ●主変速，副変速，PTO変速レバーが「《N》（中立）」になっていることを確認する。	機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。 
⚠危険 ◆給油，注油時はエンジンを停止しエンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしないでください。 ◆燃料補給時は，くわえタバコなどの火気を近づけないでください。 ●燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。	燃料などに引火し，ヤケドや火災の原因となることがあります。 
⚠危険 ◆燃料ホースの損傷や燃料もれがないか点検してください。 ●もれている場合は交換する。 ●燃料ホースは2年ごとに交換する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを外さないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検はリザーブタンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドをすることがあります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆エンジンオイル等の油脂類や不凍液の廃却は，廃却設備のある所で処理してください。		環境汚染の原因となります。
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。		バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についた時は，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。		バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明やヤケドをすることがあります。
⚠警告 ◆バッテリ端子から，コードを取外すときは，⊖側を先に取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください。 ● バッテリは指定されたバッテリを使用する。 ● ⊕⊖を逆に接続しない。		ショートして，ヤケドや火災の原因となります。

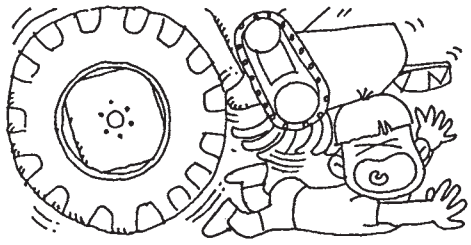
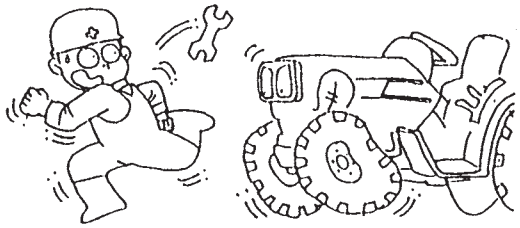
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか，はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●電気部品を取外す前にバッテリ⊖側のコードをバッテリ端子から外す。		ショートして，ヤケドや火災の原因となります。 
⚠警告 ◆タイヤの空気圧は取扱説明書に記載してある空気圧を守ってください。 ●タイヤの空気は入れすぎない。 ◆タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。 ◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。（特別教育を受けた人が行うように法で義務づけられています。）		タイヤに空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と，タイヤが破裂し，死傷事故につながることがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクまわりにワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。		火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。		交通事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ブレーキの点検調整をしてください。 ●左右のブレーキのきき具合は良いか，また左右ブレーキの踏代が同一になっているか確認する。 ◆ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認してください。 ◆前後輪（タイヤ）取付ボルトのゆるみがないか確認してください。	正常な走行運転ができず事故を引起こす原因となります。  正常な走行ができなくなり，事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆高圧噴油に触れないでください。 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸透した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠注意 ◆点検整備に必要な工具類は，適正な管理をし，正しく使用してください。 ◆トラクタには，点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。 		整備不良で事故を引起こすおそれがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，全て取付けてください。 ●カバーは正しく取付ける。		機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 

⚠エンジンを始動する時は……

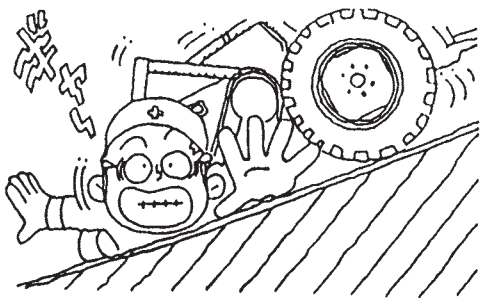
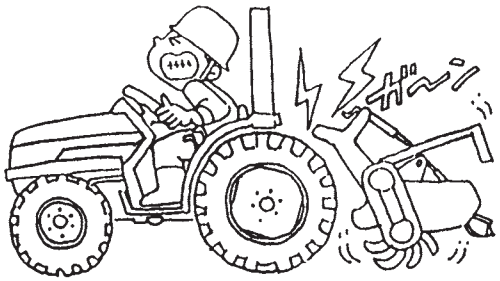
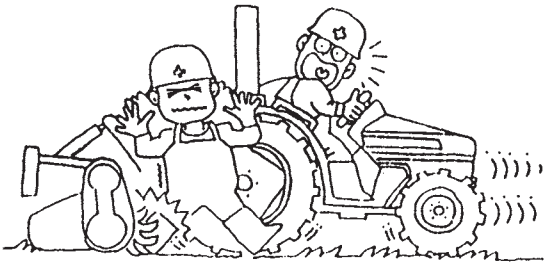
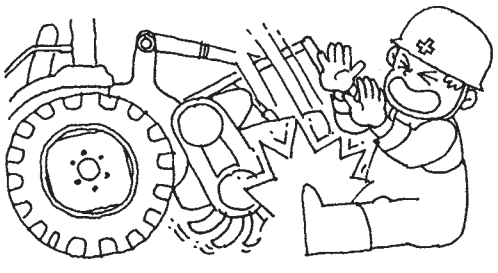
必ず守ってください ➡ **守らないとこんな事故が！**

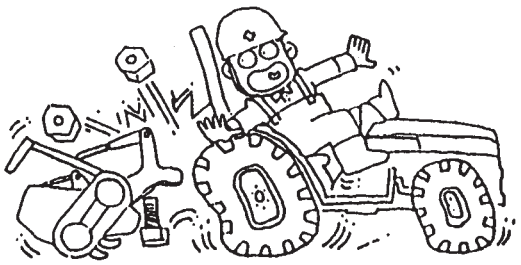
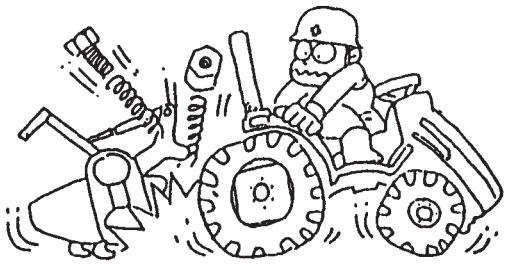
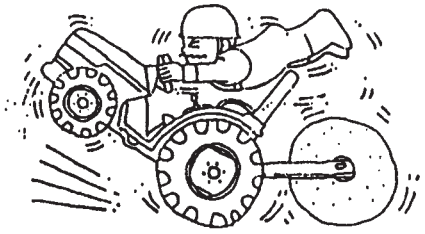
警告 ◆始動する前に，周囲を確認し，トラクタや作業機の周囲から子供等，人を遠ざけてください。	子供等，人が近づくと，傷害事故を引起こすことがあります。 
警告 ◆始動はシートに座って正しい姿勢で行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
警告 ◆主変速，副変速，PTO変速を「《N》（中立）」にしてください。 ●主変速，副変速，PTO変速のレバーが「《N》（中立）」になっているかレバーを手で動かして確認する。 ●クラッチペダルを踏んで始動します。	変速やクラッチが入っていると機械が動きだし事故の原因となることがあります。 

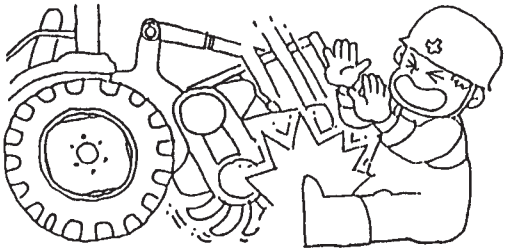
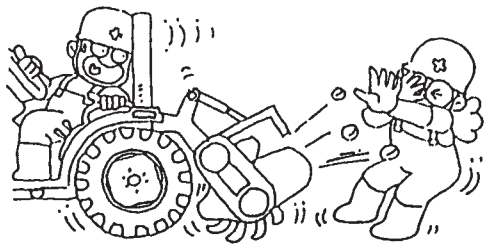
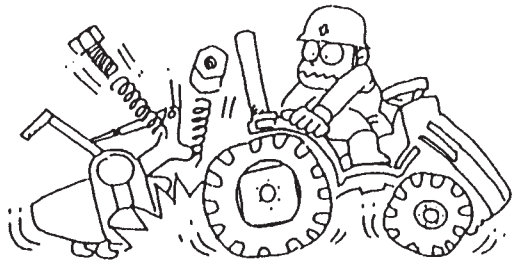
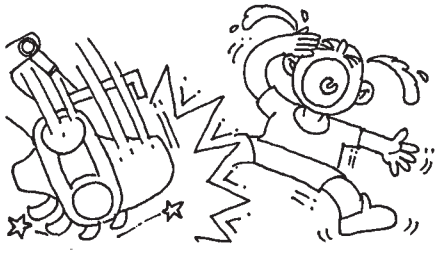
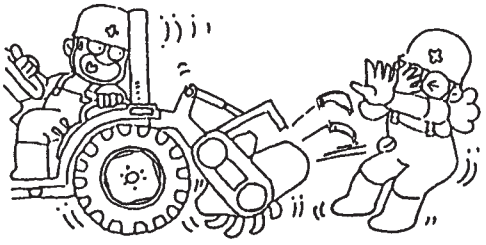
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。 ● 換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。		排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，主変速，副変速，PTO変速を「《N》（中立）」にし，平坦な場所で駐車ブレーキをかけて行なってください。		トラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となることがあります。 

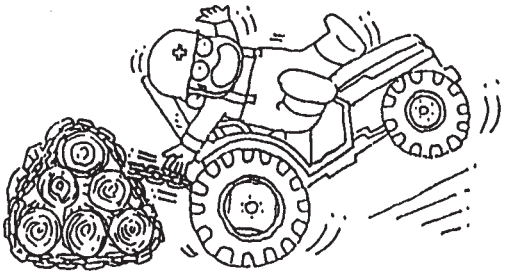
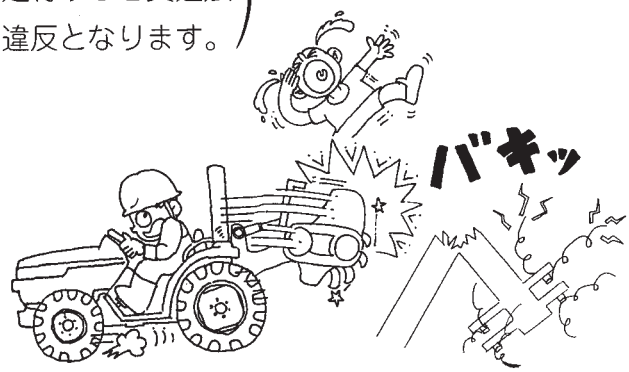
⚠作業機の装着および作業をする時は……

必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆作業機を着脱する前に，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。着脱作業は各部の動きが止まってから行なってください。 ●着脱は平坦な場所で，地盤のしっかりしたところで行う。 ●夜間は適切な照明をする。	トラクタが動き出したりして，思わぬ傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆トラクタに適合した作業機を装着してください。 ●作業機の取扱説明書を読む。 ●吊り穴は作業機に応じて指定された穴位置で使用する。 ●左右のチェックチェンを調整し，作業機が振れてもタイヤに触れないようにする。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠ ◆作業機の着脱で２人作業の時は合図を確実にし合って行なってください。 ◆スーパーヒッチで作業機を着脱する時は周囲を確認しトラクタや作業機の周囲から子供等，人を遠ざけてください。 ●トラクタを移動して作業機を着脱する時は，トラクタと作業機の間に進入しない。 ●装着は手順通り正しく行う。 ●確実に装着して，ピンに抜け止めピンをする。 ●作業者以外の人を近づけない。 ◆トップリンクの調整は作業機を下げてから行なってください。	機械にはさまれたりして，傷害事故を起こすことがあります。  作業機を上げたままで調整を行うと，トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり，傷害事故を引起こすことがあります。 

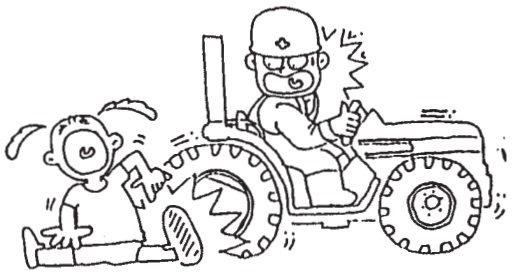
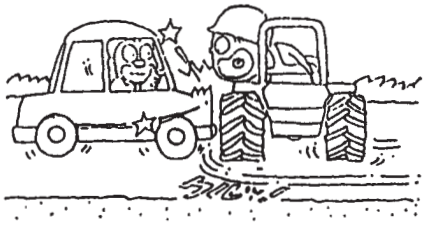
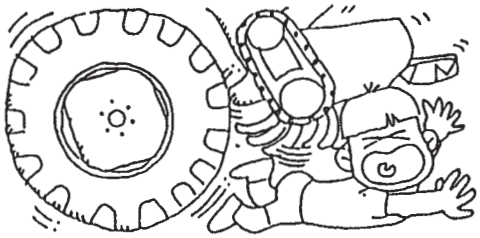
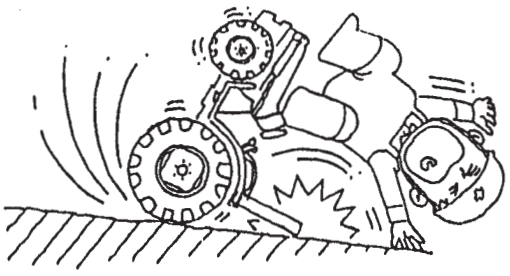
必ず守ってください	→ 守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ヨーク（ユニバーサルジョイント）の安全カバーは取外さないでください。 ●安全カバーの回り止めをする。 ◆ヨークを確実にロックピンで固定してください。 ●ヨークは作業機に標準装備されているものを使用する。 ●ヨークは作業中真っ直ぐになるように装着する。	巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。  作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆各部のボルト，ナット，ロータリの爪等がゆるんでないか確認してください。 ●ボルト，ナット類，耕うん爪等の取付ボルトがゆるんだ状態であれば，直ちに締める。	作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆重い作業機を装着した時は，トラクタのフロントに，バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。	トラクタがバランスを崩し傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆フロントローダ作業をする時は，後方にウエイト又は他の作業機を装着するなどして，バランスを保ってください。 ●ウエイトがわりに人や物を乗せない。ローダに見合ったバランスウエイトを装着する。	バランスを崩し転倒事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業機の下へもぐったり，足を踏込んだりしないでください。		何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆点検，調整時，爪交換時などに外したカバー類は，すべて元の位置に正しく装着してください。 ● ロータリカバーは泥や石等が飛散しないように調節する。		機械に巻込まれたり，泥や石等がはねたりして傷害事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆作業機ごとに指定されたPTO回転速度で使用してください。		作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。
⚠警告 ◆作業機を上げて点検する時や，草・ワラの巻付を除去する時は，作業機降下速度調節グリップを「固定」の位置にして作業機の下に「固定脚」を入れ，作業機が降りないことを確認してください。 ● 駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，PTO変速を「《N》（中立）」にする。 ◆ロータリの耕うん爪を交換する場合は，メガネレンチを使用し正しい姿勢で締付けてください。		何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 確実に締付けないと，作業中に爪が抜けてとび，傷害事故を引起こすことがあります。

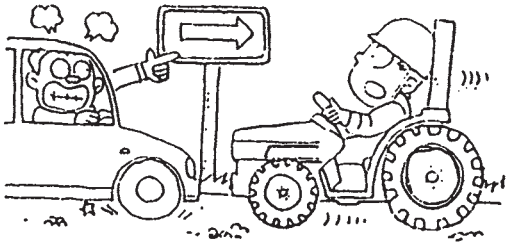
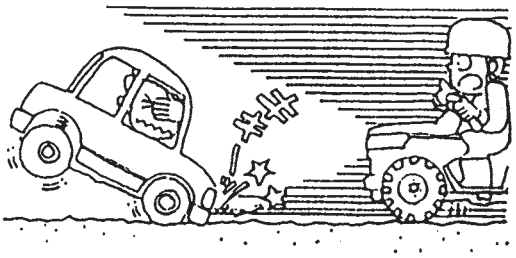
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆けん引作業は純正ドローバを使用し，後車軸の高さより上で引っ張らないでください。 ●けん引する時は，トラクタが後方に転倒しないように純正ドローバを使用し，ゆっくりスタートする。		転倒事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆公道を走行する時は，作業機を装着しないでください。		思わぬ事故を引起こすことがあります。 （作業機をつけて公道を走行すると交通法規違反となります。） 
⚠警告 ◆けん引や傾斜地での作業をするときは，支障のない範囲で輪距を広くしてください。		転倒事故を引起こす原因となります。 
⚠注意 ◆PTO軸を使用しない時は，PTOキャップを取付けてください。		巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。 

⚠走行運転をする時は……

必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

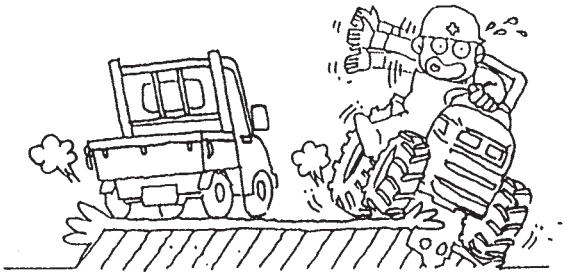
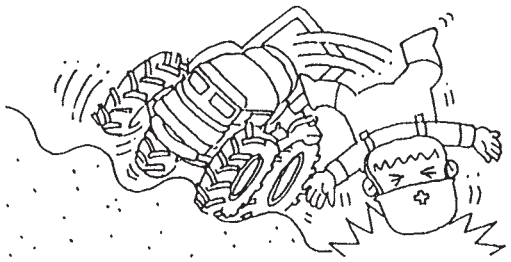
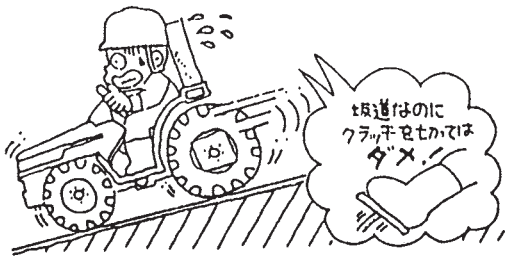
⚠警告 ◆発進するときは，周囲を確認してから発進してください。 ●子供等，人がトラクタ及び作業機に近づかないようにし，周囲にいる人を遠ざけてから発進する。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認してください。 ●左右のブレーキペダルを連結する。 ●デフロックを解除する。	ブレーキが片ぎきになったり，ハンドル操作しても旋回できなかったりして事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆ダイヤクイックターンの「切」，PTO変速の「《N》（中立）」を確認してください。 ●発進前に，4駆切替レバーを「4WD」か「2WD」にする。 ●発進前に，PTO変速を「《N》（中立）」にする。 ●傾斜自動，耕深・ドラフト自動を「切」にする。 ●PACコントロールレバー，PAC/ドラフトコントロールレバーを「解除」にする。	傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。 ●低速で発進する。 ●クラッチペダルはゆっくり離す。 ●旋回するときは，エンジン回転を低速にして行う。 ●エンジンコントロールレバーを「低」にし，フートアクセルで走行する。	転倒事故を引起こすことがあります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆公道を走行する時は，交通法規を守り，安全フレームを起こし，ヘルメットを着用し，シートベルトをしてください。 ● 作業機は装着しない。 ● 周囲を確認しながら走行する。 ● わき見運転をしない。 ● 低速車線を走る。	思わぬ傷害事故の原因となります。 トラクタ運転中は，気のゆるみが大事故につながることを忘れないようにしてください。 
⚠警告 ◆夜間の移動はライトをつけてください。 ● 夜間，対向車とすれ違う場合は，前照灯を下向きにして走行する。	対向車の運転者が目をくらまし，交通事故を引起こす原因となることがあります。 
⚠警告 ◆駐車・停車する時は，平坦な場所で駐車ブレーキをかけてください。 ● 作業機（ロータリ等）を降ろす。 ● 座席を離れる時はエンジンを停止し，キーを抜取っておく。	トラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となることがあります。 

⚠狭い道路，凸凹道，坂道，傾斜地で運転する時は……

必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないでください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。 ●雨天や雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。	路肩がくずれ転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道，傾斜地や凸凹道，カーブの多い道路では，高速運転をしないでください。 ●スピードを落として慎重に走行する。	転倒事故を引起こします。 
⚠警告 ◆坂道，傾斜地では，主変速や副変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして，ニュートラルで走行しないでください。 ●坂にさしかかったら，坂の手前でいったんトラクタを止めて変速を低速に入れ変えて走行する。 ●下り坂では，速度を下げてエンジンブレーキを使用する。	エンジンブレーキがきかなくなってスピードが速くなり事故の原因となります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

警告

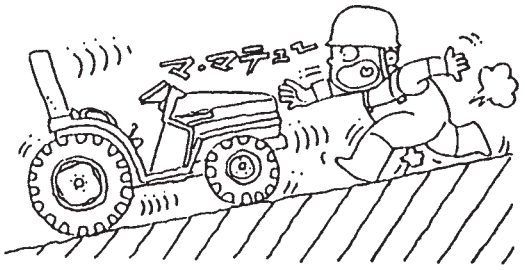
◆坂道の途中や傾斜地での駐車はしないでください。やむをえず坂道の途中や傾斜地で駐車するときは，駐車ブレーキをかけて後輪に歯止めをしてください。

- 作業機（ロータリ等）は降ろす。

◆副変速を「低」に入れ，主変速レバーを登り坂では「1速」，下り坂では「後進」に入れてください。

◆パルシフト装備機は変速を入れていてもエンジンを停止するとエンジンブレーキはききません。駐車ブレーキをかけてください。

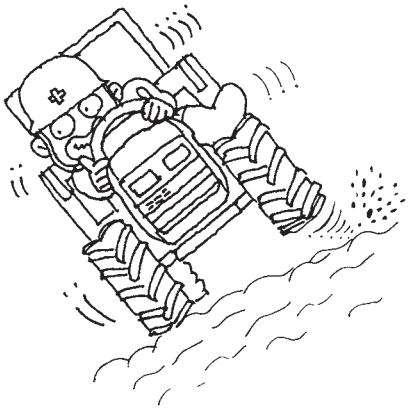
トラクタが動き出し，思わぬ事故の原因となります。



警告

◆急な傾斜地では作業や走行をしないでください。

トラクタが転倒し傷害事故を引起こします。



警告

◆果樹園作業，ハウス内作業では，走行速度を落とし周囲を確認して，慎重に運転してください。

◆高さ制限のある場所では安全フレームを後方に倒すことができますが，この位置では身体を保護することはできません。その際はシートベルトはしないでください。

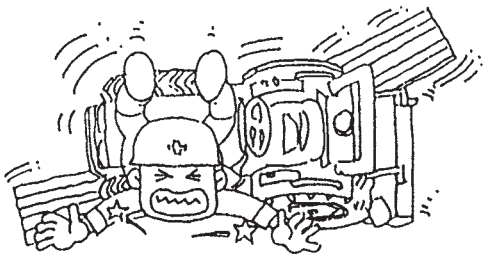
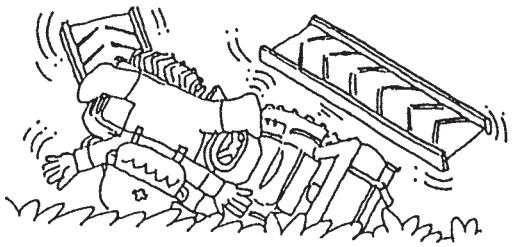
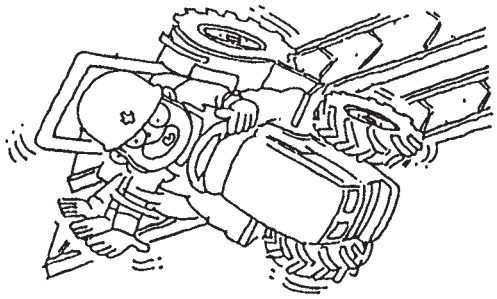
- ヘルメットをかぶる。
- 切り株に乗り上げない。
- 枝にひっかからないようにする。

張り出した木の枝や，頭上の障害物で頭部や胸部を打って死亡または傷害事故になることがあります。
切り株等で転倒したり，ひっかけた枝にたたかれ死亡または傷害事故になることがあります。



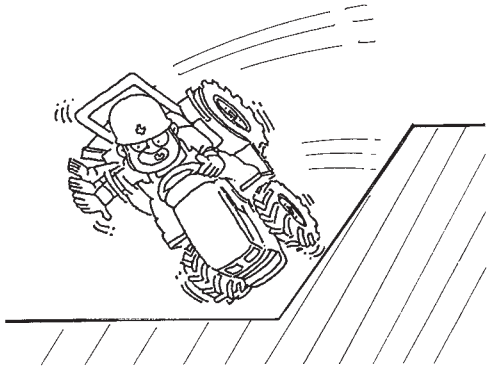
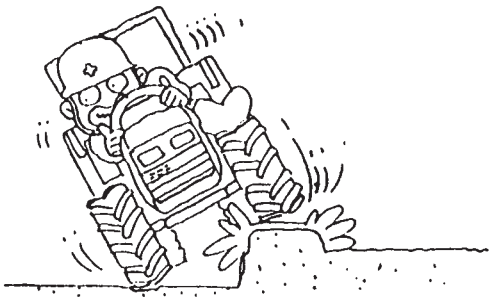
⚠自動車への積込み・積降ろしをする時は……

必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め，フックのあるものを使ってください。 ●前後輪のタイヤがはみ出さない幅の広いアユミを使用する。 ●自動車は積載重量を超えない車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用する。 ●自動車はエンジンを停止し変速を1速かバックに入れ駐車ブレーキをかけ，歯止めをする。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを自動車の荷台に平行に確実にかけてください。 ●2枚のアユミを左右のタイヤの間隔に合わせて置き，荷台に対して真っ直ぐにする。 ●荷台にアユミのフックを確実にかけ，外れないかを確認する。	バランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆積込みは後進，積降ろしは前進で行なってください。 ●補助者立会誘導のもとに行う。 ●機械のまわりに子供等，人を近づけない。 ●左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する。 ●アユミの上では，必要以上のハンドル操作はしない。 ●ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする。	進路変更するとバランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミの上では走行クラッチを切らないでください。 ●途中でトラクタを止める必要がないよう，アユミの左右位置や平行，安定を確認し，低速で積込み・積降ろしを行う。	エンジンブレーキがきかなくなり，急降下して事故を起こすことがあります。

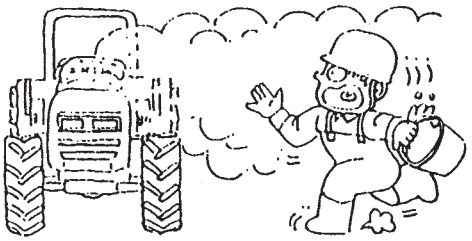
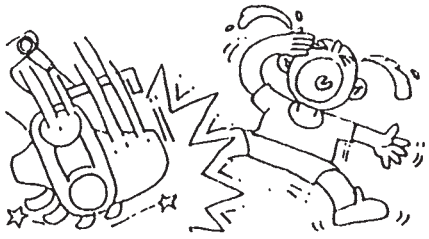
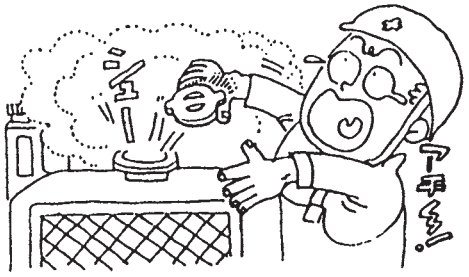
⚠ほ場で作業をする時は……

必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆急傾斜，溝越え，高いあぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●ほ場への出入りは上がるときは後進，降りるときは前進で低速で行う。 ●PTO変速を「《N》（中立）」にする。 ●アユミの上では必要以上のハンドル操作をしない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こします。 
⚠警告 ◆あぜ越えは，低速であぜに直角に行なってください。 ●左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する。 ●あぜが崩れないか確認しゆっくり行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業中は，トラクタに人を近づけないようにしてください。 ●ほ場に子供等，人を入れない。 ●子供等，人が近寄らないようにする。 ●わき見運転をしない。特にあぜ際での旋回は，周囲に人がいないことを確認して行う。 ●あぜ際での作業はむりをせず，枕地に余裕をとって，周囲を確認しゆっくり旋回する。	作業機が衝突したりして傷害事故を引起こすことがあります。 

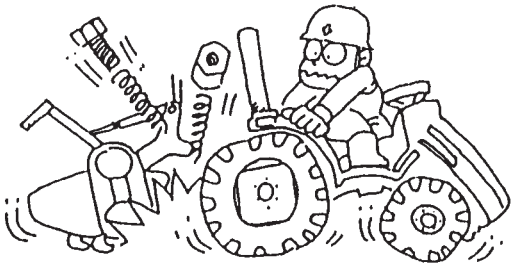
⚠ 1日の作業が終わったら……

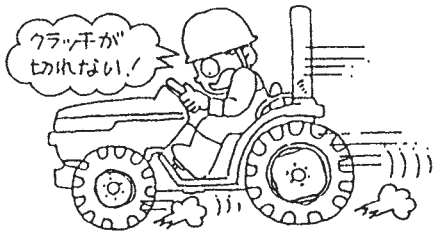
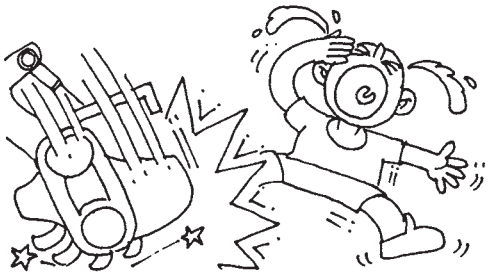
必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●エンジン，マフラ，燃料タンクまわりのワラ，草等を除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆保管は平坦な場所に置き，作業機（ロータリ等）は地面に降ろし，駐車ブレーキをかけてください。 ●キーは抜取っておく。 ●PTO変速は「《N》（中立）」にしておく。	何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シートカバーをかける場合は，マフラやエンジンが確実に冷えてから行なってください。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱い時は，ラジエータキャップを外さないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検はリザーブタンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 

⚠長期格納する時は……

必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆各部を水洗いして，平坦な場所でエンジンを停止し駐車ブレーキをかけ，キーを抜取ってください。	機械から目をはなしたすきに子供等がイタズラをしたり，思わぬ事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆故障個所，爪の摩耗があれば，早目に修理，交換します。 ◆ボルトやナットがゆるんだ状態であれば，直ちに締付けます。 	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆バッテリはトラクタから外して保管するか，⊖側のコードを外しておいてください。 ●バッテリをトラクタから外して保管する時は，⊖側のコードから外す。	火災事故の原因となることがあります。 

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆格納するときは，クラッチ板こう着防止のためクラッチ板を離した状態にしておいてください。 ● クラッチペダルを一杯踏込んでフックをかける。 ● 後輪の前後に歯止めをし，駐車ブレーキをかけておく。		クラッチが切れなくなり思わぬ事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆作業機は外すか，降ろしておいてください。		何かの原因で作業機（ロータリ等）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。 ● 部品（バッテリ等）または機械を廃却するときは「お買いあげ先」に相談して処理します。 		整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。 

2. 表示ラベルについて

このトラクタには各運転装置の近くに各々の安全な取扱いかたについて説明している「**表示ラベル**」が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき，注意を守って操作ください。

また，トラクタに貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。

①

⚠ 警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起こさないために

■ エンジンを始動する前に
- 本機や作業機の周囲から人を遠ざけてください。
- すべてのカバーをセットして、安全フレームをおこしてください。
- 座席に座り、駐車ブレーキをかけ、シートベルトをしてください。
- 変速レバー及びPTOレバーを《N》(中立)にして、クラッチペダルを踏んでください。
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をしてください。

■ 正しい操作方法で
- 運転する時は、本機や作業機に人や物をのせないでください。
- エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- 公道を走行する時は、作業機を装着しないでください。

■ 転倒防止
- ほ場の出入り、アユミの上、道路を走行する時は、左右のブレーキペダルを連結してください。デフロックは使用しないでください。
- 発進、旋回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転してください。
- 傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。下り坂ではエンジンブレーキを使用し、クラッチ操作や変速操作はしないでください。
- 路肩に寄りすぎないでください。軟弱な路肩、草の生い茂っている所は走行しないでください。
- あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。
- 自動車への積込み・積降ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し、上がる時は後進、降りる時は前進で、低速で行なってください。クラッチ操作や変速操作はしないでください。
- けん引作業はドローバを使用してください。

■ 停止する時は
- 平坦な場所で、駐車ブレーキをかけ、変速レバー及びPTOレバーを《N》(中立)にし、作業機を降ろした後、エンジンを停止してください。座席を離れる時はキーを抜取ってください。

■ 清掃・点検・整備
- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は、油圧をロックして、さらに作業機の下に固定脚を置いてください。
- ラジエータキャップを開けたり、エンジン回りを清掃・点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行なってください。
- 火災防止のため、エンジン、マフラ、燃料タンク周囲のワラや草等を掃除してください。

09603200032 トラクタ

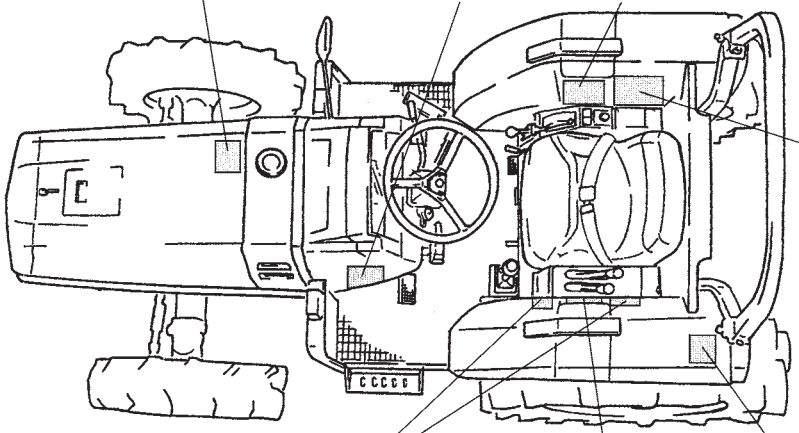
②

⚠ 危 険 ■火気厳禁 ■給油時エンジン停止

軽 油

09603000015

［キャビン装備機］ ［2柱フレーム装備機］



③ ［2柱フレーム装備機］

⚠ 警 告

傷害事故や機械の破損を防止するために

■ 作業機を装着するとき
- ポジションコントロールレバーの上限ストッパで上げ高さを規制してください.
- MAC仕様の場合はクイックアップレバーおよびバックアップスイッチ《入》を使用する前に上げ規制ボリュームで上げ高さを規制してください.

- 本機および作業機の取扱い説明書をよく読み正しく装着してください.
- キャビン装着機ではリヤウインドウの開放時についても当たらないようにしてください.

10372782000

⑤

⚠ 注 意

- トラクタから降りる時はエンジンを停止してください。
  乗り降りする時変速レバーに触れると、トラクタが動き出すことがあります。

10382764001

⑥ ［2柱フレーム装備機］

⚠ 警 告





■運転する時は
- 安全フレームを起こし矢印の位置にピンをセットしてください。
- シートベルトを締めてください。

09603200021

④ ［パルシフト装備機］

⚠ 警 告

- 低温始動時、暖機運転をしないと、発進が遅れることがあります。異常ではありませんので，パルシフト変速を入れたまま降りないでください。
  遅れて動き出し事故になるおそれがあります。
  低温時には暖機運転を行なってください．暖機運転を短時間にして発進する時は、クラッチペダルを踏んで変速・発進操作をしてください。
- 本機は、変速を入れていてもエンジンを停止すると、エンジンブレーキはききません。
  変速を入れただけで駐車すると、トラクタが動き出し事故になるおそれがあります。駐車する時は、駐車ブレーキをかけてください。
- 転倒，及び滑走による傷害事故を防ぐため急な坂道、積込み、積降ろし、ほ場の出入り、あぜ越え等での変速操作はしないでください。あらかじめ低速にして運転してください。

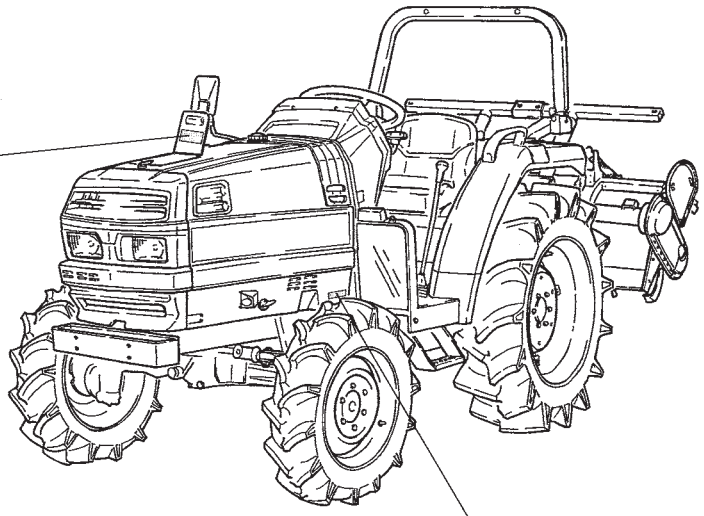
10372753000

⑦



⚠ 警 告

●エンジンが熱い時は
キャップを開けないでください。



⑧

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑨

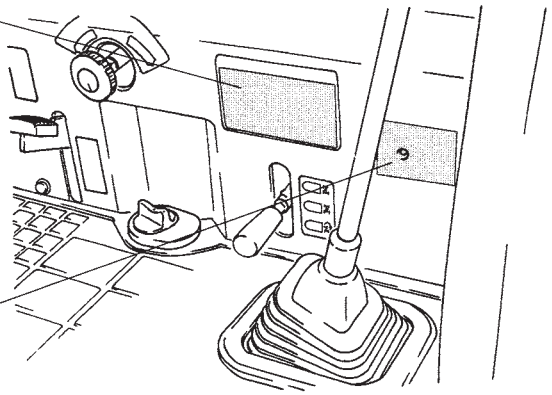
ダイヤクイックターン取扱いのポイント

- 超低速が 🐇 で副変速Hの場合，ダイヤクイックターンは，作動しません。
- ノークラッチ仕様車は，超低速が 🐇 でパルシードシフト5速以上の場合，ダイヤクイックターンは作動しません。
- ダイヤクイックターンが，作動する状態の時は，パネルの表示ランプが点灯します。
- レバーを操作する時は，レバーを押して各レンジに入れてください。
- ダイヤクイックターンの入・切時は，前輪タイヤを直進状態にしてください。

⚠ 注 意

●路上走行、傾斜地作業、フロントローダ作業やほ場の出入りの時は，ダイヤクイックターンを使用しないでください。

10372764001



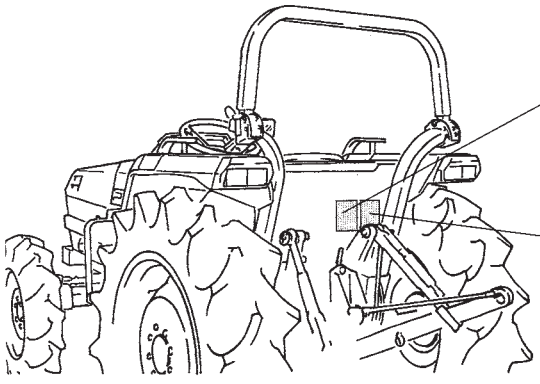
⑩

⚠ 注 意

本車両は，　後輪距を下表の通り調整（調整要領は，取扱説明書参照）した時以外は，道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1150

10372766001



⑪

⚠ 警 告



●エンジンまたは動力シャフトが回転しているときは手・足衣服等を近づけないでください。

09603200019

⑫

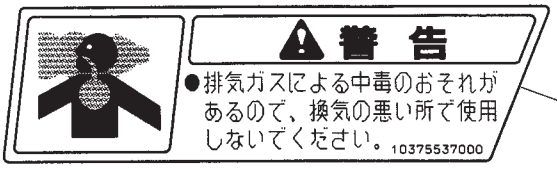
⚠ 警 告



●エンジン回転中は作業機昇降装置及び作業機にはさまれ，ケガをするおそれがあるので近づかないでください。

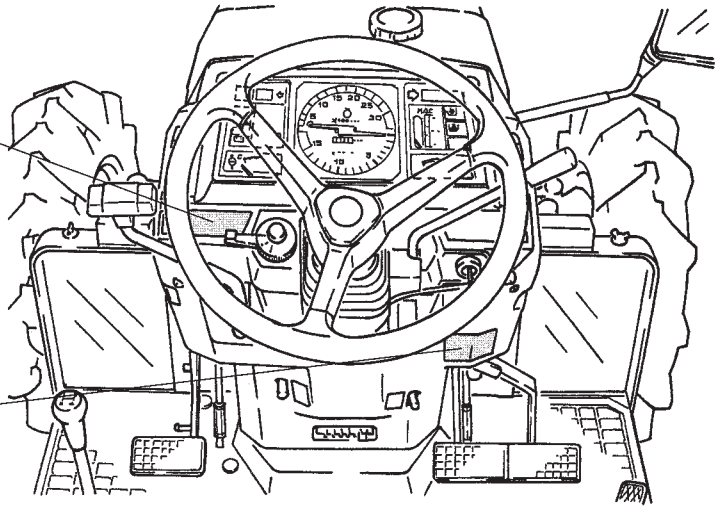
09603200045

⑬


警 告
●排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないでください。
10375537000

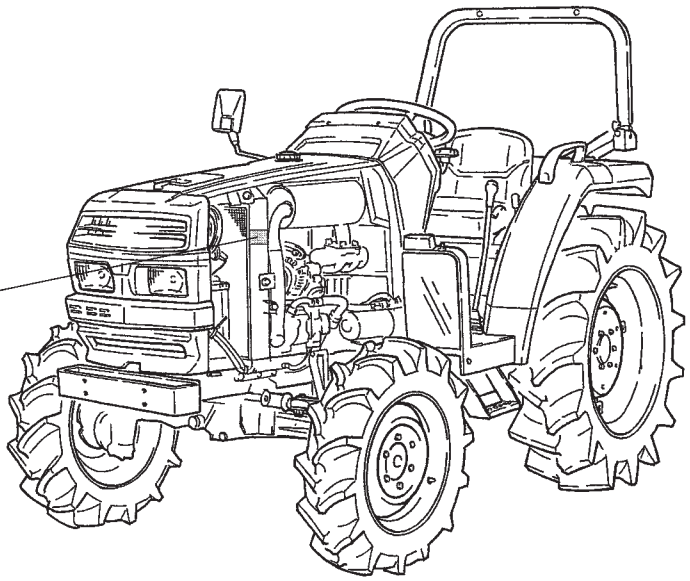
⑭


警 告
●駐車する時や、ほ場作業以外の走行をする時は、左右のブレーキペダルを連結してください。
09603200016

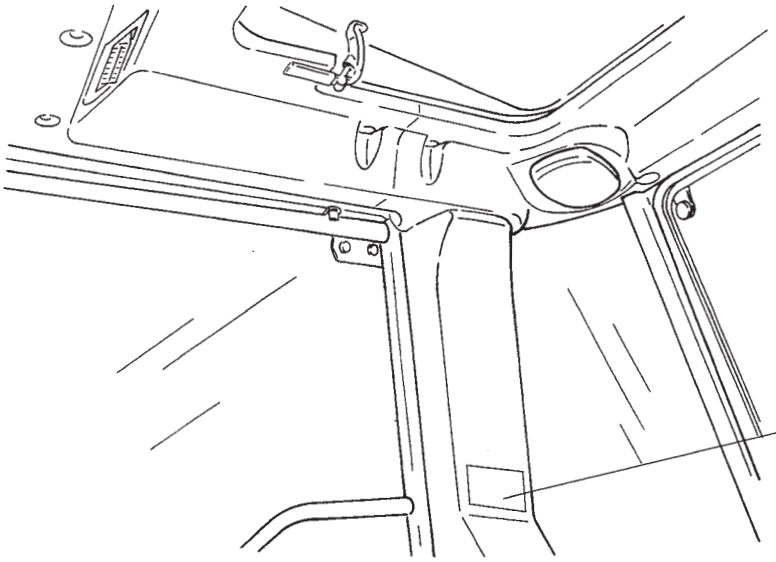


⑮


注 意
●やけどをするのでマフラーにふれないでください。
09603100026



［キャビン装備機］



③

⚠ 警 告



傷害事故や機械の破損を防止するために
■ 作業機を装着するときは
● ポジションコントロールレバーの上限ストッパで上げ高さを規制してください.
● MAC仕様の場合はクイックアップレバーおよびバックアップスイッチ《入》を使用する前に上げ規制ボリュームで上げ高さを規制してください.
● 本機および作業機の取扱い説明書をよく読み正しく装着してください.
● キャビン装着機ではリヤウインドウの開放時についても当たらないようにしてください.

10372782000

④［パルシフト装備機］

⚠ 警 告

●低温始動時、暖機運転をしないと、発進が遅れることがあります。異常ではありませんので，パルシフト変速を入れたまま降りないでください。遅れて動き出し事故になるおそれがあります。
低温時には暖機運転を行なってください。暖機運転を短時間にして発進する時は、クラッチペダルを踏んで変速・発進操作をしてください。
●本機は、変速を入れていてもエンジンを停止すると、エンジンブレーキはききません。
変速を入れただけで駐車すると、トラクタが動き出し事故になるおそれがあります。駐車する時は、駐車ブレーキをかけてください。
●転倒，及び滑走による傷害事故を防ぐため急な坂道、積込み、積降ろし、ほ場の出入り、あぜ越え等での変速操作はしないでください。あらかじめ低速にして運転してください。

10372753000

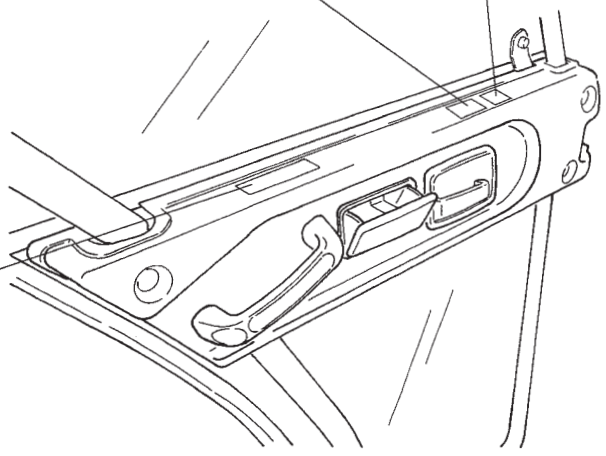
⑤

⚠ 注 意

● トラクタから降りる時はエンジンを停止してください。
乗り降りする時変速レバーに触れると、トラクタが動き出すことがあります。

10382764001

［キャビン装備機］



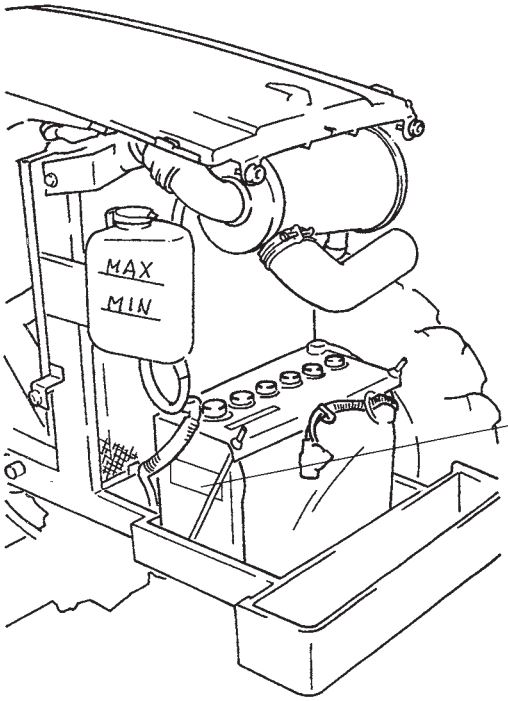
⑯



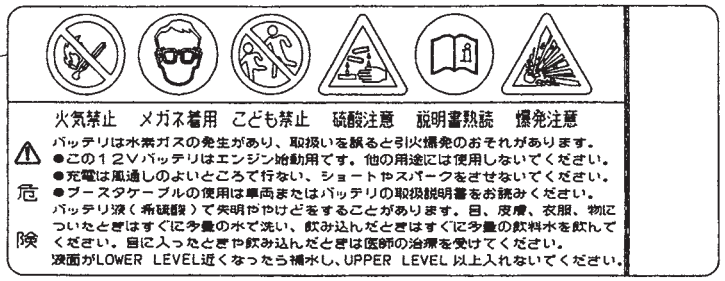
12086266001

⚠ 警 告

● 運転する時は、シートベルトを締めてください。



⑰



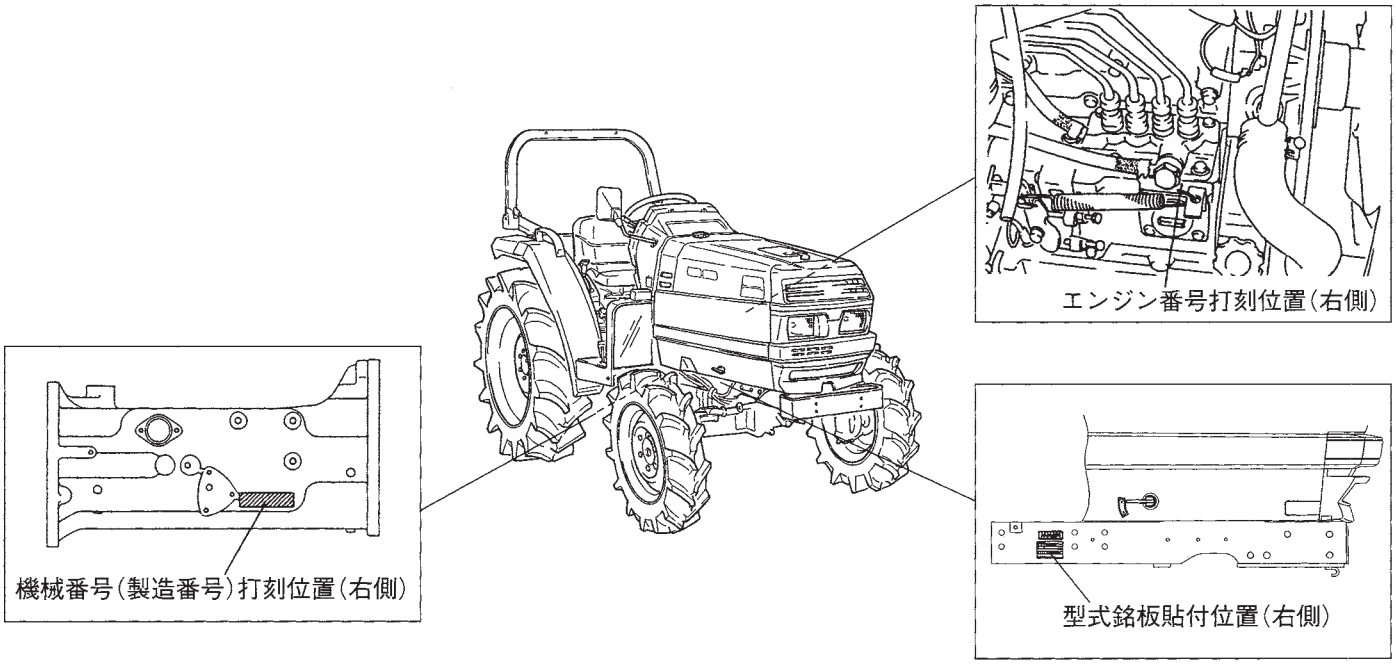
表示ラベル一覧表

No.	部品番号	品　　名	No.	部品番号	品　　名
①	0960 3200 032	LABEL W, tractor (トラクタ総合警告)	⑩	1037 2766 001	LABEL Caution (路上走行注意)
②	0960 3000 015	LABEL D, fuel (火気厳禁，軽油)	⑪	0960 3200 019	LABEL W, shaft (ヨーク警告)
③	1037 2782 000	LABEL Warning (油圧リフト警告)	⑫	0960 3200 045	LABEL W, lift (3P警告)
④	1037 2753 000	LABEL Caution (ノークラッチ警告)	⑬	1037 5537 000	MARK M (排気ガス警告)
⑤	1038 2764 001	MARK (乗降注意)	⑭	0960 3200 016	LABEL W, pedal (ペダル連結警告)
⑥	0960 3200 021	LABEL W, frame & belt (フレーム&ベルト警告)	⑮	0960 3100 026	LABEL C, muffler (マフラ注意)
⑦	0960 3200 013	LABEL W, radiator (ラジエータ警告)	⑯	1208 6266 001	LABEL (シートベルト警告)
⑧	0960 3100 017	LABEL Caution (サイドカバー注意)	⑰	0960 3000 017	LABEL battery (バッテリ危険)
⑨	1037 2764 001	LABEL (QT取扱注意)			

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後12年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

機械の使用目的について

・機械は，**ほ場でのロータリ耕うん作業，農業用作業機を装着しての農作業及び路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。**使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。

警告
◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

337，367型の主な仕様（装備）は次のようになっています。

仕様（装備）の異なった製品については，異なる点のみ追加説明していますので，お買いあげの製品の仕様（装備）をお確かめのうえ，まちがいのないように活用してください。

品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行うことがあります。その際には，本書の内容および写真・イラストなどの一部が，本製品と一致しない場合がありますので，ご了承ください。

型式 / 仕様		337・367												367					
			A	M	AM	XM	XAM	P	AP	V	AV	XV	XAV	XME	XVE	MH	VH	XMH	XVH
2柱安全フレーム		○	○	○	○			○	○	○	○					○	○		
キャビン（エアコン付）						○	○					○	○	○	○			○	○
パワーステアリング		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
チルトハンドル		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイヤクイックターン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リターンPTO		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
タイヤ(後輪)	並ラグ		○		○		○		○		○		○						
	ハイラグ	○		○		○		○		○		○		○	○	○	○	○	○
MAC				○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PAC		○	○					○	○										
パルシフト								○	○	○	○	○	○		○		○		○
超低速（東北向け）														○	○				
高速PTO（九州・西日本向け）																○	○	○	○

型式記号の説明

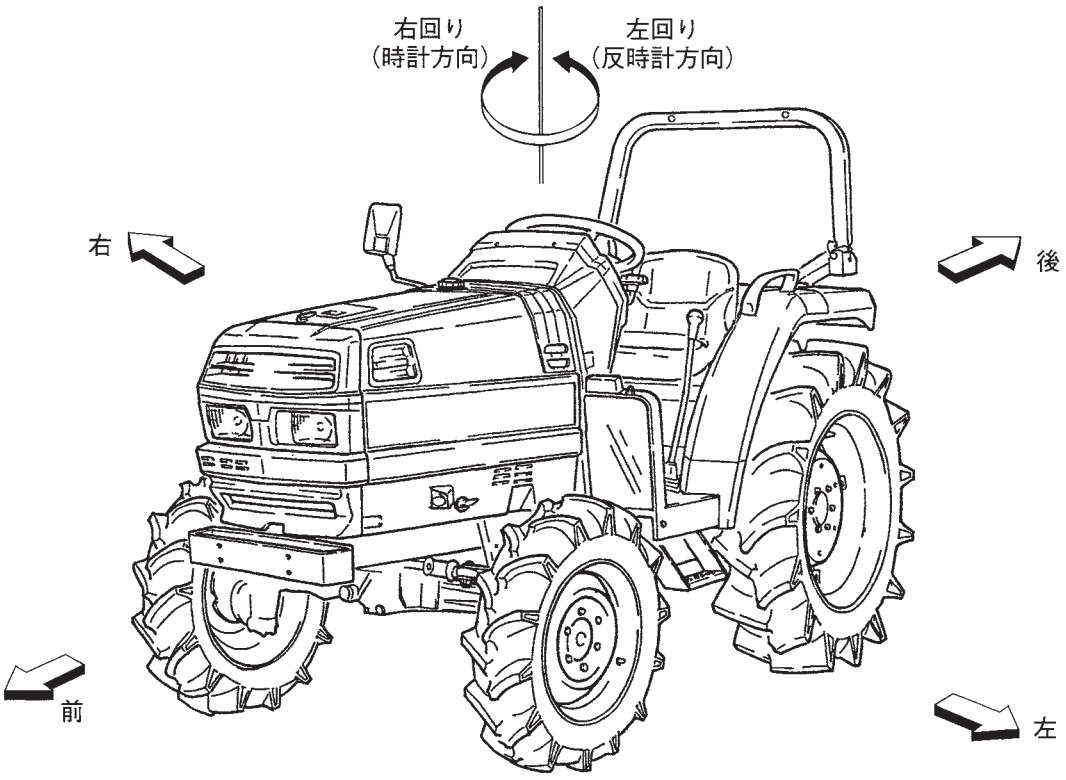
A＝並ラグタイヤ（記号なし：ハイラグ）　M＝MAC　V＝パルシフト・MAC

X＝エアコン付キャビン　E＝超低速仕様（東北向け）　H＝高速PTO仕様（九州・西日本向け）

P＝パルシフト

3. 用語について

❶ この取扱説明書に使用している**「前後・左右・右回り・左回り」**などの用語は図示のように決めています。



❷ **マークの説明**

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

4. 小型特殊自動車について

このトラクタは，道路交通法，道路運送車両法の「**小型特殊自動車**」に該当します。

1. 小型特殊自動車の届出

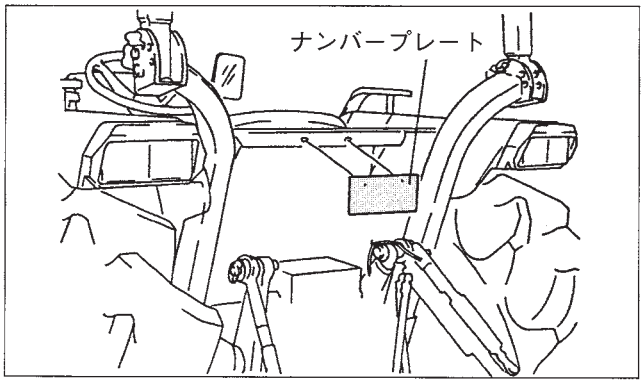
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出て，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」にご相談ください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「**お買いあげ先**」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出て，ナンバープレートの交付を受けてください。

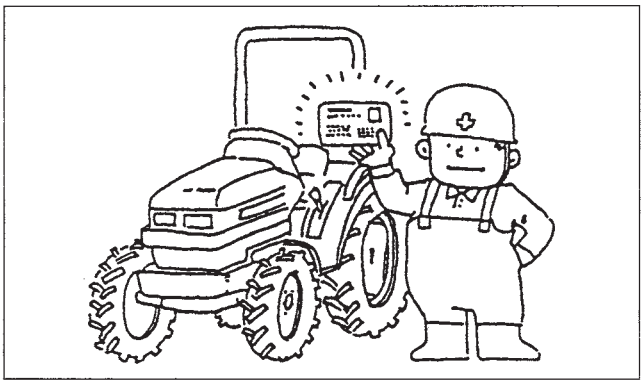
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2. 運転免許

❶ 公道走行する時は，次の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。

型　式	運転免許
337型	小型特殊自動車免許
367型	大型特殊自動車免許



❷ 「小型特殊自動車」の運転免許で運転できる自動車の基準

車体の大きさ	全長	4.70m以下
	全幅	1.70m以下
	全高	2.00m以下
最高速度		15km/時以下
原動機の総排気量		1500cc以下

❸ 上表の基準を越える「**小型特殊自動車**」は，「**大型特殊自動車**」の運転免許が必要です。

3．公道を走行する時

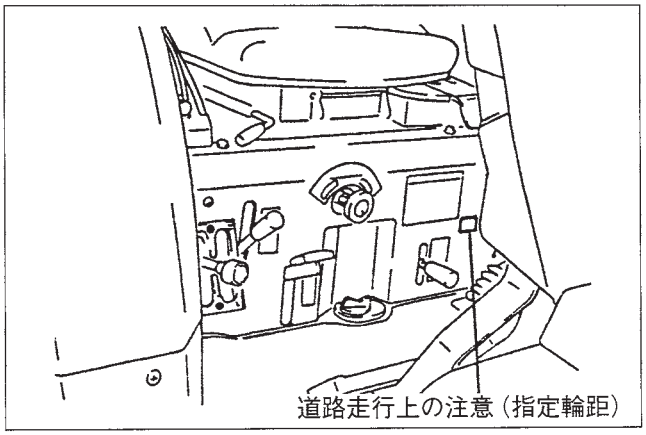
公道を走行する時は，道路交通法等関係法規を守り次の注意事項に従って，「**安全速度**」で走行してください。

❶ **作業機を取付けた状態では走行しない。**

❷ **指定輪距以外での走行はしない。**

後輪指定輪距	1,150mm

シート下のカバーに指定輪距表を貼付しています。(50～51ページ参照)

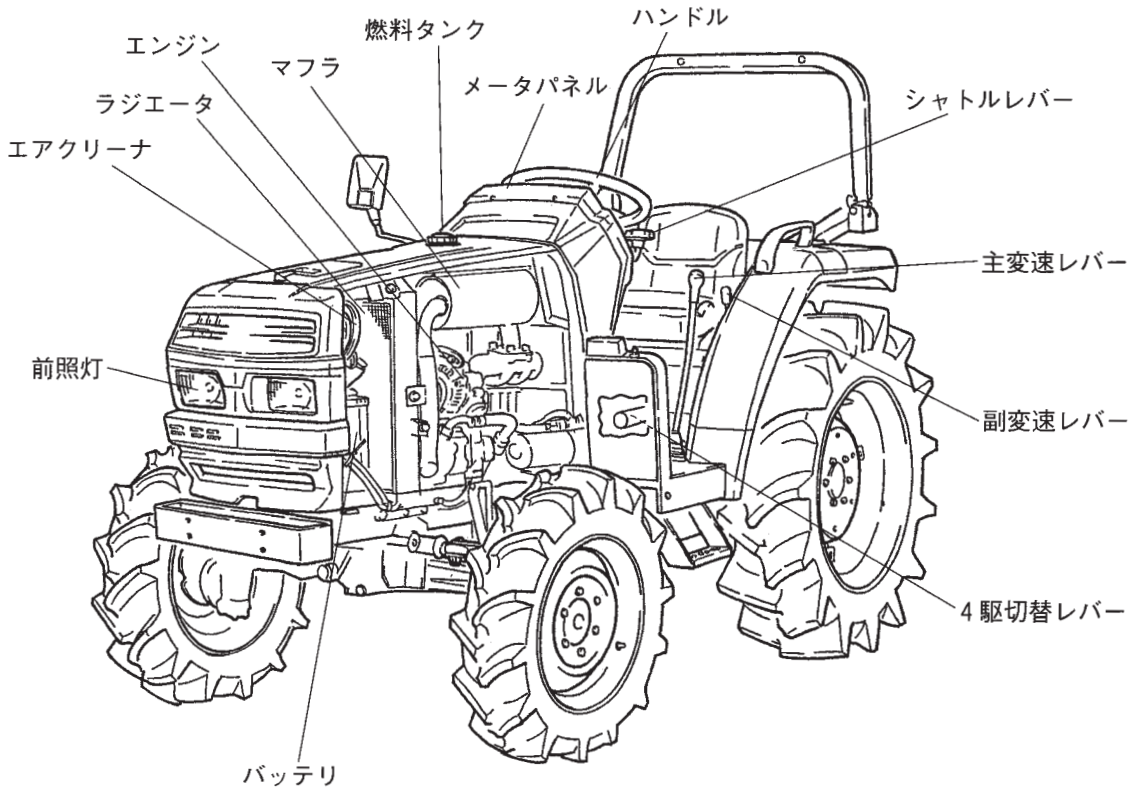


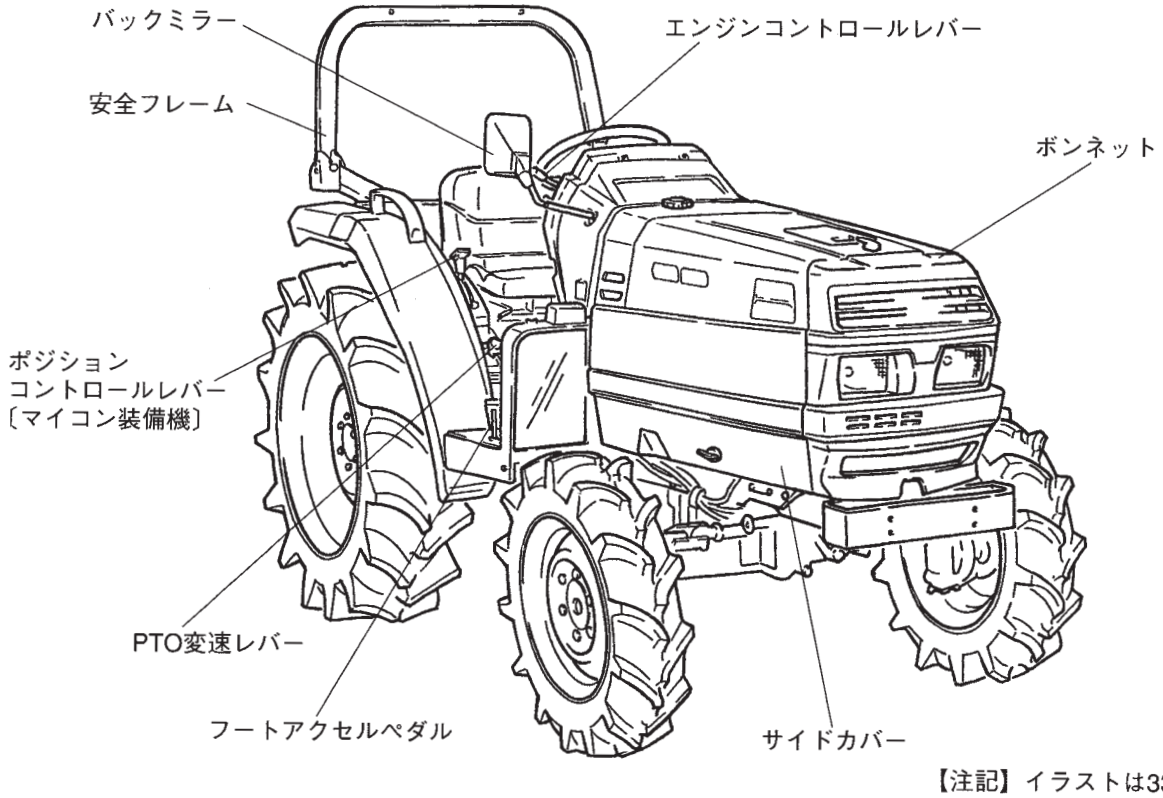
❸ **任意保険のお勧め**

万一の交通事故にそなえ，任意保険に加入されるようお勧めします。

各部のはたらき

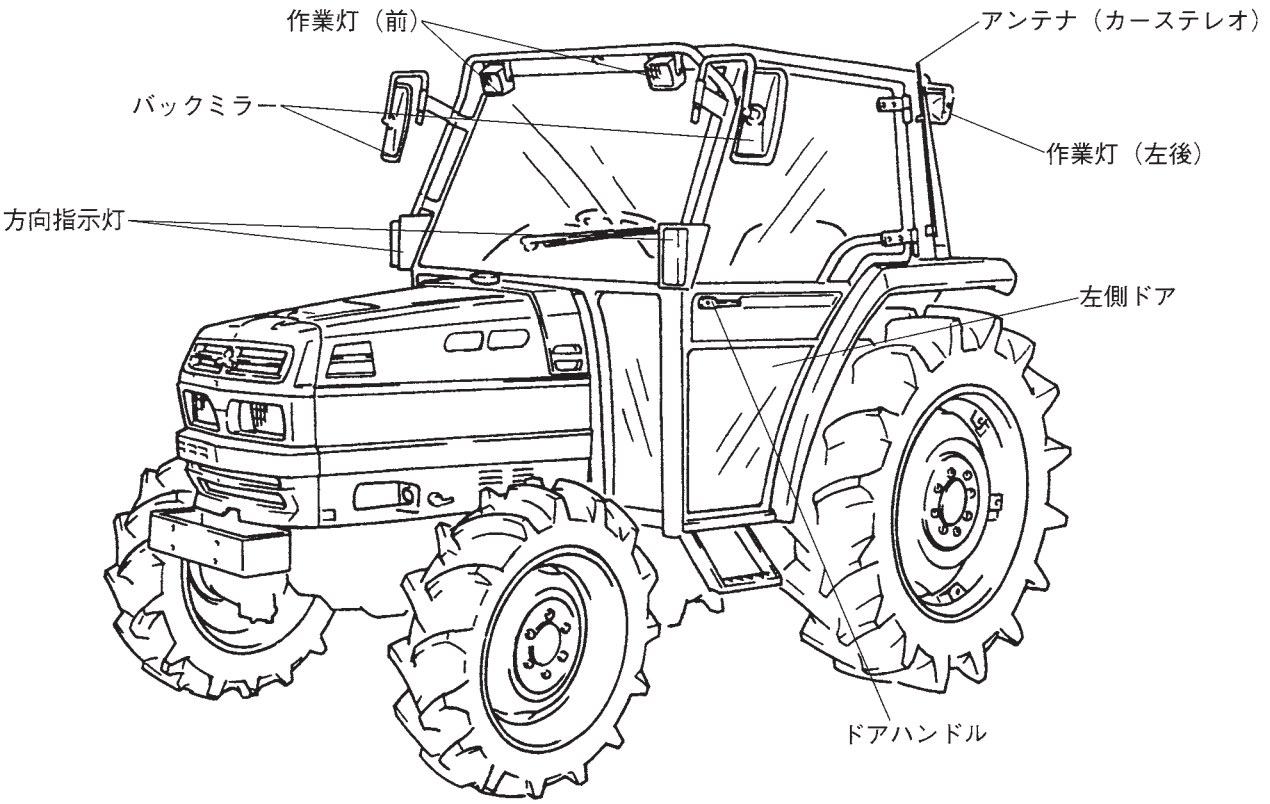
1．各部の名称

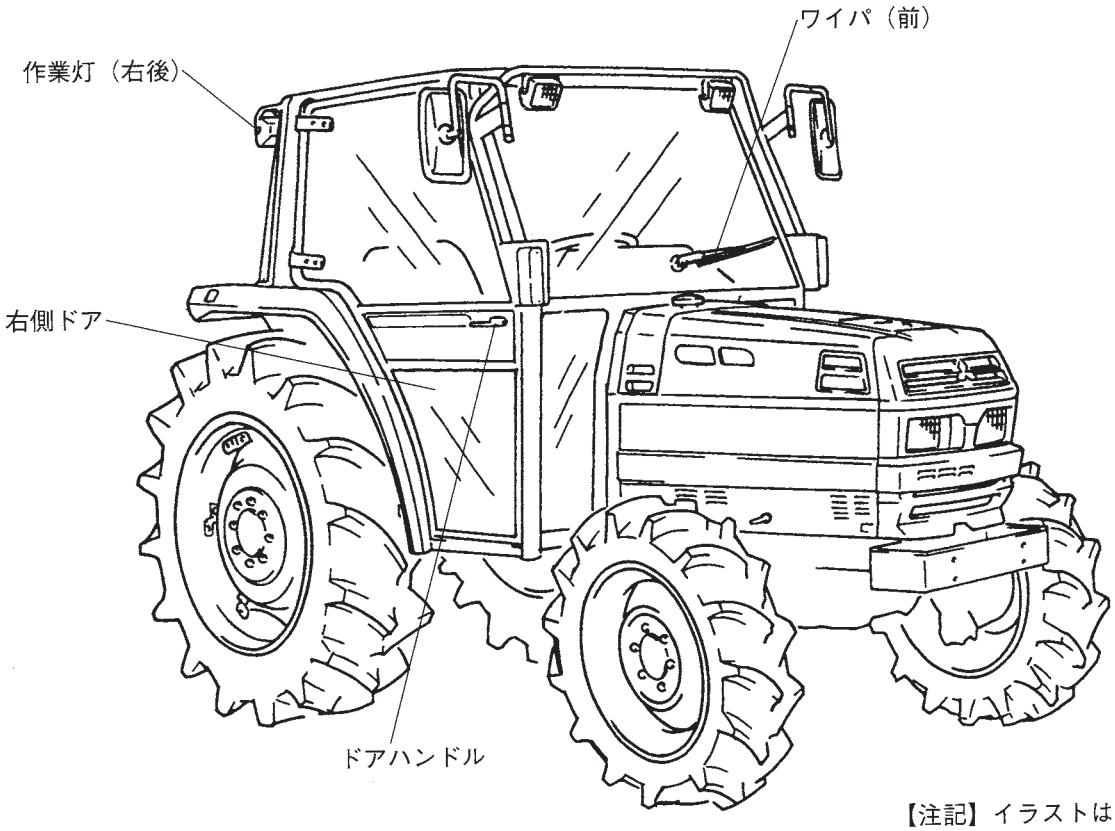




【注記】イラストは337型

［キャビン装備機］

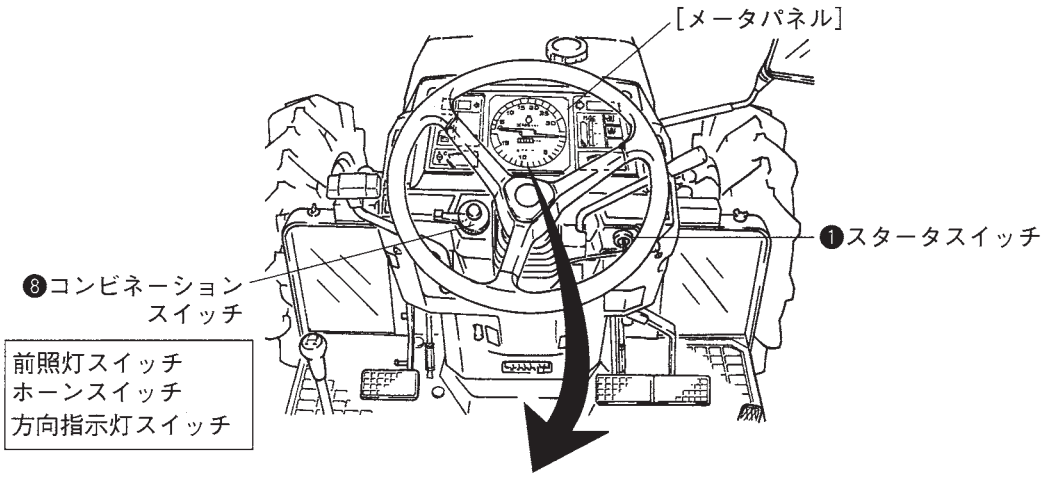


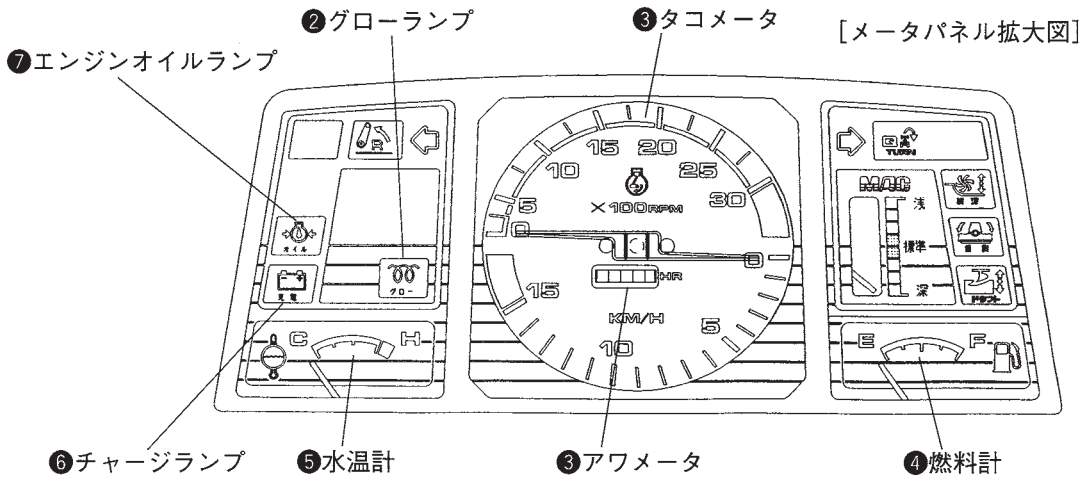


【注記】イラストは337型

2．運転装置の取扱い

1．スイッチ，計器関係





❶ スタータスイッチ



⚠警告　傷害事故防止のために

◆トラクタを使用しない時はキーを抜いておいてください。

・《 切》(停止)

キーをこの位置にすると電源が切れエンジンが停止します。

・《 入》(予熱)

キーをこの位置にすると電源が入りメータ内のグローランプが点灯し，エンジンが予熱されます。

予熱が完了するとグローランプが消灯しますので始動操作をします。

グローランプ点灯時間

冷却水温５℃以上……約１秒

冷却水温５℃以下……約３秒

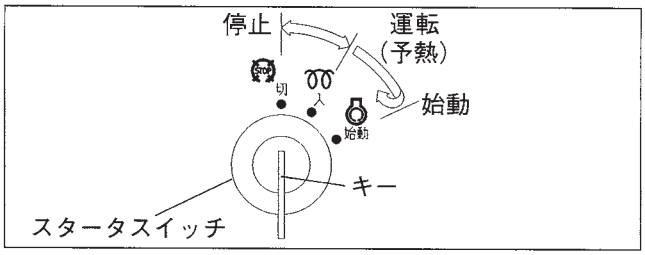
・《 始動》

キーをこの位置にするとエンジンが始動します。

エンジン始動後手を放せば自動的に《 入》にもどりエンジンが運転状態になります。

取扱いのポイント

●クラッチペダルをいっぱい踏込まないと，エンジンは始動しません。



❷ グローランプ



キーを《ꕥ 入》にすると，点灯してエンジンが予熱状態であることを示します。

❸ タコメータ・アワメータ

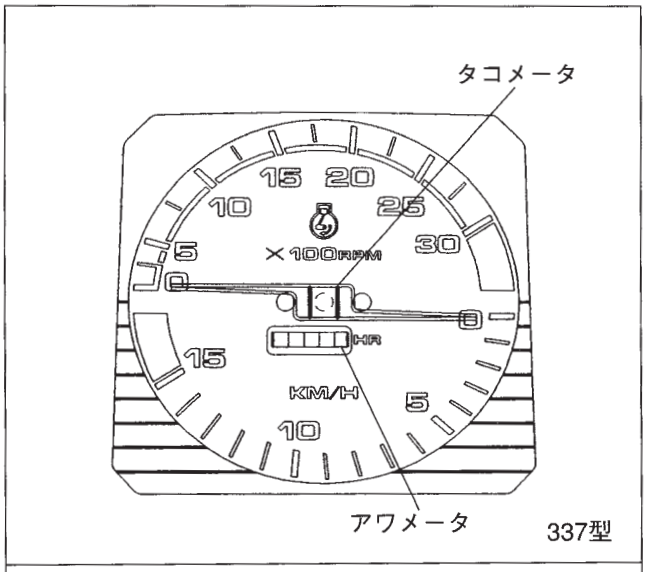
・タコメータはエンジン回転数を示します。

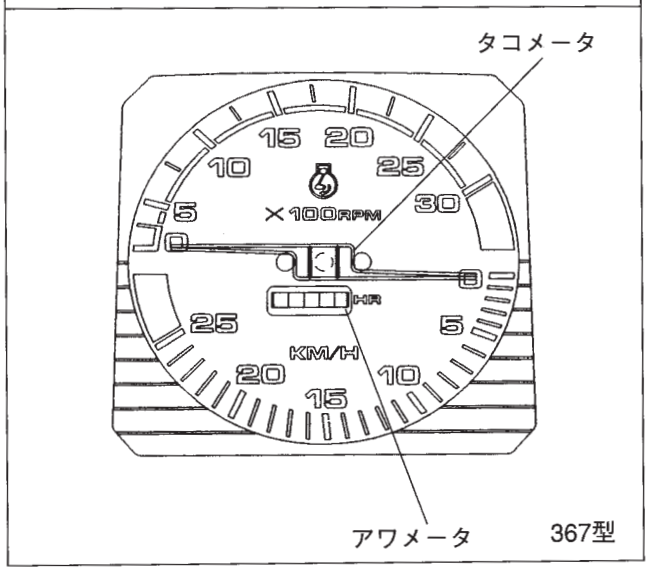
(1) 上側の目盛

エンジン回転数を示します。

(2) 下側の目盛

最高速度段の走行速度を示します。





アワメータは稼働時間を表示し，たとえば

0	0	1	9	1

は19.1時間（19時間 6 分）使用したことを示します。

❹ 燃料計



キーを《ꕥ 入》にすると燃料の残量を示します。

針が《E》近くになったら早めに補給してください。

❺ 水温計



キーを《ꕥ 入》にするとエンジン冷却水温度を示します。

取扱いのポイント

- **水温計の針が《H》を示した場合は，オーバーヒート状態です。作業を中断しエンジンを低回転にし冷えてから停止してください。その後冷却水の量，ラジエータの目詰まり，ファンベルトの張りを点検してください。(95〜96，101，103ページ参照) 冷却水量，ラジエータの目詰まり，ファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。**

❻ チャージランプ



エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯して警告します。

エンジンを停止している時，キーを《ꕥ 入》にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

取扱いのポイント

- **エンジンの運転中にチャージランプが連続点灯する時は，エンジンを停止し，ファンベルトを点検してください。(103ページ参照)**
  ファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。

❼ エンジンオイルランプ



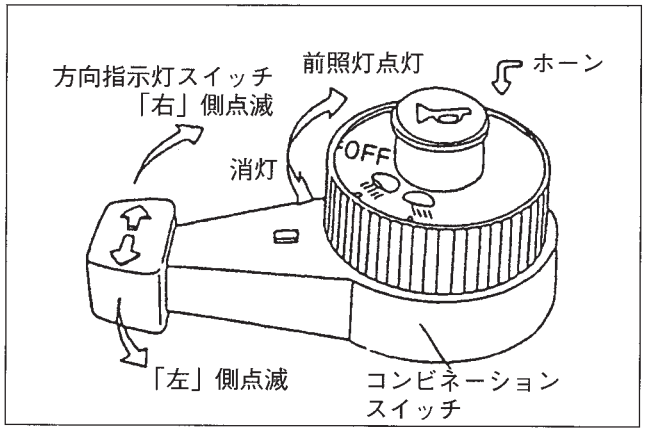
エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があると点灯します。

エンジンが停止している時，キーを《ON 入》にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

取扱いのポイント

- **運転中にエンジンオイルランプが点灯した時は，エンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。(91ページ参照)**
  オイル量が正規であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。

❽ コンビネーションスイッチ





(1) 前照灯スイッチ

ＯＦＦ……消灯

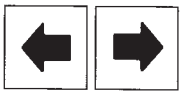
……メータ類ランプ点灯及び前照灯上向点灯

……メータ類ランプ点灯及び前照灯下向点灯



(2) ホーンスイッチ

ホーンスイッチを押すと警笛が鳴ります。

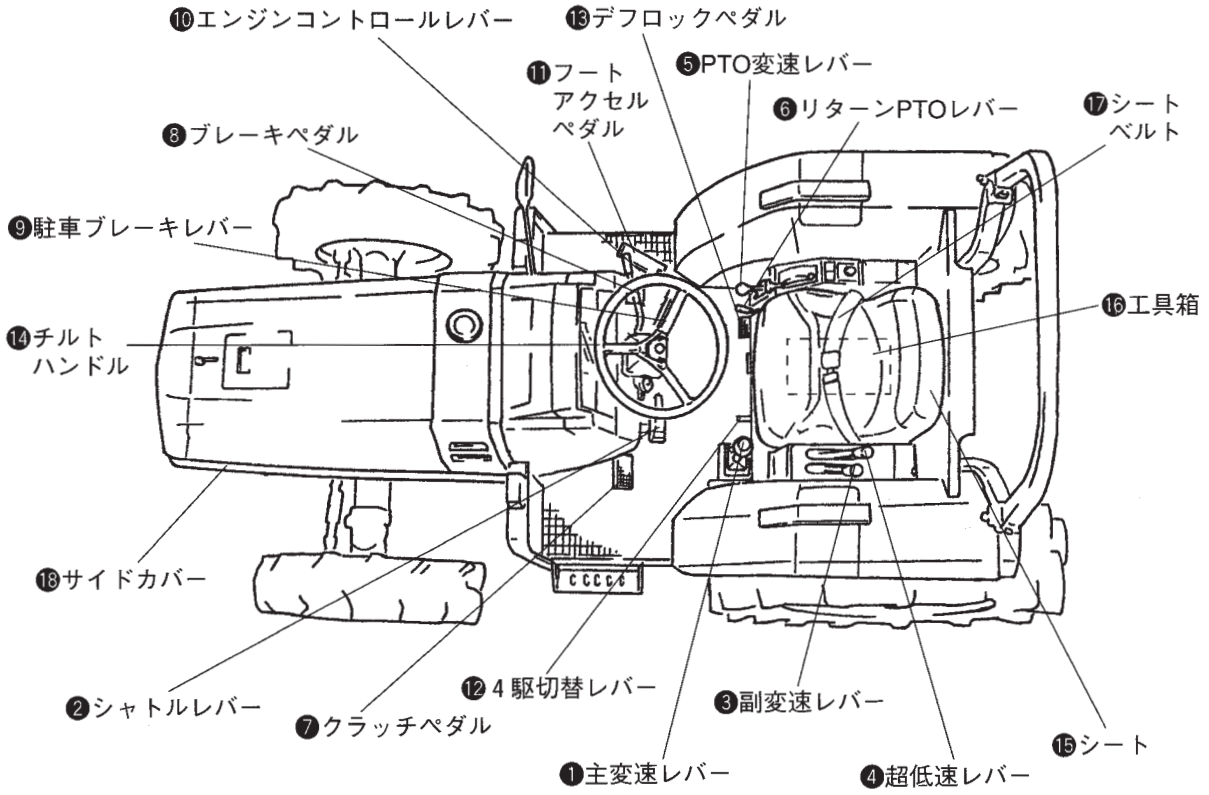


(3) 方向指示灯スイッチ

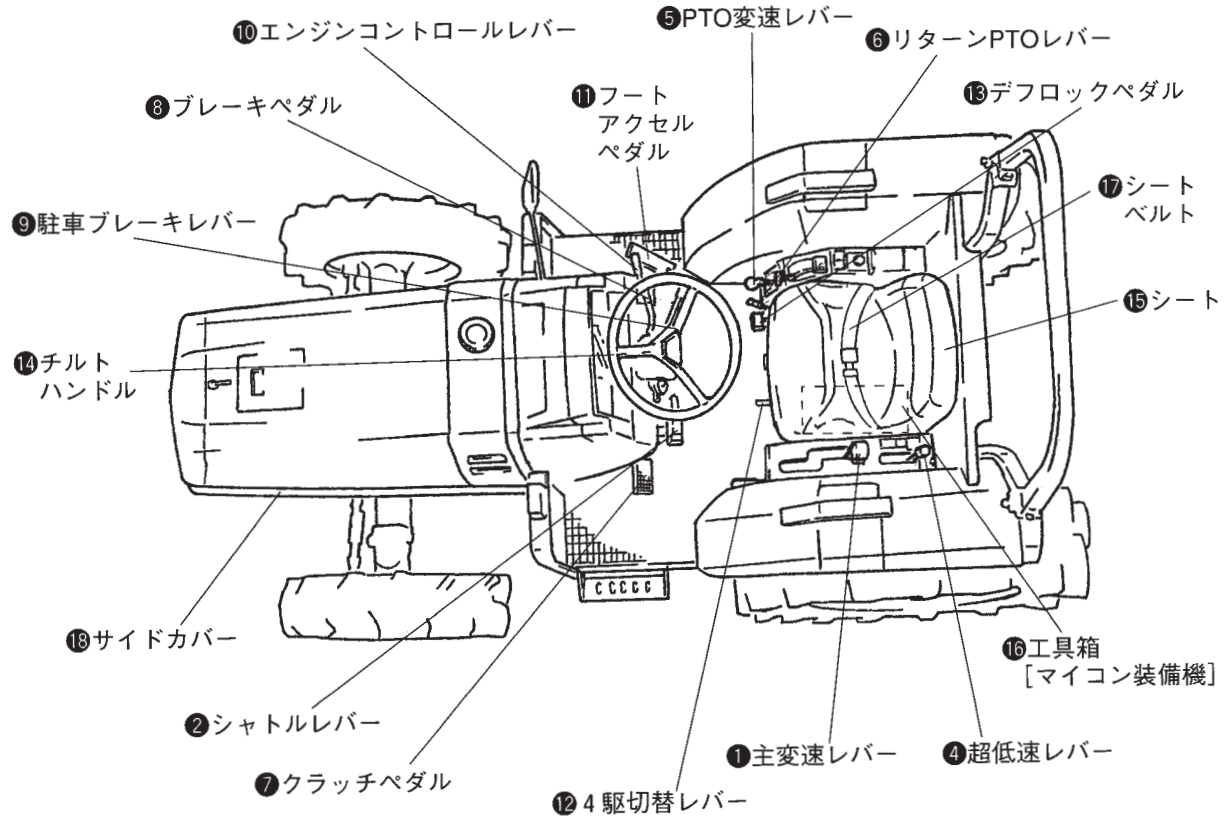
右折，左折のとき使用します。

2．レバー，ペダル，シート関係

［標準機］



［パルシフト装備機］



取扱いのポイント

- 標準機は変速操作時にクラッチペダルを踏込みます。
- パルシフトは主変速，シャトル（前後進切替）レバー操作はクラッチペダルを踏込まずに変速できます。
- パルシフト装備機は，主変速とシャトル変速がノークラッチで（クラッチペダルを踏込まずに）変速できますが，他の変速レバーは，標準機と同様にクラッチペダルを踏込んで変速してください。

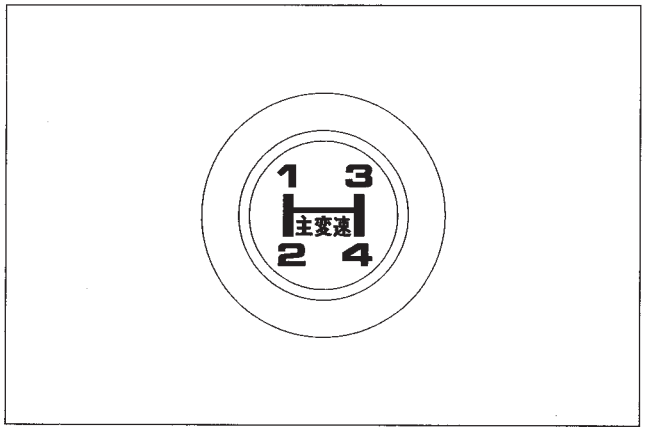
	変速方法
	クラッチペダル操作
主変速レバー	不要
シャトル変速レバー	不要
超低速レバー	要
PTO変速レバー	要
リターンPTOレバー	要

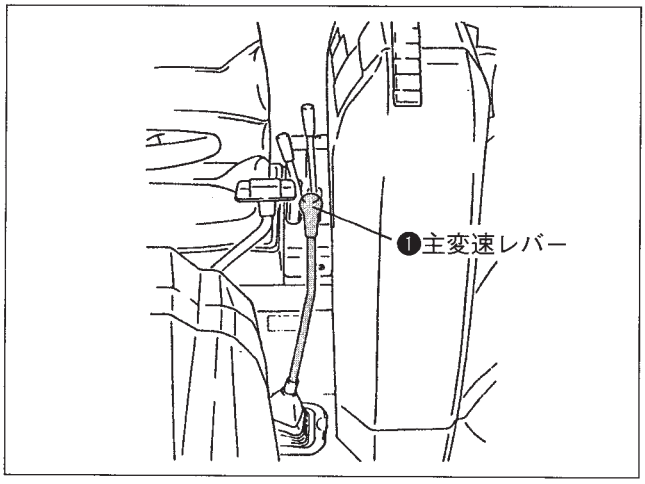
❶ 主変速レバー



［標準機］

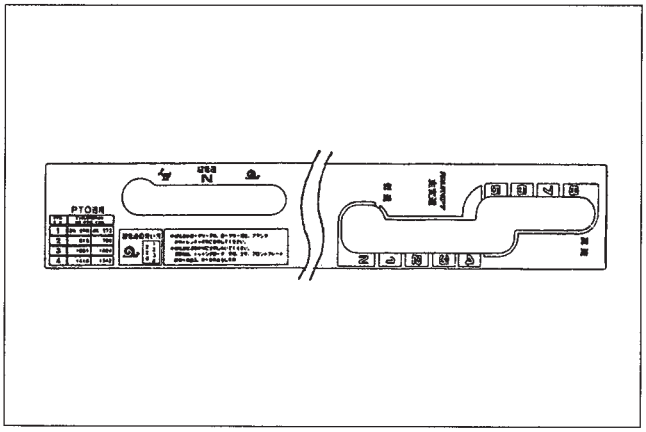
4段の変速位置があります。副変速レバー・超低速レバーと併せて，16段の変速ができます。

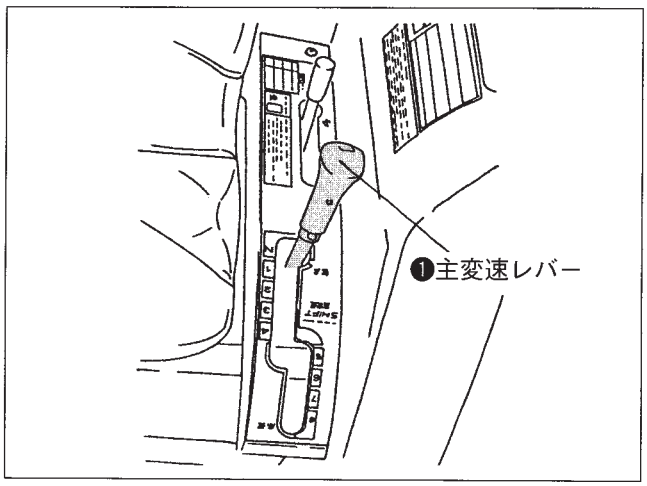




［パルシフト装備機］

8段の変速位置があります。超低速レバーと併せて，16段の変速ができます。



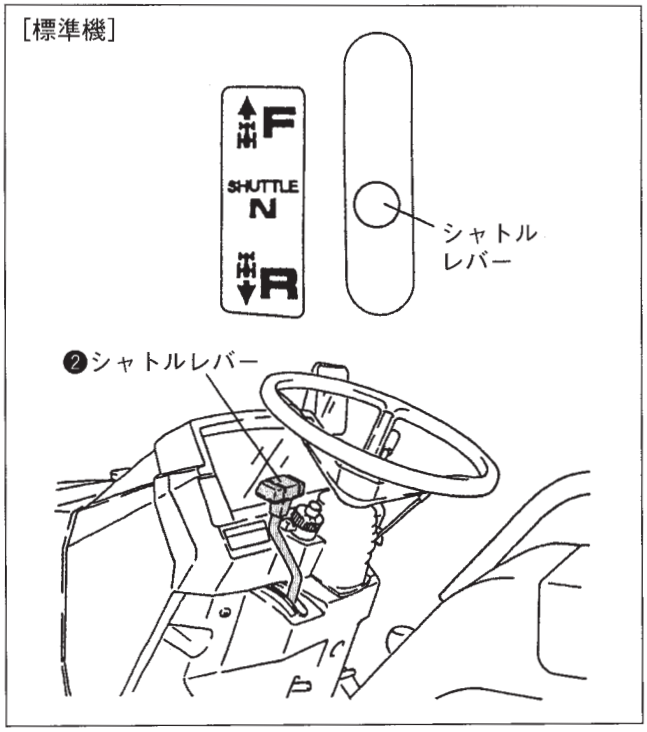


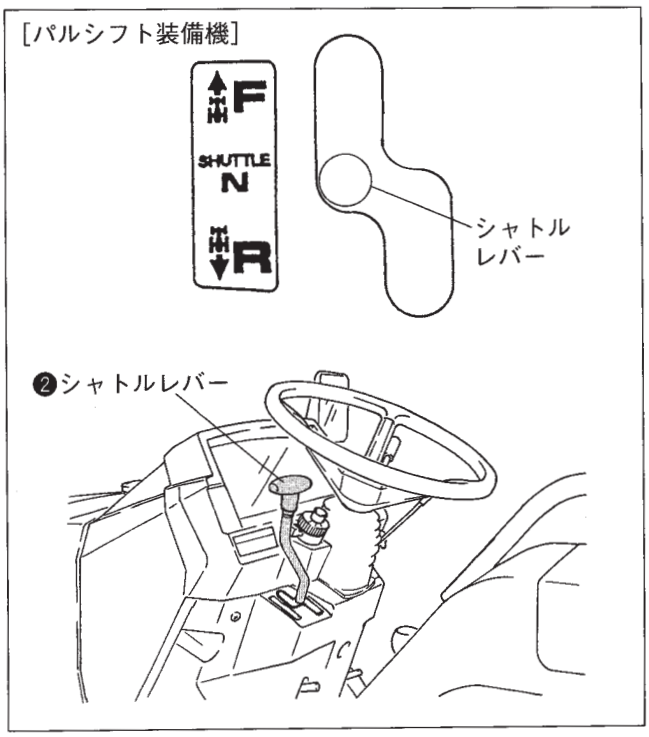
❷ シャトルレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆後進は，エンジンの回転を下げて，後方を確認してから行なってください。

前進，後進の切換えができます。レバー位置は前側《F》が前進，後側《R》が後進となっています。

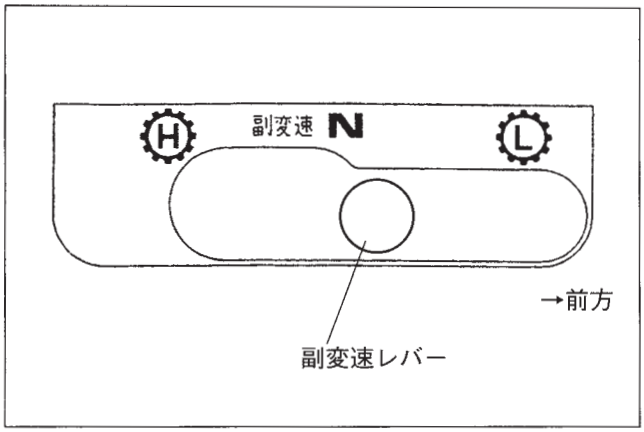




❸ 副変速レバー［標準機のみ］

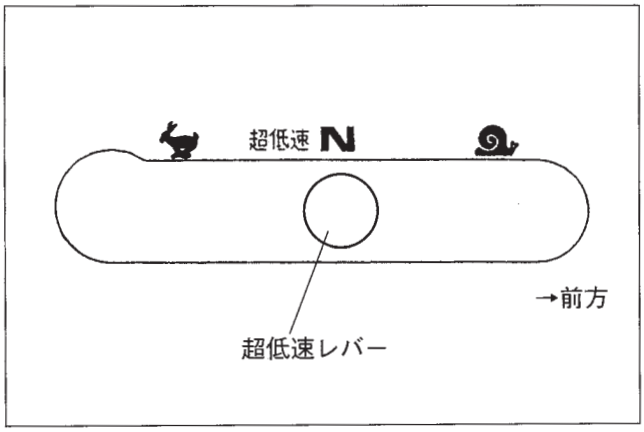
副変速

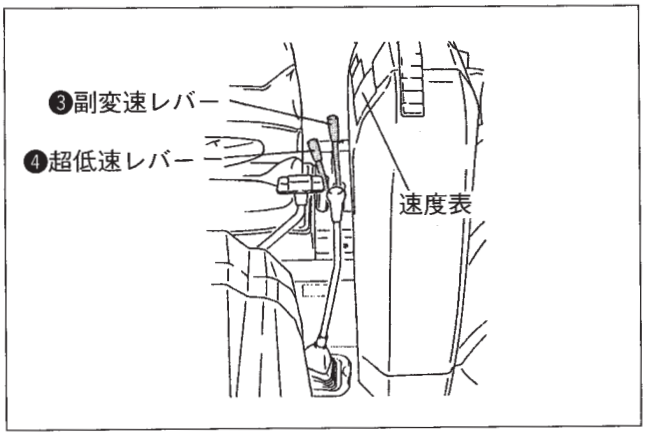
《Ⓗ》(高速)，《Ⓛ》(低速) 2段の変速位置があります。



❹ 超低速レバー［標準機］

《🐇》(高速) と《🐢》(低速) の2段の変速位置があります。

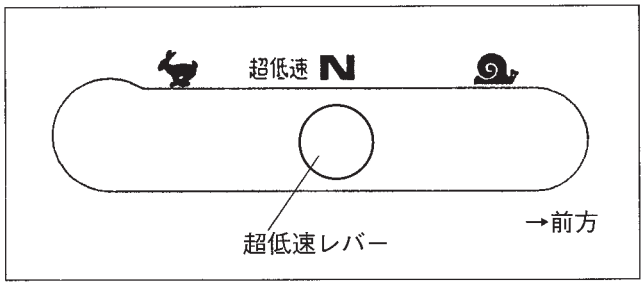


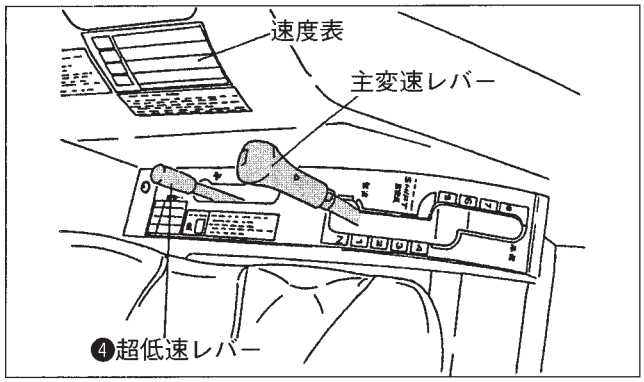


❹ 超低速レバー［パルシフト装備機］

《🐇》（高速）と《🐌》（低速）の2段の変速位置があります。

変速時はクラッチペダルを踏んで走行が完全に停止してから変速します。





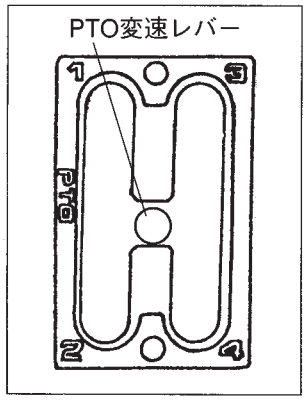
取扱いのポイント

- **主変速，副変速，超低速レバーの各々の位置での車速はフェンダ（左）に貼付けてある速度表をご覧ください。（作業速度とPTO回転速度は46～48ページ参照）**

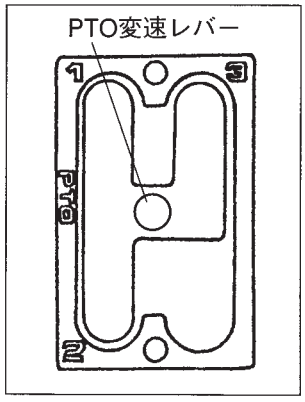
❺ PTO変速レバー

PTO軸の回転速度を4段に変速できます。（337型）

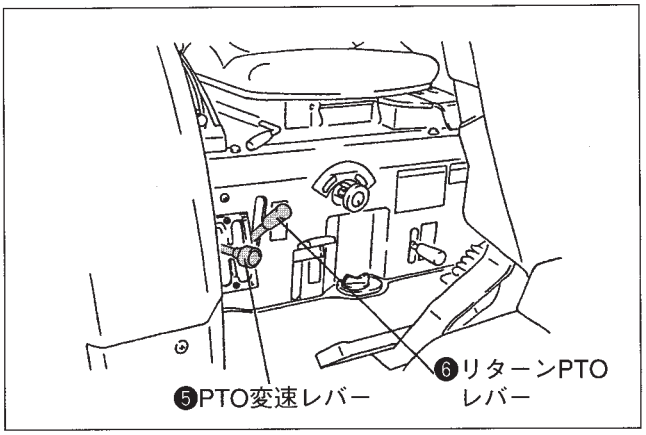
367型は3段に変速できます。



337型



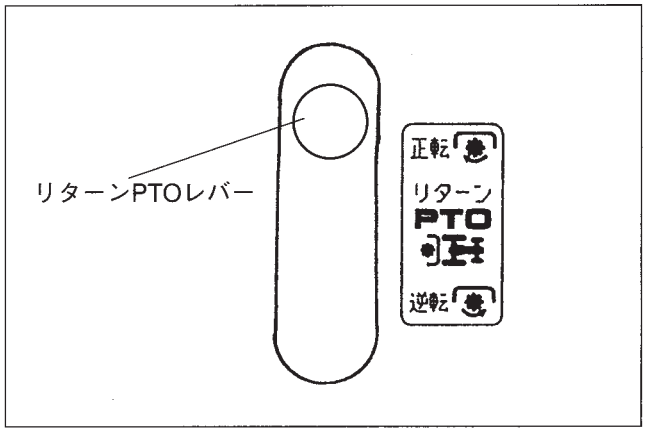
367型



❻ リターンPTOレバー

PTO軸の回転方向を正転と逆転に切換えます。

PTO変速レバーと合わせて正転4段・逆転4段の変速ができます。367型は正転3段・逆転3段の変速ができます。



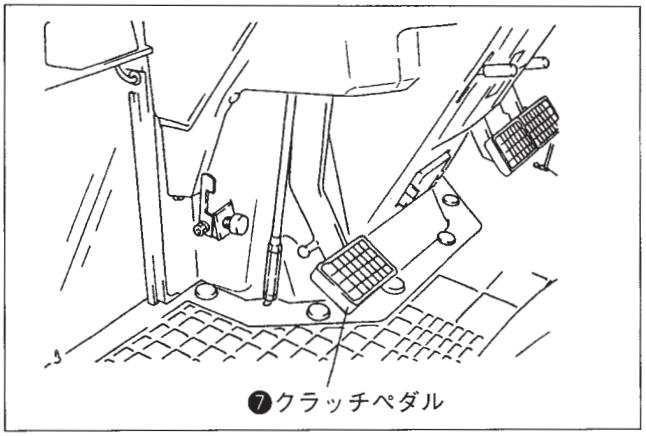
取扱いのポイント

- **PTO変速レバー，リターンPTOレバーの操作は作業機（ロータリ等）を上げた後，クラッチペダルを踏込んで，PTO回転が停止してから行なってください。入り難い場合は，無理な操作をせず，もう一度，クラッチペダルを踏み直してから操作をします。**
- **逆転は純正ロータリで使用できます。ロータリの取扱説明書をお読みください。**
- **純正ロータリ以外で逆転させる場合は「お買いあげ先」にご相談ください。**

❼ クラッチペダル

ペダルをいっぱい踏込むと，クラッチが切れます。

エンジン始動，変速，停止のとき踏込みます。



取扱いのポイント

- **クラッチペダルを踏込む時はす早く踏込み，離す時はゆっくり離してください。**
- **始動安全スイッチが装備されており，クラッチペダルを踏込まないと始動できないようになっています。**

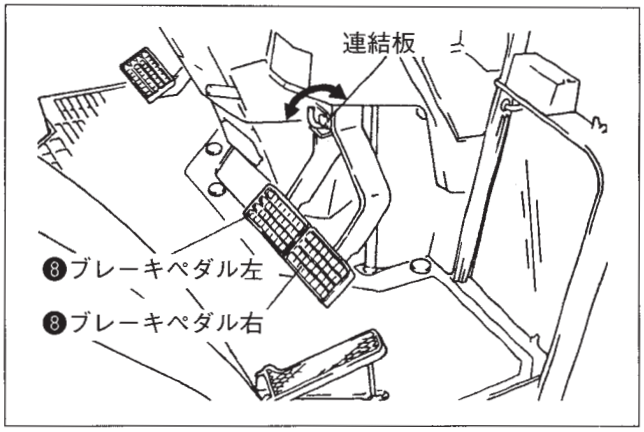
❽ ブレーキペダル

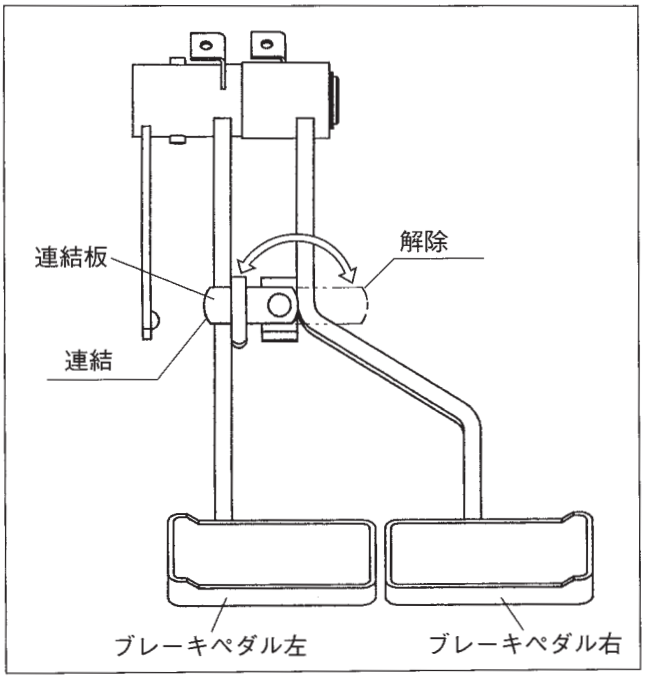
⚠警告 傷害事故防止のために

◆道路走行，ほ場への出入り，あぜ越え，アユミ使用，傾斜地作業，フロントローダ装着時等は連結板で左右のブレーキペダルを連結してください。片ブレーキでは横転，衝突，転落等の事故になることがあります。

ブレーキペダルは左右のペダルに分かれており，連結板を解除して左のペダルを踏むと左後輪に，右のペダルを踏むと右後輪にブレーキがかかります。

左右のブレーキペダルを連結してブレーキペダルを踏むと，左右の後輪にブレーキがかかります。





取扱いのポイント

- **運転時は，クラッチペダル，ブレーキペダルから足を離してください。足を乗せたまま運転すると故障の原因となります。**
- **停止する場合は，ブレーキペダルと同時にクラッチペダルも踏込みます。**

❾ 駐車ブレーキレバー

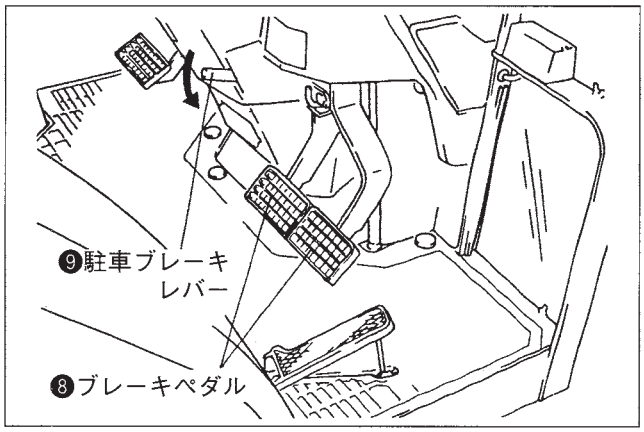
P

⚠警告　傷害事故防止のために

◆駐車・停車時には，左右のブレーキペダルを連結して駐車ブレーキレバーをかけてください。

左右のブレーキペダルを連結し，駐車ブレーキレバーを下方に押さえながらブレーキペダルを強く踏込み駐車ブレーキをかけます。

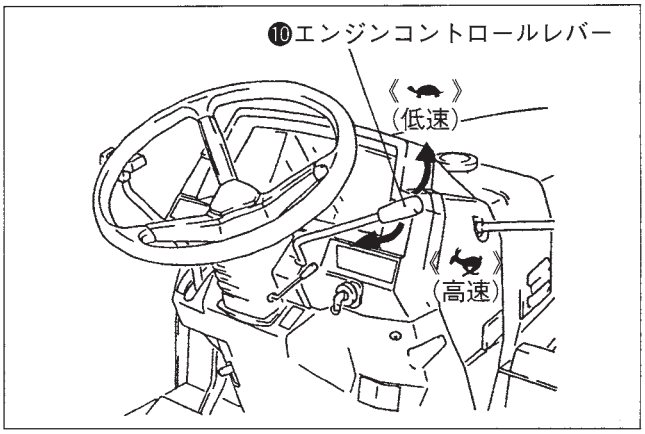
駐車ブレーキを解除する時は，ブレーキペダルを強く踏込めば外れます。



❿ エンジンコントロールレバー

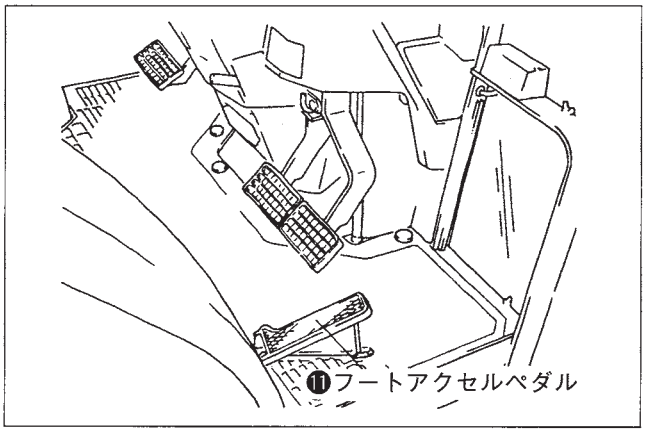
コントロールレバー

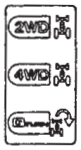
レバーを手前に引けば《 》(**高速**) となり，前方へ押せば《 》(**低速**) となります。



⓫ フートアクセルペダル

ペダルを踏込むと高速となり，離すと低速になります。この時，エンジンコントロールレバーは低速にしておきます。





⑫ 4駆切替レバー

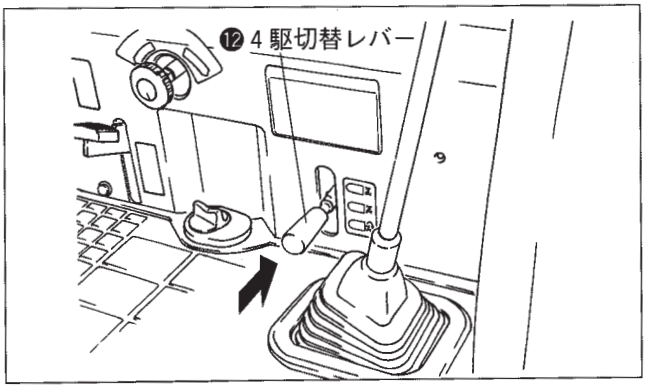
⚠警告 傷害事故防止のために

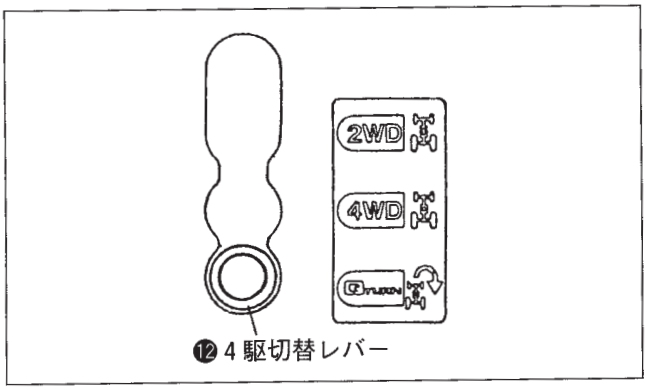
◆ダイヤクイックターンは，小さく旋回でき，旋回速度も速くなり，作業能率が上がりますが，ほ場作業以外では使用しないでください。使い方を誤ると横転することがあります。

◆4駆切替レバーを《Q TURN》位置にしたままでの道路走行や傾斜地作業は行わないでください。横転や傷害事故の原因になることがあります。ほ場から出るときは，4駆切替レバーを《2WD》または《4WD》位置にしてください。

◆ダイヤクイックターンは，フロントローダ作業等，前輪に重荷重のかかる作業に使用しないでください。
バランスがくずれ横転や傷害事故のおそれがあります。

4駆切替レバーはグリップを押込んで操作をします。





- 《2WD》の位置（上側の長穴）で2輪駆動になります。
- 《4WD》の位置（中穴）で前輪駆動が入り4輪駆動になります。

4輪駆動にすると，次のような場合に威力を発揮します。

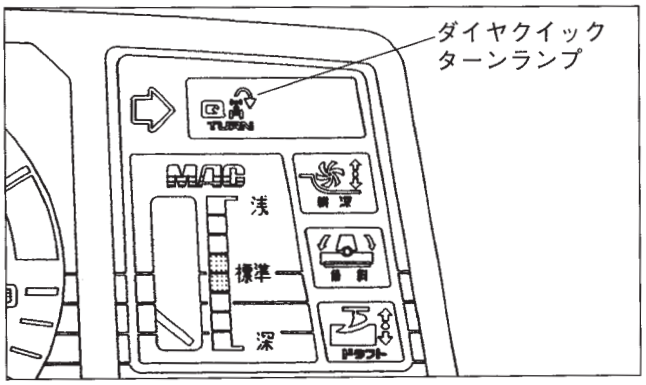
(1) 傾斜地，湿田，トレーラ，フロントローダ，プラウ作業時でけん引力を必要とする場合。

(2) 砂地で作業をする場合。

(3) 固いほ場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

(4) ほ場への出入りやあぜ越えおよび自動車への積降ろしを行う場合。

- 《Q TURN》の位置（下穴）でパネル内のダイヤクイックターンランプが点灯しダイヤクイックターンが働く状態になります。ハンドルを切ってダイヤクイックターンが作動すると前輪が一時的に早く回転し旋回半径を小さくすることができます。



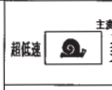
取扱いのポイント

- クラッチペダルを踏んでから，４駆切替レバーを操作してください。
- トラクタ単体で，平坦な道路走行時は，タイヤ摩耗防止のため，４駆切替レバーを《２ＷＤ》の位置にしてご使用ください。
- ダイヤクイックターンに入れたり，切ったりするときは前輪タイヤを直進状態にしてください。
- 副変速レバー《Ⓗ》（高速）で超低速《🐇》（高速）のときは，ダイヤクイックターンは作動しない構造になっています。また，パルシフト装備機は超低速《🐇》（高速）で主変速レバー５速以上では，ダイヤクイックターンは作動しない構造になっています。ダイヤクイックターンランプで確認してください。

ダイヤクイックターン作動条件［標準機］

ダイヤクイックターン	変　速	シャトルレバー	ダイヤクイックターンランプ
作動する		中　立	点　灯
		Ｆ又はＲ	点　灯
		中　立	点　灯
		Ｆ又はＲ	点　灯
		中　立	点　灯
		Ｆ又はＲ	点　灯
作動しない		中　立	消　灯
		Ｆ又はＲ	消　灯

ダイヤクイックターン作動条件［パルシフト装備機］

ダイヤクイックターン	変　速	シャトルレバー	ダイヤクイックターンランプ
作動する		中　立	点　灯
		Ｆ又はＲ	点　灯
		中　立	点　灯
		Ｆ又はＲ	点　灯
		中　立	消　灯
		Ｆ又はＲ	点　灯
作動しない		中　立	消　灯
		Ｆ又はＲ	消　灯

⓭ デフロックペダル

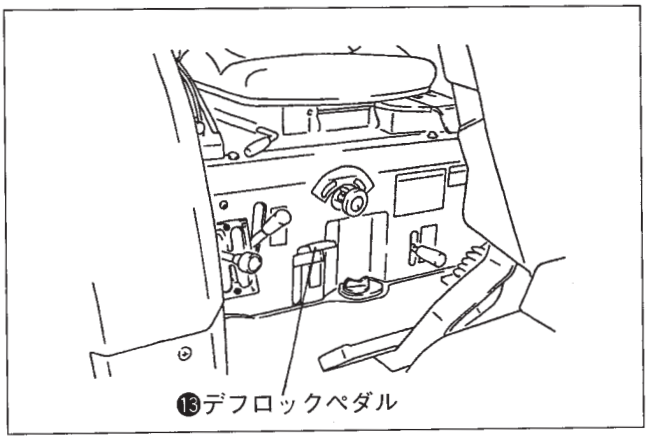
⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車への積込み・積降ろしおよび道路走行する時は，デフロックを使用しないでください。またデフロックが解除されていることを確認してください。デフロックを使用すると，ハンドルを切っても直進しかできなくなり思うように旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとすると，思わぬ事故になることがあります。

ペダルを踏むと左右の後輪が同じ回転になります。

片側車輪がスリップする時に使用します。

ペダルから足を離すと解除されます。解除されない場合はクラッチペダルを踏込むか，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏込みます。



取扱いのポイント

- **片側のタイヤが空転している時はデフロックペダルを踏込んでもデフロックが入らないことがあります。この場合は一度クラッチペダルを踏込んでから行なってください。**
- **デフロックの使いかたについては49ページを参照してください。**

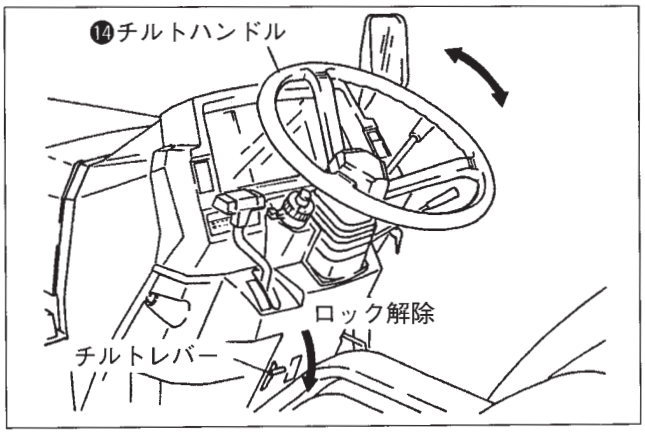
⓮ チルトハンドル

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドルの角度を変えた時は，チルトレバーが上方に戻り，ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

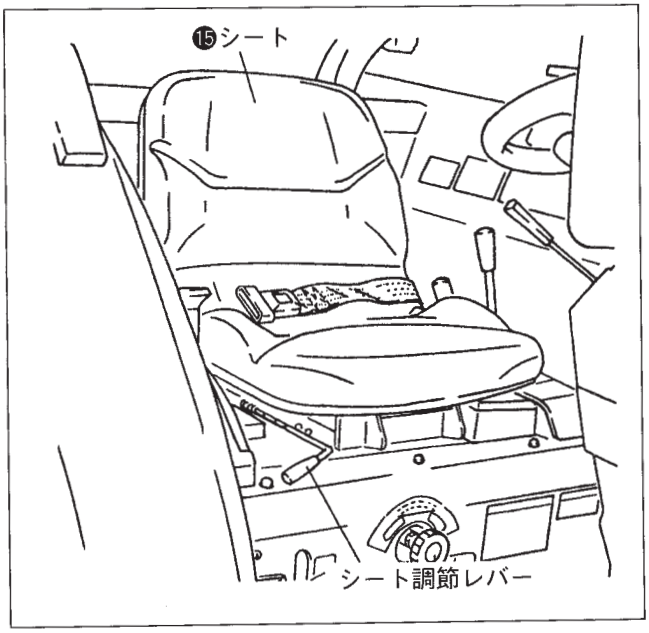
チルトレバーを押し下げると，ハンドルの角度を前後3段階に変えることができます。

レバーから手を離すとハンドルは固定されます。



⓯ シート

シートの前後位置がシート調節レバーで5段階に調節できます。

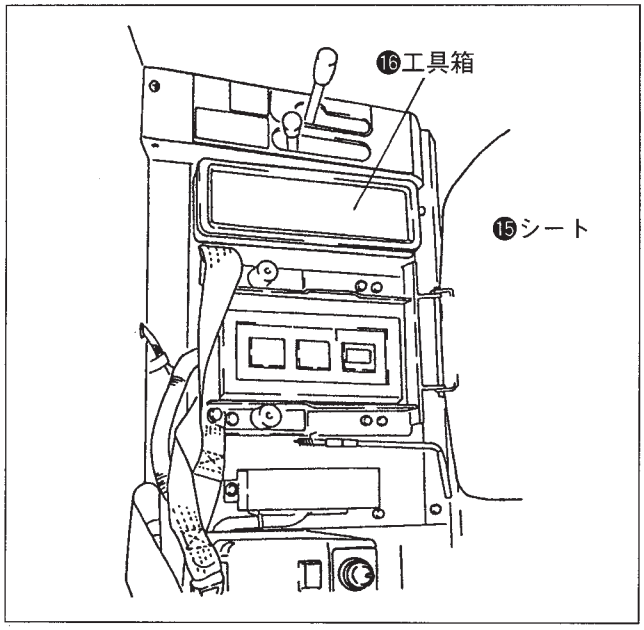


⑯ 工具箱

(1) 工具箱はシート下中央にあります。[**PAC装備機**]

(2) 工具箱はシート下左側にあります。[**マイコン装備機**]

★イラストはマイコン装備機です。

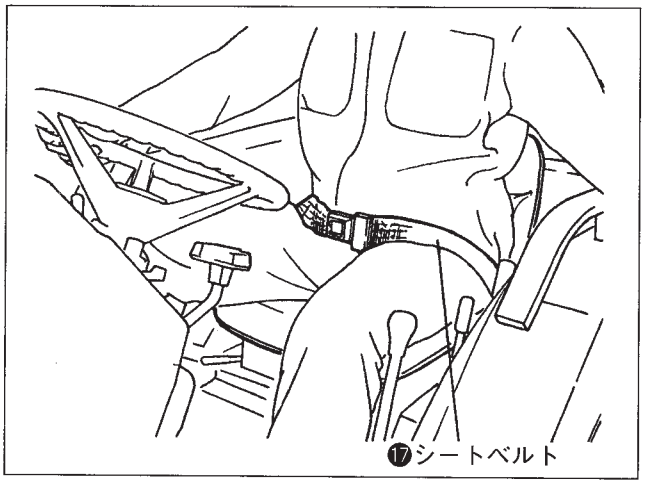


⑰ シートベルト

⚠警告 傷害事故防止のために

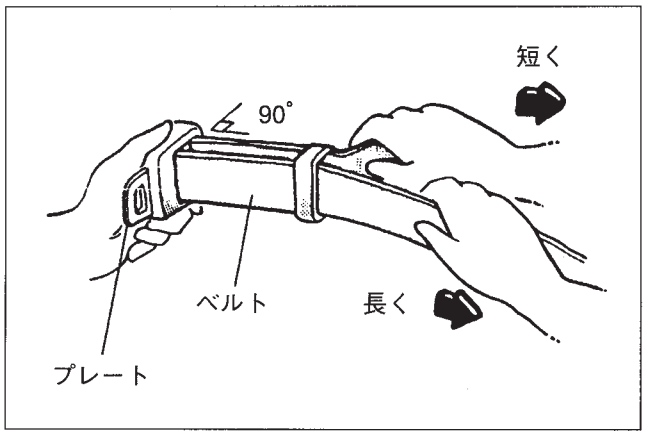
◆安全フレームをおこして使用する時は，シートベルトをしてください。

◆安全フレームをたおして使用する時は，シートベルトはしないでください。(22~23ページ参照)

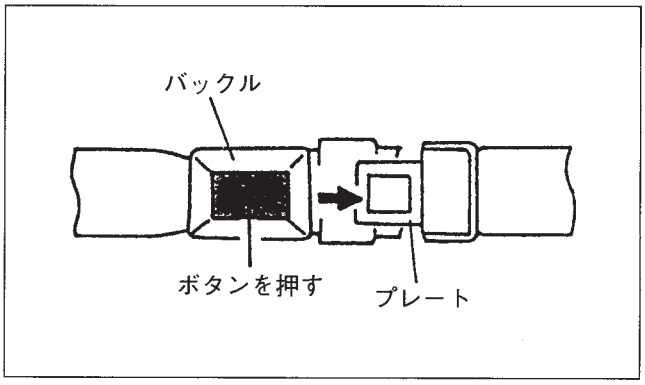


(1) シートベルトがねじれないようにして，プレートをバックルに“カチッ”と音がするまではめ込みます。

(2) 長さの調整は，ベルトをプレートと直角にして行います。ベルトを着けた時に腰部とベルトの間に手のひらが入る程度に長さを調整します。

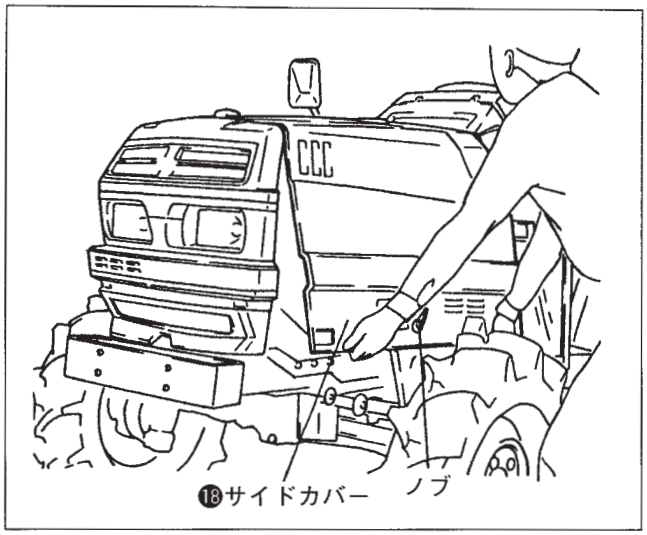


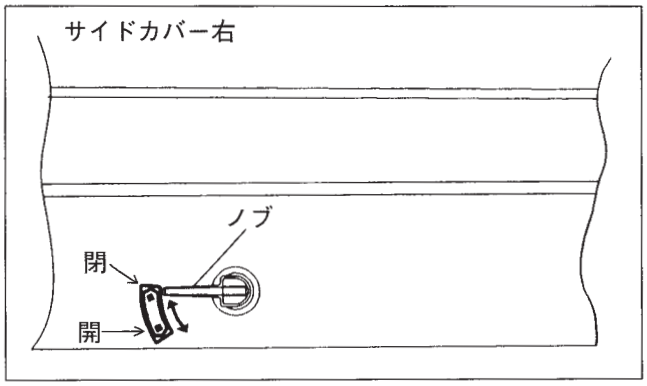
(3) シートベルトを外す時はバックルのボタン（中央の赤い部分）を押すと外れます。外したベルトはバックルとプレートをはめておきます。

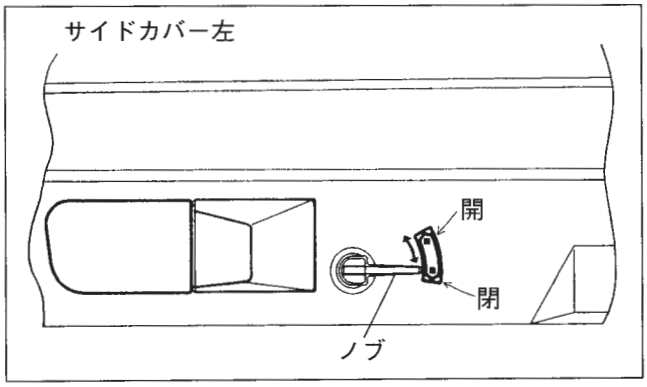


⑱ サイドカバー

左右のサイドカバーは，カバー中央部のノブを回してフックを解除し，カバーの下方両端を手前に引いた後，持上げるようにして外してください。







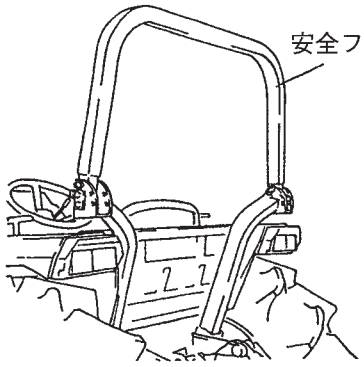
取扱いのポイント

- **ノブを無理に回そうとすると破損の原因となります。**

3．安全フレームの取扱い

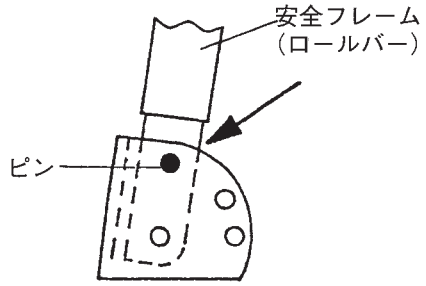
1．安全作業について

安全で快適な農作業をしていただくために，下記のことを守って行います。あわせて**「安全作業をするために」**の項をよく読み正しい取扱いをします。



⚠警告 傷害事故防止のために

◆安全フレームは，トラクタが転倒した時に身を守るものですから，安全フレームを「おこして」矢印の位置にピンをセットして使用してください。



◆安全フレームを「おこして」使用する場合はシートベルトをしてください。

◆安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してから行なってください。

◆高さ制限のある屋内，果樹園等での作業は安全フレームを後方にたおして行うことができますが，この位置では身体を保護することはできませんのでシートベルトはしないでください。

◆たおして使用する時は，フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくり上げて当たらないことを確認してください。

◆安全フレームに別部品を溶接したり，穴をあける等の改造はしないでください。

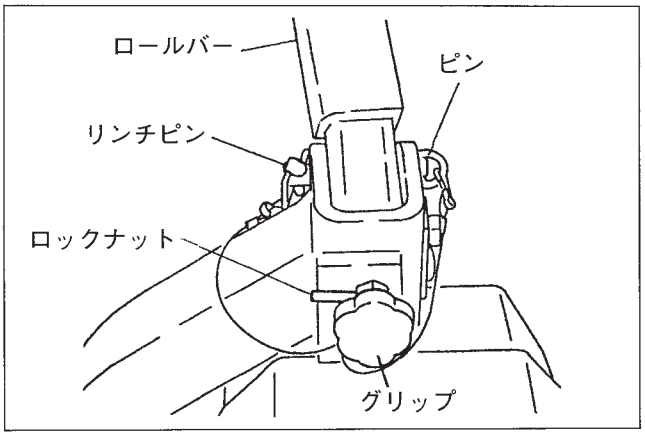
◆万一，事故により安全フレームが変形した場合は，新しい部品と交換してください。

◆交換部品は，純正部品を使用してください。

2. 安全フレームのたおしかた・おこしかた

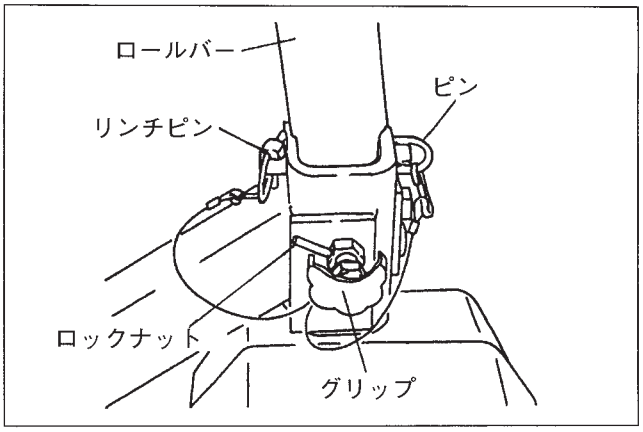
安全フレームを「**たおす**」または「**おこす**」時は，次の要領で行います。

❶ たおしかた

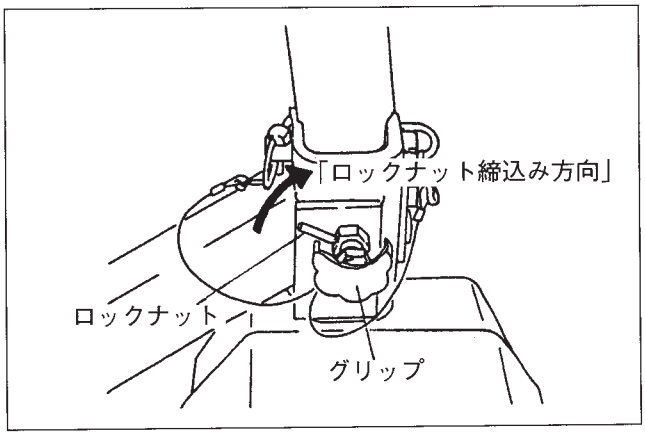


(1) リンチピンを抜きます。
(2) ロックナットをゆるめ，ピンが手で抜けるまでグリップをゆるめます。
(3) 反対側も同様にリンチピンを抜き，ロックナットとグリップをゆるめます。
(4) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。
(5) ロールバーを後方にたおした位置で左右のピンを差込みます。
(6) 左右のリンチピンを差込みます。
(7) ロックナットを締込んでグリップを固定してください。

❷ おこしかた



(1) 左右のリンチピンを抜きます。
(2) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。
(3) ロールバーを前方におこして直立にした位置で左右のピンを差込みます。
(4) 左右のリンチピンを差込みます。
(5) グリップをいっぱい締込みます。
(6) ロックナットをいっぱい締込んでおきます。
(7) 反対側も同様にグリップとロックナットをいっぱい締込んでおきます。



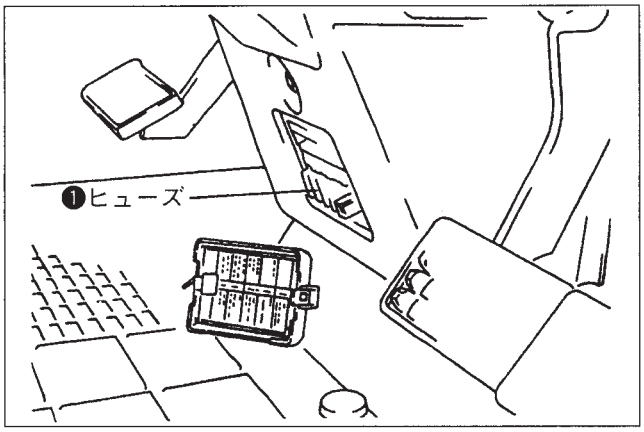
4．電装関係の取扱い

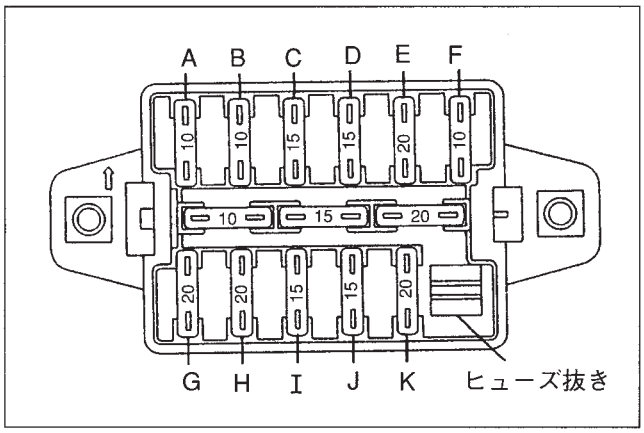
1．ヒューズの取扱い

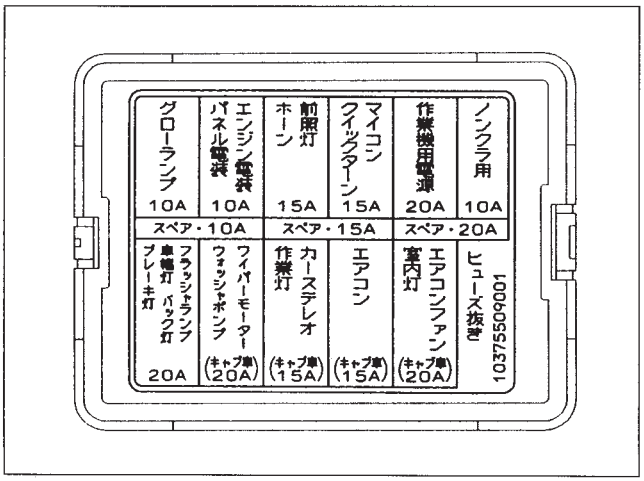
配線の回路に異常を生じた時，事故を未然に防止するためにヒューズを設けています。

運転中，電気系統に異常を確認した時は，ヒューズが切れていないかチェックします。

❶ ヒューズ







(1) **Aのヒューズ溶断**

・グローランプが点灯しません。

(2) **Bのヒューズ溶断**

・エンジンが始動しません。

・エンジン回転中に溶断するとエンジンが停止します。

(3) **Cのヒューズ溶断**

・前照灯が点灯しません。

・ホーンが鳴りません。

・メータ照明が点灯しません。

(4) **Dのヒューズ溶断**

・マイコン機能が作動しません。**[マイコン装備機]**

・ダイヤクイックターンが作動しません。

(5) **Eのヒューズ溶断**

・作業機用電源が作用しません。

(6) **Fのヒューズ溶断［パルシフト装備機］**

・走行ができません。

(7) **Gのヒューズ溶断**

・方向指示灯が点灯しません。

・車幅灯が点灯しません。**[367型]**

・尾灯が点灯しません。**[367型]**

・後退灯が点灯しません。**[367型]**

(8) **Hのヒューズ溶断［キャビン装備機］**

・ワイパ（前）が作動しません。

・ワイパ（後）が作動しません。

・ウォッシャ液が出ません（前・後）。

(9) **Iのヒューズ溶断［キャビン装備機］**

・作業灯が点灯しません。

・カーステレオが作動しません。

(10) **Jのヒューズ溶断［キャビン装備機］**

・エアコンの送風がありません。

・エアコンが作動しません。

(11) **Kのヒューズ溶断［キャビン装備機］**

・室内灯が点灯しません。

・カーステレオの時計が表示しません。

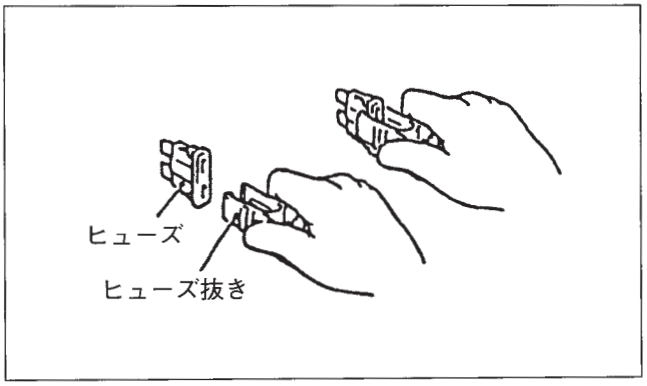
・ヒューズの交換

⚠警告　火災防止のために

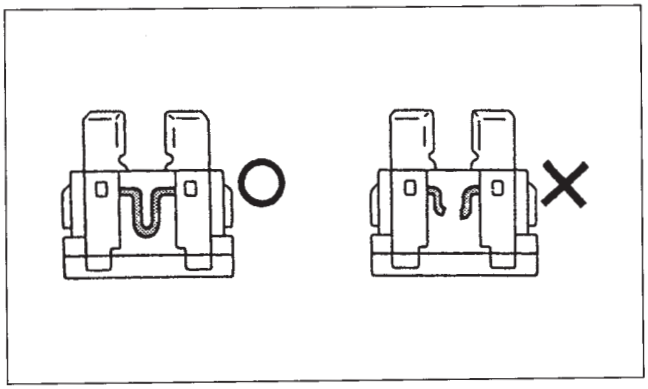
◆取付けてあるヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

(1)　キーを《 切》にします。

(2)　ヒューズ抜きを使ってヒューズを引抜きます。(ヒューズ抜きはヒューズボックスの中に入っています。)



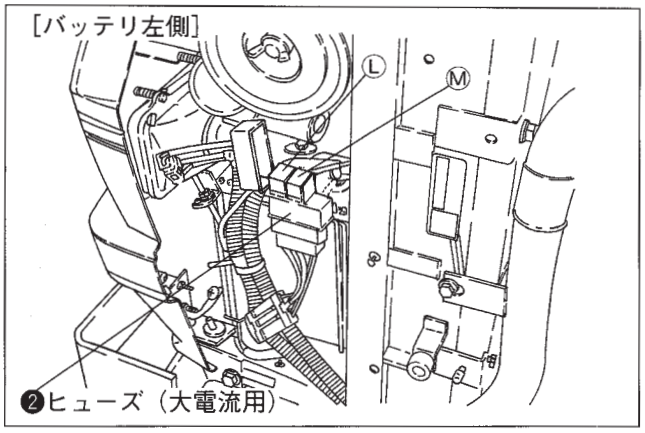
(3)　ヒューズが図の右側（×印）のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。

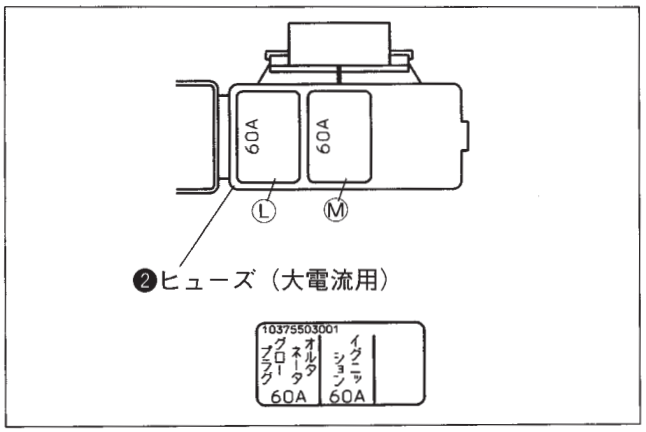


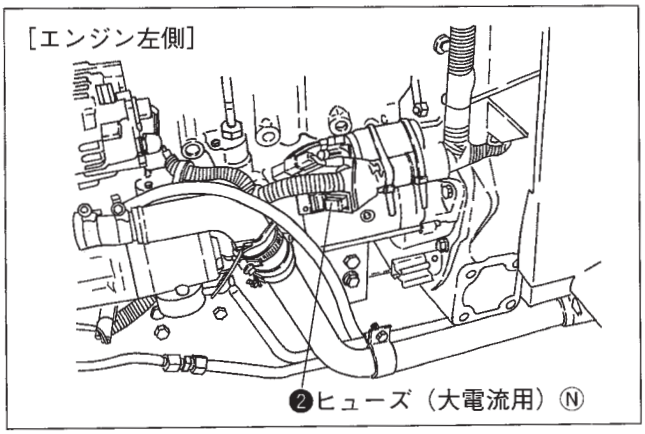
取扱いのポイント

- **ヒューズボックスを開ける時は，ボックス蓋左右の凸部を押すように持ち，手前に引いてください。**
- **交換してもヒューズが切れる時は「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

❷　ヒューズ（大電流用）







(1)　**ⓁまたはⓂのヒューズ溶断**

・全ての電気系統が作動しません。

(2)　**Ⓝのヒューズ溶断**

・スタータは回りますが，エンジンがかかりません。

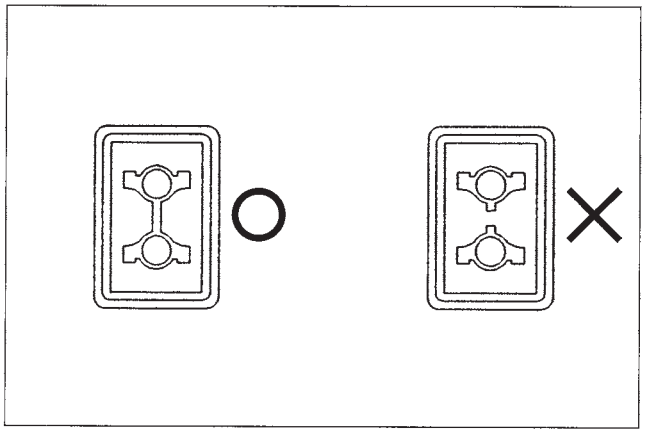
・ヒューズ（大電流用）の交換

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズ（大電流用）と異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズ（大電流用）のかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

(1) バッテリ(－)端子を外します。

(2) ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。



取扱いのポイント

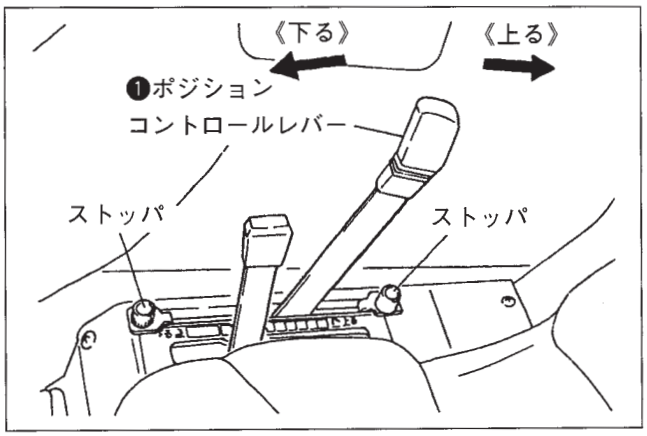
- 交換してもヒューズ（大電流用）が切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

5. 油圧装置の取扱い

1. コントロールレバーの操作 [PAC装備機]

この油圧装置にはポジションコントロールレバー及びPAC／ドラフトコントロールレバーを備えています。

マイコン装備機については **マイコン装備機の取扱い** の項を参照して操作します。



❶ ポジションコントロールレバー

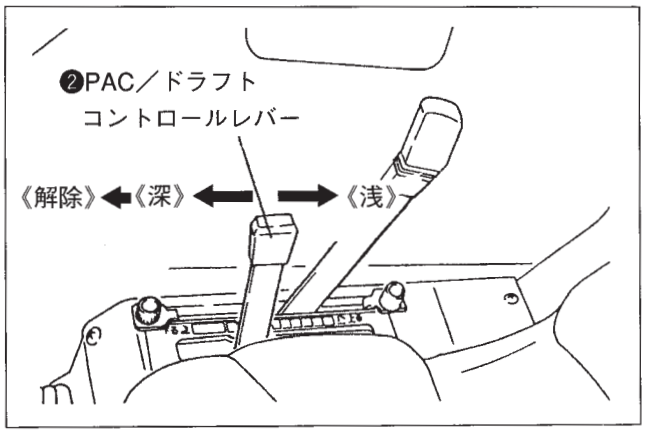
ポジションコントロールレバーは作業機の位置が自由に決められ一定に保たれます。ポジションコントロールレバーを使用する場合は次のように操作します。

・ポジションコントロールレバーを前方に押せば作業機は自重で下がります。

・ポジションコントロールレバーを任意の位置にすると，作業機はそのレバー位置に対応した高さまで上下した所で止まります。

・作業機を一定の高さに保ちたい場合は，「**ストッパ**」を任意の位置に固定しポジションコントロールレバーの位置を決めることにより，作業機の上げ・下げの位置は同じになります。

❷ PAC／ドラフトコントロールレバー（耕深自動調節）

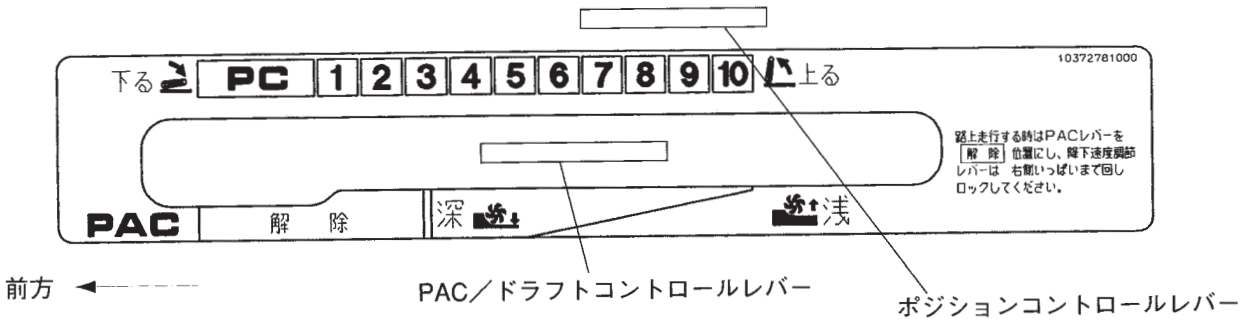


PAC／ドラフトコントロールレバーは，ロータリ耕うん作業において耕深を自動調節します。

ロータリの耕深をリヤカバーで検知して，自動的に油圧を作動させ，耕深を一定に保持します。PAC／ドラフトコントロールレバーを使用する場合は，次のように操作します。

・ポジションコントロールレバーを《**下る**》位置にします。ロータリは自重で下がります。

・PAC／ドラフトコントロールレバーを操作して任意の位置にセットすると，ロータリの耕深を一定に保つことができます。PAC／ドラフトコントロールレバーを前方にするほど耕深は《**深**》く，後方にするほど《**浅**》くなります。



・ポジションコントロールレバーでロータリを上げ・下げをします。ポジションコントロールレバーを《**下る**》位置にして耕うんすると，PAC／ドラフトコントロールレバーでセットしている耕深が維持できます。

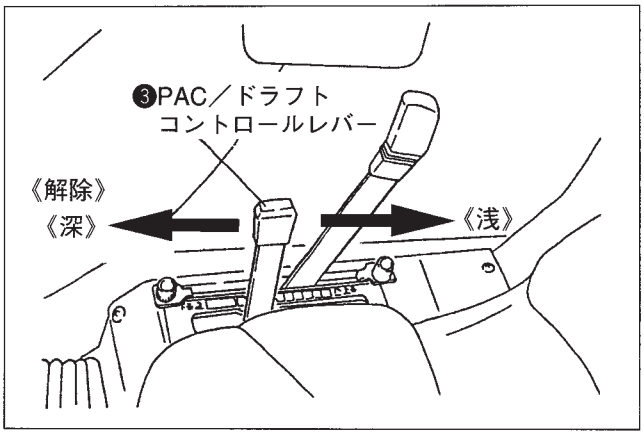
取扱いのポイント

- **道路走行するときはロータリを上げてPAC／ドラフトコントロールレバーを《解除》位置にしてください。**

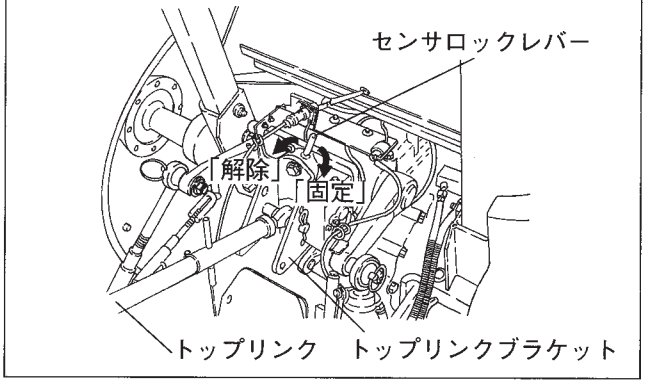
❸ PAC／ドラフトコントロールレバー（ドラフトコントロール）

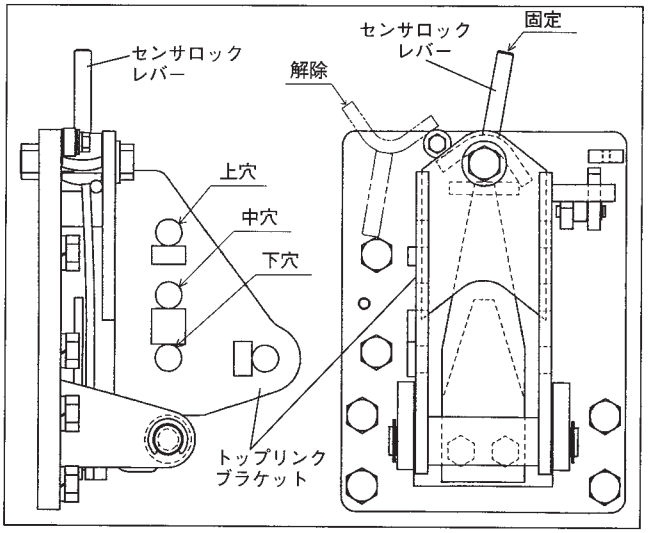
ドラフトコントロールは作業機に加わる抵抗を利用して，自動的に油圧を作動させ，けん引負荷を制御します。一般にプラウなど3点リンクに装着した作業機でけん引により作業する場合に使用します。ドラフトコントロールを使用する場合は次のような操作をします。

・トップリンクブラケットのセンサロックレバーを「**解除**」します。
・ポジションコントロールレバーをいっぱい下げにします。作業機は自重で下がります。
・PAC／ドラフトコントロールレバーの位置により作業機にかかる抵抗が調整できます。
PAC／ドラフトコントロールレバーを後方にするほどわずかのけん引抵抗で作業機が持上げられます。
・作業機のけん引抵抗が大きくなると作業機は持上げられ，抵抗が少なくなると自重で元に戻ります。
・旋回時はポジションコントロールレバーで作業機を上げます。
・PAC／ドラフトコントロールレバーでは，作業機の上げ，下げはできません。
・トップリンクのトップリンクブラケットへの取付けは中穴へ取付けます。但しプラウの種類・ほ場条件等によって，PAC／ドラフトコントロールレバーで目標の深さに調整できない時は「**上穴**」又は「**下穴**」を使用します。浅すぎる場合は下穴に，深すぎる場合は上穴に変えます。



☆イラストは，センサロックレバー固定状態を示す。





取扱いのポイント

- **道路走行する時は必ずPAC／ドラフトコントロールレバーを《解除》位置にし，センサロックレバーでトップリンクブラケットを固定してください。**

2. ダッシング防止の調整［PAC装備機］

PAC仕様車はダッシング防止装置を備えています。



❶ ダッシング防止スピードの調整

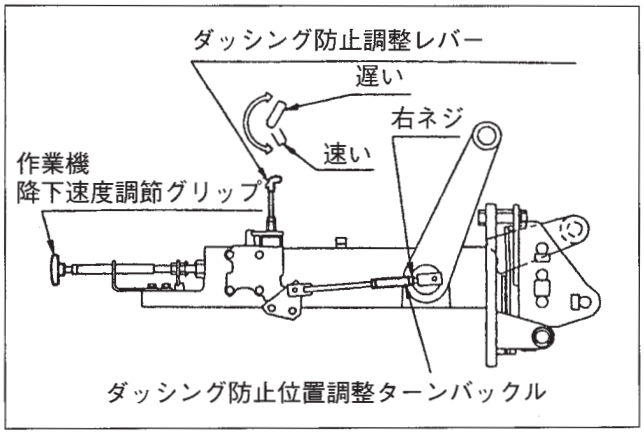
ダッシング防止はロータリの下降スピードが地面近くで遅くなり土の盛り上がりをなくし均平な耕うんができます。特に，土の硬いほ場では機体の飛出しエンジン回転のダウン等を防ぐことができます。作業機の重さに合わせてダッシング防止のスピードを調整します。

・ダッシング防止調整レバーを右に回すと降下スピードが遅くなり，左に回すと速くなります。
・軽い作業機を早く下げたい時は，レバーを解除にして使用します。

❷ ダッシング防止位置の調整

ダッシング防止の効き始め位置は標準ロータリ用に合わせてありますが，他の作業機で必要な時はターンバックルで調整します。

ターンバックルを回して，ネジ込む（縮める）とダッシング防止の効く位置が低くなり，ネジ戻す（伸す）とダッシング防止の効く位置が高くなります。ターンバックルを1/2回転させるとダッシング防止の効く位置が約40㎜変化します。



取扱いのポイント

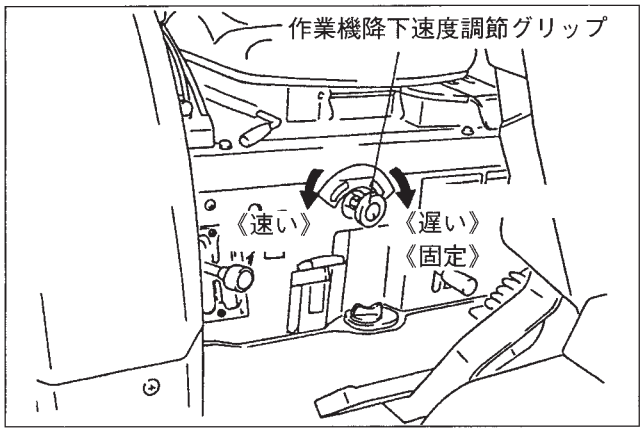
- **作業機の降下スピードは作業機降下速度調節グリップで調整してください。**

3．作業機降下速度の調節

⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機を上げて，整備・点検・掃除を行う時は，エンジンを停止し作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。ポジションコントロールレバーを《下る》の方向にゆっくり動かして，作業機が落下しないか確認してください。さらに作業機の下に「固定脚」を入れてください。

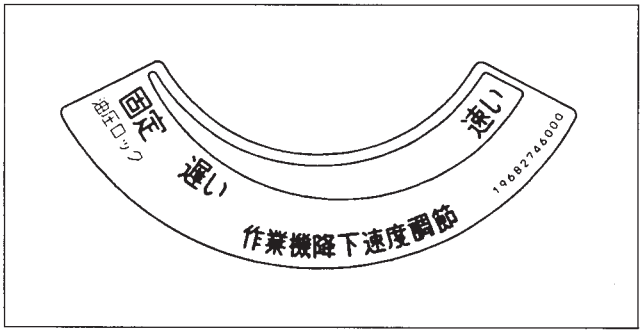
◆道路走行時は作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。



・作業機降下速度調節グリップはシートの下にあります。

・作業機降下速度調節グリップを回すことにより作業機の降下速度を調節できます。

降下速度調節グリップ	降下速度
右に回す《**遅い**》	遅くなる
左に回す《**速い**》	速くなる
右に軽く締込む《**固定**》	固定される



・作業機の種類，作業状況によって降下速度を調節してください。

ロータリ作業…降下速度を遅く

プラウ作業……降下速度を速く

4. パワーステアリングの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道，傾斜地ではエンジンを停止しないでください。作業中，走行中にエンジンが停止したときは，すみやかにエンジンを再スタートします。エンジンが停止するとパワーステアリング装置が働かなくなり，ハンドルが重くなり，衝突・転落等の事故になることがあります。エンジン低回転時もハンドルが多少重くなります。

◆高速走行時は，ハンドルが軽く感じますので，急にハンドルを切らないようにします。

◆エンジンをかけないで他車にけん引してもらう場合はまえもって手動操舵ができることを確認してからけん引してもらってください。他車にけん引してもらう場合は速度を5km/h以下としてください。

◆油圧シリンダ部のホースは「2年ごと」に交換してください。

このトラクタは，全油圧形パワーステアリングが装備されています。従来形のパワーステアリングに比較し，操作感覚が少し異なりますので，以下の内容を理解してから運転します。

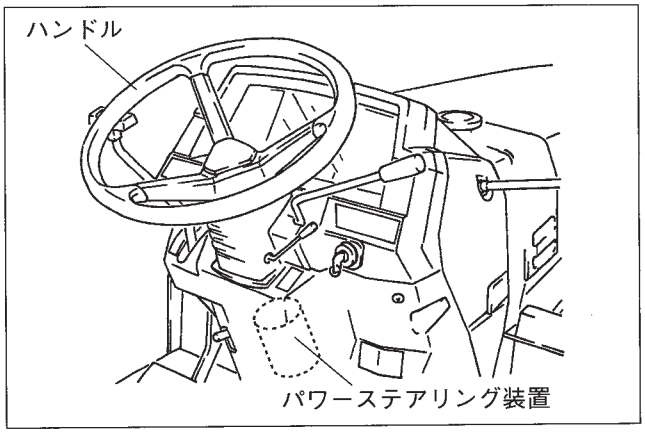
❶ ハンドルから前車軸までの間にリンク機構がありませんので，いっぱいに切った後でも，力を加えることにより更にハンドルは回ります。ハンドルは軽い力でも切れるため，必要以上に力を加えてハンドルを切らないようにします。（リリーフ圧力以上の過大出力でパワーステアリング装置の寿命を縮める原因となります。）

❷ ハンドルを切った時のみ車輪が切れますので，旋回から直進に移る時も，ハンドルを回して直進に戻します。

❸ エンジンが停止するとハンドルが非常に重くなります。

取扱いのポイント

- フロントローダ作業ですえ切り（走行しないでハンドルを切ること）ができないときには荷を軽くするか，前後に動くと操舵できます。
- 寒冷地等で始動時異音が発生し，使用しているうちに止まるのは油がかたいためです。暖機運転をしてから走行してください。
- 操舵時，油圧系から異音がする場合，油圧回路に空気が入っていることがあります。5秒程度左右一杯にハンドルを切ったままにすると空気が抜けますので，異音はしなくなります。これでも音が止まらないときは「お買いあげ先」にご相談ください。



5．フロントローダの取扱い

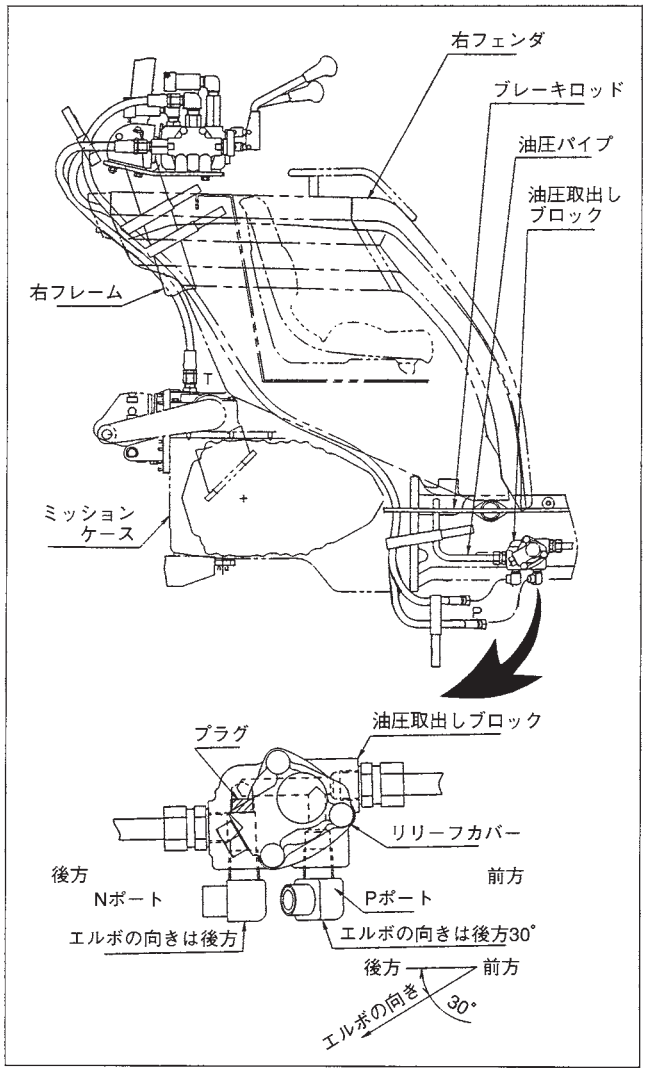
❶ フロントローダ

⚠警告　傷害事故防止のために

◆フロントローダ使用の場合は，ダイヤクイックターンは使用しないでください。バランスが崩れ横転や傷害事故のおそれがあります。

フロントローダの油圧取出しは，センタケース右側のブロック下側のメクラ栓（２個）を外し，Ｎポート側（後側）に六角穴付き止めネジをネジ込み，コネクタとホースを取付けます。

油圧取出しを取扱うときはフロントローダの取扱説明書に従って行います。



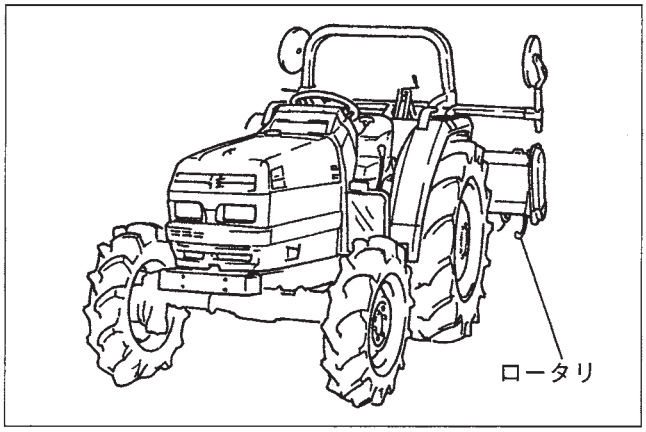
取扱いのポイント

- フロントローダを装着する時は購入先にご相談ください。当社の規格外のフロントローダは使用しないでください。
- フロントローダ以外の作業機で作業機側でコントロールバルブを準備している場合はこの油圧取出口を利用してください。但し，フロントローダとの共着はできません。
- フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を2.5kgf／cm²にしてください。

❷ 重量バランスの取り方

⚠警告　傷害事故防止のために

◆フロントローダ作業をする時は，後方に他の作業機を装着するなどして，バランスを保ってください。



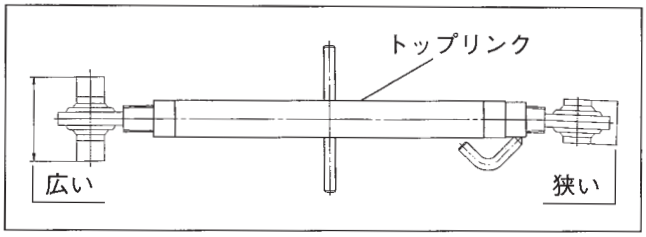
作業機はいっぱい上げて作業機降下速度調節グリップを《**固定**》にして作業機が下がらないようにします。

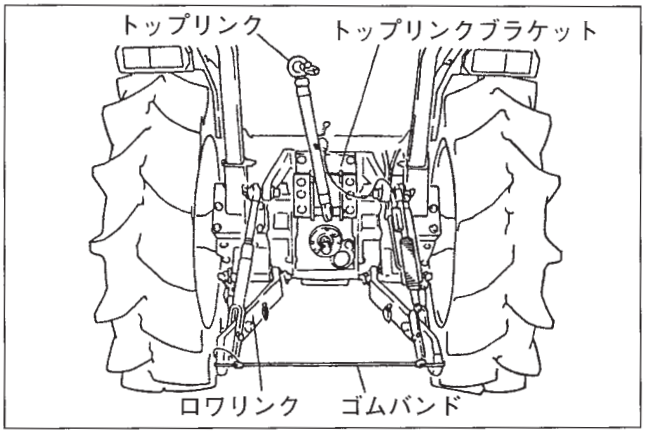


6．3点リンクの取扱い

1．トップリンク

トップリンクブラケットにトップリンクの取付部が広い方を取付けます。





2．作業機を取付けない時は

❶ トップリンクを外します。

❷ 左右のロワリンクをゴムバンドでつなぎ振れ止めをします。

3．ドローバ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆けん引作業をする時は，純正ドローバを使用し，ドローバ以外で引っ張らないでください。トップリンクブラケットなど車軸より高い位置でけん引すると転倒することがあります。

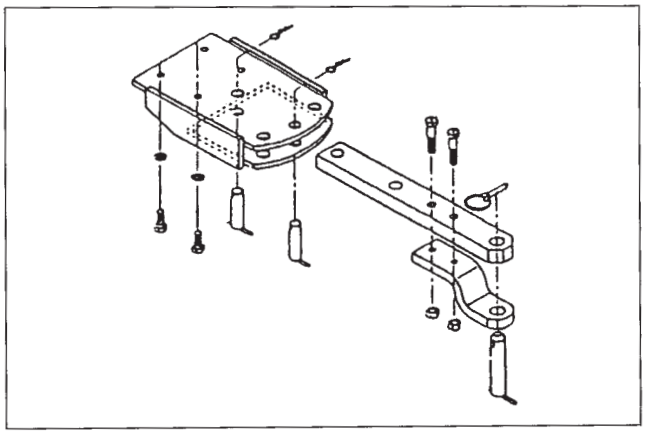
◆ドローバは，横方向へは引かないようにしてください。横方向では，ドローバが外れたり，フレームが曲がるおそれがあります。

◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は輪距を広くして使用してください。（50～51ページ参照）

・けん引はこのトラクタに合った作業機を使用します。不明な点がありましたらお買いあげ先に相談し，無理なけん引は避けてください。

・けん引作業をする場合は，ドローバを使用します。他の所を使用してけん引すると転倒することがあります。

（装着の際はドローバの取扱説明書に従って行います。）



取扱いのポイント

●ロータリ等でジョイントを装着の際はドローバを横に振っておきます。

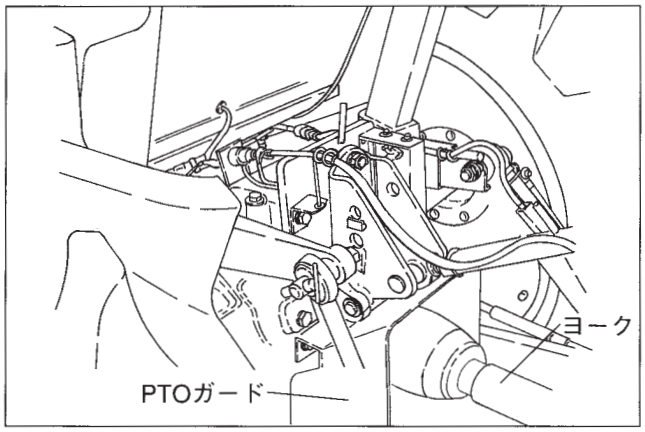
4．PTOキャップ

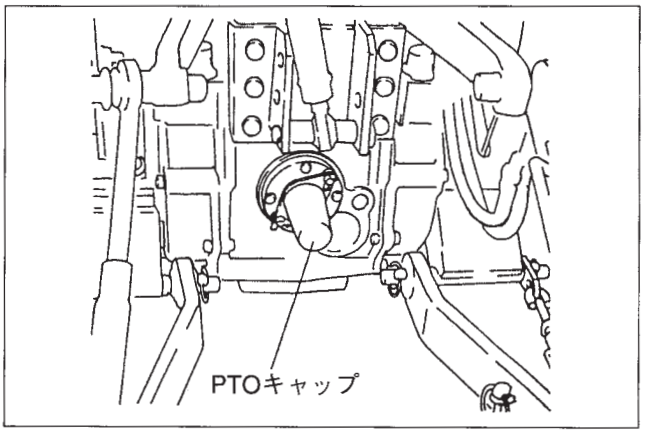
⚠警告 傷害事故防止のために

◆PTO軸を使用しない時は，PTOキャップを取付けてください。PTOキャップを取付けないで作業をすると巻込まれによる傷害事故を引起こすおそれがあります。

◆PTOガードを取外さないでください。

PTOを使わない時は，PTO軸にグリスを塗布し，PTOキャップを取付けておきます。





5．ロータリの取付け

ロータリの取付けは「**ロータリ取扱説明書**」をよく読んでから行います。その他の作業機についても，作業機の取扱説明書をよく読んでから行います。

運転のしかた

1．運転まえの点検

警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆点検や整備または給油・給水・注油する時には，トラクタを平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してから行なってください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱い時は燃料補給をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。

1．点検項目

・点検は「**定期点検整備表**」（88～89ページ）を参照して作業前に欠かさず行なってください。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けてください。

点検個所			処置
運転まえに	エンジンオイル（エンジンクランクケース）	・レベルゲージの上下限線の間に油量があれば良い。	・不足時は油面がレベルゲージの刻み線「**上限**」になるまで補給する。（92ページ参照）
	冷却水（ラジエータ）	・リザーブタンクに適量あるか。（給水レベルの上限と下限の間にあること）	・不足していれば冷却水をリザーブタンクに適量補給する。（95～96ページ参照）
	ラジエータスクリーン ラジエータフィン	・ラジエータスクリーンの目詰まりはないか。 ・ラジエータフィンの目詰まりはないか。	・スクリーンを抜取り掃除してください。 ・圧縮空気で掃除してください。（101ページ参照）
	エアクリーナ	・エアクリーナエレメントの汚れ目詰まりはないか。	・エレメントを取外し掃除してください。（101ページ参照）
	タイヤ	・空気圧は適正か。 ・ボルト，ナットのゆるみはないか。（51ページ参照）	・前輪1.5kgf/cm²，後輪1.0kgf/cm²（106ページ参照）
	ホース	・燃料ホース，油圧ホースの損傷，外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料，油もれがないか。	・もれている場合，ホースの交換。（107ページ参照）
スタータスイッチを（ON）にして	燃料計	・作業に必要な燃料があるか。	・ディーゼル軽油を補給する。（93ページ参照）
	ホーン	・ホーンスイッチを押せば鳴るか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ処置する。（24～26ページ参照）
	方向指示灯等の保安部品	・正常に作動するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。（24～26ページ参照）
エンジンを始動して	インジケータランプ	・グロー，チャージ，エンジンオイルランプは消灯するか。	・エンジンオイルを補給する。・充電する。 ・異常個所を調べ，処置する。（92，107～111ページ参照）
	回転計（タコメータ，アワメータ）	・正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。（9ページ参照）
	ステアリング及び各レバー類	・ハンドルを回し正常に作動するか。 ・各レバーを操作し正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。（106ページ参照） （11～19ページ参照）
	ブレーキペダル クラッチペダル	・低速で走行してペダル操作時に正常に作動するか。	・異常個所を調べ，処置する。（103，105ページ参照）

2．運転操作のしかた

各項目の操作手順に従がって行なってください。

1．エンジンの始動

⚠警告　傷害事故防止のために

◆安全フレームをおこしてください。
◆ステップの左側から乗降してください。
◆点検などで取外したカバー類は全て取付けてください。カバーがないと衣服が巻込まれたりしてけがをすることがあります。
◆トラクタに乗車する前に，トラクタの外周を見て回り，異常がないことを確認してください。
◆主変速，PTO変速レバーを「《N》(中立)」にし，駐車ブレーキをかけてから，エンジンを始動してください。
◆エンジンの始動，発進する時は，周囲の人に合図をしトラクタや作業機のまわりから人を遠ざけてください。
◆エンジンの始動はシートに座って，シートベルトをしめてから行なってください。
◆トラクタや作業機に他の子供等，人や物を乗せないでください。
◆暖機運転は主変速，PTO変速レバーを「《N》(中立)」にし，駐車ブレーキをかけてから行なってください。

❶ 左右のブレーキペダルを連結し駐車ブレーキをかけておきます。

❷ 主変速レバー，PTO変速レバーを「**《N》(中立)**」にします。

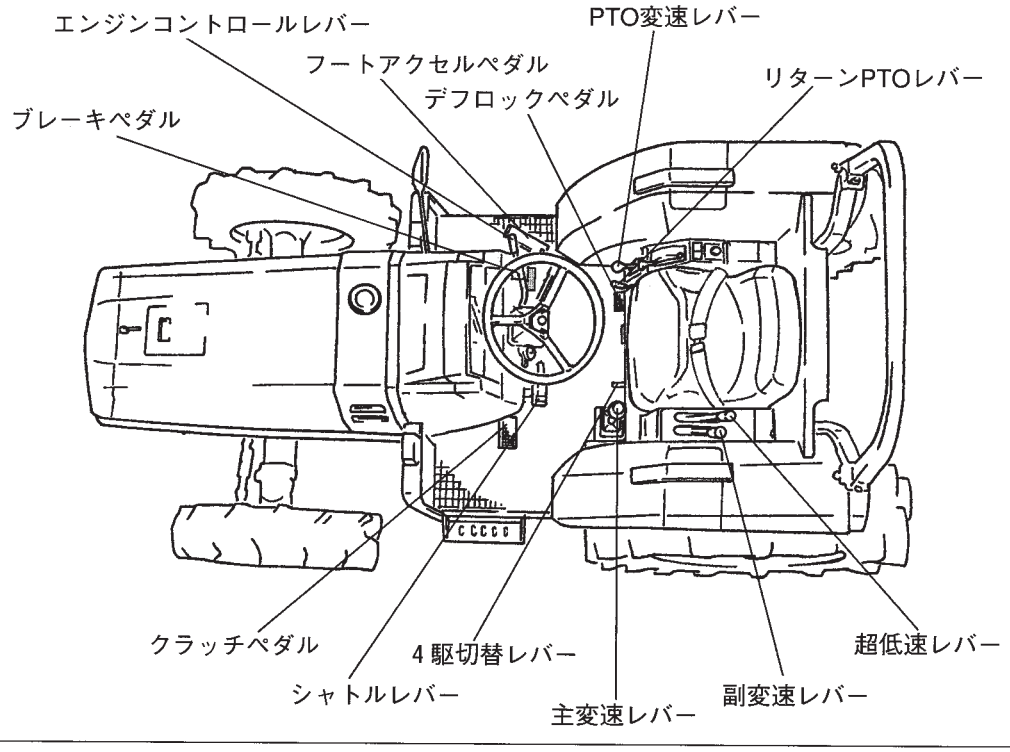
❸ エンジンコントロールレバーを手前にいっぱいに引きます。



❹ クラッチペダルをいっぱい踏込みます。

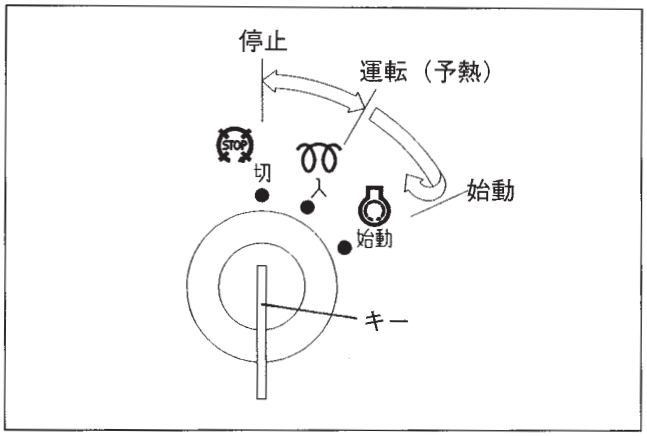
❺ キーを《 入》にするとエンジンオイルランプ，チャージランプ，グローランプが点灯します。

☆イラストは標準機です。

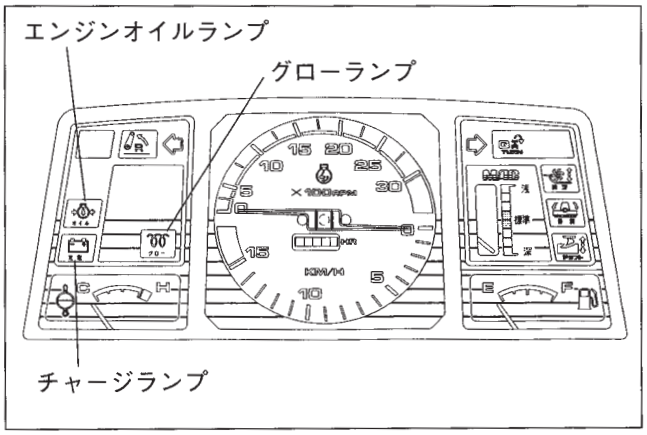


❻ グローランプが消灯してから，キーを《始動》にします。

❼ 始動したら，ただちにキーより手を離します。キーは自動的に《入》の位置に戻ります。



❽ エンジンオイルランプ，チャージランプが消えれば正常です。消えないときは，すぐエンジンを停止して点検します。



❾ エンジン回転を約1500回転にして暖機運転します。（約５分間）

取扱いのポイント

- クラッチペダルをいっぱい踏込まないと，エンジンは始動しません。
- エンジンが少しでも回転している時はキーを《始動》にしないでください。
  故障の原因となります。
- 始動操作を繰返した場合，グローランプは点灯しません。またエンジン停止後，すぐにエンジンを再始動する場合にも点灯しないか，点灯時間が短いことがありますが，保護回路が作動するためで，故障ではありません。
- 暖機運転は，寒冷時に限らず行なってください。エンジンが暖まらないうちに走行すると，エンジンの寿命を短くします。
- 寒冷時の始動

・下表を参照し気温にあったエンジンオイル，燃料を使用してエンジンを始動し易くします。

気温(℃)	−20	−10	0	10	20
エンジンオイル	SAE10W−30		SAE20		SAE 30
燃料（軽油）	JIS 特3号	JIS 3号	JIS2号		

[パルシフト装備機]

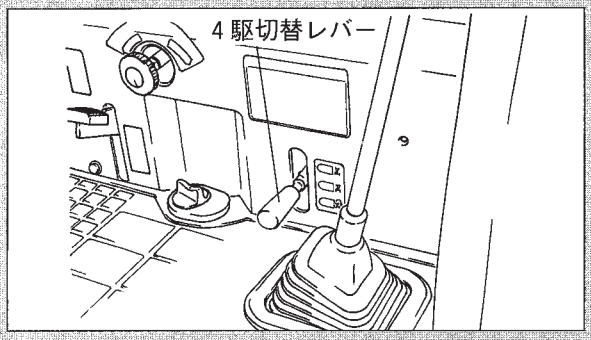
- パルシフト装備機は，油圧で変速していますので暖機運転を十分行なってください。
- 暖機運転中は駐車ブレーキをかけ，エンジン回転をアイドリングから「中速」にします。
- 主変速レバーを「《N》（中立）」位置にし，シャトルレバーを《F》（前進）又は《R》（後進）位置にし，油温が20℃〜30℃（約1℃／1分間）以上になるまで暖機運転を行います。
- 暖機運転を行う時間がないときは，クラッチペダルを踏んで変速を行なってください。
- 寒い時には，発進が遅れたり，ギヤ鳴りがすることがありますが，油温が上がると正常に動き出します。

2．発進のしかた

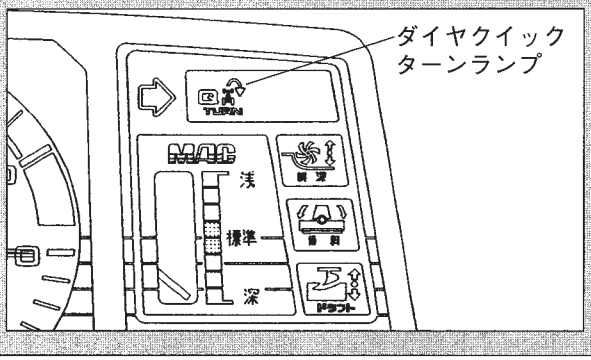
⚠警告 傷害事故防止のために

◆発進する時はクラッチペダルをゆっくり離してください。急に離すと急発進して事故の原因になります。

◆4駆切替レバーを《2WD》または《4WD》の位置にして発進してください。



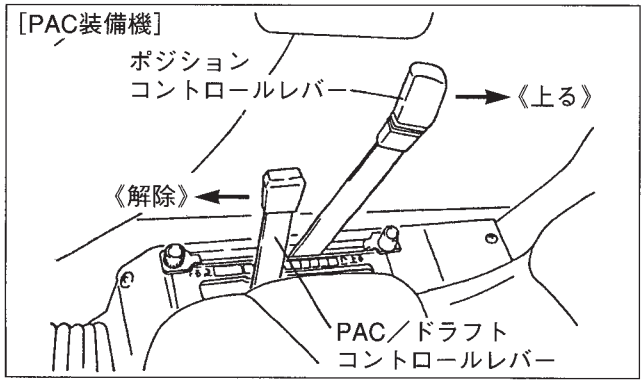
◆パネル内のダイヤクイックターンランプが消灯している事を確認します。



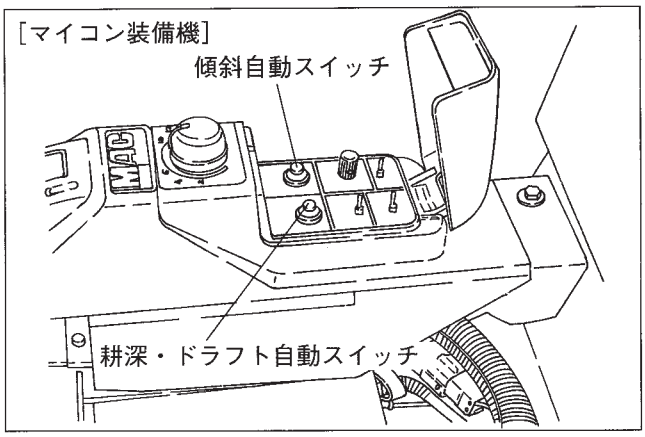
［標準機］

❶ ポジションコントロールレバーを後方にゆっくり引き，作業機を持上げます。

(1) PAC装備機はPAC／ドラフトコントロールレバーを《**解除**》の位置にします。



(2) マイコン装備機は傾斜自動，耕深・ドラフト自動を《**切**》にします。



❷ エンジン回転を約1500回転位にします。

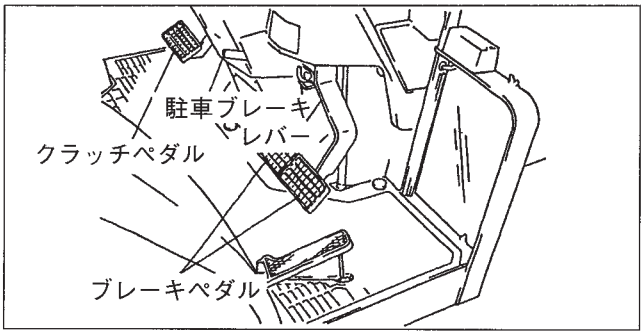
❸ クラッチペダルを，いっぱい踏込みます。

❹ 主変速レバー・副変速レバー・超低速レバー・シャトルレバーを所要変速位置に入れます。

取扱いのポイント

- **変速はクラッチペダルをいっぱい踏込んで，行なってください。**
- **変速が入り難い場合は，無理な操作をせず，もう一度クラッチペダルを踏み直してから変速操作を行なってください。**

❺ ブレーキペダルを強く踏込み，駐車ブレーキを外します。



❻ クラッチペダルをゆっくり離して発進します。

[パルシフト装備機]

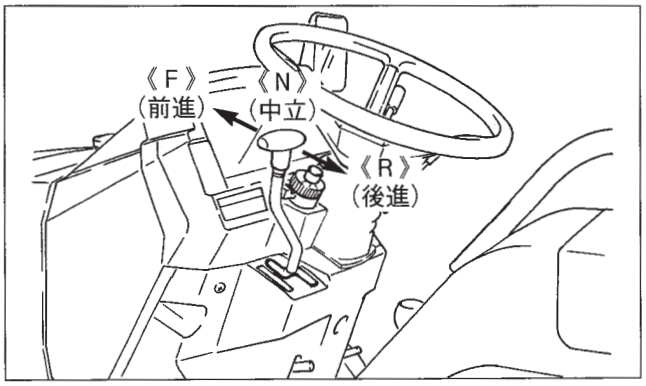
前項［**標準機**］❶～❸項までの取扱い操作手順は，［**パルシフト装備機**］も同一です。

❹ 超低速レバーを所要の変速位置に入れます。

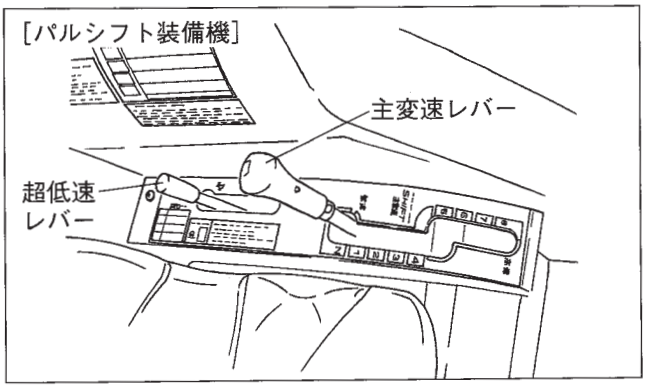
❺ クラッチペダルをゆっくり離します。

❻ ブレーキペダルを強く踏込み，駐車ブレーキを外します。

❼ シャトルレバーを《**F**》(**前進**) 又は《**R**》(**後進**) にします。



❽ 主変速レバーを「**1速**」に入れるとトラクタが動き始めます。



❾ 主変速レバーを1段ずつ変速して，希望する位置まで変速します。

取扱いのポイント

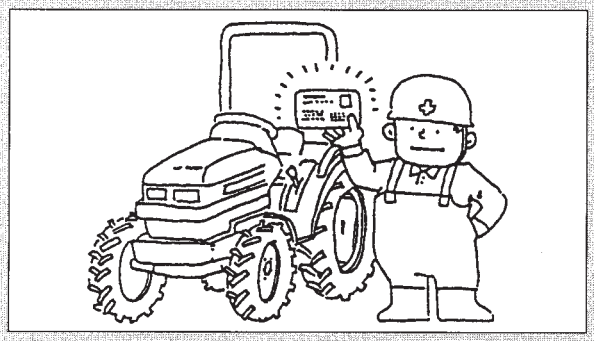
- **主変速レバー・シャトルレバーはノークラッチ操作で変速することができますが，シャトルレバー操作は，いったん「《N》(中立)」位置にして走行が停止してから操作してください。**
- **一度に2段以上の急激なノークラッチ変速は避けてください。**
- **緊急停止や，作業機の脱着時など微妙な走行が必要な時はクラッチペダルを使用してください。**

3．走行のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆公道を走行する時は，運転免許証を携帯し，交通法規を守り，安全のためヘルメットを着用してください。

- 作業機を装着しない。
- 補助車輪はつけない。
- 公道では低速車線を走行する。



◆運転者の他に子供等，人や物をのせないでください。

◆道路を走行する時は，左右のブレーキペダルを連結してください。左右のブレーキペダルを連結しておかないとブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

◆デフロックの解除を確認してください。

◆道路走行時にはPAC装備機はPAC／ドラフトコントロールレバーを《解除》位置にしマイコン装備機は傾斜自動，耕深・ドラフト自動を《切》にして走行してください。また，作業機降下速度調節グリップを《固定》にして作業機の落下を防止してください。

◆4駆切替レバーを《Q TURN》の位置にしないでください。ダイヤクイックターンが入っていると車体が急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

◆急激な変速をしないでください。変速は1段ずつ行なってください。

◆発進・旋回，傾斜地，荒地では低速にし，急傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。

◆走行中は，クラッチペダルに足を置いたり主変速レバーに手を置いたままにしないでください。

◆重い作業機を装着すると，ハンドル操作をしても思うように旋回できないことがあります。バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。

◆軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。

◆狭い農道や傾斜地では路肩に寄りすぎないで低速で走行してください。

◆進路変更する時は，方向指示灯スイッチによって進行方向を他の車に知らせてください。

◆バックミラーで後続車を確認し，追越しの妨害にならないようにしてください。

◆夜間走行時，対向車とすれ違うときは，前照灯を下向きにし，対向車の妨害にならないようにしてください。

❶　デフロックが解除されていることを確認します。

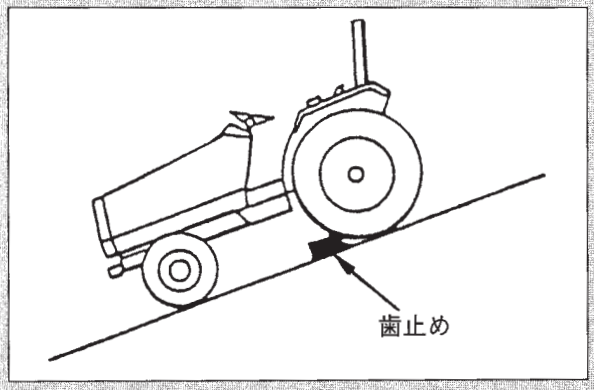
❷　作業機降下速度調節グリップを《**固定**》にして作業機の落下を防止します。

❸　走行スピードはフートアクセルペダルで調整します。

4. 停止のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆駐車する場合は平坦な場所を選んでください。
◆駐車・停車時には駐車ブレーキをかけてください。
◆傾斜地では駐車しないでください。やむをえず駐車する時は，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し変速レバーを低速位置に入れると共に後輪に歯止めをしてください。

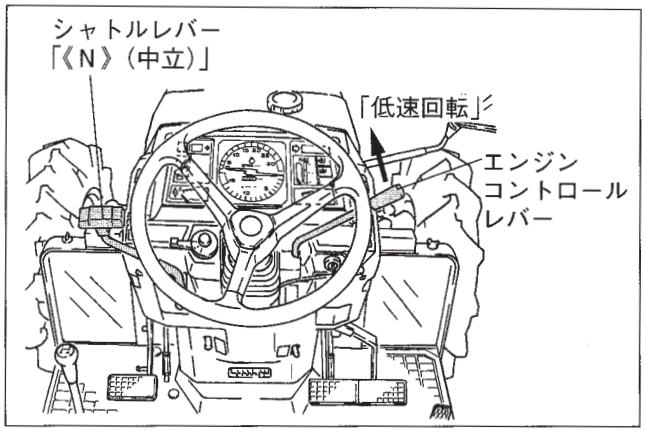


◆パルシフト装備機は変速を入れていてもエンジンを停止するとエンジンブレーキはききませんので必ず駐車ブレーキをかけてください。
◆作業機をおろす時はトラクタ，作業機の周囲に子供等，人を近づけないでください。
◆トラクタを離れる場合は，キーを抜取ってください。

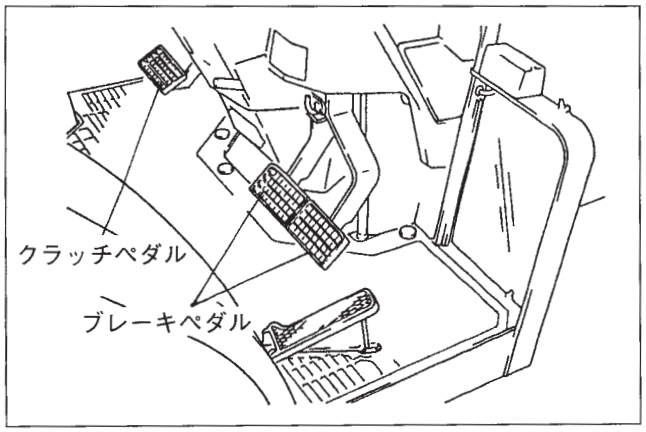
⚠警告 火災防止のために

◆トラクタを停止するときは，乾いた草やワラの近くに止めないでください。マフラ排気口に草やワラが触れると，火災のおそれがあります。
◆停車時，エンジンを空吹かししたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，ワラなどに着火することがあります。

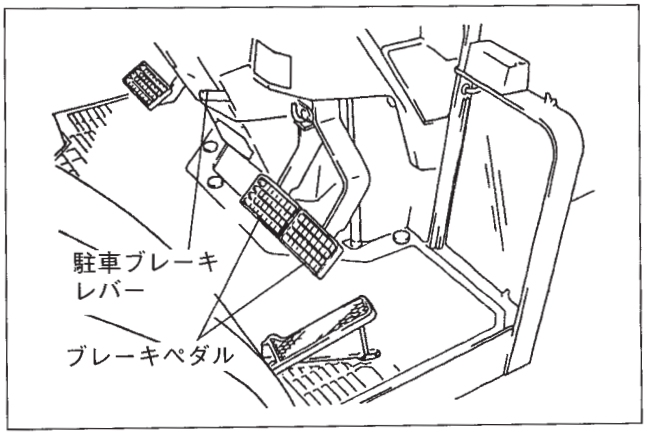
❶ エンジンコントロールレバーを前方に押して，エンジンを低速回転にします。



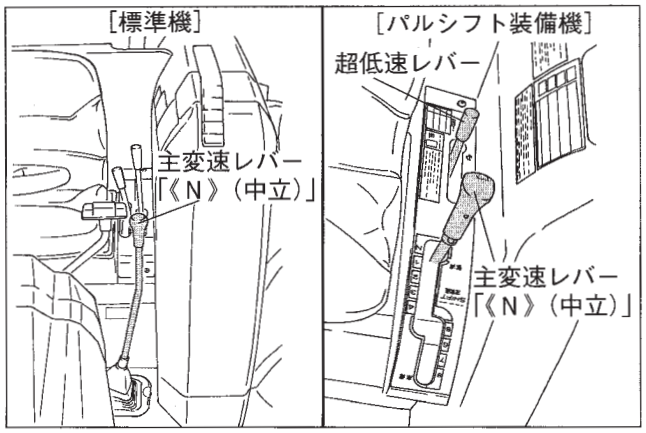
❷ ブレーキペダルとクラッチペダルを踏込んで停止します。

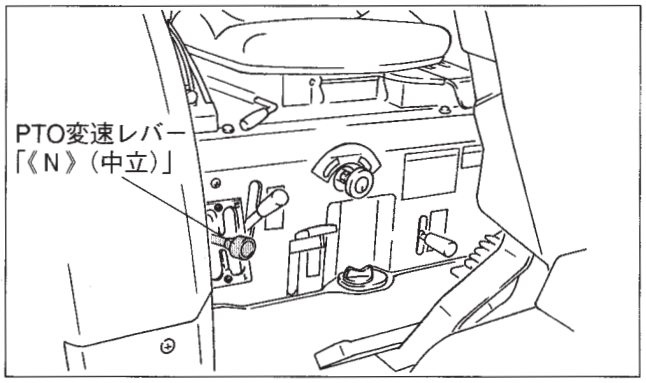


❸ 左右のブレーキペダルが連結してあることを確認し，駐車ブレーキレバーを下方に押さえながらブレーキペダルを踏込み，駐車ブレーキをかけます。ブレーキペダルより足を離します。



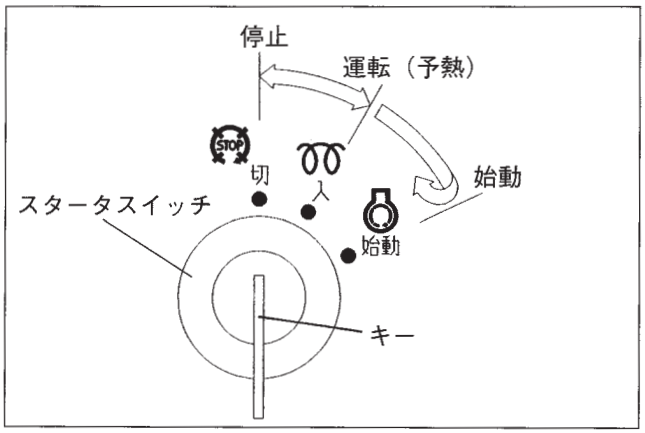
❹ 主変速レバー，シャトルレバーおよびPTO変速レバーを「《N》(中立)」にしてから，クラッチペダルより足を離します。





❺ 作業機降下速度調節グリップを《**速い**》方向に回して作業機をおろします。

❻ キーを《 **切**》にします。



取扱いのポイント

- **作業が終わってもエンジンをすぐ停止させず，アイドリング回転で5分間ほど回転させてください。**
  すぐ停止させますと，エンジンの冷却が悪くなり，寿命を縮めます。

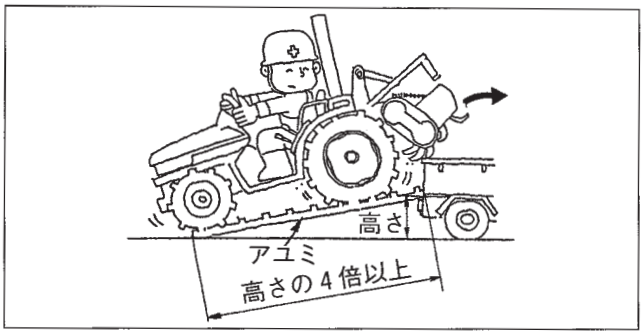
5．自動車への積込み・積降ろし

⚠警告 傷害事故防止のために

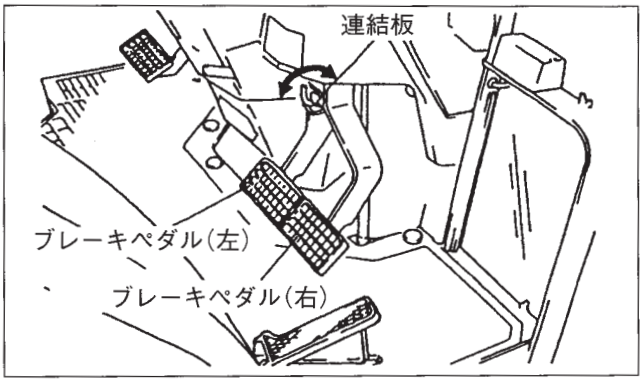
◆補助者の立会い，誘導のもとに行います。
◆トラクタの周囲に子供等，人を近づけないでください。
◆アユミは，強度，幅（前後輪が外れない幅），長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め，フック付きのものを使用してください。
◆トラクタの重量で，アユミが傾いたりしない平坦な場所を選んで行なってください。
◆アユミのフックは，荷台に段差のないように，また，ずれないように荷台に対して真っ直ぐに掛けてください。
◆アユミの上でのクラッチ操作，変速操作をしなくてもいいように，前後輪のタイヤをアユミに，真っ直ぐにのせてください。
◆自動車への積込み，積降ろし中は，変速レバー，クラッチペダル，デフロック，片ブレーキは使用しないでください。急に方向転換したり転落するおそれがあります。
◆積込みは後進，積降ろしは前進で低速で行い，必要以上のハンドル操作はしないでください。
◆ロータリの爪がアユミに引っかからないようにしてください。
◆トラックで輸送する時は駐車ブレーキをかけロープで固定してください。

❶ 積載重量を超えない自動車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用します。自動車はエンジンを停止し変速を「1速」か「バック」に入れて駐車ブレーキをかけ，歯止めをします。

❷ アユミは，強度，幅（前後輪のタイヤが外れない幅），長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め，フック付きのものを使用し，トラクタのタイヤの間隔に合わせ荷台に対し真っ直ぐにかけます。

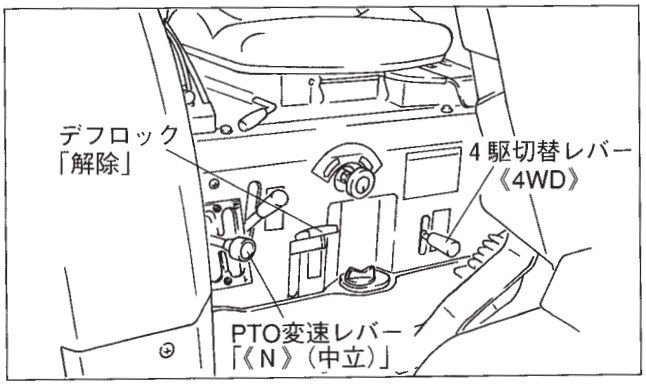


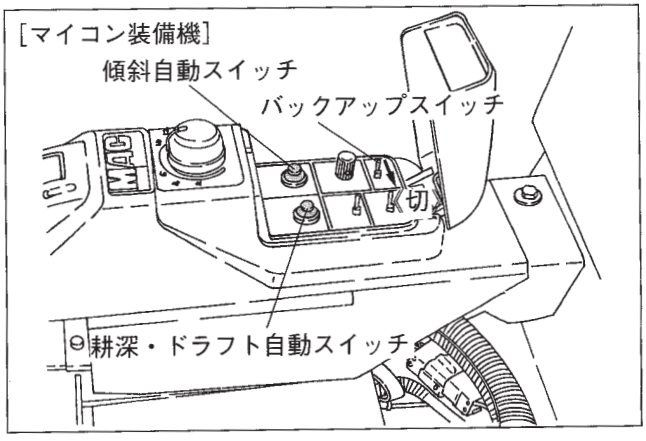
❸ 左右のブレーキペダルを連結します。



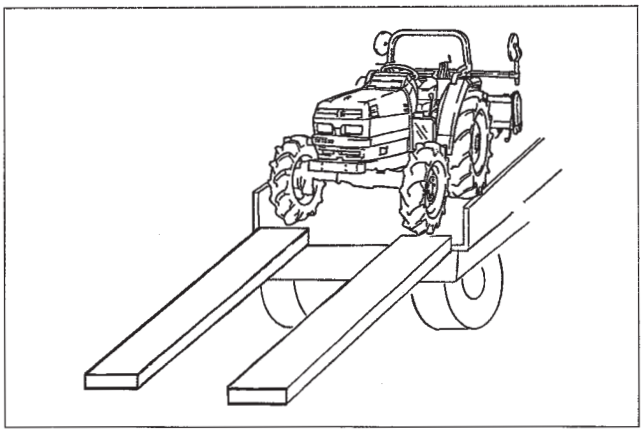
❹ デフロックが解除されていることを確認します。

❺ PTO変速レバーを「《N》(中立)」にして，PAC装備機はPAC/ドラフトコントロールレバーを《解除》の位置に，マイコン装備機は，傾斜自動，耕深自動を《切》にし，バックアップスイッチを《切》にします。

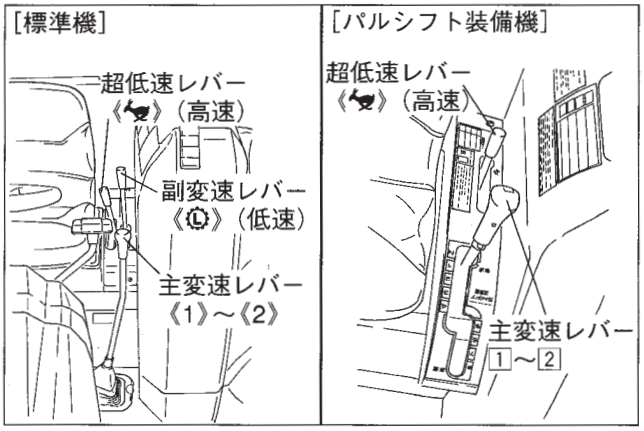




❻ トラクタのタイヤとアユミを一直線上に合わせ，作業機をいっぱいに上げます。



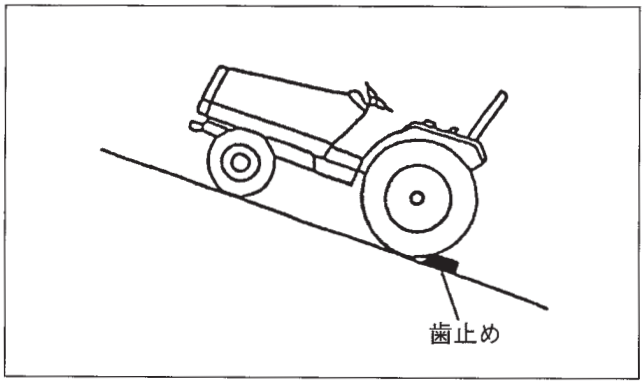
❼ 変速は低速位置（下図に示す以下の速度）で4駆切替レバーを《4WD》にし，積込みは後進，積降ろしは前進で行います。



❽ 途中でエンジンが停止した場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，徐々にブレーキをゆるめ，いったん下まで降りてエンジンを再び始動します。

❾ ハンドル操作は脱輪しないように慎重に行います。

❿ 積込み後は，駐車ブレーキをかけて作業機を降ろし，エンジンを停止し，変速を低速位置に入れロープでトラクタを固定します。



6．坂道での運転のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道を走行するとき，左右のブレーキペダルの連結およびデフロックの解除を確認してください。
◆下り坂では，エンジンブレーキを使用し，クラッチペダルは踏込まないでください。
◆下り坂では主変速，副変速，シャトルレバーを「《N》(中立)」にしたり，クラッチを切ったままで走行しないでください。
◆坂道では変速をしないでください。あらかじめ変速を低速位置にしてから走行してください。高速位置で急発進すると前輪がはね上がったり，トラクタがすべりおちたりして傷害事故を引起こすことがあります。
◆坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは，駐車ブレーキをかけ，変速を登りでは前進側に，下りでは後進側に入れさらに後輪に歯止めをしてください。
◆パルシフト装備機はエンジンを停止するとエンジンブレーキがききませんので，トラクタを離れる時は，駐車ブレーキをかけてください。

❶ 坂道では，速度を落として走行します。

❷ 坂の途中ではクラッチペダルを踏まないようにします。

❸ 変速は坂を登りきってから，適切な変速位置に入れます。

❹ 上り坂で発進する場合は，変速を低速位置に入れ，エンジン回転を落としてゆっくりと発進します。

❺ 急な下り坂ではエンジンブレーキを使用します。変速を低速位置にするとエンジンブレーキがよくききます。

作業のしかた

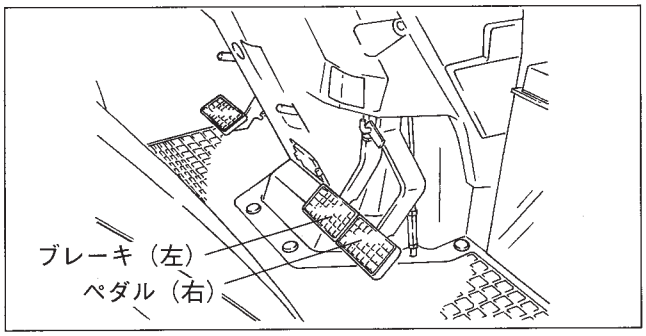
1．ほ場作業のしかた

1．ほ場への出入りのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

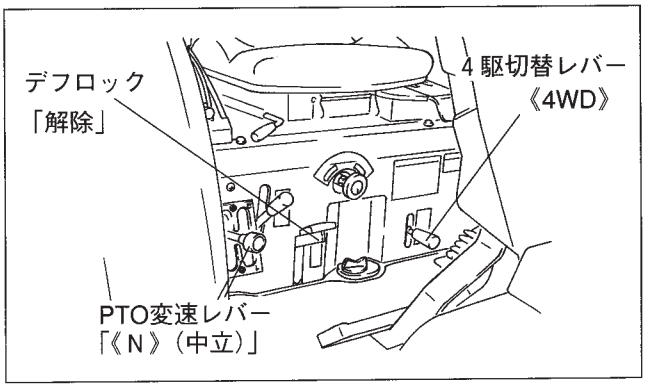
◆ほ場への出入りや，あぜ越えは左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認してください。
◆ほ場への出入りや，あぜ越えはＰＴＯ変速レバーを中立にしてください。
◆ほ場への出入りや，あぜ越えは低速で，あぜに直角に行なってください。
◆高あぜ，急傾斜，溝越えは，アユミを使用してください。
◆アユミの上では必要以上のハンドル操作や変速はしないでください。
◆あぜがくずれないようにゆっくり行なってください。

❶ 左右のブレーキペダルを連結します。

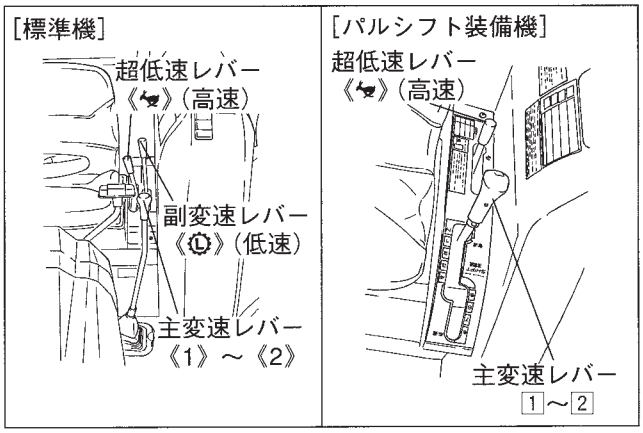


❷ デフロックが解除されていることを確認します。

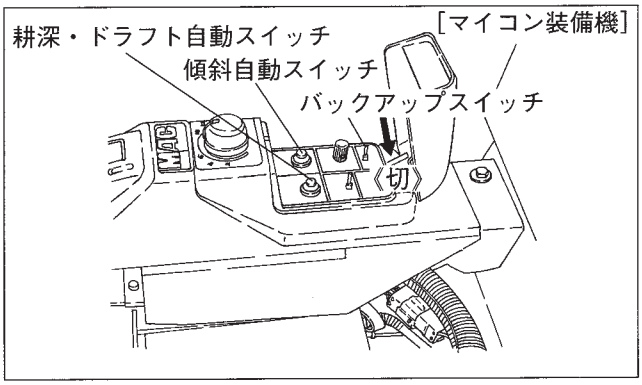
❸ ４駆切替レバーを《４WD》位置にします。



❹ 変速は低速位置（下図に示す以下の速度）にします。



❺ PTO変速レバーを「《N》（中立）」にします。PAC装備機はPAC/ドラフトコントロールレバーを《解除》にし，マイコン装備機は傾斜自動，耕深・ドラフト自動を《切》にして，バックアップスイッチを《切》にします。



❻ ゆるい傾斜を前進で登る時は，登り始めは，作業機を下げて行うと前輪が浮き上がりません。トラクタの後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。

常に前・後輪のバランスを考えながら，操作します。

❼ ４輪駆動の特色を生かして，後進で上がると上がる能力が増します。その時は，作業機をいっぱい上げて行います。

❽ ほ場への出入りの際は，途中で変速しないようにします。

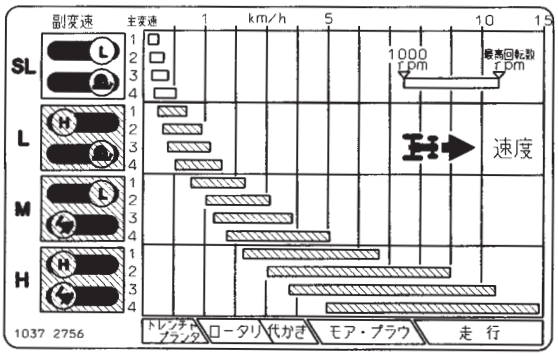
2. 作業に適した速度の選びかた

トラクタの走行速度及びPTO回転速度は，作業内容，ほ場の条件によって異なります。安全で最適な速度で運転します。

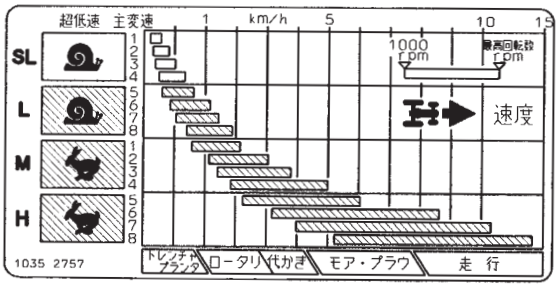
❶ 走行速度

[337型]

「標準機」

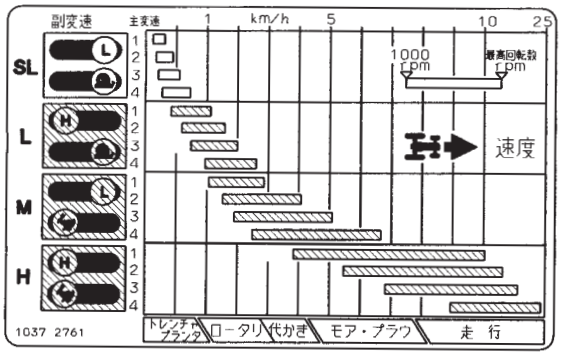


［パルシフト装備機］

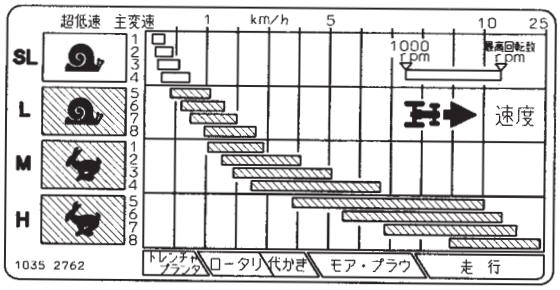


[367型]

「標準機」

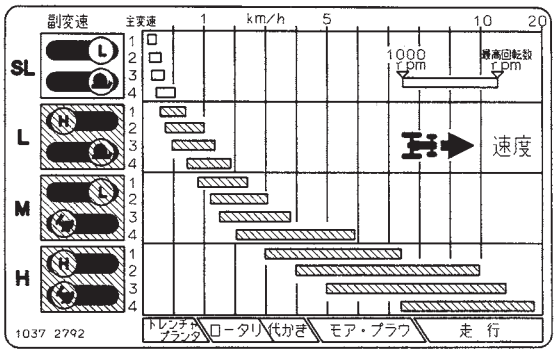


［パルシフト装備機］

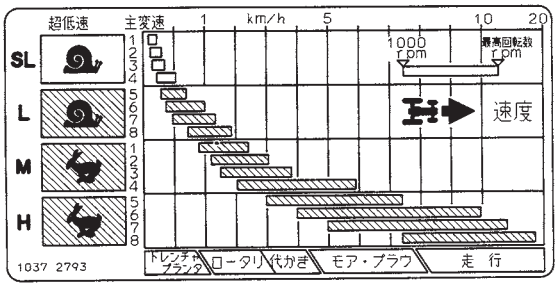


［367型］

「標準機超低速仕様］



［パルシフト装備機超低速仕様］



❷ PTO回転速度（エンジン定格回転時）

PTO		作業内容	回転数／分		
			337型	367型	
				標準仕様 超低速仕様(東北向け)	高速PTO仕様 (九州.西日本向け)
正転	1速	ロータリ耕うん・うね立	598	589	589
	2速	ロータリ耕うん・うね立代かき・砕土	815	787	787
	3速	代かき・砕土	1081	1054	1478
	4速	代かき・砕土	1416	−	−
逆転	1速	逆転耕うん	573	564	564
	2速	土寄せ	780	753	753
	3速	砕土	1024	1008	1414
	4速		1342	−	−

取扱いのポイント

- 逆転は純正ロータリで使用できます。ロータリの取扱説明書をお読みください。
- 純正ロータリ以外で逆転させる場合は「お買いあげ先」にご相談ください。
- 一般作業機のPTO回転速度は，作業機の取扱説明書に従ってください。

3．デフロックの使いかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車への積込み・積降ろし及び道路走行する時は，デフロックを使用しないでください。またデフロックが解除されていることを確認してください。デフロックを使用すると，ハンドルを切っても直進しかできなくなり思うように旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとすると，思わぬ事故になることがあります。

片側の車輪がスリップし前後進しない場合はデフロックペダルを踏込みます。デフロックペダルを踏込むと，差動装置がロックされ，左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。

次のような場合に効果がでます。

・軟らかいほ場

・プラウ作業



ペダルから足を離すとデフロックが自動的に解除されます。

湿田地やぬかるみからの脱出など，片車輪がスリップして走行がしにくい時に使用すると効果があります。

上手に使用すると効果がありますが，使い方を誤ると事故や故障の原因となります。

取扱いのポイント

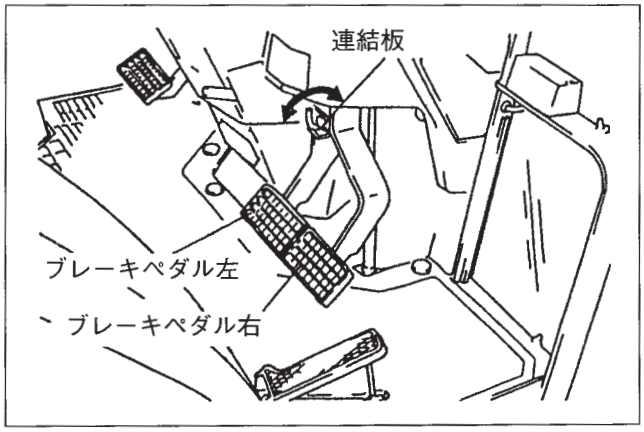
- デフロックを《入》にする時は，エンジン回転を下げてから行なってください。
- 両輪の回転差が大きい場合は，一度クラッチペダルを踏込んでから行なってください。
- 解除しにくい時は，クラッチを切るか，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏込んでください。
- 超低速でのデフロックは使用しないでください。

4．ほ場での旋回のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆急傾斜地では作業をしないでください。急傾斜地で旋回すると，転倒による傷害事故を起こすことがあります。

❶ ほ場では，ブレーキペダルの連結板を外し，左右独立して使用すれば小さく旋回できます。その時は旋回する側のブレーキを踏込みます。



❷ 作業速度やほ場の傾斜の度合を考慮し，周囲を確認して作業をします。

2．作業に必要な装置の使いかた

1．トレッドの調節のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は，輪距を広くして使用してください。
怠ると転倒による傷害事故を起こすことがあります。

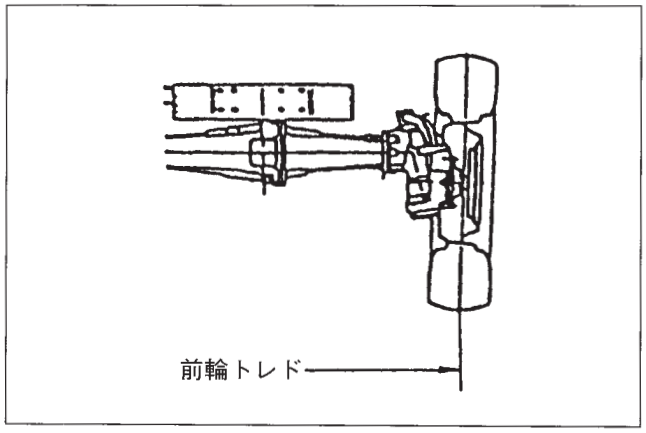
◆公道は指定輪距（シートの下のカバーに道路走行上の注意として指定輪距を貼付しています）で走行してください。



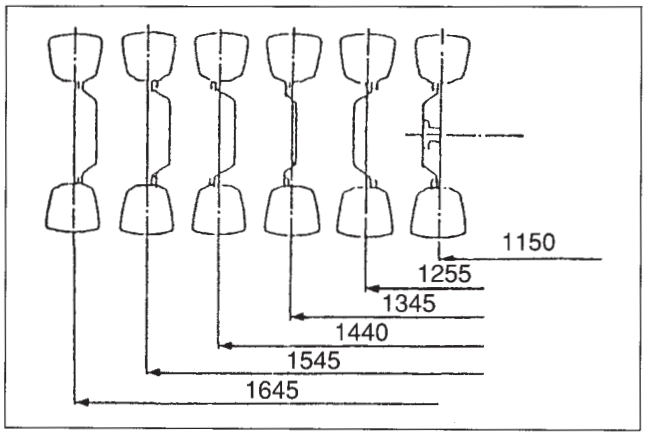
後輪トレッドは左右タイヤの入替え，またはリムとディスクの組替えにより行います。但し，前輪のトレッド調節はできません。公道を走行するときは，指定輪距（※印）にします。

型式		タイヤサイズ 前輪	タイヤサイズ 後輪	駆動方式	調節段数 前輪	調節段数 後輪	前輪トレッド（mm）	後輪トレッド（mm） 最小（※指定輪距）	後輪トレッド（mm） 最大
337型 367型	後輪 ハイラグ	8－18	12.4－28－4PR	4駆	1	6	1220	1150	1645
	後輪 並ラグ	8－18	12.4/11－28－4PR	4駆	1	6	1220	1150	1645

・前輪　337型，367型



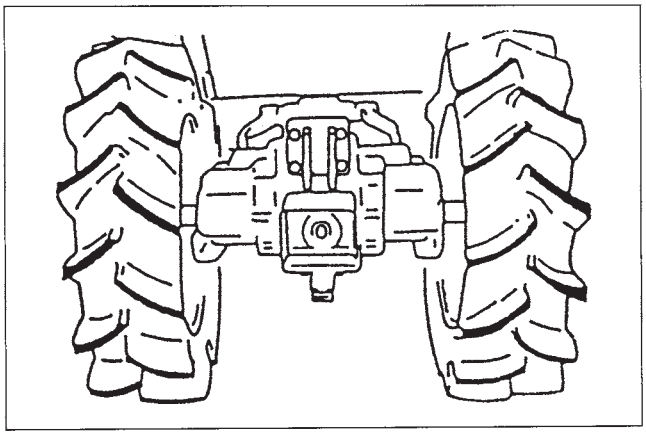
・後輪　337型，367型



☆左右対称に組替えてください。

取扱いのポイント

- トレッド調節する時はタイヤラグの方向を間違えぬようにしてください。
  （後方より見て「ハ」の字になるように）



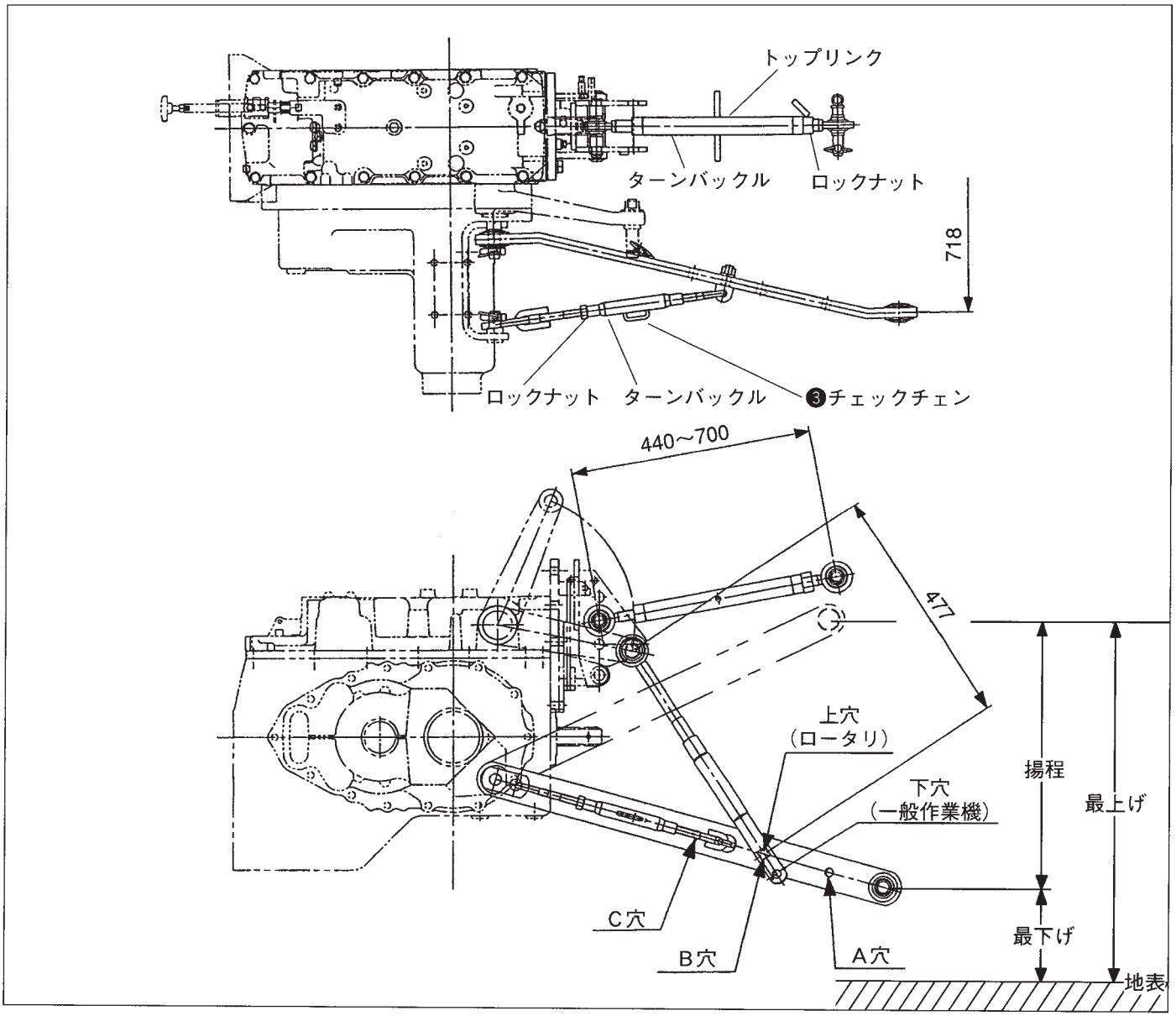
- トレッド調節後は適正な工具を使用して確実にボルト・ナットを締付けてください。
- タイヤホイル締付トルク
  ［ボルト］
  前輪……15.5～17.5kgf・m
  後輪……15.5～17.5kgf・m
  ［ナット］
  後輪……9.0～11.0kgf・m
- リムとディスクの締付トルク
  後輪……9.0～11.0kgf・m

2. 3点リンクの取付け寸法の設定のしかた

3点リンクに作業機を取付ける時は作業機に応じて最も適した位置に取付けます。作業機ごとに寸法を指定しておりますので「**作業機の取扱説明書**」を参照してください。

❶ リフトロッド，トップリンクの長さの調整範囲は次の通りです。

・リフトロッド右（標準機）およびトップリンクの調整は，ロックナットをゆるめ，ターンバックルを回して調整します。調整後ロックナットで固定します。



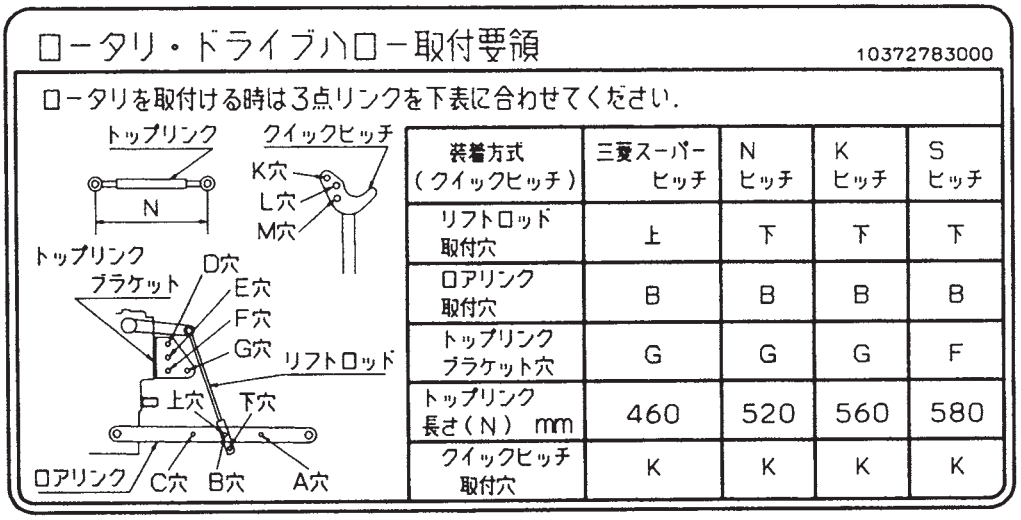
❷ ロワリンク後方目玉の地上高

（単位mm）

型　　式	337型・367型					
ロワリンク穴位置	A穴		B穴		C穴	
リフトロッド穴位置	上穴	下穴	上穴	下穴	上穴	下穴
最下げ	使用不可	368	250	153	48	使用不可
最上げ		857	831	759	759	
揚程		489	581	606	711	

❸ 3点リンクの取付け

3点リンクの取付けは作業機によって異なりますので，下表及び作業機の取扱説明書により取付けを行なってください。



装着方式（クイックヒッチ）	三夏スーパーヒッチ	Nヒッチ	Kヒッチ	Sヒッチ
リフトロッド取付穴	上	下	下	下
ロアリンク取付穴	B	B	B	B
トップリンクブラケット穴	G	G	G	F
トップリンク長さ（N） mm	460	520	560	580
クイックヒッチ取付穴	K	K	K	K

❹ チェックチェン

作業機の横振れをナットをゆるめターンバックルで次のように調整します。調整後は確実にナットをロックします。

(1) プラウ，ハロー，サブソイラ等の作業機は，作業機取付部が左右に5～6㎝動く程度に調整します。調整後，作業機が横振れしてタイヤに当たらないことを確認します。

(2) ロータリ，モア等の作業機は，作業機取付部が1㎝程度左右に振れる程度に調整します。

取扱いのポイント

- **作業機の横振れはポジションコントロールレバーで作業機を上げた時と下げた時に異なる場合がありますので作業機を上げ下げして振れを確認し，振れの最小値を上記調整寸法に合わせます。**

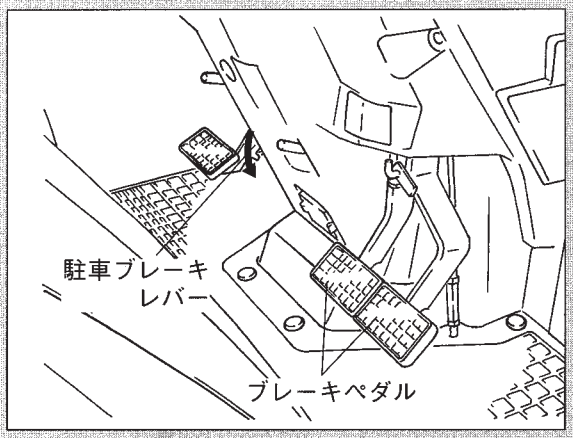
3．作業機の取扱い

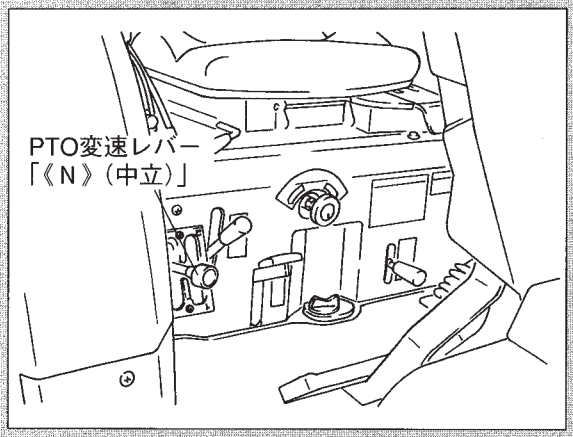
下記の事項を守って作業機の取扱いを行います。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆作業機の着脱は，平坦な場所で，作業機の取扱説明書に従って行なってください。

◆作業機を着脱調整する時は，トラクタの駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，PTO変速レバーを「《N》(中立)」にして行なってください。





◆トラクタを移動して作業機を装着する場合は，トラクタと作業機の間に人が入らないでください。

◆重い作業機を連結または装着した場合は，トラクタにバランスウエイトを付けて，バランスを保ってください。

◆低速回転用作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定のＰＴＯ回転速度を守ってください。

◆けん引作業，傾斜地での作業などの場合は，輪距を広くして使用してください。

◆作業機を装着すると，長さが長くなりますので，旋回時は周囲を確認して行なってください。

◆公道を走行する時は，作業機を取外し別の自動車で運搬してください。
作業機を装着して走行すると道路運送車輌法の違反になります。

マイコン装備機の取扱い

1．マイコンの取扱い

1．マイコンの機能

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ほ場作業以外では，傾斜，耕深およびドラフト自動を《切》にしてください。

マイコン装備機は，高性能マイクロコンピュータ（略：マイコン）が搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

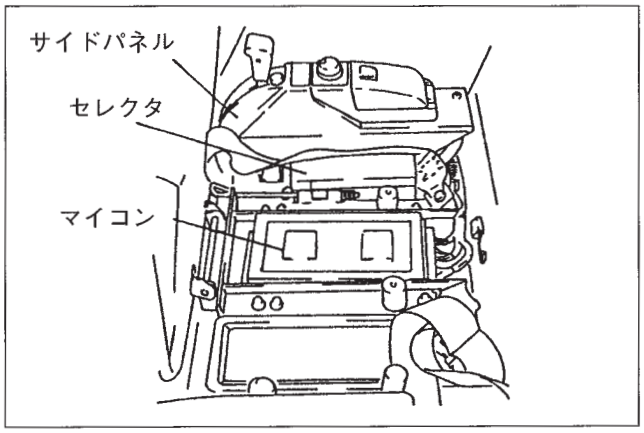
マイコンによる制御機能

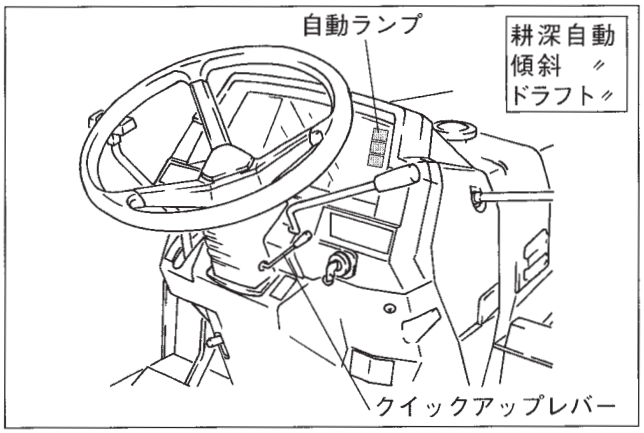
［MAC仕様］

- **ポジションコントロール**
  - ・バックアップ機能
  - ・クイックアップ機能
  - ・上げ規制機能
- **耕深自動**
  - ・ダッシング防止機能
- **傾斜自動**
  - ・平行復帰機能
- **ドラフト自動**
- **安全装置**
  - ・エンジン始動時の安全機能
- **その他**
  - ・作業機切替え機能

2．マイコンの概要

・操作部――サイドパネル
　　――セレクタ
　　――クイックアップレバー
・コントロール部―マイコン
・表示部――――自動ランプ

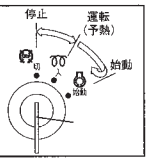




3. マイコン操作要領

❶ 基本操作

エンジンを始動します

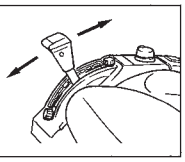


ブザーが鳴っていますか

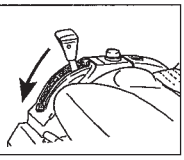
いいえ

はい

断続音の早くなる方向へポジションコントロールレバーを動かします



ポジションコントロールレバーを一度最上げにしてから最下げにします



クイックアップレバーを軽く操作します



各自動制御❷❸❹へ…

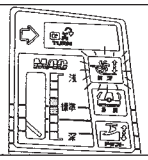
❷ 耕深自動

耕深自動を使用しますか

いいえ

はい

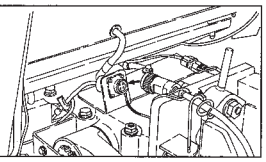
耕深自動ランプが点灯していますか



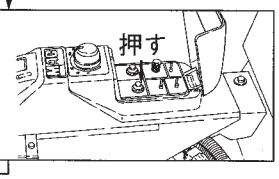
いいえ

はい

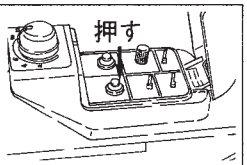
耕深カプラを差し込みます



耕深自動スイッチを押します

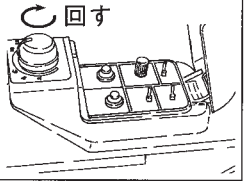


・耕深自動スイッチを押します



又は

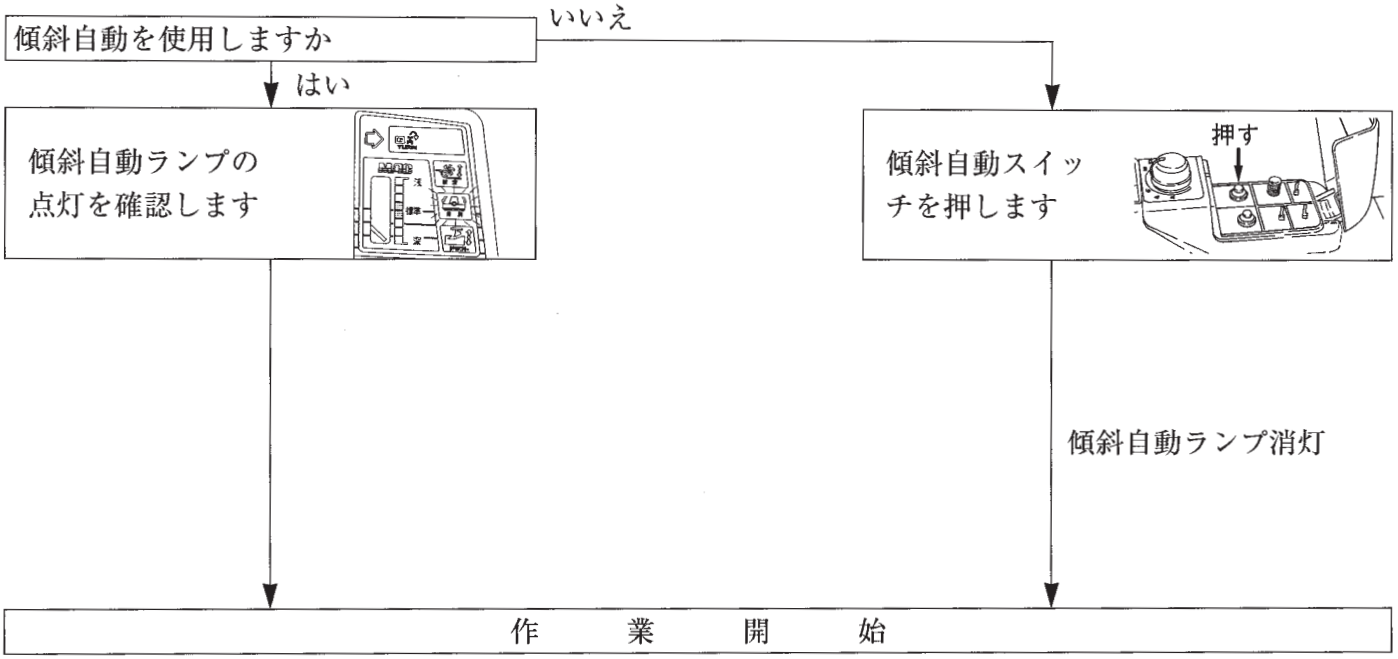
・耕深設定ボリュームを《**うね立て**》に回します



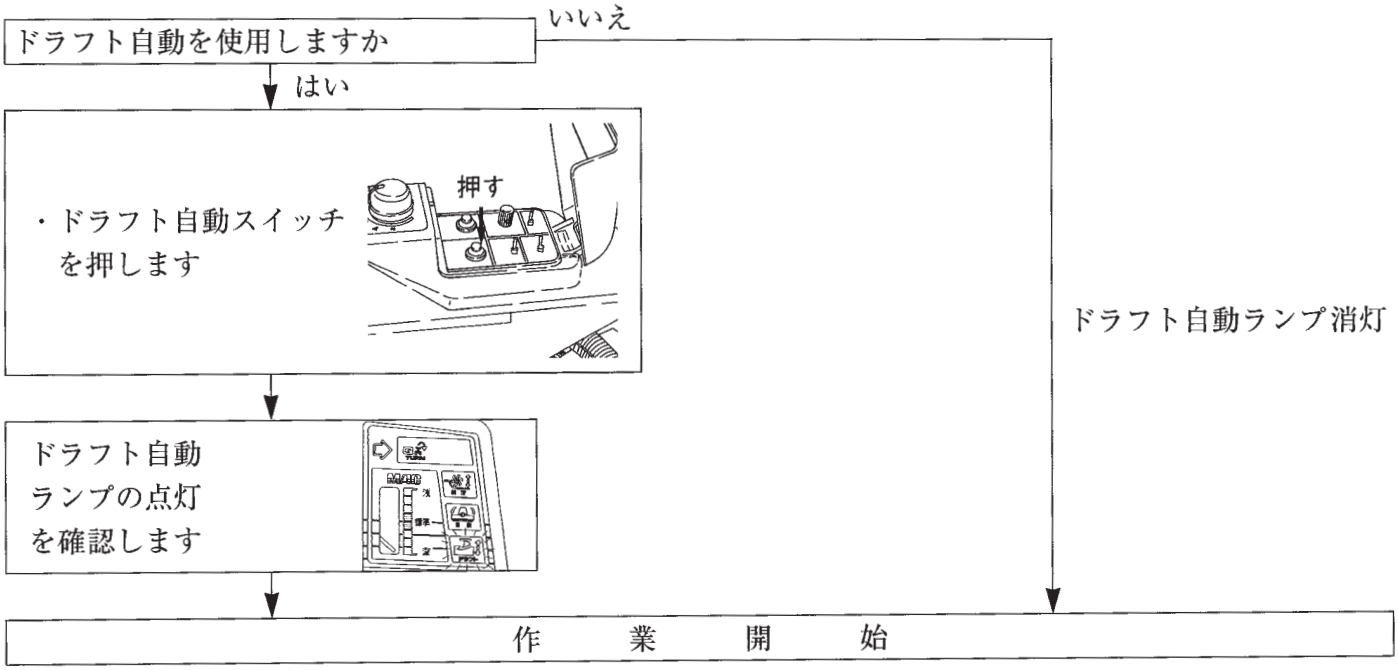
耕深自動ランプ消灯

作　業　開　始

❸ 傾斜自動

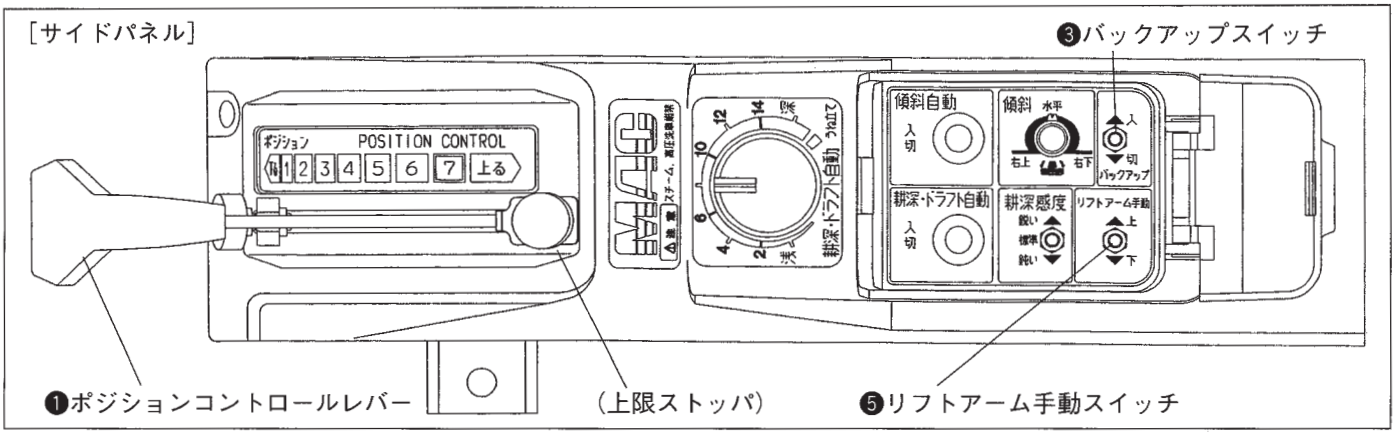


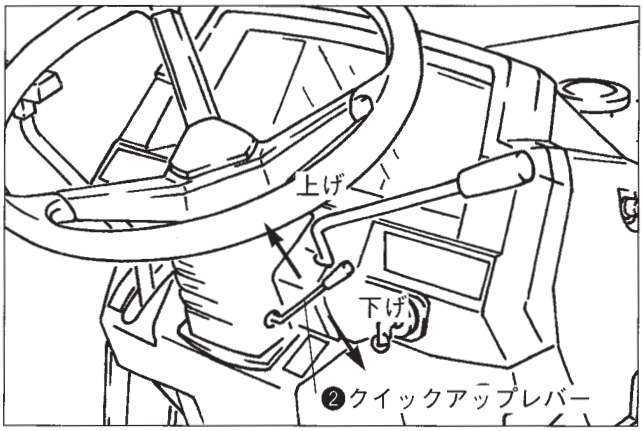
❹ ドラフト自動

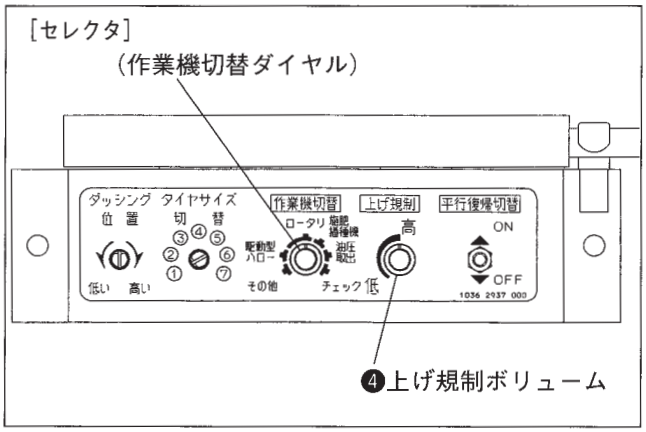


2．ポジションコントロールレバーの取扱い

1．操作部名称







2．取扱い方法

❶ ポジションコントロールレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ポジションコントロールレバーを操作する時は，上げ規制ボリューム又はポジションコントロールレバーの上限ストッパで作業機の上げ高さを規制してください。
規制しないと作業機の種類によって上げた時にトラクタや［キャビン装備機］のリヤウインドウを破損し，傷害事故になることがあります。

ポジションコントロールレバーの操作によって作業機の位置が自由に決められます。

❷ クイックアップレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場以外や果樹園，ハウス内などでクイックアップレバーを使用しないでください。またバックアップスイッチは《切》にしてください。作業機が支柱や樹木に接触して思わぬ事故の原因になったり，作業機に人をひっかけて傷害事故を引起こす恐れがあります。

◆上げ規制ボリュームで作業機の上げ高さを規制してください。
規制しないと作業機の種類によって上げた時にトラクタや［キャビン装備機］のリヤウインドウを破損し，傷害事故になることがあります。

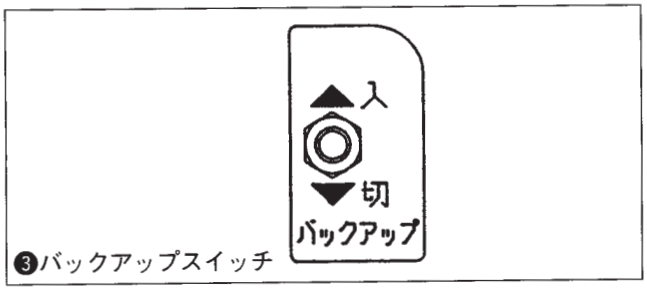
クイックアップレバーを上げ方向に操作すると作業機が上昇し，下げ方向に操作すると作業機が下降します。尚操作時には“ピッ”とブザー音がします。

取扱いのポイント

- **クイックアップレバーの操作は上げ，下げ方向に軽く行なってください。**
- **クイックアップレバーで作業機を下げる場合，ポジションコントロールレバーの位置で下げ位置を規制することができます。**

❸ バックアップスイッチ

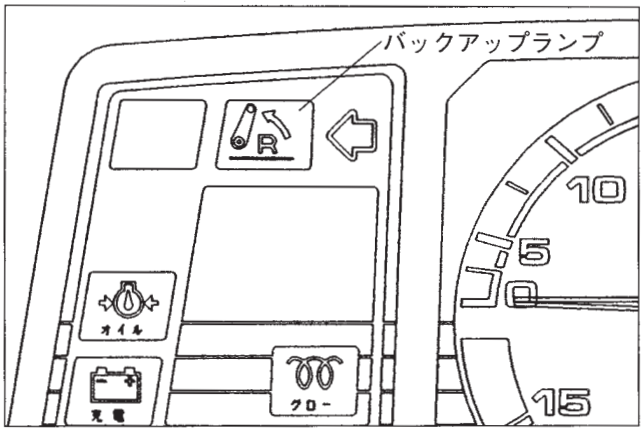
バックアップ機能の作動，解除はバックアップスイッチを《**入**》⟷《**切**》することにより，行うことができます。



❸バックアップスイッチ

・バックアップ機能

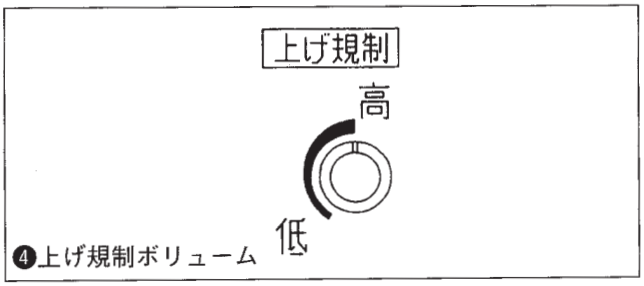
(1) バックアップスイッチが《**入**》の時，シャトルレバーを「**後進**」に入れると，メータパネル内のバックアップランプが点滅し，作業機が自動的に上昇します。



(2) 作業機を下げるときは，クイックアップレバーを軽く下げ方向に操作します。バックアップランプが消え，作業機が下がります。
ポジションコントロールレバーで下げる場合は，レバーを一度最上げにし，その後レバーを下げることにより，作業機が下がります。

❹ 上げ規制ボリューム

上げ規制ボリュームで作業機の上げ位置を規制することができます。



❹上げ規制ボリューム

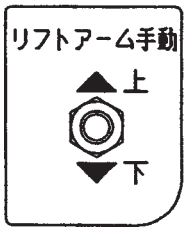
❺ リフトアーム手動スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆リフトアーム手動スイッチは，非常時のスイッチであり通常作業中は使用しないでください。

◆非常時に作業機を上昇させる場合，作業機の種類によって，トラクタや［キャビン装備機］のリヤウインドウを破損し，傷害事故になる恐れがありますので確認しながら操作してください。

ポジションコントロールレバーで操作できなくなったときはリフトアーム手動スイッチにより，作業機を動かし安全な所まで移動した後，ただちに点検を受けます。



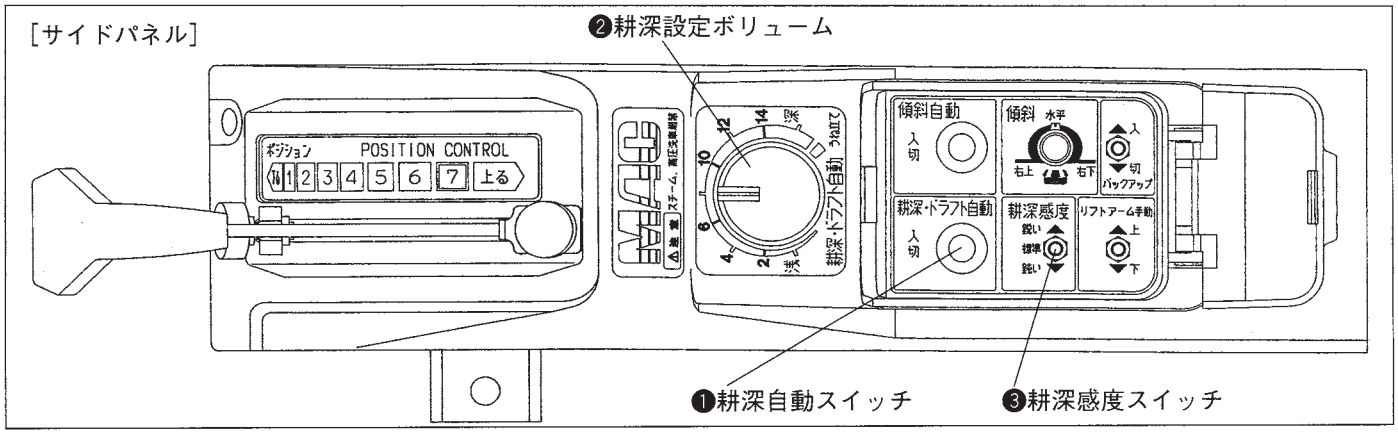
❺リフトアーム手動スイッチ

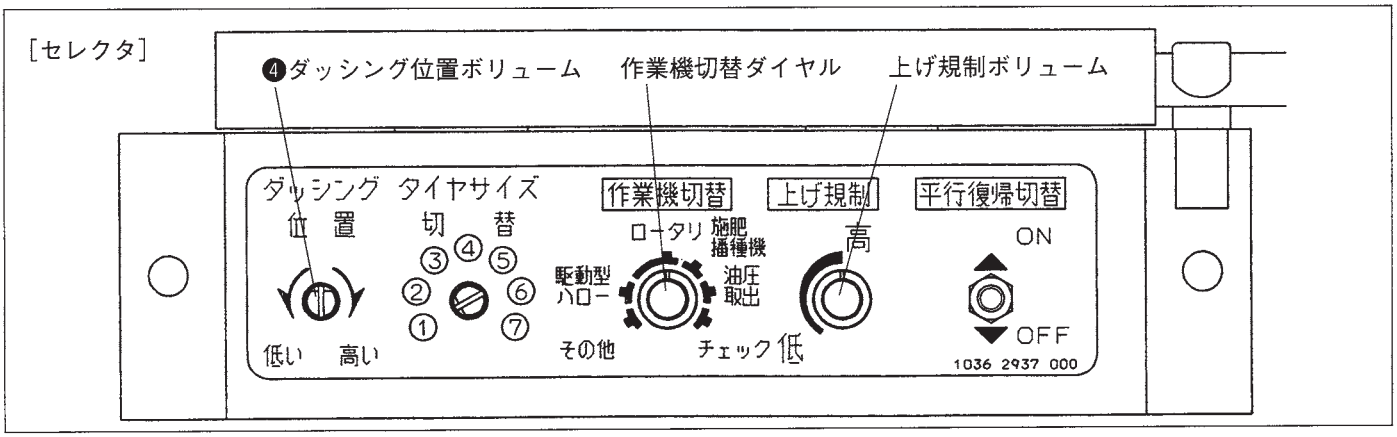
取扱いのポイント

- **通常作業中に使用すると自動制御が作動しなくなります。**

3．耕深自動の取扱い

1．操作部名称





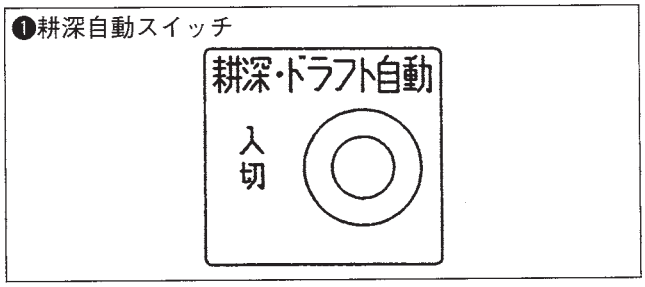
2．取扱い方法

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ほ場以外では，耕深自動が《切》（耕深自動ランプ消灯）になるようにスイッチを押してください。守らないと作業機が自動的に作動し傷害事故になることがあります。

❶ 耕深自動スイッチ

キーを《 ⚷ 入》にすると耕深自動が《入》になります。《切》にしたい時は，エンジン始動後スイッチを押します。（スイッチを押すたびに《入》⟷《切》を繰返します。）



取扱いのポイント

- 耕深自動は，作業機切替ダイヤルが《油圧取出》または《チェック》の位置では作動しません。

❷ 耕深設定ボリューム

ロータリの耕深量の調整は耕深設定ボリュームによって行います。

・《**12**》～《**14**》位置……120～140㎜の耕深を維持します。

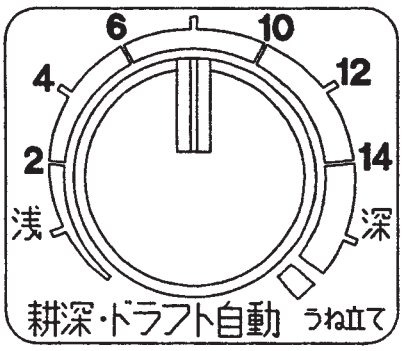
（回動カバー《**標準**》位置での一般的なほ場）

・《**浅**》へ回す……耕深が浅くなります。

・《**深**》へ回す……耕深が深くなります。

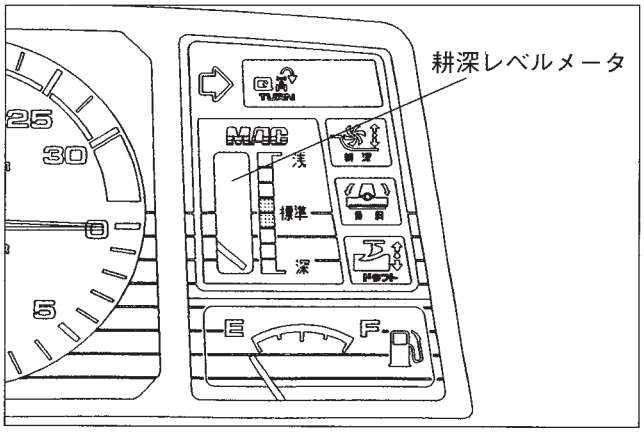
・《**うね立て**》……うね立て作業等，耕深自動を使用しないときはこの位置にセットします。
耕深自動ランプが消灯し，耕深自動が《**切**》になります。

❷耕深設定ボリューム



取扱いのポイント

●ロータリの耕深量は耕深レベルメータで確認できます。



❸ 耕深感度スイッチ

耕深自動（リフトアームの動作）の感度を作業に応じて切替えることができます。

・《**鋭い**》……しろかき作業などに適します。

・《**標準**》……通常の作業に適します。

・《**鈍い**》……浅耕・除草などの作業に適します。

仕上りを確認しながら，ほ場条件によって切替えます。

❸耕深感度スイッチ



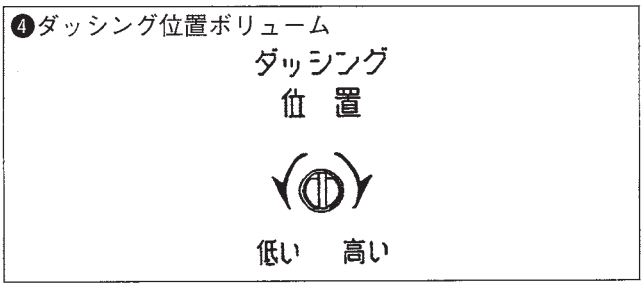
❹ ダッシング位置ボリューム

ダッシング防止機能の効き始め位置を変えることができます。

・《低い》……ダッシング防止効き始め位置を低くする。(左いっぱいに回すと，ダッシング防止は動作しません。)

・《高い》……ダッシング防止効き始め位置を高くする。

《低い》⟷《高い》の間でダッシング効き始め位置を約250㎜変えることができます。



・ダッシング防止機能

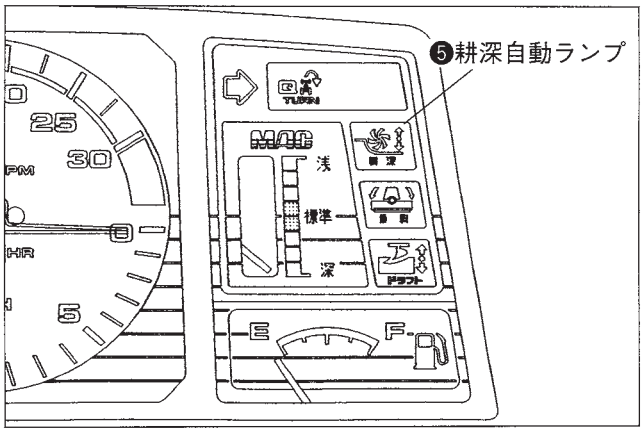
耕深自動《入》のとき，ロータリが地面に接触する付近で降下速度を遅くし，ロータリ耕うん爪でのかけだしまたはエンストを防止する機能です。

取扱いのポイント

●ダッシングするようなほ場は4駆切替レバーを《4WD》または《Q TURN》位置にして作業をしてください。

❺ 耕深自動ランプ

耕深自動《入》で点灯し，耕深自動状態を示します。



❻ 耕深カプラ

耕深カプラの接続状態によりつぎのようになります。

・キー《 入》時に接続してある

……耕深自動《入》

・キー《 入》時に接続してない

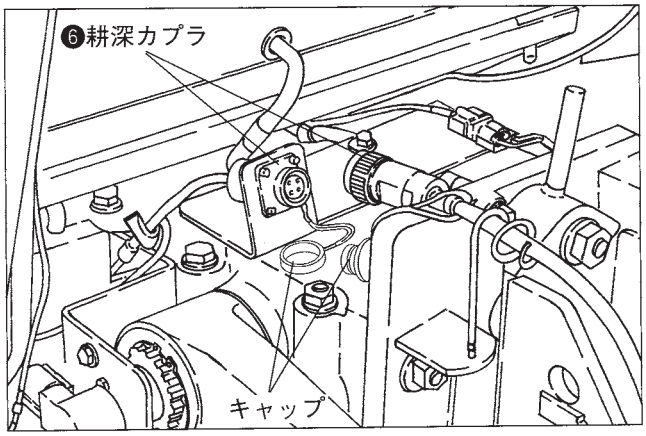
……耕深自動《切》(ドラフト自動に切替えができます。)

・エンジン始動後に耕深カプラが外れた場合

……耕深ランプ点滅

・エンジン始動後に耕深カプラを接続した場合

……耕深自動スイッチを押すと耕深自動《入》になります。

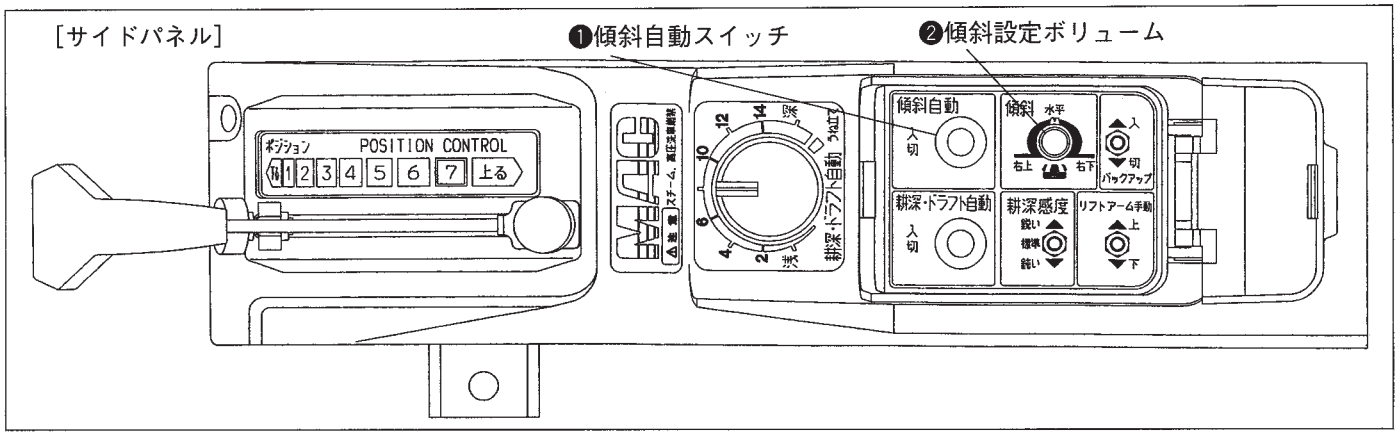


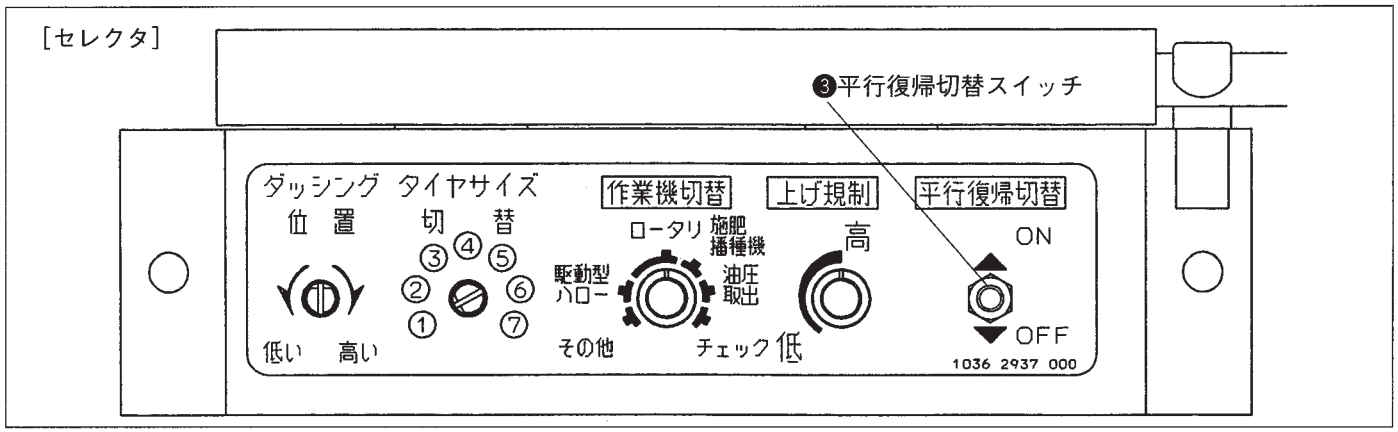
取扱いのポイント

●耕深カプラを外した時はキャップを被せてください。

4．傾斜自動の取扱い

1．操作部名称

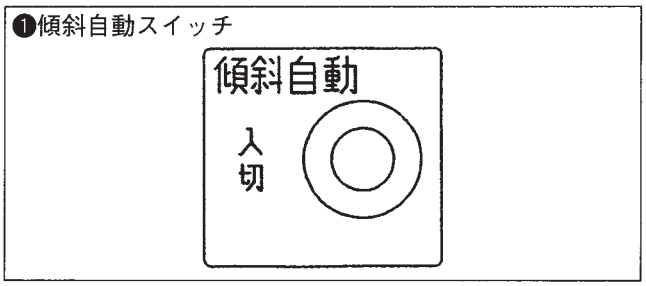




2．取扱い方法

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ほ場以外では傾斜自動が《切》（傾斜自動ランプ消灯）になるようにスイッチを押してください。守らないと，作業機が自動的に作動し傷害事故になることがあります。



❶　傾斜自動スイッチ

キーを《 ⟳ 入》にすると傾斜自動が《**入**》になります。《**切**》にしたいときは，エンジン始動後にスイッチを押します。（スイッチを押すたびに《**入**》⟷《**切**》を繰返します。）

❷ 傾斜設定ボリューム

(1) 傾斜自動《**入**》の場合

傾斜設定ボリュームによって作業機の傾きを調整します。

・《**水平**》……作業機は常に水平となるよう自動的にコントロールされます。
・《**右上**》……常に右上がりで保たれます。
・《**右下**》……常に右下がりで保たれます。

❷傾斜設定ボリューム



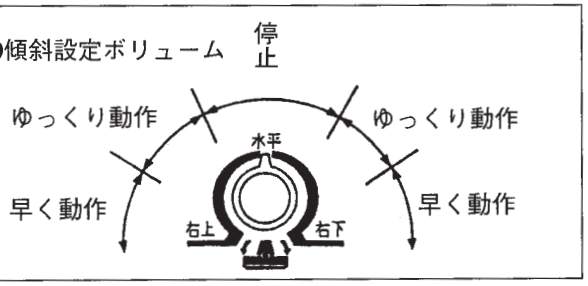
(2) 傾斜自動《**切**》の場合

リフトロッドシリンダの長さを変えたい時は，傾斜設定ボリュームの操作でシリンダを動作させてください。

・《**水平**》……リフトロッドシリンダは停止します。
・《**右上**》……リフトロッドシリンダは縮みます。
・《**右下**》……リフトロッドシリンダは伸びます。

動作させたい位置までシリンダが動いたら傾斜設定ボリュームを《**水平**》にして停止させます。

❷傾斜設定ボリューム



取扱いのポイント

●作業機着脱時の右リフトロッドシリンダの長さ調整は傾斜自動を《入》にし，傾斜設定ボリュームの操作により行なってください。

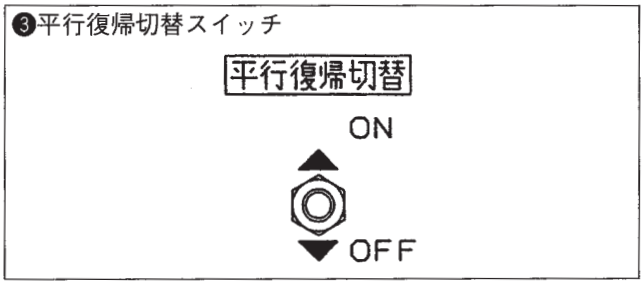
❸ 平行復帰切替スイッチ

作業機を「**最上げ**」にすると自動的に本機と平行になる機能があります。(平行復帰機能)

(1) 傾斜自動が《**入**》(**傾斜自動ランプ点灯**)のときは平行復帰切替スイッチに関係なく作業機を「**最上げ**」にすると，自動的に本機と平行になります。

(2) 傾斜自動が《**切**》(**傾斜自動ランプ消灯**)のときは，平行復帰切替スイッチの《**ON**》(**入**)，《**OFF**》(**切**) 操作により平行復帰機能を「**入**」⟷「**切**」できます。

❸平行復帰切替スイッチ

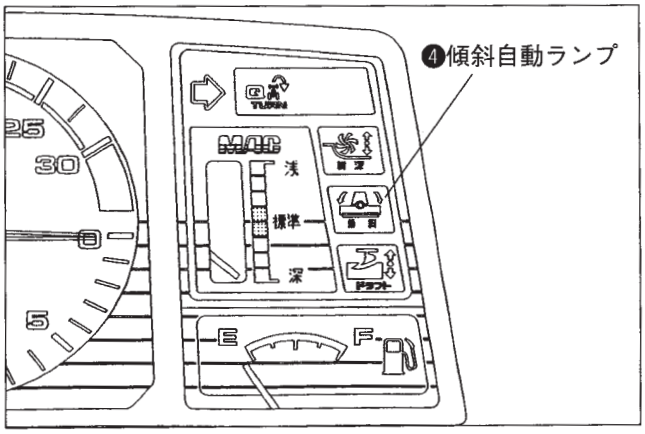


取扱いのポイント

●上げ規制ボリュームが低い位置に設定させていると作業機を上げた時に平行復帰機能が働きません。

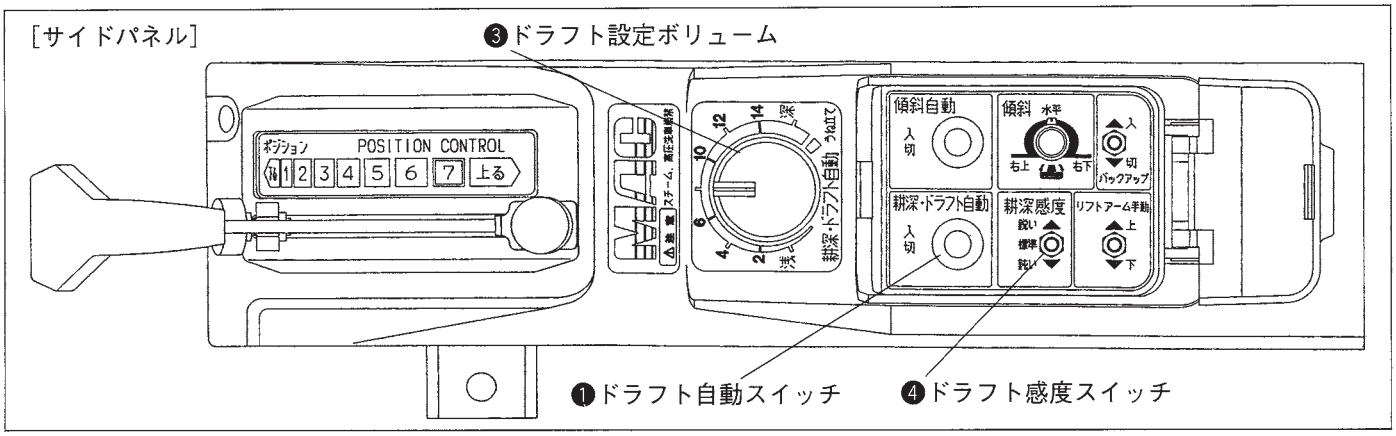
❹ 傾斜自動ランプ

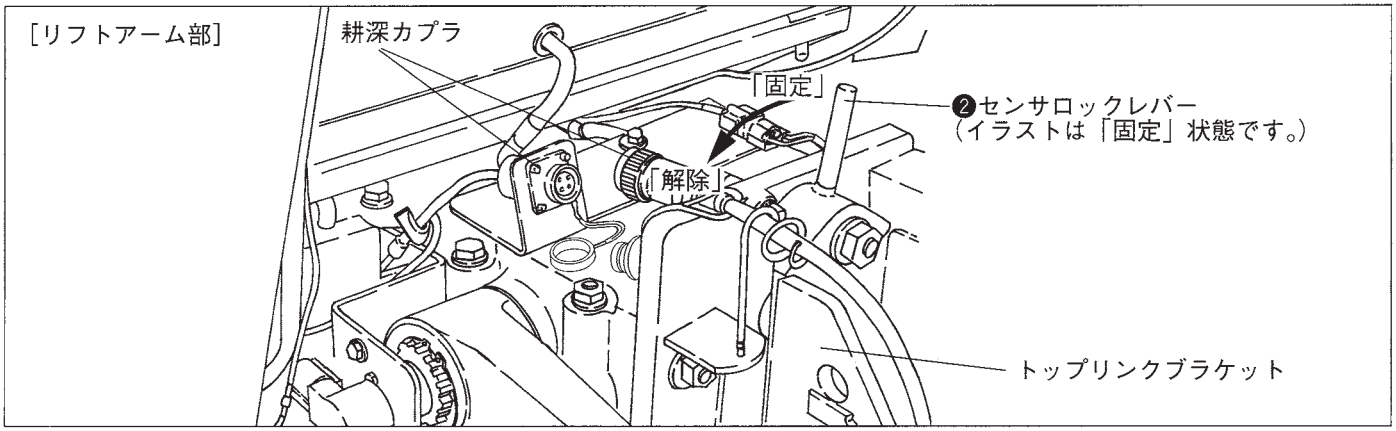
傾斜自動《**入**》で点灯し，傾斜自動状態を示します。



5．ドラフト自動の取扱い

1．操作部名称





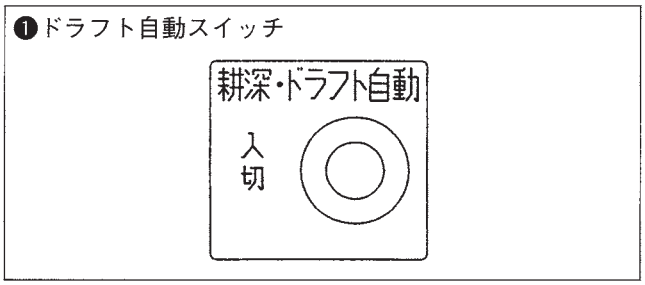
2．取扱い方法

⚠警告　傷害事故防止のために

◆ほ場以外では，ドラフト自動を《切》（ドラフト自動ランプを消灯）にしセンサロックレバーでトップリンクブラケットを固定してください。守らないと作業機が自動的に作動し，傷害事故になることがあります。

❶　ドラフト自動スイッチ

キーを《 ○○ 入》にするとドラフト自動は《切》になっています。作動させたい時は，エンジン始動後スイッチを押してください。(スイッチを押すたびに「入」⟷「切」を繰返します。)



取扱いのポイント

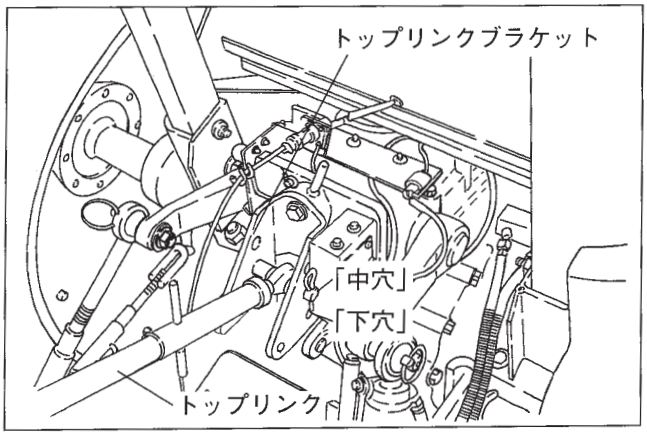
- **耕深カプラが接続されているとドラフト自動は使用できません。**

❷ センサロックレバー

トップリンクブラケットのセンサロックレバーを「解除」します。

取扱いのポイント

- **トップリンクのトップリンクブラケットへの取付けは「中穴」へ取付けます。**
  但しプラウの種類・ほ場条件等によってドラフト設定ボリュームで目標の深さに調整できない時は「下穴」に取付けます。

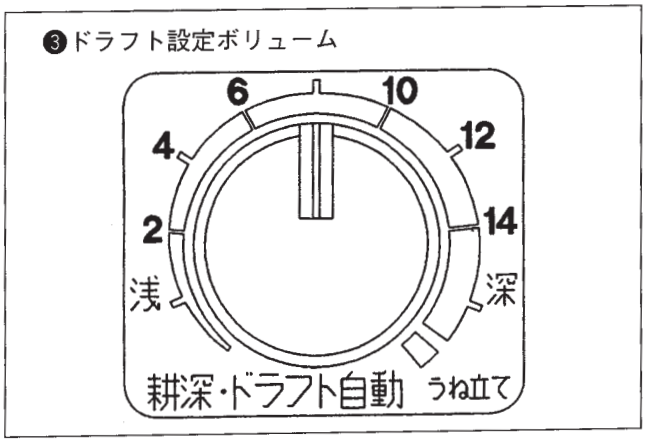


❸ ドラフト設定ボリューム

（耕深設定ボリュームと共用です。）

プラウ作業等の深さ調整はドラフト設定ボリュームによって行います。

- 《浅》へ回す……小さいけん引力で作動し耕深は浅くなります。
- 《深》へ回す……大きいけん引力で作動し耕深は深くなります。
- 《うね立て》へ回す……ドラフト自動《切》になります。

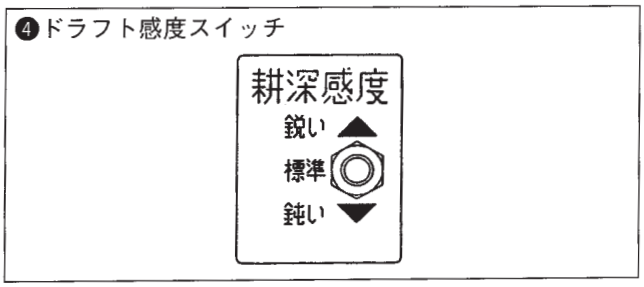


❹ ドラフト感度スイッチ

（耕深感度スイッチと共用です。）

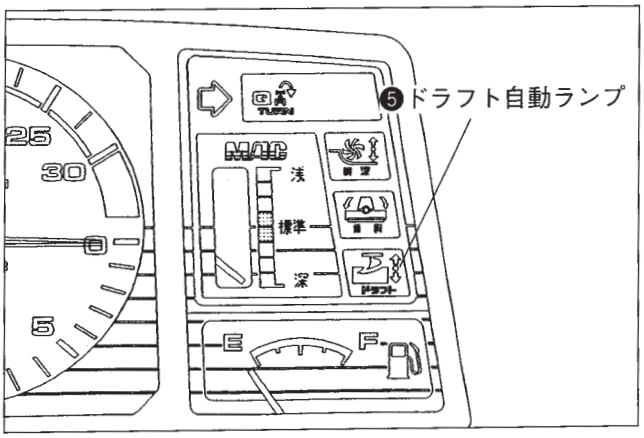
ドラフト自動（リフトアームの動作）の感度をほ場状態に応じて切替えることができます。

- 《鋭い》……ぬかるみ等，やわらかい状態又は上り勾配の所に適します。
- 《標準》……普通の状態又は平坦な所に適します。
- 《鈍い》……かたい状態又は下り勾配の所に適します。
- 仕上り及び深さ，スリップ状態を確認しながらほ場条件によって切替えます。



❺ ドラフト自動ランプ

ドラフト自動《入》で点灯し，ドラフト自動状態を示します。



6．安全装置の取扱い

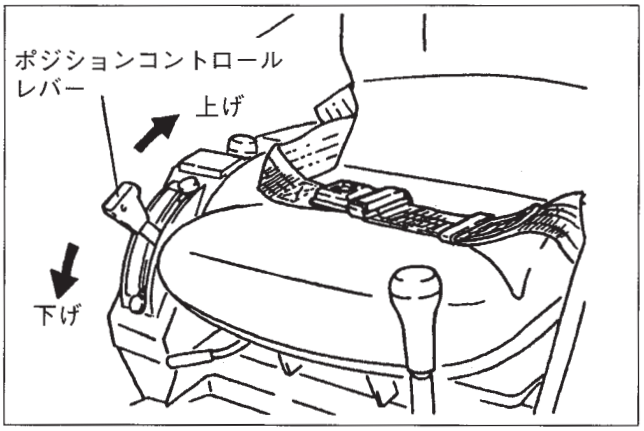
1．安全装置

❶ エンジン始動時の安全機能

エンジン始動時，作業機が急に上下しない為の機能です。エンジン始動後，ポジションコントロールレバーの設定値と作業機の位置が一致するまでブザーが“ピッ，ピッ，ピッ”と鳴り一致点に近づくにしたが.って，ブザーの断続音が早くなります。ブザーが鳴らなくなったところが一致点です。その後ポジションコントロールレバーで作業機を上げ下げできます。

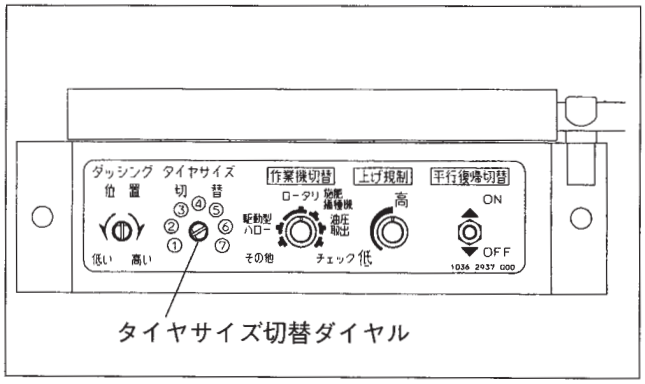
取扱いのポイント

- **ポジションコントロールレバーはゆっくりと操作してください。**



7．タイヤサイズ切替機能

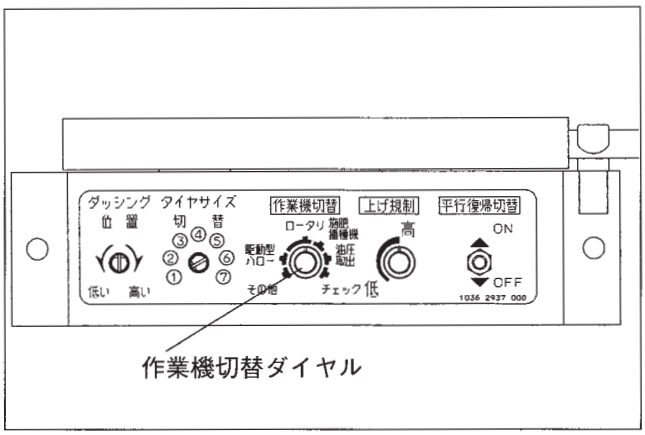
タイヤサイズ切替ダイヤルは⑤を使用します。

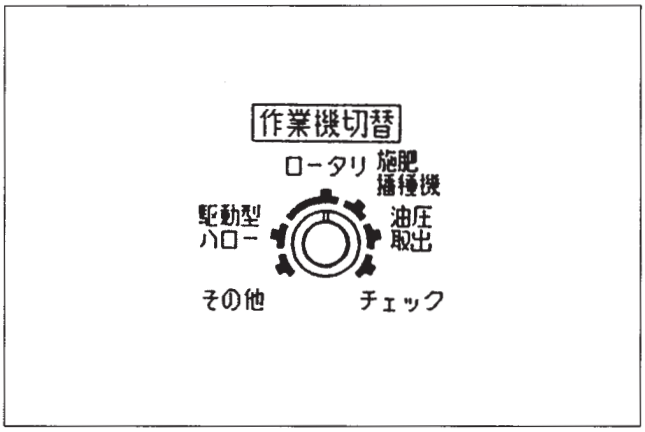


8．作業機切替機能

1．作業機切替

作業機切替ダイヤルを，各作業機に応じてセットします。





ダイヤル位置	条　　件
ロータリ	純正ロータリでの一般作業
駆動型ハロー	駆動型ハロー装着時
施肥播種機	施肥播種機装着時
油圧取出	ダンプトレーラのダンプ等操作時
その他	その他の作業機装着時
チェック	マイコンのチェックに使用

9. マイコン装備機の作業別，組合せ操作

マイコン装備機による作業は下記の操作手順を参考にして作業します。但し，一般的に表してあり条件により例外もあります。

1. 標　準　機

1. 走行変速とロータリ変速の組合せは，エンジン馬力によりエンストの発生がないように選定します。
2. リヤカバーは，耕うん中に耕深ハンチングが発生する場合，加圧します。
3. 耕深，ドラフト自動においてハンチングが発生する場合には感度スイッチの切替えを鈍い方にします。
   また，ロータリ作業時枕地整地において湿田の場合など条件によって鈍い方が仕上りが良い場合もあります。
4. 作業機切替ダイヤルは使用する作業機に合わせて切替えます。

★PTO変速の 4 速は367型にはありません。
●印は一般的な組合せ

作業名	耕うん深さ mm	主変速 1	主変速 2	主変速 3	主変速 4	副変速 (L)	副変速 (H)	副変速 (L)	副変速 (H)	PTO変速 1	PTO変速 2	PTO変速 3	PTO変速 ★4	リヤカバー 有	リヤカバー 無	感度切替 耕深 鋭い	感度切替 耕深 標準	感度切替 耕深 鈍い	作業機切替 ロータリ	作業機切替 駆動ハロー型	作業機切替 その他	作業機切替 施肥播種機	備考
ロータリ耕うん	浅耕 80～120		○	○	●		●				●	○			●		●	○					（注）・耕うん深さは耕深設定で調整します。
	標準耕 120～150		○	○	●		●			○	●	○			●		●		●				
	深耕 150～		○	●	○		●			●	○				●		●						
施肥播種																						●	
ロータリしろかき	浅耕～標準	○	●	○				●			○	●	○		●	○	●		●				
除草・浅耕	浅耕 0～80											○	●	○	●		●	○	●				（注）・加圧はハンチングする場合に行います。
うねくずし	深耕	○	●	○			●				●			○	●		●		●				
ハロー		○	●	○				●			○	●	○	－	－	○	●			●			（注）・左記は参考ですので作業機取扱説明書及び作業機マニュアルに従って作業をします。
プラウ	上り勾配又は軟らかい	○	●	○					●	－	－	－	－	－	－	●					●		
	平坦又は普通	○	●	○					●	－	－	－	－	－	－		●				●		
	下り勾配又は硬い	○	●	○					●	－	－	－	－	－	－			●			●		
その他																					●		

2. パルシフト装備機

1 走行変速とロータリ変速の組合せは，エンジン馬力によりエンストの発生がないように選定します。

2 リヤカバーは，耕うん中に耕深ハンチングが発生する場合，加圧します。

3 耕深，ドラフト自動においてハンチングが発生する場合には感度スイッチの切替えを鈍い方にします。
また，ロータリ作業時枕地整地において湿田の場合など条件によって鈍い方が仕上りが良い場合もあります。

4 作業機切替ダイヤルは使用する作業機に合わせて切替えます。

★PTO変速の4速は367型にはありません。
●印は一般的な組合せ

作業名	耕うん深さ mm	主変速 1	2	3	4	5	6	7	8	超低速		PTO変速 1	2	3	★4	リヤカバーの加圧 有	無	感度切替 耕深 鋭い	標準	鈍い	作業機切替 ロータリ	ハロー駆動型	その他	施肥播種機	備考
ロータリ耕うん	浅耕 80～120						○	○	●	●			●	○			●		●	○	●				（注）・耕うん深さは耕深設定で調整します。
	標準耕 120～150						○	○	●	●		○	●	○			●		●						
	深耕 150～						○	●	○	●		●	○				●		●						
施肥播種																								●	
ロータリしろかき	浅耕～標準	○	●	○							●		○	●	○		●	○	●		●				
除草・浅耕	浅耕 0～80													○	●	○	●		●	○	●				（注）・加圧はハンチングする場合に行います。
うねくずし	深耕					○	●	○		●			●			○	●		●		●				
ハロー		○	●	○							●		○	●	○	−	−	○	●			●			（注）・左記は参考ですので作業機取扱説明書及び作業機マニュアルに従って作業をします。
プラウ	上り勾配又は軟らかい					○	●	○			●	−	−	−	−	−	−	●					●		
	平坦又は普通					○	●	○			●	−	−	−	−	−	−		●				●		
	下り勾配又は硬い					○	●	○			●	−	−	−	−	−	−			●			●		
その他																							●		

キャビン装備機の取扱い

1．各部の取扱い

1．ドア・リヤウインドウ・ルーフの開閉のしかた

❶ ドア

⚠警告 傷害事故防止のために

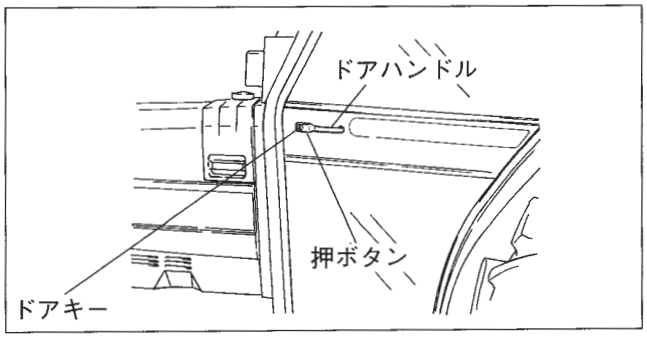
◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。
走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

・ドアの施錠・解錠

ドアキーを差込み，右方向に回すと施錠・左方向に回すと解錠となります。

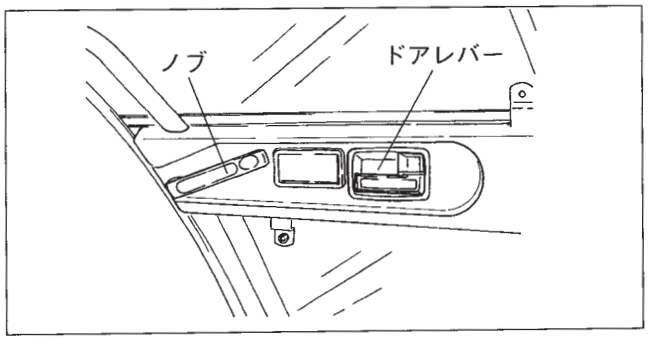
・車外からの開けかた

押ボタンを押しながらドアハンドルを引くと，ドアが開きます。



・車内からの開けかた

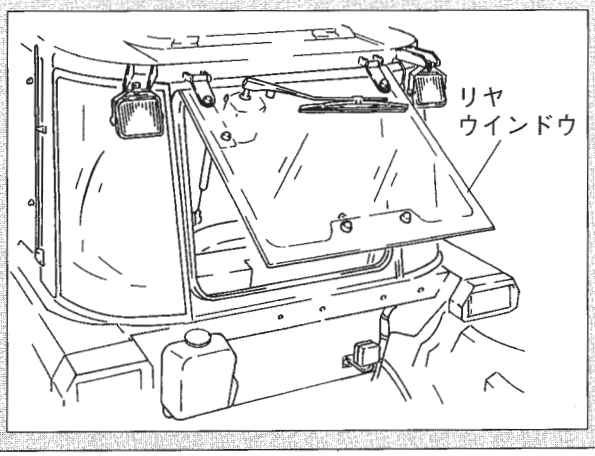
ドアレバーを引くと，ドアが開きます。
また，閉じるときはノブを引きます。



❷ リヤウインドウ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ポジションコントロールレバーの上限ストッパで作業機の上げ高さを規制してください。規制しないと作業機の種類によって上げた時にトラクタや［キャビン装備機］のリヤウインドウを破損し，傷害事故になることがあります。(58～60ページ「ポジションコントロールの取扱い」参照)



リヤウインドウは，跳ね上げ式です。

・開けかた

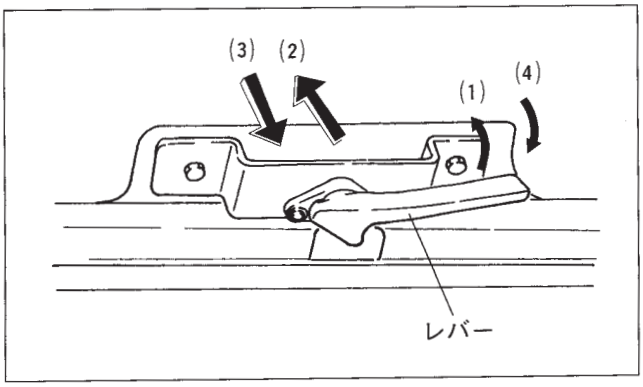
(1) レバーを左に回します。

(2) レバーを外側に押出して，リヤウインドウを開けます。

・閉じかた

(3) レバーを手前に引き，リヤウインドウを閉じます。

(4) レバーを手前に引きながら右に回し，確実に固定します。



❸ ルーフ

・開けかた

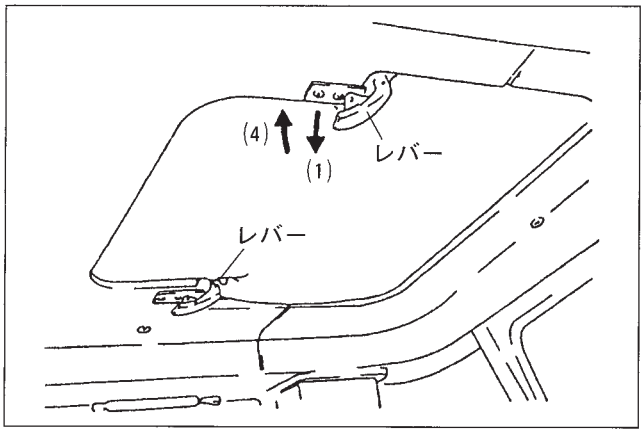
(1) レバーを下に引きます。
（左右２個所）

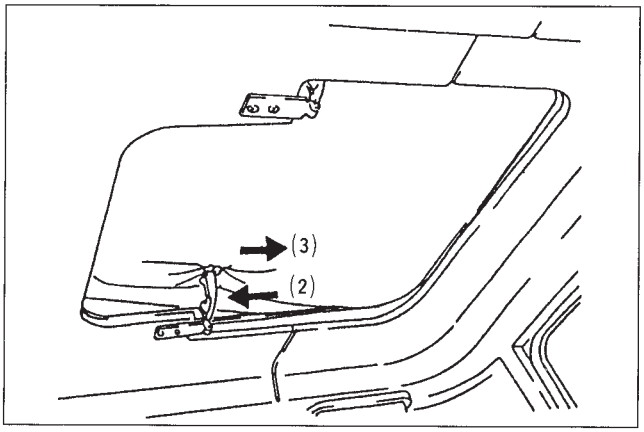
(2) レバーを前方に押出して固定します。

・閉じかた

(3) レバーを手前に引き，ルーフを閉じます。

(4) レバーを元に戻して，確実に固定します。
（左右共レバーを手前に引いてから固定してください。）



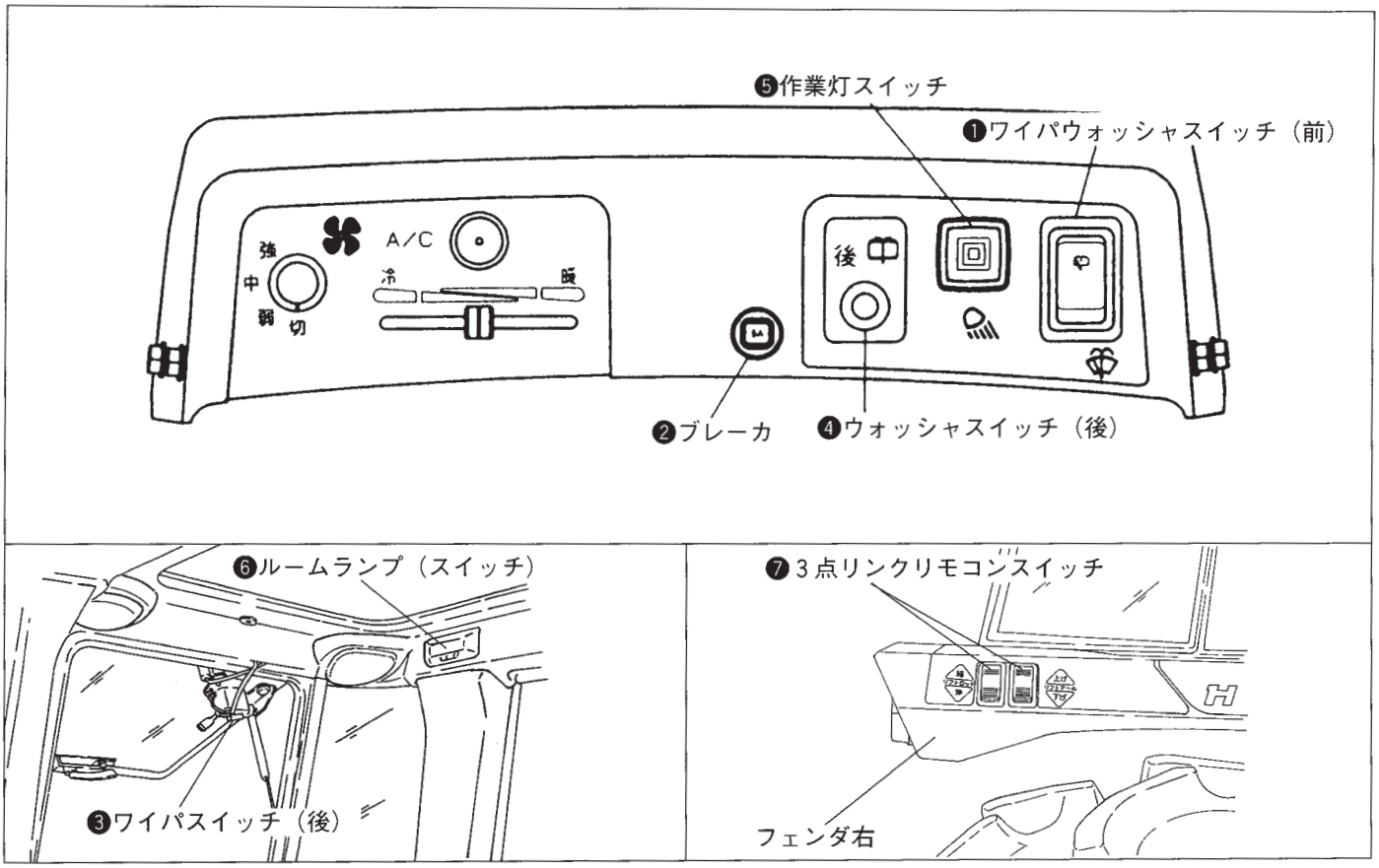


取扱いのポイント

- 作業機によっては，リヤウインドウが開けられないことがありますので，事前に確認して行なってください。
- トラクタ後方での作業機の脱着、調整等の作業をするときは，リヤウインドウを閉めるか、開放位置を確認して行なってください。
- リヤウインドウを開放したままでの道路走行は行わないでください。振動でガラスが破損することがあります。リヤウインドウを閉じ，レバーを確実に固定してください。
- 寒冷時にドア・ルーフおよびリヤウインドウが凍結している場合は、無理に開けるとゴムがはがれたり，損傷することがあります。
ぬるま湯で解凍してから開けるようにしてください。

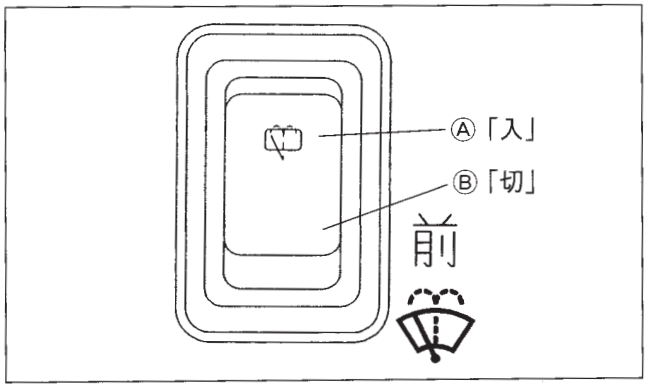
2. スイッチの取扱い

1. スイッチの名称



2. 取扱い方法

❶ ワイパ・ウォッシャスイッチ（前）



(1) ワイパの操作

スイッチⒶ側を押すとワイパが作動し，スイッチⒷ側を押すとワイパが停止します。

(2) ウォッシャの操作

・ワイパ作動中……スイッチⒶ側をさらに押すと，押している間，ウォッシャ液が噴射します。

・ワイパ停止中……スイッチⒷを押すと，押している間，ウォッシャ液が噴射します。

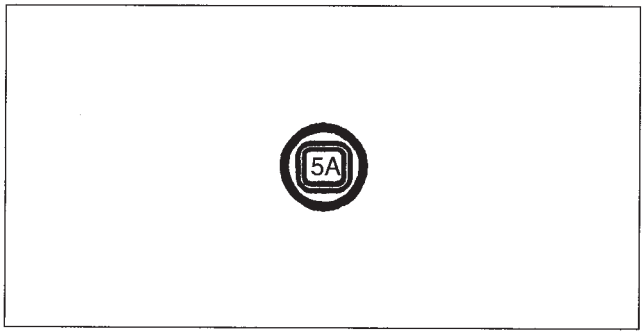
取扱いのポイント

- キーが《 切》のときは，作動しません。キーを《 入》またはエンジンを始動してから操作してください。
- ガラスがほこりや泥で汚れたままでワイパを使用しますとガラスに傷が付くことがあります。洗車または，ウォッシャ液を噴射してから使用してください。
- 寒冷時にワイパブレードが凍結してガラスに張りついたままでワイパを使用すると，ワイパが作動できずブレーカが作動します。使用する前にワイパブレードの状態を点検してください。

- ワイパ使用中，積雪等によりワイパブレードが途中で止まったときは，ワイパスイッチを「切」にしても電気が流れておりキーを《 切》にしないとブレーカが作動します。トラクタを安全な場所に停止してキーを《 切》にして，ワイパブレードが作動できるように積雪等を取除いてください。
- ウォッシャ液を連続で60秒以上噴射したり，ウォッシャ液が出ないときに20秒以上使用すると，ワイパモータが焼付くことがあります。
- 寒冷時にウォッシャを使用するときは，ガラスに噴射したウォッシャ液が凍って視界を妨げることがありますので，先にウインドウガラスをヒーターにより暖めてから使用してください。
- ウォッシャ液は，市販のウォッシャ液を使用してください。寒冷時に清水のみで使用すると凍結し，ウォッシャタンク，ホース等を破損することがあります。

❷ ブレーカ

ワイパモータを保護するため，ブレーカが設けてあります。(前側のみ)

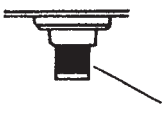


ワイパスイッチを「入」にしても作動しない場合は，ブレーカを確認します。

・正常な状態



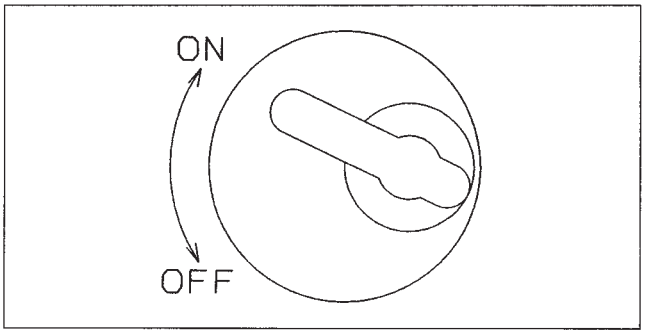
・異常な状態



取扱いのポイント

- ブレーカが作動した直後に正常な状態に戻す場合は，60秒以上経過後行なってください。
- ブレーカを押しても正常な状態に復帰しない場合は，「お買いあげ先」に点検を依頼してください。

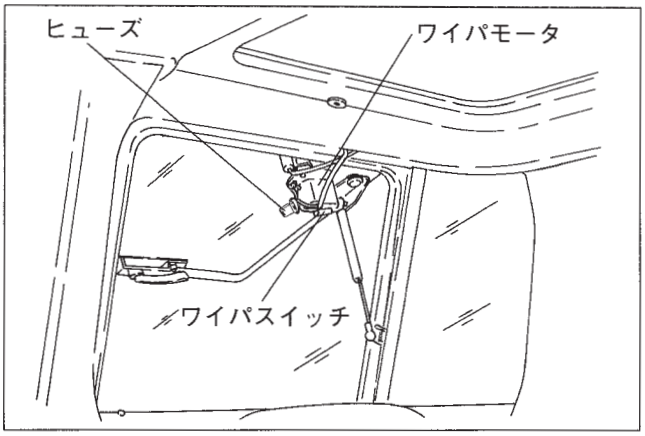
❸ ワイパスイッチ（後）



スイッチを《ON》（入）にするとワイパが作動します。

取扱いのポイント

- キーが《 切》のときは，作動しません。キーを《 入》またはエンジンを始動してから操作してください。
- ガラスがほこりや泥で汚れたままでワイパを使用しますとガラスに傷が付くことがあります。洗車または，ウォッシャ液を噴射してから使用してください。
- 寒冷時にワイパブレードが凍結してガラスに張りついたままでワイパを使用すると，ワイパが作動できずヒューズが溶断します。使用する前にワイパブレードの状態を点検してください。
- ワイパ使用中，積雪等によりワイパブレードが途中で止まったときは，ワイパスイッチを《OFF》（切）にしても電気が流れておりキーを《 切》にしないとヒューズが溶断します。トラクタを安全な場所に停止してキーを《 切》にし，ワイパブレードが作動できるように積雪等を取除いてください。

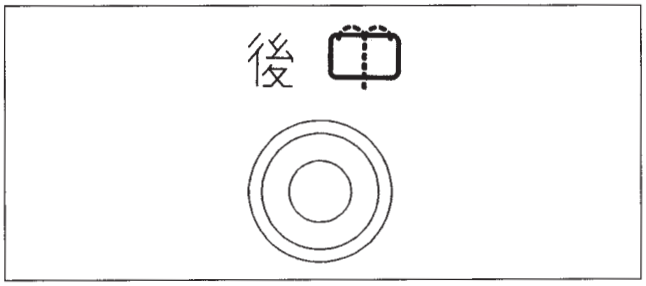


・ヒューズの交換

⚠警告　火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用するとワイパモータの過熱焼損の原因になります。

❹ ウォッシャスイッチ（後）

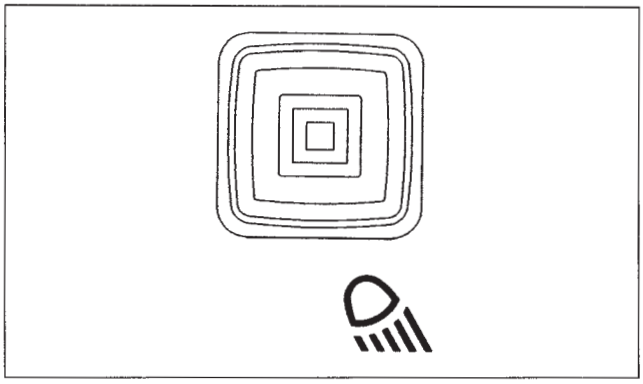


スイッチを押している間，ウォッシャ液が噴射します。

取扱いのポイント

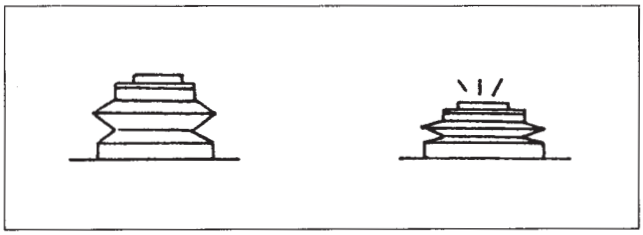
- ウォッシャ液を連続で60秒以上噴射したり，ウォッシャ液が出ないときに20秒以上使用すると，ワイパモータが焼付くことがあります。
- 寒冷時にウォッシャを使用するときは，ガラスに噴射したウォッシャ液が凍って視界を妨げることがありますので，先にウインドウガラスをヒーターにより暖めてから，使用してください。
- ウォッシャ液は，市販のウォッシャ液を使用してください。寒冷時に清水のみで使用すると凍結し，ウォッシャタンク，ホース等を破損することがあります。

❺ 作業灯スイッチ



キーを《 ⟳ 入》にし，作業灯スイッチを押すと，作業灯とスイッチ内のランプが点灯します。再度，押すと消灯します。

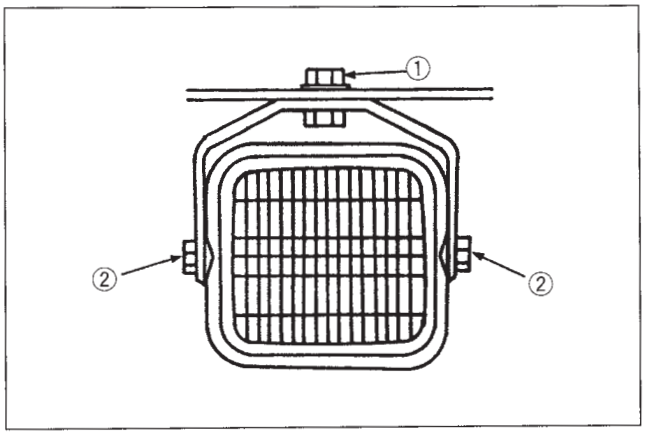
・ＯＦＦ……消灯　・ＯＮ……点灯



取扱いのポイント

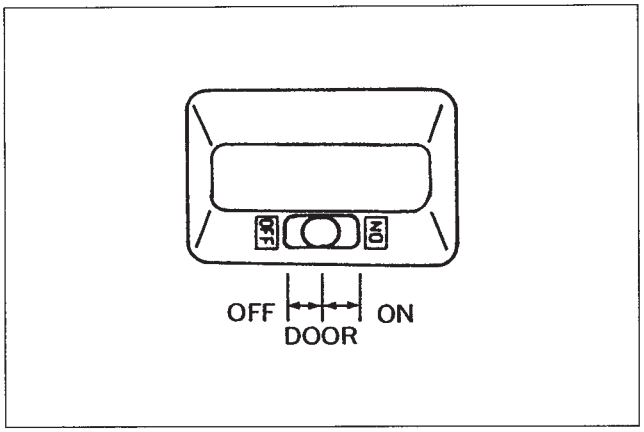
- 作業灯を使用するときは，バッテリがあがらないようにエンジンを始動してから使用してください。
- 道路走行時は，作業灯を消してください。

・作業灯



作業灯は，①のボルトとナットで左右方向を②のボルトで上下方向を変えることができるので適宜，調整します。

❻ ルームランプスイッチ



キャビン室内の照明に使用します。

《ＯＦＦ》……ランプが消灯します。

《ＤＯＯＲ》…左側ドアを開くとランプが点灯し，閉じると消灯します。

《ＯＮ》……ランプが点灯します。

取扱いのポイント

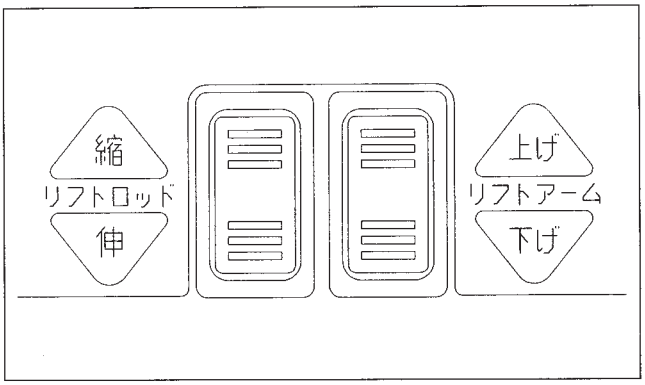
- **エンジンが停止しているときに，長時間ランプを点灯させておくとバッテリがあがることがあります。トラクタから離れるときは，ランプが消えていることを確かめてください。**

❼ ３点リンクリモコンスイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機着脱時に３点リンクリモコンスイッチを操作する場合はトラクタと作業機の間，またはトラクタ後方で行わないでください。守らないと，作業機と接触して，傷害事故を起こすことがあります。

◆作業機装着時に３点リンクリモコンスイッチで作業機を上昇させる場合，作業機の種類によりリヤウインドウを破損し傷害事故になる恐れがありますので，作業機の位置を確認しながら操作してください。



３点リンクリモコンスイッチは，作業機装着時に使用してください。

(1) **リフトアームスイッチ（右側）**

作動させるとバックアップランプがゆっくり点滅します。

《上げ》……作業機が上がります。

《下げ》……作業機が下がります。

・解除方法

リフトアームの位置とポジションコントロールレバーの位置を一致させると解除します。

(2) **リフトロッドスイッチ（左側）**

作動させると傾斜ランプが点滅します。

《縮》……リフトロッドシリンダが縮みます。

《伸》……リフトロッドシリンダが伸びます。

・解除方法

作業機を最上げにすると解除します。

取扱いのポイント

- **スイッチ操作時は通常のマイコン制御時よりゆっくり動作します。**
- **リフトアームが最上げになっているとリフトロッドスイッチは作動しません。**

3．運転装置の取扱い

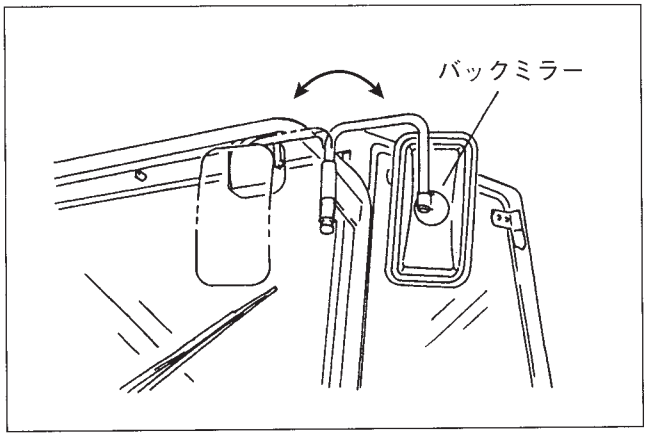
運転各種スイッチ，計器，レバー，ペダルなどの配置，操作方法は，標準機と同様です。

各部の取扱いかた の項を参照して行います。

1．バックミラー

バックミラーは，運転席に座って見やすい位置に調節します。

狭い所へトラクタを格納する場合には，バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。



取扱いのポイント

- **バックミラーは通常作業時の位置でキャビンより側方へ張り出していますので，狭い場所でのすれ違いや，本機格納時接触しないよう注意してください。**
- **道路走行時は，バックミラーを倒したままで運転しないでください。**

4．室内装備の取扱い

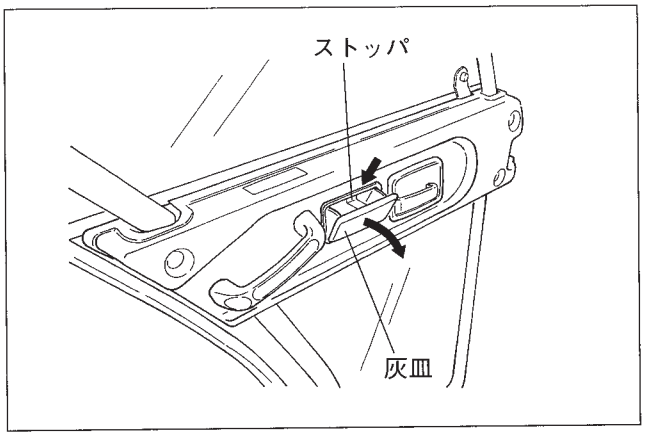
1．灰　　皿

⚠警告 火災防止のために

◆タバコ，マッチの火は，完全に消してから灰皿に入れてください。
使用後，開けたままにしておくと他の吸がらに火が燃え移ることがありますので蓋を閉めておいてください。

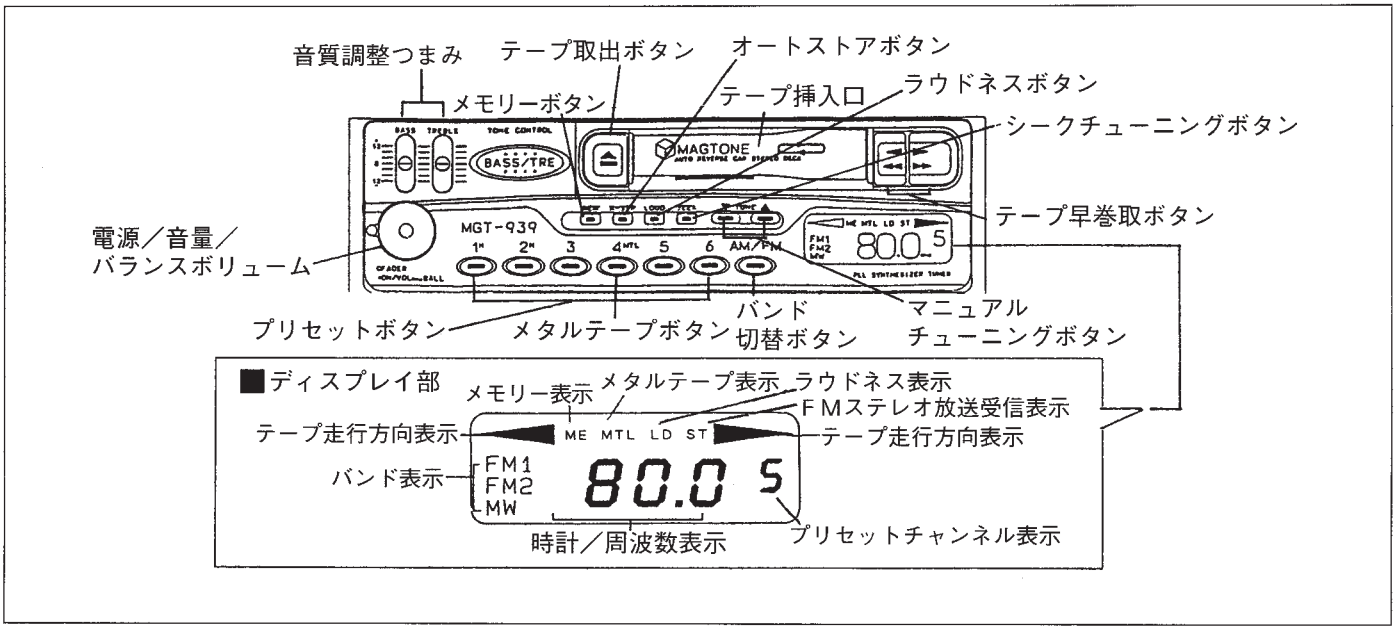
◆灰皿には，吸がらをためすぎたり，紙クズなどの燃えやすいものを入れないでください。
火災の原因となります。

手前に引出して使用します。取外すときは，灰皿のストッパを押したまま引きます。



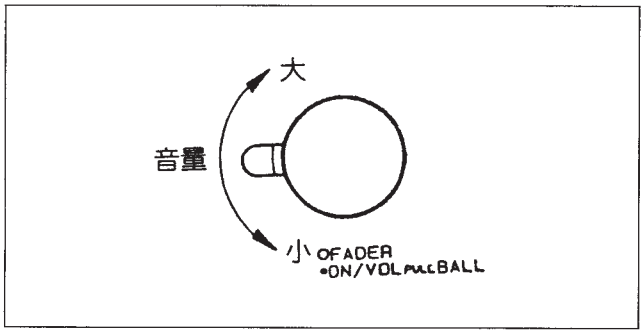
2. カーステレオ

❶ 各部の名称

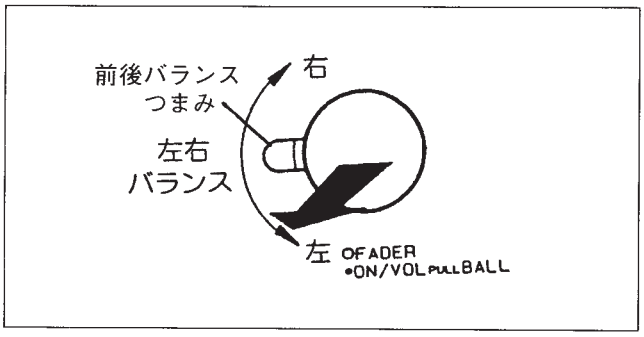


❷ 基本操作

(1) 電源／音量／バランスボリューム



右へ回すと電源が《ON》（入）になります。さらに右へ回すと音量が大きくなります。カセットテープが入っている時はテープ動作，入っていない時はラジオの状態になります。

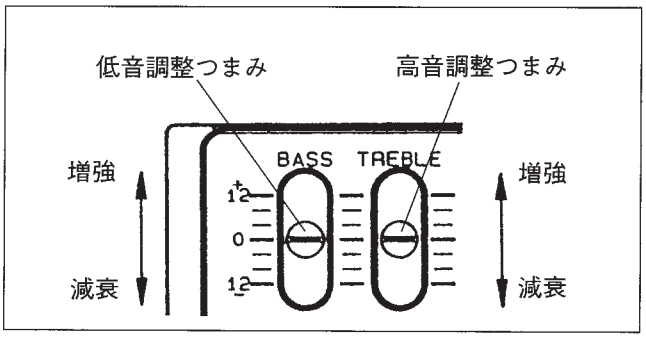


引きながら右に回すと右スピーカの音が大きくなり，引きながら左に回すと左スピーカの音が大きくなります。通常は中央の位置にしておきます。

取扱いのポイント

- **停車中でもキーを《 入》にすればラジオを聞くことができます。但し長時間の使用は，バッテリがあがる原因となりますので避けてください。**
- **前後バランスつまみは，２スピーカでは使用しません。**

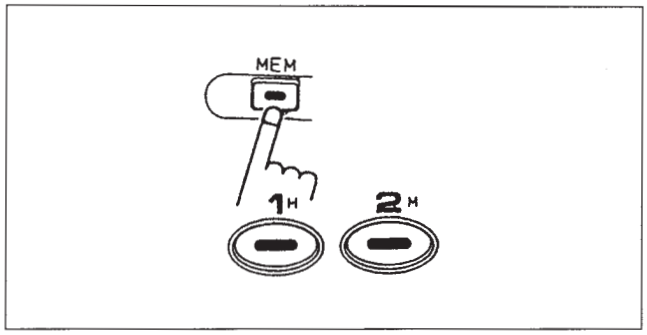
(2) 音質調整つまみ



1）低音調整つまみで低音部をお好みの音量に調整します。通常は中央位置にしておきます。上に上げると増強，下に下げると減衰します。

2）高音調整つまみで高音部をお好みの音質に調整します。通常は中央の位置にしておきます。上に上げると増強，下に下げると減衰します。

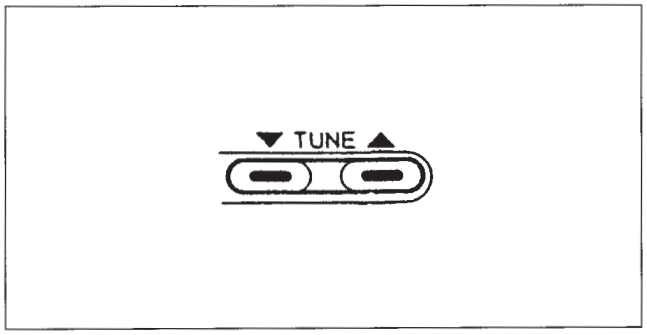
❸ 時計セット



メモリー・ボタンを押しながらプリセット・ボタンの１または２を押すと，時刻の修正ができます。プリセット・ボタンの１を押すと「時間」が，プリセット・ボタンの２を押すと「分」が変わります。時刻セットはディスプレイ部が時刻を表示しているときに，行なってください。

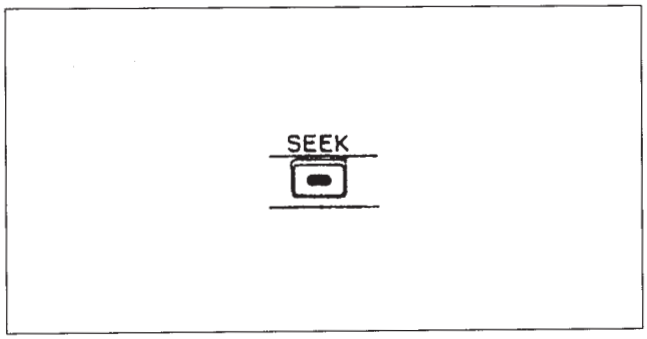
❹ ラジオの操作

(1) マニュアル・チューニングボタン



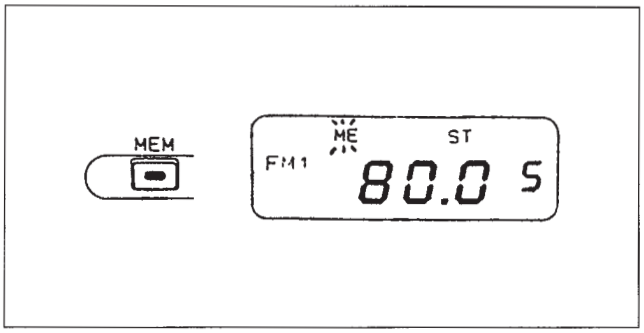
手動にて選局操作を行います。ボタンの右側を押すと受信周波数が高く，左側を押すと低くなります。ボタンを押し続けていると早いペースで周波数が変化します。

(2) シークチューニングボタン



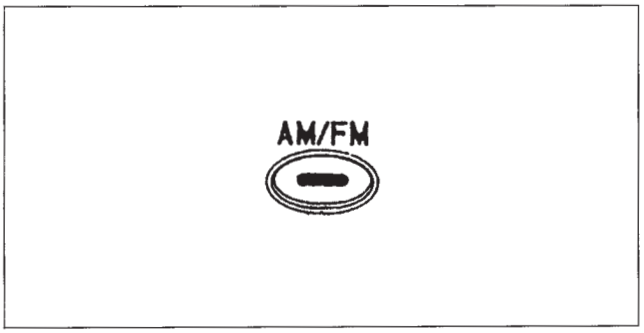
このボタンを押すと自動的に周波数が高い方に変化して放送局を探します。受信可能な放送局があると，その周波数で停止して継続受信します。

(3) マニュアルメモリーボタン



記録したい放送局をマニュアル・チューニング・ボタンか，シーク・チューニング・ボタンで選局します。周波数表示中にこのボタンを押すとディスプレイ部の《ＭＥ》が点滅します。この時１から６までのプリセットボタンを押すとその周波数が記録され点滅は停止し，チャンネル局が表示されます。

(4) バンド切替ボタン



バンド切替ボタンを押すと，受信周波数が変わります。

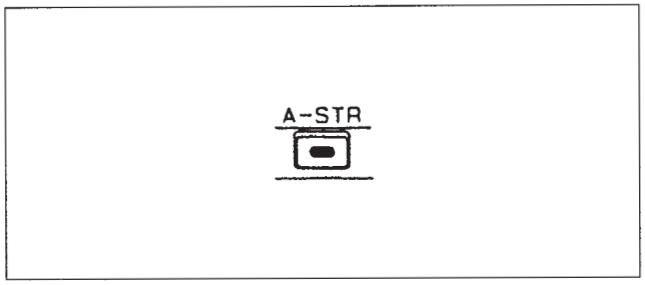
１度押すごとに，ＦＭ１→ＦＭ２→ＡＭと切替わります。

ＦＭ１…ディスプレイ部の《ＦＭ１》が点灯します。

ＦＭ２…ディスプレイ部の《ＦＭ２》が点灯します。

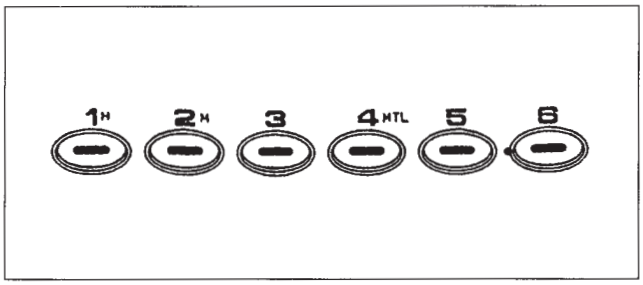
ＡＭ……ディスプレイ部の《ＭＷ》が点灯します。

(5) オートストアボタン



ラジオ受信中にこのボタンを押すと現在受信中のバンド内の放送を自動的に探してその周波数をプリセット・メモリーに記録します。この動作中，ディスプレイ部の右側のチャンネル表示が変化します。これは，各メモリー・チャンネルに記録中であることを示します。

(6) プリセットボタン



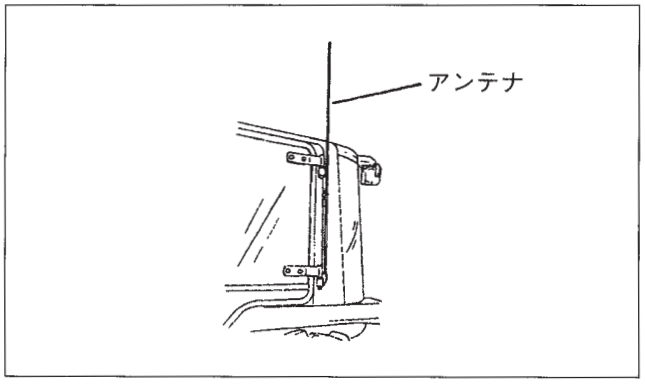
マニュアルメモリーまたは，オートストアでメモリーされた放送局を１から６のボタンで受信することができます。

１から６のボタンからはＦＭおよびＡＭ共用で使用し，合計18局の放送局を受信できます。

取扱いのポイント

- **バッテリ端子を外したときはメモリーが取消されます。メモリをやり直してください。**

(7) アンテナ



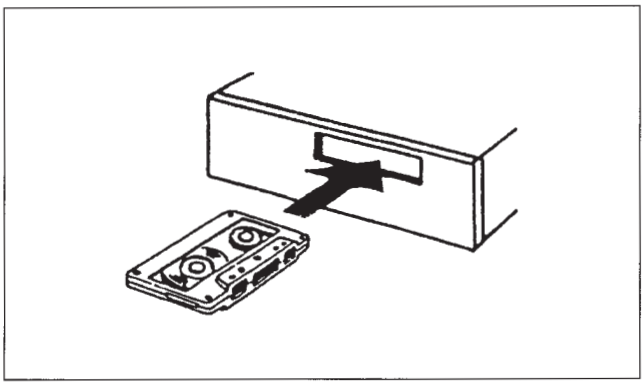
アンテナは，３段階に伸びます。

取扱いのポイント

- **ラジオはアンテナをいっぱいに伸ばしてから聞いてください。**
- **屋根の低い所へ入るときは，アンテナを格納してください。**

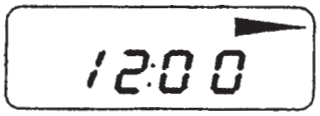
❺ カセットテープ操作

(1) テーププレイ

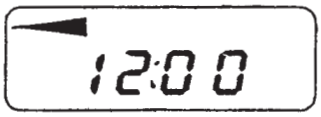


カセットテープを上図のように挿入すると演奏が始まります。

・テープの上面のプログラムを演奏
（テープ走行表示右側が点灯）



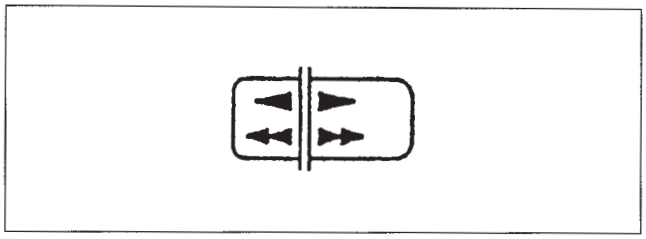
・テープの下面のプログラムを演奏
（テープ走行表示左側が点灯）



取扱いのポイント

- **テープは鉛筆等でたるみをなくしてからご使用ください。たるみのあるときは誤作動を起こす場合があります。**
- **120分テープは，テープ自身が非常に薄く，伸びたり切れたりしますので，使用しないでください。**

(2) テープ早巻取りボタン



1）早送り

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と同じ方向のボタンを押します。

早送りを解除する時は，押込まれているボタンとは逆のボタンを軽く押してください。

2）巻戻し

テープ走行方向表示が点灯している方の矢印と逆方向のボタンを押します。

巻き戻しを解除する時は，押込まれているボタンとは逆のボタンを軽く押してください。

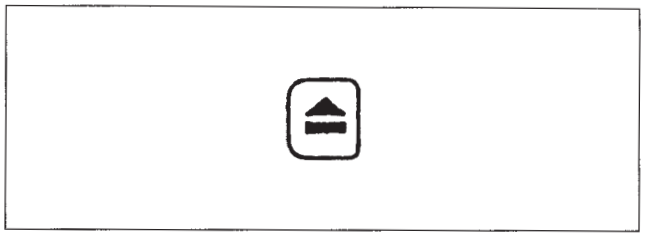
3）反転

演奏面を反転させるときは，2個の早巻取りボタンを同時に押してください。演奏面が反転すると同時にテープ走行方向表示の点灯も変わります。

取扱いのポイント

- **本機はフルオートリバースメカを使用していますので，テープ再生あるいは早巻取りでテープが終端まで巻取られると，自動的にテープの走行方向が変わり，反対面のプログラムが再生されます。テープを入れたままにしておきますとA面B面を繰返し演奏を続けます。**

(3) テープ取出しボタン



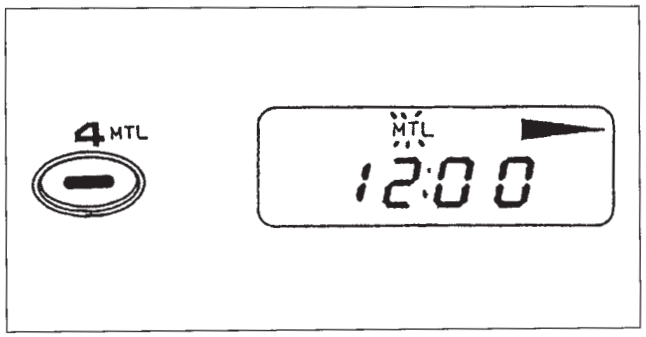
テープ演奏を停止する時に押してください。

テープを取出すと，ラジオの状態になります。テープを聞かない時はカセットを抜き取ってください。

取扱いのポイント

- **キーを《 切》にした時はテープ取出しボタンを押してテープを取出してください。**
- **テープのラベルがはがれかけていたり，厚みのあるラベルが貼ってあるテープは使用しないでください。テープが取出せなくなる場合があります。**
- **テープにほこりや泥などが付着すると音声が出なくなる場合がありますので，テープはケースに入れて保管してください。**
- **テープは直射日光に長時間あてないでください。**

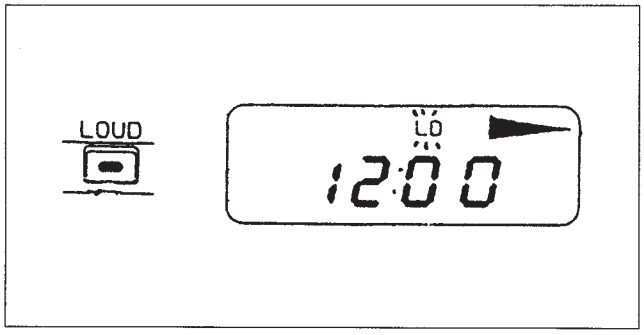
(4) メタルテープボタン



このボタンはプリセットボタンの4と兼用です。

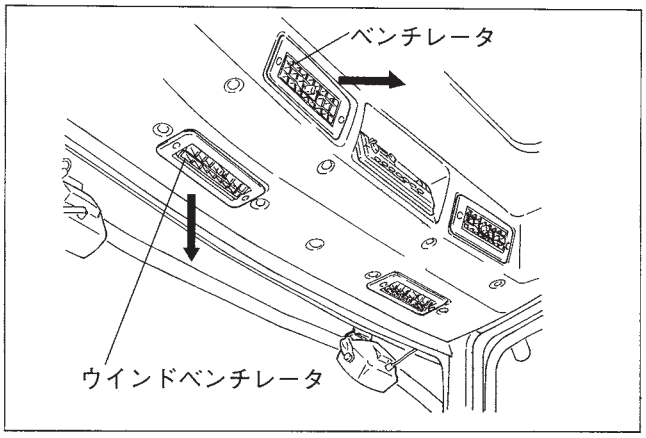
使用するテープの種類によって使い分けてください。メタルまたはクロームテープ使用時は，ボタンを押してください。ディスプレイ部に《MTL》が表示されます。解除する時はもう一度ボタンを押してください。

(5) ラウドネスボタン



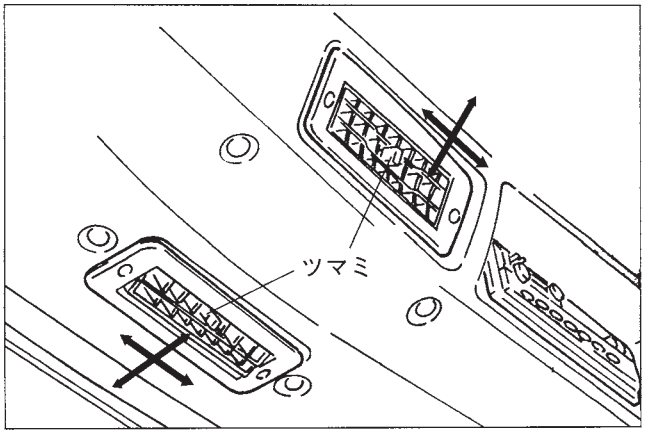
小音量で音楽を聞くと，低音が弱く感じます。ラウドネス・ボタンを押すとディスプレイ部に《LD》が表示され，低音が強調されて聞きやすい音質になります。解除するときはもう一度ボタンを押してください。

3. エアコン

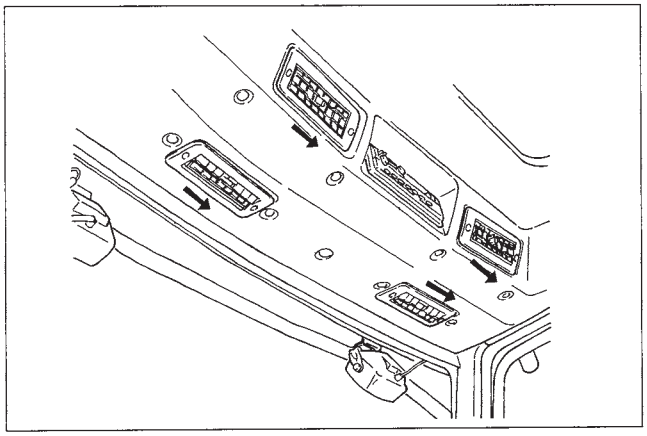


❶ 吹出し口（ベンチレータ）

・ツマミを動かして風向きを調節します。



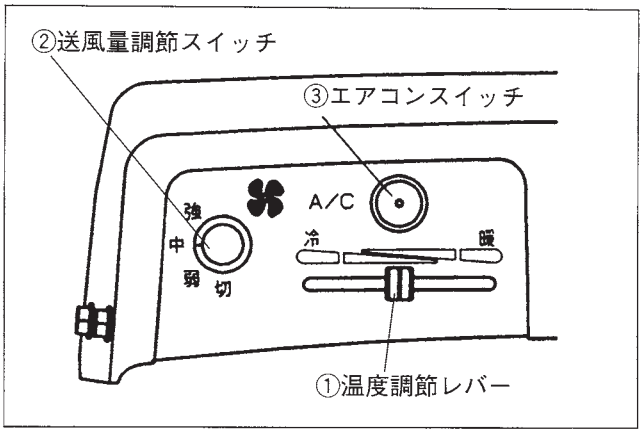
・送風を止めたいときは，図のように閉じます。



取扱いのポイント

●冷房し始めたとき，一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。

❷ コントローラ



① 温度調節整レバー

レバーを動かして送風温度を調節します。

《**冷**》…温度が低くなります。

《**暖**》…温度が高くなります。

取扱いのポイント

●エンジン冷却水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。

② 送風量調節スイッチ

送風量を3段階に調節します。

《**切**》…送風は止まります。

エアコンも同時に切れます。

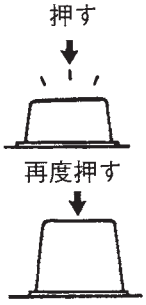
《**弱**》…送風量は**少**になります。

《**中**》…送風量は**中**になります。

《**強**》…送風量は**多**になります。

③ エアコンスイッチ

エアコンの《**ON，OFF**》を切替えます。

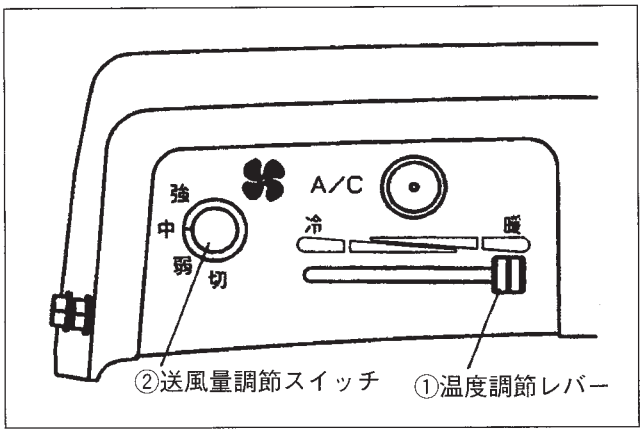


「**ON**」……エアコンが入ります。（スイッチ内のランプが青色に点灯）

「**OFF**」……エアコンが切れます。

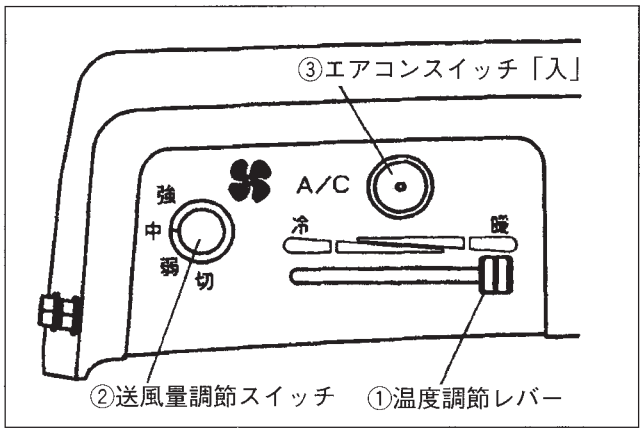
❸ 使用方法

(1) 暖房したいときは



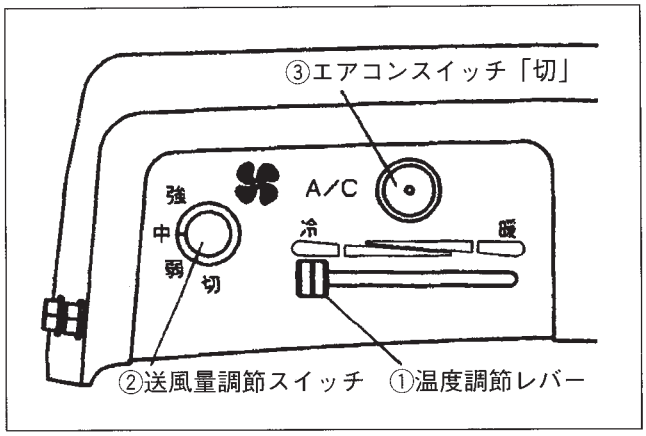
・①温度調節レバー，②送風量調節スイッチを上図位置にセットします。
・送風温度および送風量は，それぞれ①温度調節レバー，②送風量調節スイッチで適宜，調節します。

(2) ガラスの曇り，霜を取りたいときは



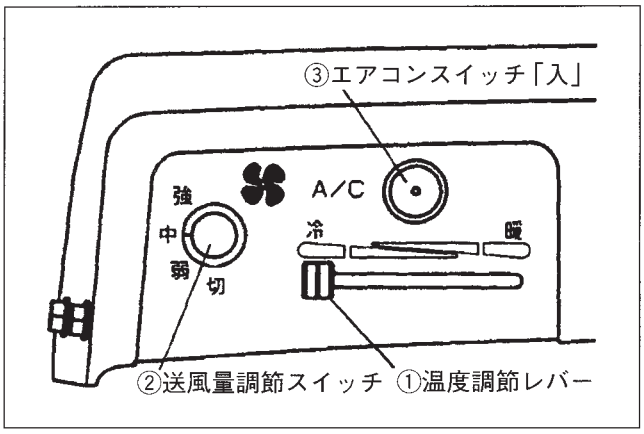
・①温度調節レバー，②送風量調節スイッチ，③エアコンスイッチ「**入**」を図位置にセットします。
・ウインドウベンチレータをフロントガラスの方向に向け，フェイスベンチレータは適宜，風向きを調節します。
・送風温度および送風量は，それぞれ①温度調節レバー，②送風量調節スイッチで適宜，調節します。
・夏期に曇り止めするときは，①温度調節レバーで送風温度を調節します。

(3) 送風したいときは



・①温度調節レバー，②送風量調節スイッチ，③エアコンスイッチ「**切**」を上図位置にセットします。
・ウインドウベンチレータの送風を止め，フェイスベンチレータは適宜，風向きを調節します。
・送風量は，②送風量調節スイッチで適宜，調節します。

(4) 冷房したいときは



・①温度調節レバー，②送風量調節スイッチ，③エアコンスイッチ「**入**」を図位置にセットします。
・ウインドウベンチレータの送風を止め，フェイスベンチレータは，適宜，調節します。
・送風温度および送風量は，それぞれ①温度調節レバー，②送風量調節スイッチで適宜，調節します。

取扱いのポイント

- **長時間作業されるとき，またはタバコを吸われているときは，時々，室内の換気をしてください。**
- **ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので，やわらかい布で水気をふき取ってください。**
- **エアコンは，温度を下げるばかりでなく，湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差５～６℃）に調節してください。また，冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。**

❹　保守管理

エアコンは，シーズンオフでも1ケ月に1度数分間運転してください。

運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ，エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じますので点検・再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整・整備する時は，トラクタを平坦な広い場所に置き，駐車ブレーキをかけ，作業機を降ろし，エンジンを止め各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジンまわりの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆作業機を上げて，掃除・点検・調整・整備する時は，作業機降下速度調節グリップを《固定》にし，作業機が降りないことを確認し，作業機の下に固定脚を置いてください。
◆取外したカバーは，全て取付けてからエンジンを始動してください。
◆定期点検整備表に記載されていない部所の点検・整備は「お買いあげ先」へ申しつけてください。
◆エンジンオイル等の油脂類および不凍液を交換して廃却する時は，廃却設備のある所で廃却処理してください。
◆部品（バッテリ等）または機械を廃却する時は「お買いあげ先」にご相談ください。

1．定期点検整備表

・正常な機能を発揮し，いつも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**を参考に点検・整備をします。
・**「定期点検整備表」**は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度，調整をします。
・**表示記号の説明**　○……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
◎……指定時間ごとに点検し，調整・補給・掃除などの処置をします。
●……指定時間ごとに交換します。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔 運転前	50時間	100時間	200時間	300時間	備考	参照ページ
エンジン関係	燃料タンク	点検・補給・タンクの掃除	○				◎	軽油JIS 2 号又は 3 号・特 3 号35 ℓ	93
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換		◎		●		エレメント	94
	燃料ホースの劣化と洩れ	点検・交換	○			●			107
	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	●（初回のみ）	●			ディーゼルオイルCD級以上SAE10W－30　4.5 ℓ	92
	エンジンオイルフィルタ	交換		●（初回のみ）	●			フィルタ	93
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・掃除・交換	○					清水，不凍液7.1 ℓ，1 年ごとに交換（ロングライフクーラント）	95，96
	ラジエータスクリーン	点検・掃除		◎				ゴミの多いところでは作業前	101
	エアクリーナエレメント	点検・掃除		◎				〃	101
	ファンベルト	点検・調整		◎				ベルト中央部押し　10～13㎜	103
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○						108～111
	電気配線（配線，接続部のゆるみ，損傷）	点検・修正	○					損傷の場合交換	107
	計器類	点検	○						—
本機関係	油圧オイルフィルタ	交換			●（初回のみ）		●		98
	ミッションオイル	点検・補給・交換		◎	●（初回のみ）	●		純正油または，API.GL－4 級以上で湿式ブレーキ用　43 ℓ	97
	フロントアクスルオイル	点検・補給・交換		◎	●（初回のみ）	●		純正油または，API.GL－4 級　SAE80W　6.5 ℓ	98
	タイロッド（左・右），ロッドエンド	点検・補給		◎				グリス適量	99
	ブレーキリンク	点検・補給		◎				〃	99
	クラッチペダル	点検・調整	○					遊び　20～30㎜	103
	ブレーキペダル	点検・調整	○					遊び　25～35㎜	105
	各レバー類の作動	点検	○						—
	ボルト，ナットのゆるみ	点検	○						—
	タイヤ空気圧	点検	○					前輪　1.5kgf／㎠，後輪　1.0kgf／㎠	106
	トーイン	点検・調整				◎		0 ～10㎜	104
	パワステシリンダ油圧ホース	点検・交換						2 年ごとに交換	107
	ハンドル	点検	○					遊び20～30㎜	106
	コンプレッサベルト	点検・交換		◎				ベルト中央部押し　18～20㎜　キャビン装備機	111

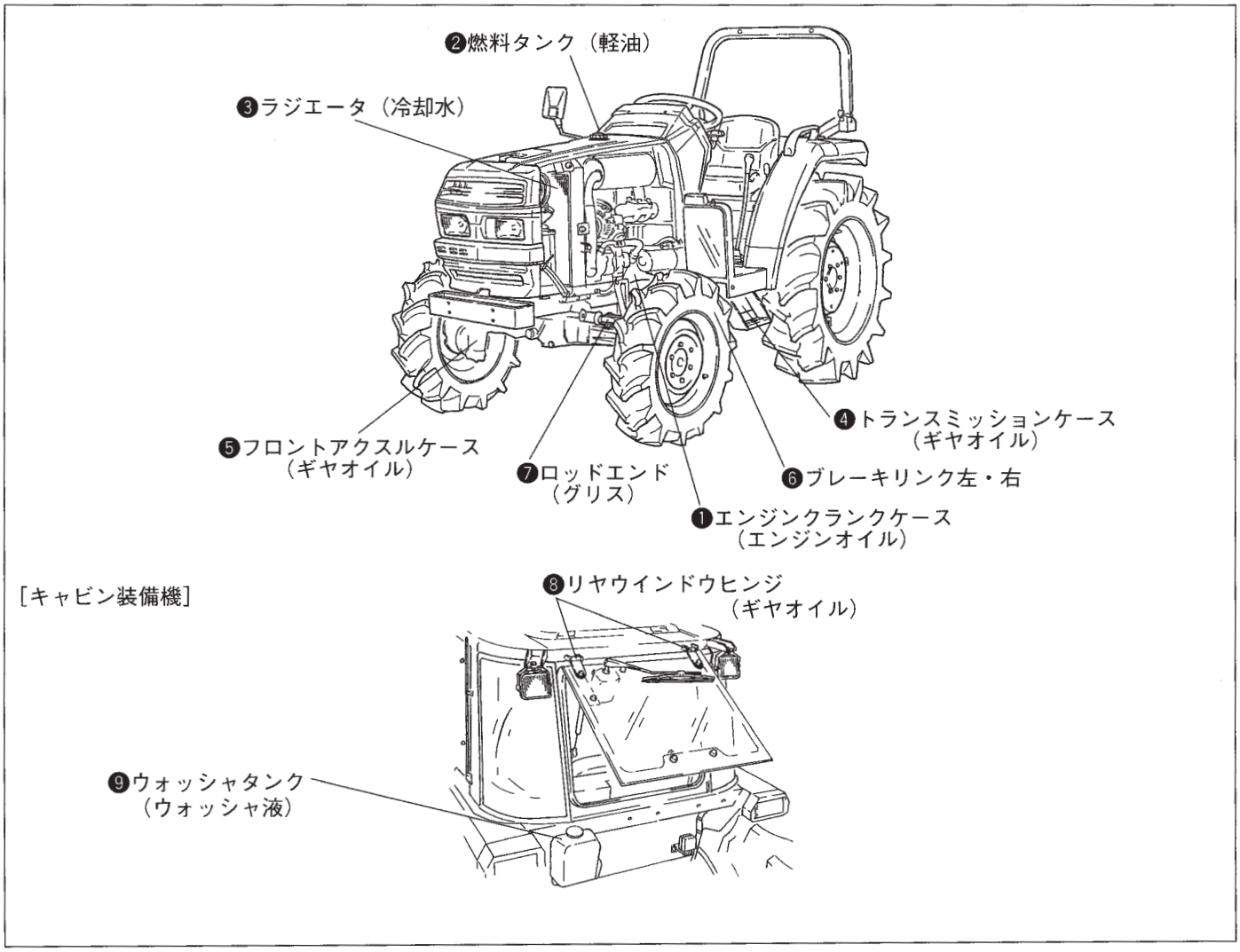
2. 給油・給脂・給水のしかた

1. 給油・給脂・給水個所

・工場から出荷の時は，各給油・給脂・給水個所ともオイル・グリス・冷却水は入っていますが，使用する前に点検します。

取扱いのポイント

● 各給油個所には，指定オイルを規定量給油してください。



2. 給油・給脂・給水表

	No	個所	種類	分類 APIサービス分類	分類 SAE粘度番号	容量(ℓ)	交換時間	参照ページ
全型式	❶	エンジンクランクケース	エンジンオイル	CD級以上	10W－30	4.5	作業前点検・100時間ごと交換（初回点検時50時間で交換）	92
	❷	燃料タンク	軽油	－	－	35	作業前点検（必要量補給）	93
	❸	ラジエータ	冷却水（不凍液40～45%含む）	－	－	7.1	〃（〃）	95,96
	❹	トランスミッションケース	ギヤオイル（マルチSTOUオイル）	GL－4	80W（10W－30）	43	初回100時間，後は200時間ごと交換	97
	❺	フロントアクスルケース	ギヤオイル	GL－4	80W	6.5	〃	98
	❻	ブレーキリンク（左・右）	グリス	－	－	適量	作業前点検・50時間ごと給脂	99
	❼	ロッドエンド…4個所	〃	－	－	〃	〃	99
キャビン装備機	❽	リヤウインドウヒンジ	ギヤオイル	－	－	〃	〃	99
	❾	ウォッシャタンク	ウォッシャ液（市販品）	－	－	2.0	作業前点検（必要量補給）	100

- エンジンオイル……純正油またはディーゼルエンジンオイルAPI分類CD級以上，SAE・10W－30
- 燃　　料……ディーゼル軽油　JIS 2 号（－10℃まで）
  JIS 3 号（－10℃から－20℃まで）
  JIS特 3 号（－20℃以下）
- ギヤオイル……純正油またはAPI分類GL－4 級以上，SAE・80W

※使用オイルの詳細は「潤滑油について」（131～132ページ）を参照してください。

取扱いのポイント

- パルシフト装備機のトランスミッションオイルは，マルチSTOU（ストー）オイルをお使いください。

3．エンジンオイルの点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジンオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジン始動前に調べてください。**
- **エンジンオイルは推奨オイルをご使用ください。**
- **オイルの粘度は，外気温によって下表のように使い分けてください。**

気温℃	−20	−10	0	10	20	30
エンジンオイル	SAE10W−30					
		SAE20W			SAE30	

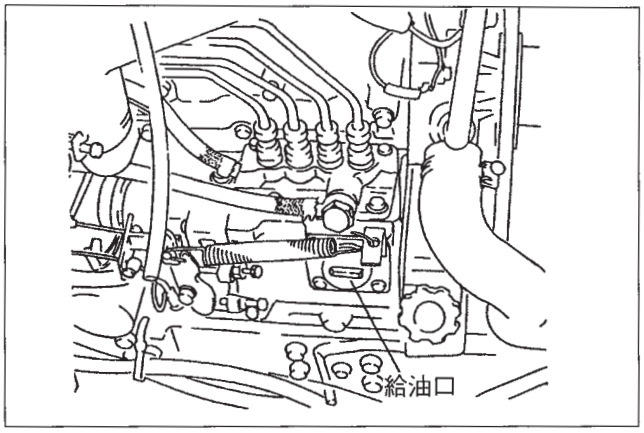
❶ エンジンオイルの点検

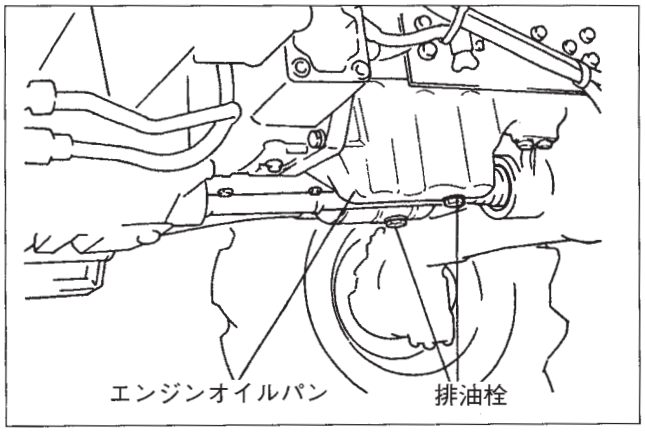
レベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから抜出し，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」と「**下限**」の間（規定量）にオイルがあるか調べます。不足しているときは，給油口よりオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで入れます。さらに，油もれのないことも調べます。

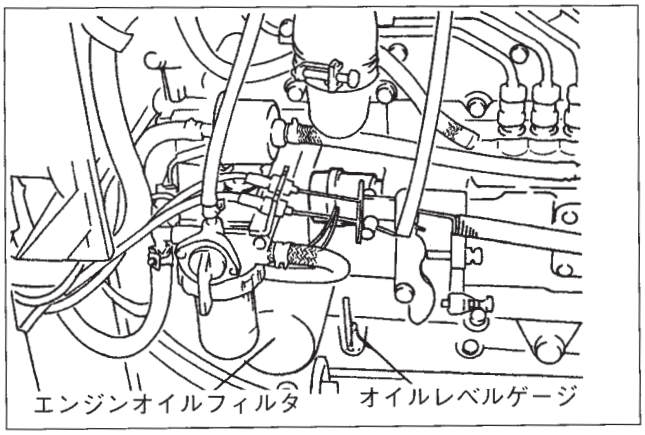
❷ エンジンオイルの交換

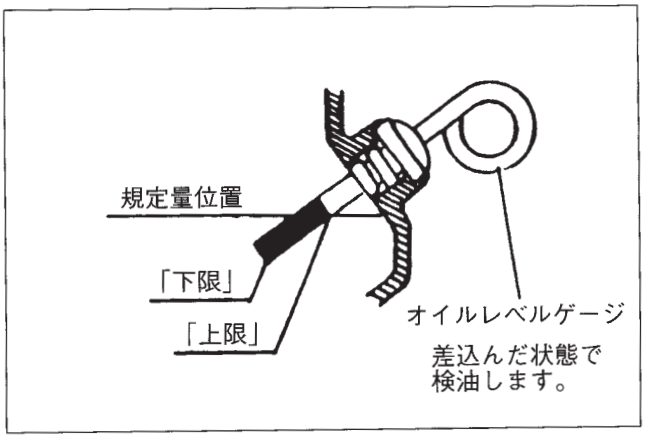
(1) オイルレベルゲージとエンジンオイルパンの排油栓（2個所）を外し，オイルを抜きます。

(2) 排油栓を締め新しいエンジンオイルを，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで給油します。









4. エンジンオイルフィルタの交換

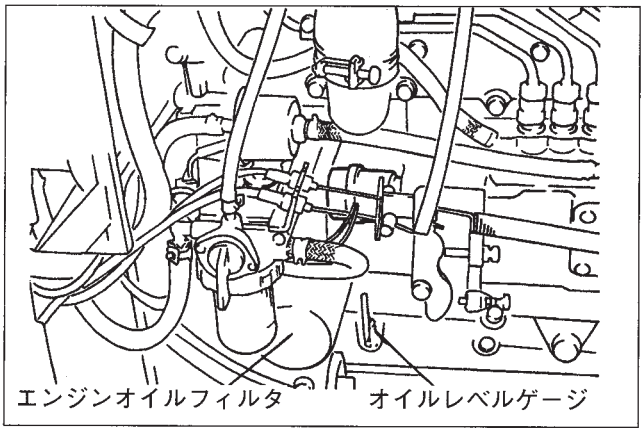
エンジンオイルフィルタは「**カートリッジタイプ**」ですので，ご購入のうえ交換します。(128ページ参照)

・第1回目……50時間運転後に交換

・第2回目より…100時間運転ごとに交換

❶ エンジンオイルフィルタ（カートリッジタイプ）は手でゆるまない場合は専用工具（市販品）を使用して，外します。

❷ エンジンオイルフィルタを交換した時は，オイルフィルタの容量分オイルが多く入るのでオイルレベルゲージでオイル量を確認し，不足のときはオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで補給します。



取扱いのポイント

- **エンジンオイルフィルタを取付ける時は，パッキン面にオイルを塗り，エンジンオイルフィルタを手で締め，パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。**

5. 燃料の補給

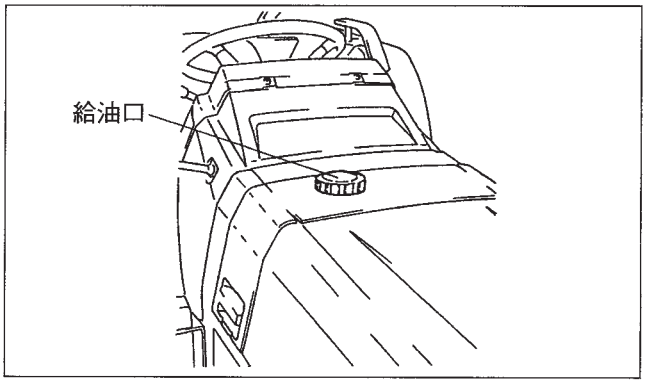
⚠警告 火災防止のために

◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因となります。

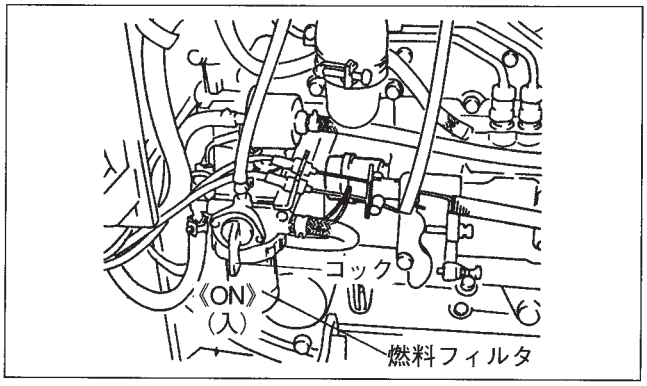
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料もれがないか点検をし，もれている場合は交換してください。

❶ 燃料タンクの残量を確認し，「**こし網をとおして**」燃料（ディーゼル軽油JIS 2号または3号・特3号軽油）を補給します。



❷ 燃料フィルタのコックを《**ON**》(**入**)にします。



取扱いのポイント

- **軽油は，気温に合わせて，JIS 2号，3号，特3号軽油を使用してください。**

−10℃まではJIS 2号

−10℃〜−20℃まではJIS 3号

−20℃以下はJIS特3号

6. 燃料フィルタの交換と掃除

❶ 交換

50時間ごとに掃除し，200時間ごとにエレメントを交換します。(128ページ参照)

❷ 掃除

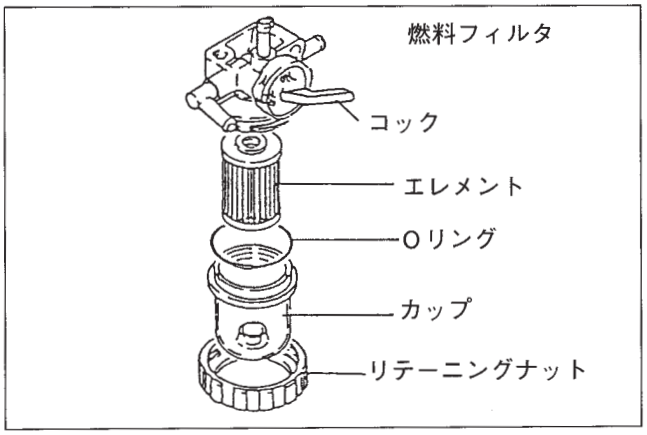
(1) コックを《**ＯＦＦ**》(**燃料停止**) の位置にしてリテーニングナットを外します。

(2) カップを取外し，きれいな軽油で洗浄します。

(3) エレメントを取外し，きれいな軽油で洗浄または交換します。

(4) Ｏリングに注意しながらエレメントとカップを取付け，リテーニングナットを締付けます。

(5) **7. エア抜き要領** に従ってエア抜きをします。



7. エア抜き要領（エア抜き容易化装置）

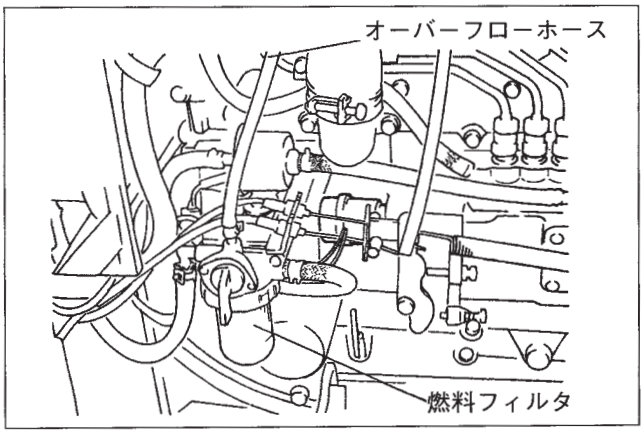
⚠警告 火災防止のために

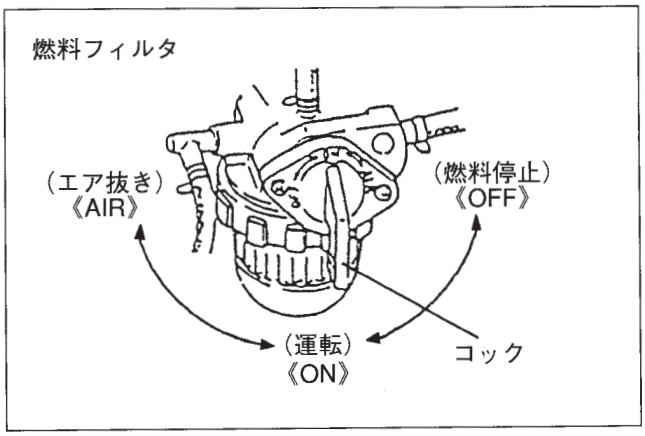
◆燃料満タン時や，前傾になっているときは，コックが《ＡＩＲ》(エア抜き) 状態になったままですとオーバーフローホースより燃料がもれますのでこぼれた燃料をふきとってください。

❶ 燃料が空のときは５ℓ以上補給します。

❷ 右サイドカバーを取外します。

❸ 燃料フィルタのコックを《**ＡＩＲ**》(**エア抜き**) にします。

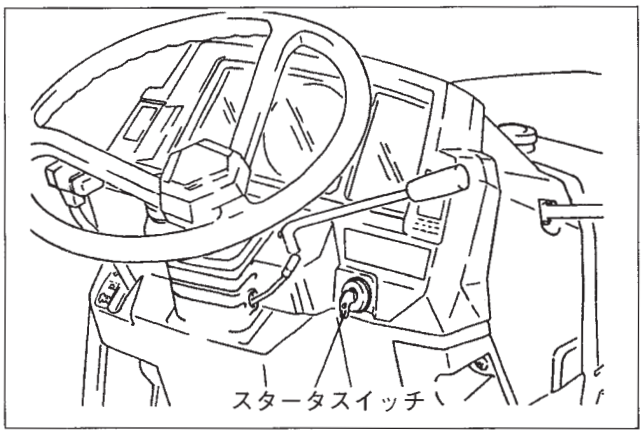




❹ オーバーフローホースに燃料が上がって来るのを確認します。

❺ オーバーフローホースに燃料が上がったら燃料フィルタのコックを《**ＯＮ**》(**運転**) に戻します。

❻ キーを《 入》にすると燃料ポンプが作動します。



❼ ❻項の状態を約15秒間保持すると，インジェクションポンプ内のエア（空気）が抜けます。

❽ 以上でエア抜きは完了ですのでエンジンを始動します。

❾ 始動しないときは，❸～❼項を繰返します。

❿ 右サイドカバーを取付けます。

取扱いのポイント

- **トラクタの燃料切れが発生した際，燃料タンクに燃料を満たし，エア抜きをせずにエンジン始動をすると，少量の空気混入ならエンジンを始動することができます。しかし，燃料ライン内の空気混入はエンジンに負荷をかけた際，馬力不足や，エンジン停止という症状を発生させますのでエア抜きを行なってください。**

8．冷却水の保守管理

⚠警告 ヤケド防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。エンジンが冷えてからゆっくり開けてください。

◆キャビン装備機は冷却水の交換時期・濃度管理を確実に行なってください。キャビン装備機はヒーターが室内にあり，管理が不充分な場合ヒーターコアチューブが腐食し室内に熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。

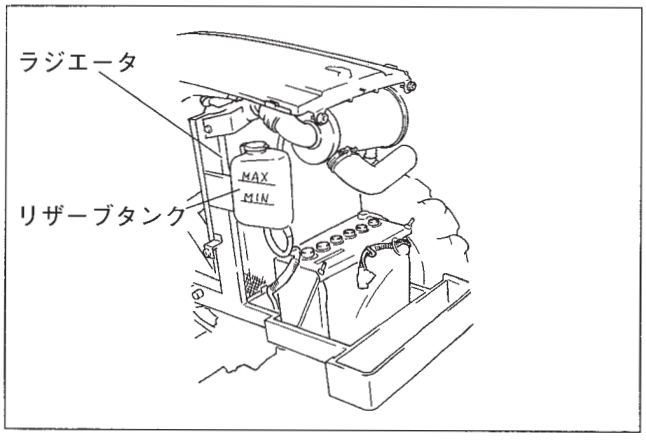
ラジエータの冷却水の取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きな影響を与えます。

❶ 冷却水の点検

(1) ラジエータにはリザーブタンクが付いていてラジエータ内の冷却水を適量にする構造になっています。運転前に点検を行い冷却水が不足している時は補給します。

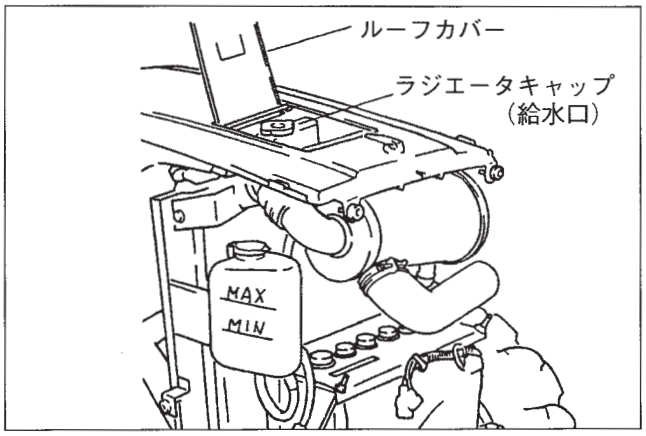
(2) サイドカバー右を開いてリザーブタンク内の冷却水が《ＭＡＸ》（上限），《ＭＩＮ》（下限）の間にあることを確認します。

(3) 冷却水が不足している時はリザーブタンクに補給します。



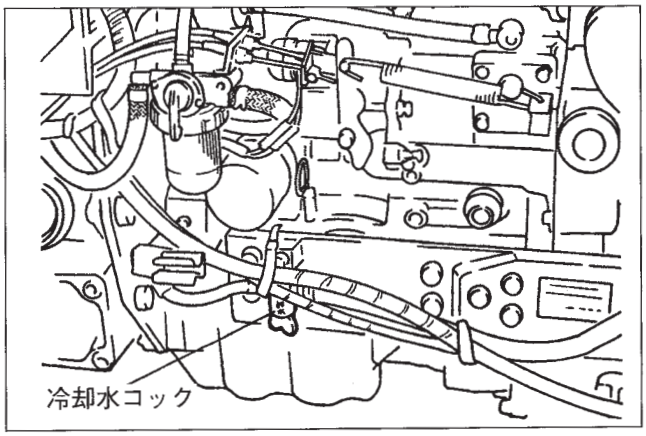
❷ 冷却水の交換

(1) ボンネットのルーフカバーを開きラジエータキャップを外します。



(2) 右サイドカバーを外し，エンジン冷却水コックをゆるめ，冷却水を排水します。

リザーブタンクの排水はリザーブタンクを外して行います。



(3) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・洗浄剤を使用すると効果的です。

(4) 排水が終わったら冷却水コックを閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を入れたのちラジエータキャップを閉めます。

(5) リザーブタンクの《**MAX**》（**上限**）まで冷却水を入れます。

・一度エンジンをかけると冷却水が循環してラジエータ内の水量が減りますのでリザーブタンクの《**MAX**》（**上限**）まで補給します。

・エンジンラジエータ内部の腐食を防止するため，冷却水に防錆剤を添加します。

❸ 不凍液の注入要領

(1) 工場出荷の時は不凍液が注入され「**外気温度−25℃**」まで効力がありますが，納入後１年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き「**不凍液濃度基準**」を参考に入替えます。

不凍液濃度基準表

外気温度	℃	−5	−10	−15	−20	−25	−30
不凍液濃度	%	20〜25	25〜30	30〜35	35〜40	40〜45	45〜50

・不凍液は「ロングライフクーラント」を使用します。

(2) 別容器（ポリバケツ）に不凍液を必要量（不凍液濃度基準表参照）入れます。

(3) 清水を加えよく攪拌した後にラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

取扱いのポイント

- **冷却水には清水を使用してください。泥水や塩水を使用しないでください。**
- **冬季には冷却水が凍結し，エンジンやラジエータを破損することがあります。使用後は冷却水を抜取るかまたは不凍液を混合してご使用ください。**

9. ミッションオイルの点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ミッションオイルの点検および交換する時は平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

❶ 点検

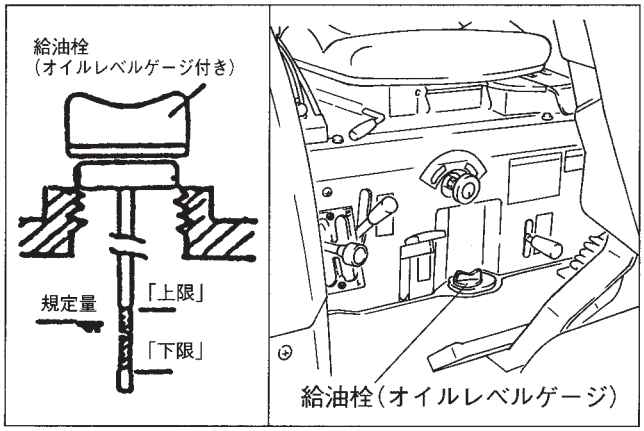
・給油栓を外し，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」から「**下限**」の間（規定量）まであれば適量です。

・エンジンを始動しているときは，オイルレベルが低下します。検油する場合はエンジンを停止して，5分以上たってから行います。

・エンジン始動前にオイルレベルを確認します。

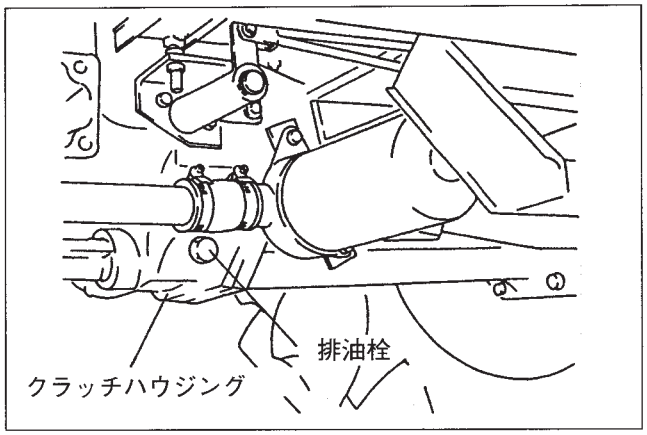
❷ 補給

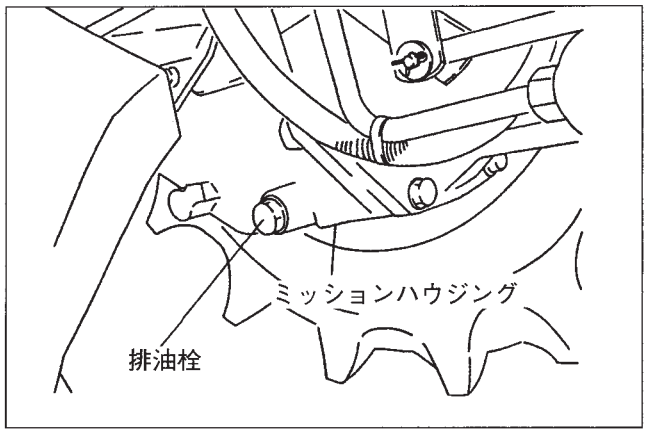
・不足している場合はオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで補給します。



❸ オイルの交換

(1) ミッションハウジング後方下部1個所およびクラッチハウジング下部1個所の排油栓を外しオイルを抜きます。





(2) 排油栓を締め新しいギヤオイルをオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで給油します。

取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジン始動前に調べてください。**
- **パルシフト装備機はマルチSTOUオイルを使用してください。**

10. 油圧オイルフィルタの交換

油圧オイルフィルタは「カートリッジタイプ」ですので，お買いあげのうえ交換します。(128ページ参照)

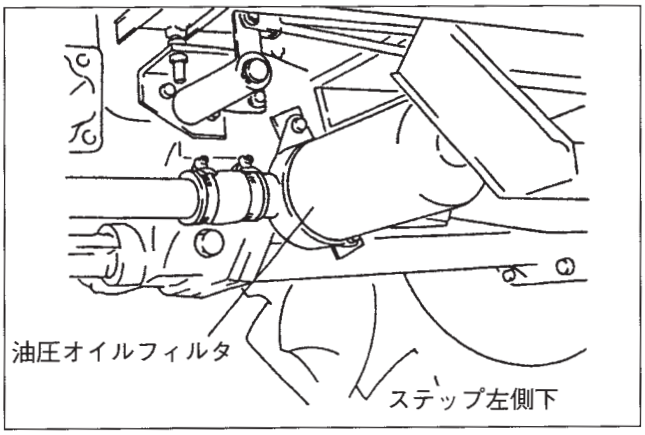
・初回……100時間運転後に交換。

・第2回目より……300時間運転ごとに交換。

❶ ステップ左下の油圧オイルフィルタの回りの土などを取除きます。

❷ 油圧オイルフィルタは手でゆるまない場合には専用工具（市販品）を使用して，外します。

❸ 油圧オイルフィルタを交換したときは，オイルフィルタの容量分オイルが多く入るので，5分間運転してエンジン停止し5分以上たってからオイルレベルゲージで確認し不足している場合は，オイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで補給します。



取扱いのポイント

- **油圧オイルフィルタを取付けるときはパッキン面にオイルを塗り，油圧オイルフィルタを手で締め，パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。**

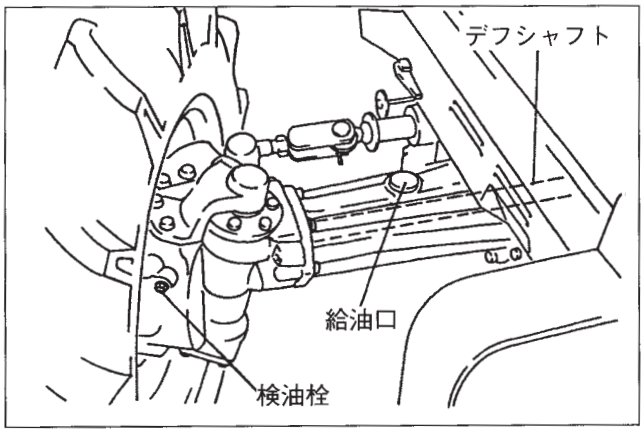
11. フロントアクスルオイルの点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆フロントアクスルオイルの点検および交換する時は平坦な場所に置き，エンジンを停止して行なってください。

❶ 点検・補給

検油栓を外しオイルが出れば適量です。不足している場合は検油穴からオイルが出るまで給油口より補給します。

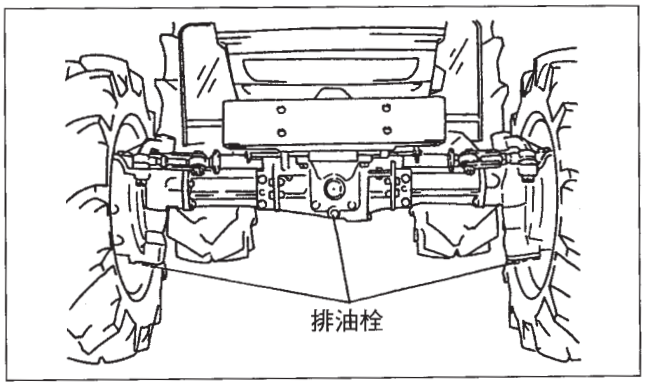


❷ オイルの交換

(1) 排油栓（3個所）を外し，オイルを抜きます。

(2) 排油栓を締め，新しいギヤオイルを給油口（左）より規定量給油します。

(3) 左右の検油栓を取外し，オイルが出たら栓を締めます。



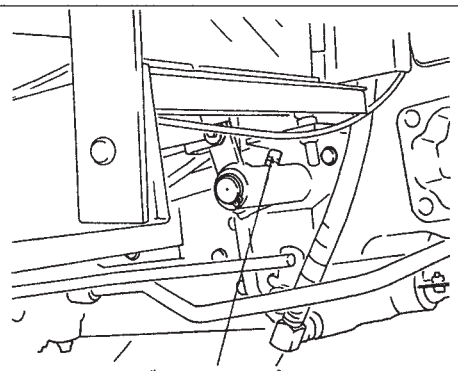
取扱いのポイント

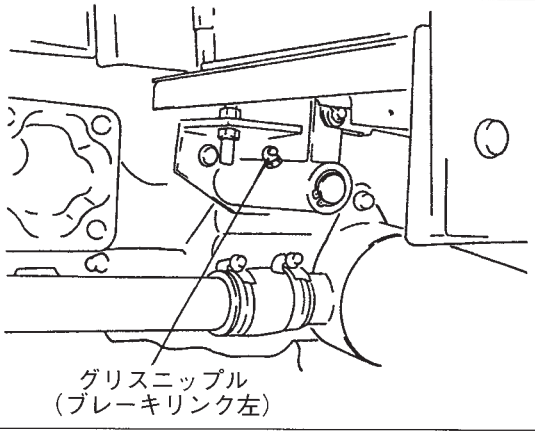
- **オイルの量は，エンジン始動前に調べてください。**

12. 各部の給脂

❶ ブレーキリンク

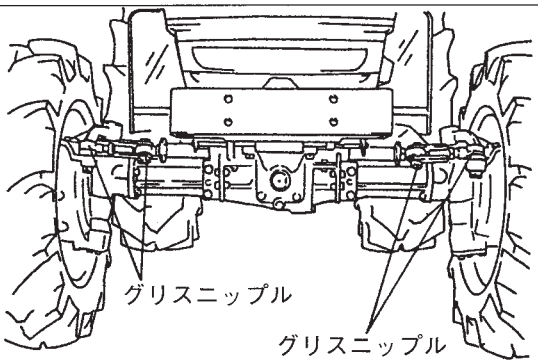
・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。





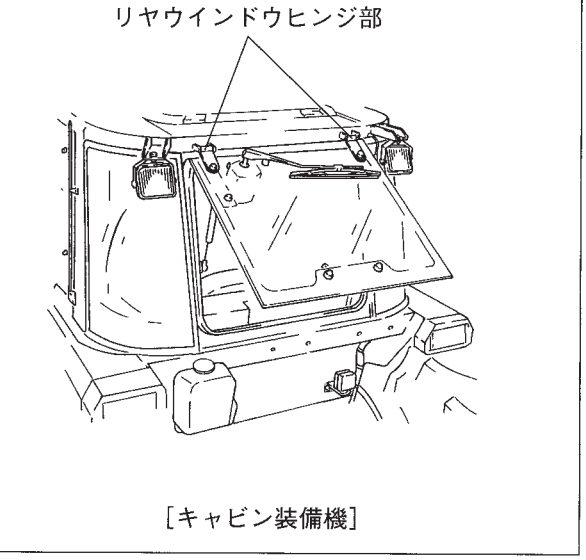
❷ ロッドエンド

・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。
（4 個所）



❸ リヤウインドウヒンジ

・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。
（2 個所）
・リヤウインドウの開閉が重いとき，または開閉時に音がする場合は注油します。

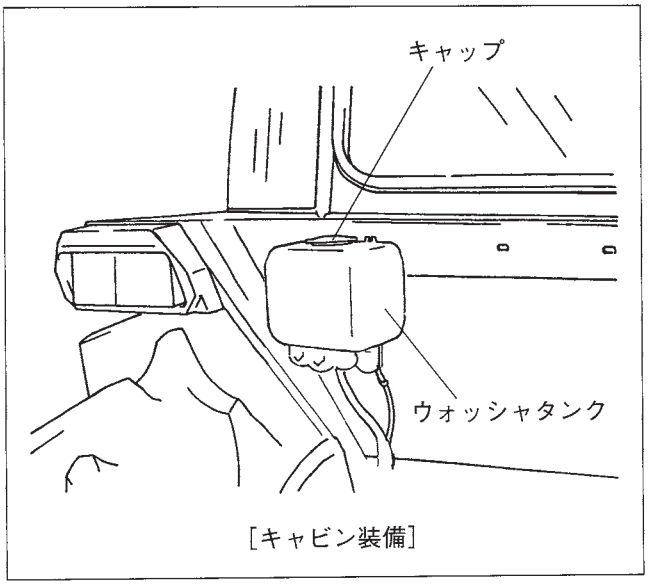


13. ウォッシャ液の給水

❶ ウォッシャタンク

・タンクキャップを外し，ウォッシャ液を給水します。

・容量……2.0 ℓ

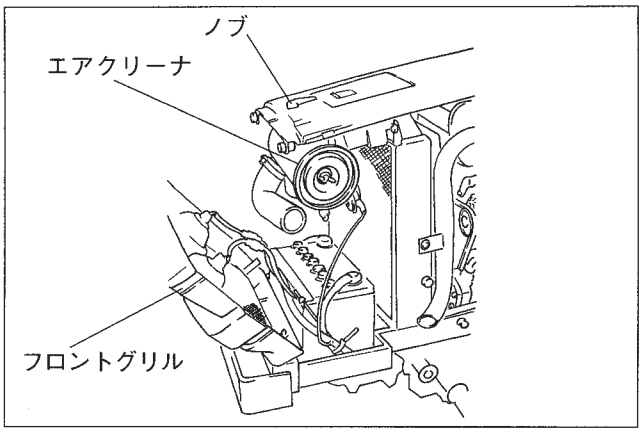


［キャビン装備］

3．各部の掃除のしかた

1．エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたまま使用すると，エンジン内部が摩耗します。また出力が低下します。

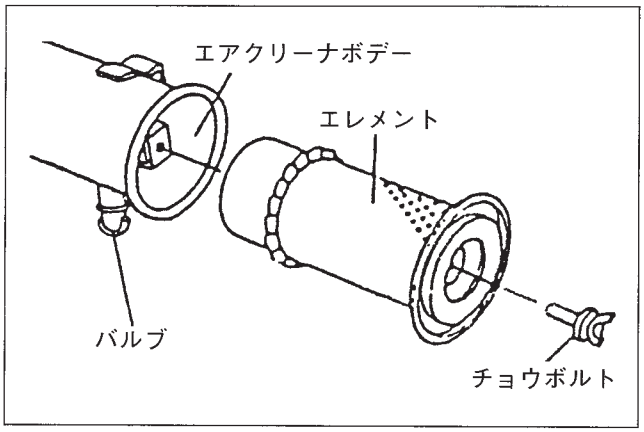


❶ ノブを右に回してフロントグリルを前方へ倒します。

❷ 左側のサイドカバーを外します。

❸ チョウボルトを外し，エレメントを取出します。

❹ エレメント・エアクリーナボデーの内部・バルブの内部を掃除します。



取扱いのポイント

- **コンプレッサで吹きつける場合は，空気圧「7 kgf／㎠以下」で行なってください。**

2．ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除

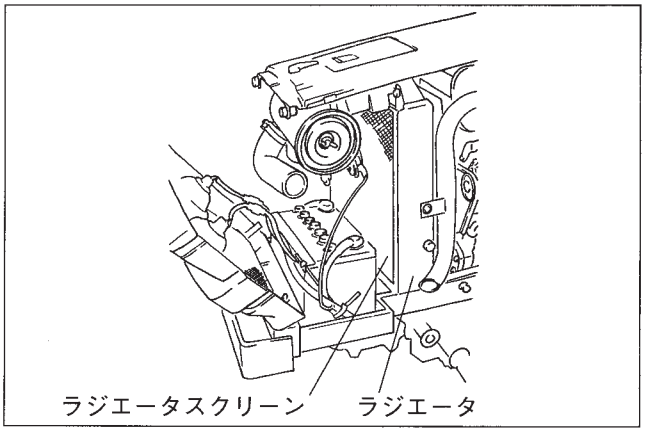
⚠警告 ヤケド防止のために

◆ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除をする時は，エンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

❶ サイドカバー左を開きます。

❷ ラジエータスクリーンを左側に抜取り，手で「**ゴミ・ワラ**」等を取除きます。

❸ ラジエータの目詰まりを点検し，詰まっている場合は，まずラジエータ前面の手で取れる大きな「**ゴミ・ワラ**」等を取除き，エアをエンジンファン側より吹きつけ「**ホコリ・ゴミ**」等を取除きます。



取扱いのポイント

- **ラジエータスクリーンを取外す時は前輪タイヤを左側にきっておくと外しやすいです。**

3. カーステレオの掃除［キャビン装備機］

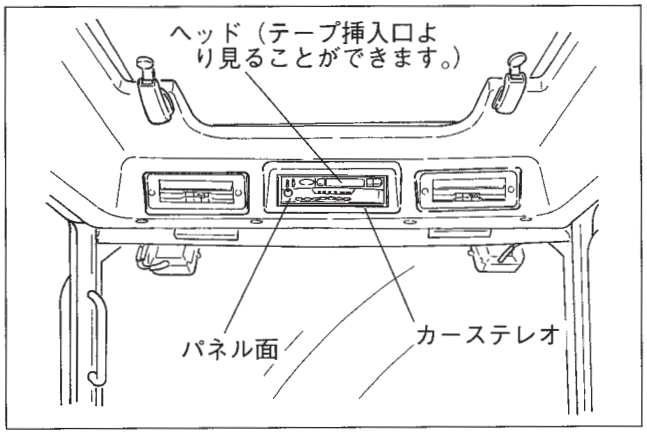
❶ パネル面の掃除

乾いた柔らかい布でふいてください。汚れがひどいときは中性洗剤を少し含ませてふきます。

ベンジン，シンナー，化学ぞうきん類はパネル表面が変質しますので使用しないようにします。

❷ ヘッドの掃除

ヘッドが汚れると音程が狂う，音質が悪くなる，などの原因になりますのでときどき掃除をします。お手入れには市販のクリーニングテープを使用します。



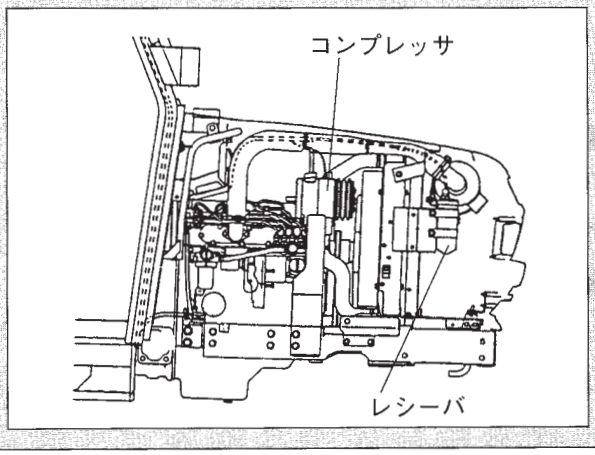
取扱いのポイント

- **本機やカセットテープに磁気を帯びたものを近づけますと，ヘッドに磁気を帯び，性能を損なったり，テープの音を消してしまうことがあります。**
  ヘッドにドライバやピンセットなど金属物も近づけないでください。
- **極端に暑いときや寒いときは，車内を適温にしてからご使用になりますと，よりよい性能が得られます。**
- **水がかかると故障の原因になります。車内掃除には十分ご注意ください。**

4. エアコンの掃除［キャビン装備機］

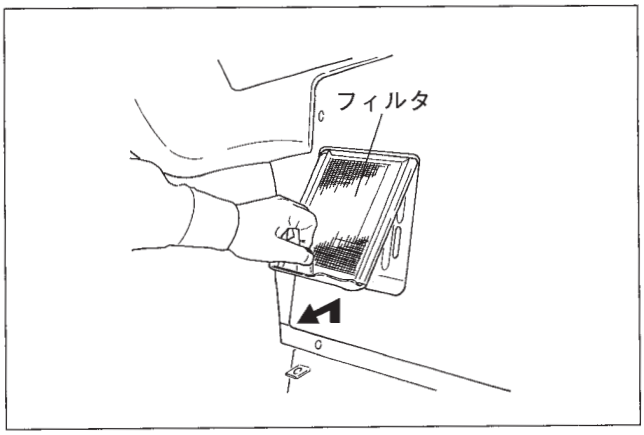
⚠警告 傷害事故防止のために

◆コンプレッサ及びレシーバへのスチーム洗浄は，冷媒ガスの圧力が上昇して破裂を引起こし，傷害事故の原因となりますのでスチーム洗浄はさけてください。



❶ 内気循環口の掃除

フィルタが汚れて目詰まりすると，吹出し風量が少なくなりますので，水洗いまたは，圧縮エアで汚れを落とします。



4．各部の点検と調整のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

・各部は出荷の時に正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度を超えた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

1．ファンベルトの点検・調整

❶ 点検

ファンベルトの長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が「**10～13㎜**」となっていますか。

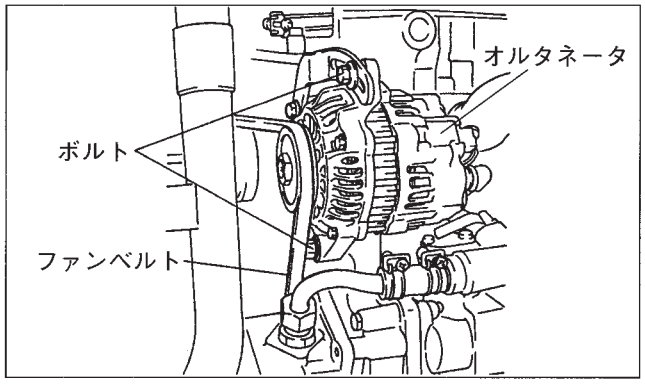
❷ 調整

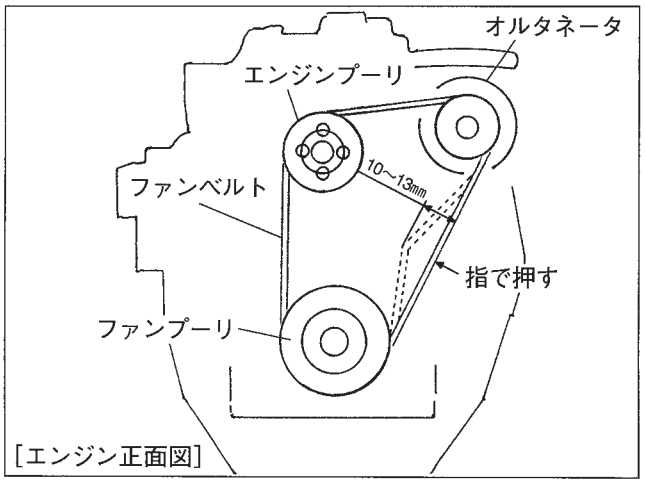
(1) オルタネータ取付ボルト,ナットをゆるめます。

1）オルタネータを外側に倒しベルトを張ります。

2）オルタネータを内側に倒すとベルトはゆるみます。

(2) 調整後は取付ボルトを確実に締付けます。





[エンジン正面図]

2．クラッチペダルの点検・調整

⚠警告　傷害事故防止のために

◆クラッチペダルの遊び調整後，クラッチペダルを踏込んで，クラッチが確実に切れることを確認してください。

❶ 点検

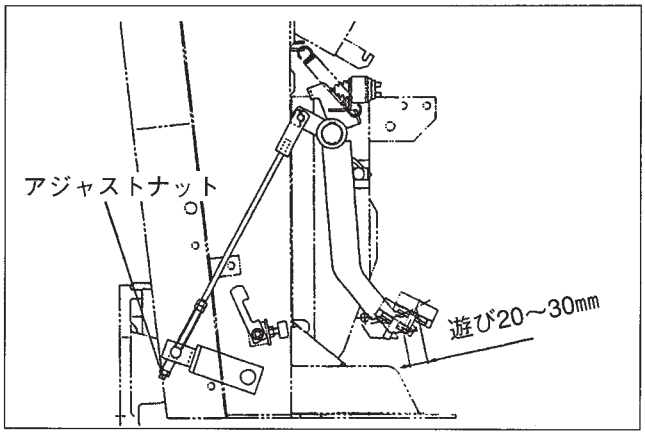
クラッチペダルの遊び量が「**20～30㎜**」となっていますか。

❷ 調整

アジャストナットを回して調整します。

(1) ねじ込む…遊びが少なくなります。
（右回転）

(2) ねじ戻す…遊びが多くなります。
（左回転）



3. トーインの点検・調整

⚠注意

◆トーインの調整が悪いと走行が不安定になることがあります。

・トーインは車の走行安定性を左右する重要な役目を持っています。走行中にハンドルが取られやすくなった時はトーインが狂っている恐れがありますから点検調整します。

・トーインとは前輪を上から見て前部が後部より狭くなっていることを言います。

❶ 点検

(1) トーインがタイヤ中心で「0～10㎜」になっていますか。

トーイン＝L2－L1＝0～10㎜

(2) トーインの点検は次の方法で行います。

1）トラクタを水平な場所に置き，前輪を真っ直ぐにします。

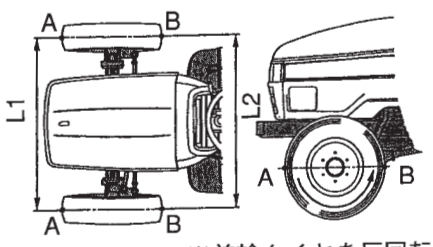
2）左右タイヤの中心線上と同一高さのタイヤの真ん中にチョークで印をつけます。（A点）

3）左右タイヤのA点間の幅（L１）を測ります。

4）トラクタを前進させ，前輪タイヤを半回転させます。

5）A点が，半回転してB点となった時の左右タイヤのB点間の幅（L２）を測ります。

6）L２からL１を差し引いたものがトーインです。トーインが規定値であるか確認します。規定値でない場合は次の方法で調整してください。



※前輪タイヤを反回転させます。

❷ 調整

シリンダのストロークのエンドでのロッドの残りしろが左右同じになるように，次の要領でロッドを調整します。

(1) 前輪の遊びがないことを確かめてから調整を行います。

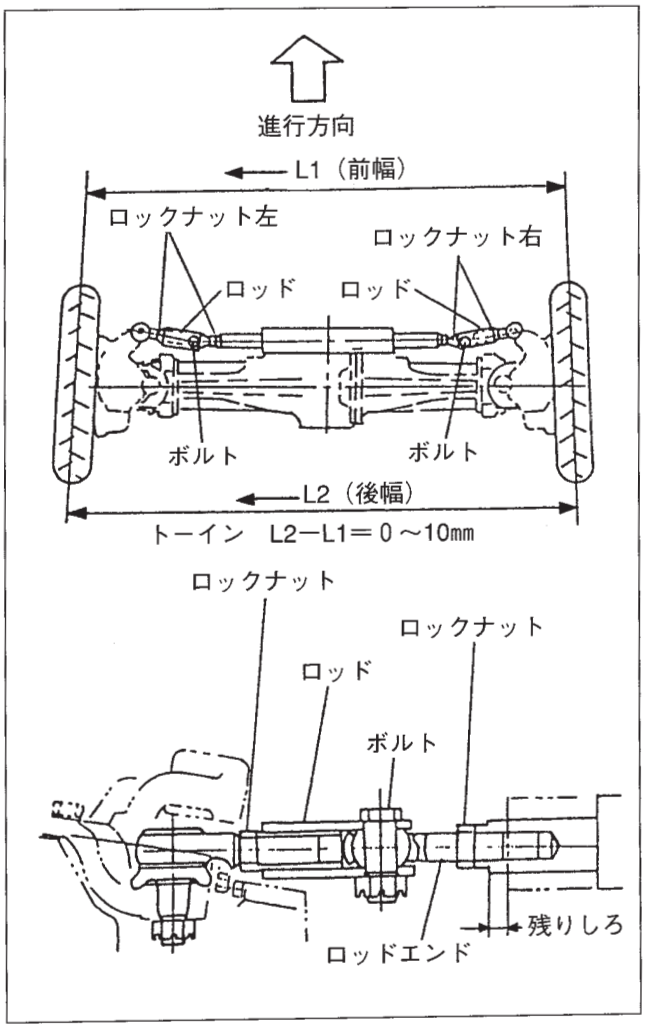
(2) 調整する側のロッドのロックナット（２個所）をゆるめます。

(3) ロッドを回してロッドエンドをネジこめばトーインは大きくなります。

調整は１回転単位とし，ボルトの頭は必ず上方になるよう調整します。

(4) 調整後はロックナットを確実に締付けて，フロントタイヤの前端を手で左右に振ってみて異常な遊びのないことを確かめます。

締付トルク　15～17kgf・m



4. ブレーキペダルの点検・調整

⚠ 警告 傷害事故防止のために

◆調整時左右のブレーキペダルの踏込み量を合わせてください。
ブレーキの効きが悪かったり，片効きなどがあると転落，転倒事故の原因となります。

・ブレーキペダルの遊び調整

❶ 点検

左右のブレーキペダルの遊び量が各々「**25～35㎜**」になっていますか。

❷ 調整

(1) ロックナットをゆるめます。

(2) ジョイントを回して調整します。
ねじ込む…遊びが少なくなります。
ねじ戻す…遊びが多くなります。

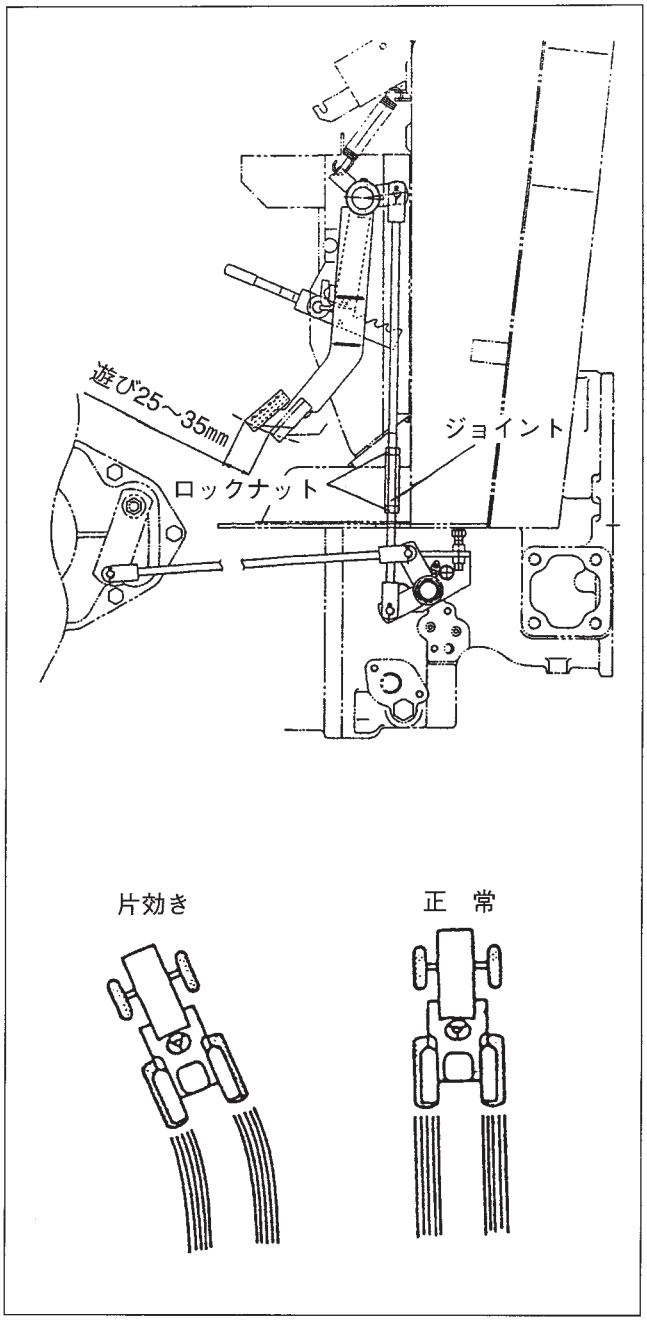
(3) ロックナットを締付けます。
締付トルク……2.1～3.0kgf・m

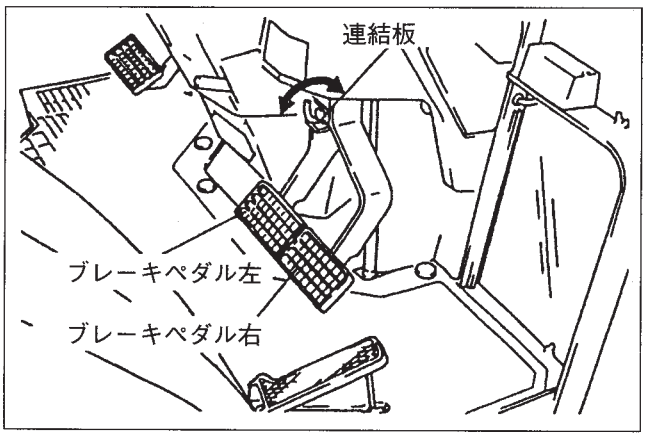
❸ 確認

左右ともに正規の寸法が出たら次の要領で確認します。

(1) 効　き…片輪制動その場旋回をしてみてブレーキの効きを確かめます。(左右)

(2) 片効き…左右ブレーキペダルを連結板で連結し，普通走行で走り，両方のブレーキペダルを一緒に踏んで，タイヤスリップ跡により片効きの有為を確かめます。トラクタが真っ直ぐ止まれば正常ですが，曲がって止まる場合は再調整します。





5. タイヤの点検

⚠警告 死傷事故防止のために

◆タイヤの空気は入れすぎないでください。空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と，タイヤが破裂し，死傷事故につながることがあります。

◆タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，タイヤが破裂するおそれがありますので，使用しないでください。

◆タイヤ・チューブ・リム等の交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。

❶ 点検

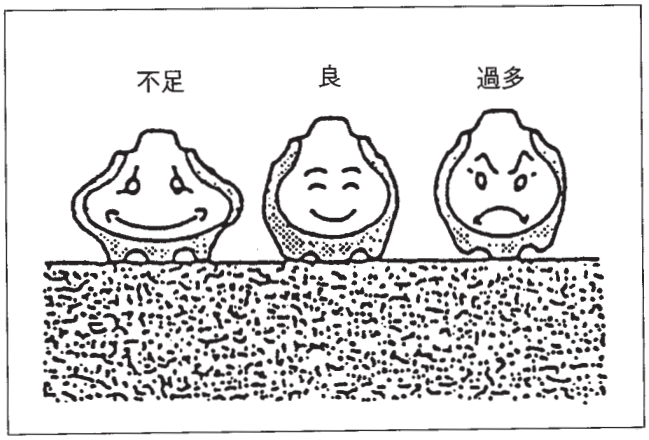
(1) タイヤにキレツ等損傷がないか点検します。パンク等損傷のひどい場合は，タイヤを交換します。

(2) タイヤの空気圧を作業前に点検します。

空気圧が［前輪1.5kgf／cm²（150kPa）　後輪1.0kgf／cm²（100kPa）］になるようにします。（［　］内は標準空気圧です。）

❷ 調整

標準空気圧になるよう調整します。



取扱いのポイント

- フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を2.5 kgf／cm²（250kPa）にしてください。

6. ハンドルの点検

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハンドルに著しいガタや遊びがないか点検してください。著しいガタや遊びがあると思わぬ事故になることがあります。

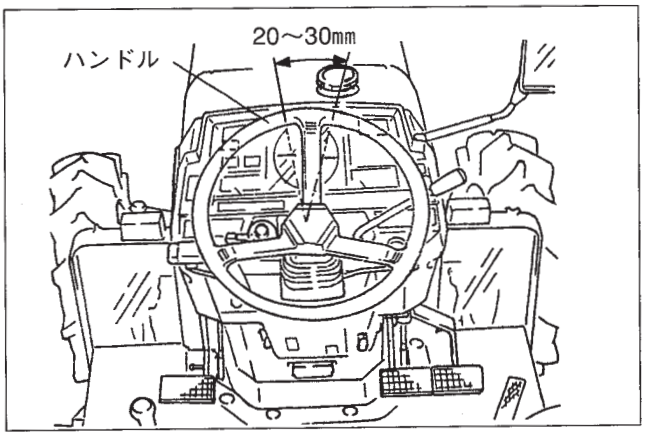
❶ 点検

ハンドルの遊び量が適正でないと，ハンドルが重くなったり直進性が悪くなります。遊び量を点検します。

エンジンを始動させ，ハンドルを軽く左右に動かして遊び量がハンドルの外側で20～30㎜であれば適正です。

❷ 遊び量が適正値でない場合

遊び量が適正でない場合はただちに**「お買いあげ先」**で点検を受けます。



7．ホース類の点検

⚠危険 火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれていないか確認し，もれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

⚠警告 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出します。

◆パワーステアリングホースの継ぎ部のゆるみや，油もれがないか点検してください。油がもれるとパワーステアリングがきかなくなり事故を引起こす原因になります。

❶ 点検

(1) 燃料ホース，ラジエータホース，パワーステアリングホースなど老化や傷による燃料もれ水もれ油もれがないか，また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

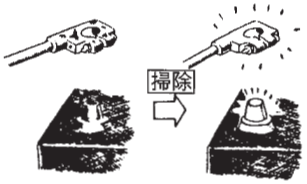
取扱いのポイント

- **燃料ホース，パワーステアリングホースは定期交換部品ですので２年ごとに交換してください。**
- **燃料ホースを交換した時は，エア抜きをしてください。(94〜95ページ参照)**

❷ パワーステアリングホースを交換したら

(1) パワーステアリングホースを交換した時は，左右一杯にハンドルを切って，油圧回路中のエア抜きをしてください。

「端子のチェック」



8．電気配線の点検と掃除

⚠警告 火災防止のために

◆電気配線の点検時には，キーを《 切》にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。

◆ワイヤハーネスおよびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電または焼損などで火災や損傷の原因となりますので交換してください。

◆エンジン，バッテリ，電気配線まわりのワラクズ等を取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

(1) 配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」等をすることがあります。

(2) 傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている「**ワラやゴミ**」などは「**火災**」の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐食**」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐食をサンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。

取扱いのポイント

- **エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。**
  エンジン始動不良の原因となります。

9. バッテリの点検と充電

⚠危険 ヤケド，火災，傷害事故防止のために

◆ブースタケーブルを使用する時は取扱説明書の「ブースタケーブルの使いかた…」に従い手順を守って行なってください。

- ブースタケーブルは100A以上の仕様のものを使用する。
- ブースタケーブル接続前にエンジンを停止する。

◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。

◆バッテリは，充電する時引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆充電する時は機械からバッテリを取外してください。

◆バッテリを「着脱」する時は，エンジンを停止し，キーを抜取ってください。

◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をしてください。

◆バッテリを充電する時は，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリ液は，希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。バッテリ液で失明やヤケドをすることがあります。

◆充電の時「バッテリ液」が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

◆バッテリ液が目，皮ふ，被服物についた時はすぐに多量の水で洗い，飲み込んだ時はすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだ時は医師の診断を受けてください。

❶ 点検

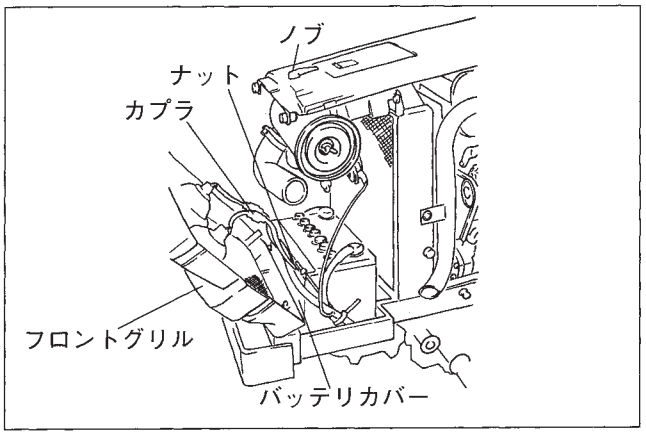
(1) ボンネット上のノブを時計方向に回して，フックを外し，フロントグリルの上側を少し前に倒します。

(2) 前照灯のカプラを2個所外します。

(3) フロントグリルを上方に引上げて取外します。

(4) ナット2個を緩めて，バッテリカバーを取外し，バッテリの残存容量と液量を確認します。

指定バッテリ……65D31R



❷ バッテリ取付金具の点検

(1) バッテリの取付けがゆるいと上下左右に動き，電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

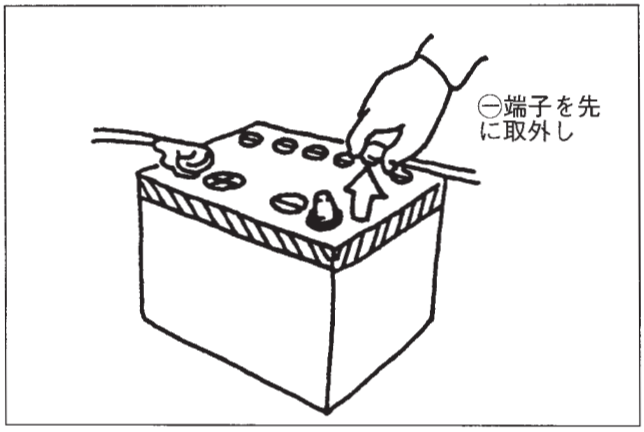
(2) 取付金具でしっかり固定します。

(3) 取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。

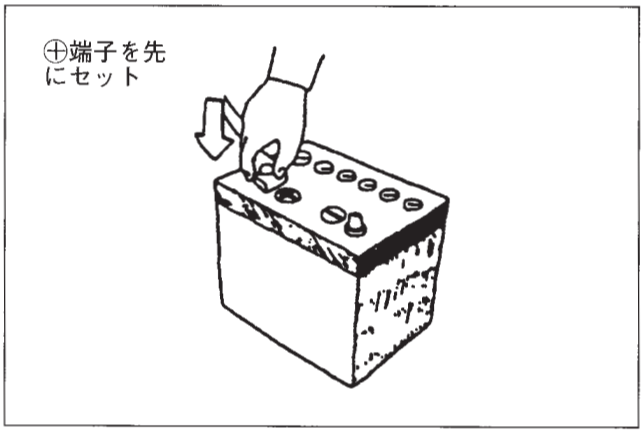
❸ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは，エンジンを停止し，「**キー**」を抜取り，すべての制御スイッチを「**切**」(OFF) にします。

(2) バッテリ端子を取外すときは「**アース側㊀端子**」を先に外します。



(3) バッテリ端子をセットするときは「**プラス側㊉端子**」を先に取付けます。

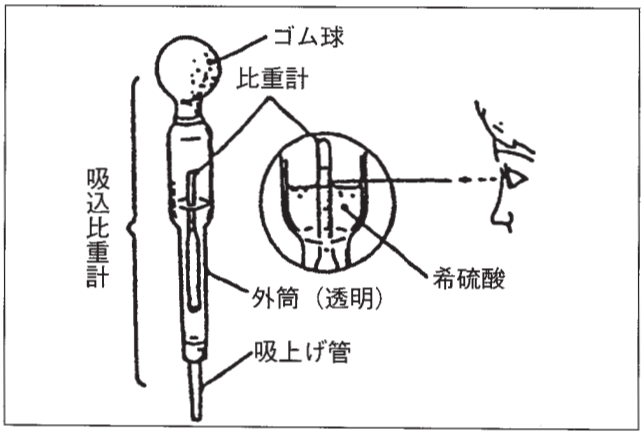


❹ 残存容量の確認

(1) バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。

(2) 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

(3) バッテリ液の比重が「**1.220 (20℃)**」以下であれば補充電をします。



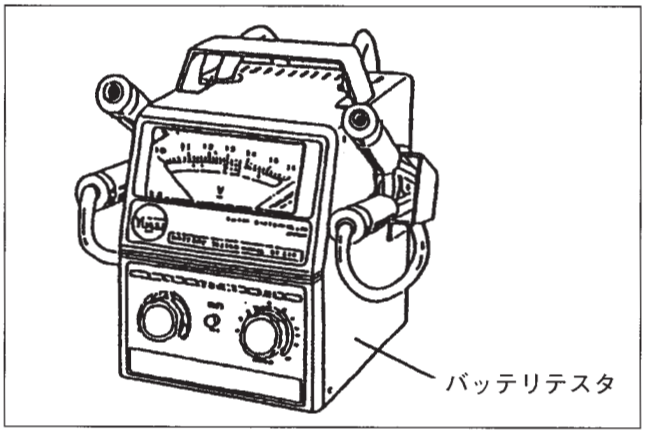
比重 (20℃)	放電電気量 (%)	残存容量 (%)
1.280	0	100
1.235	25	75
1.190	50	50
1.145	75	25
1.100	100	0

(4) バッテリテスタで測定し，メータの指示範囲が黄ゾーン以下であれば補充電をします。

緑ゾーン……正常

黄ゾーン……やや放電

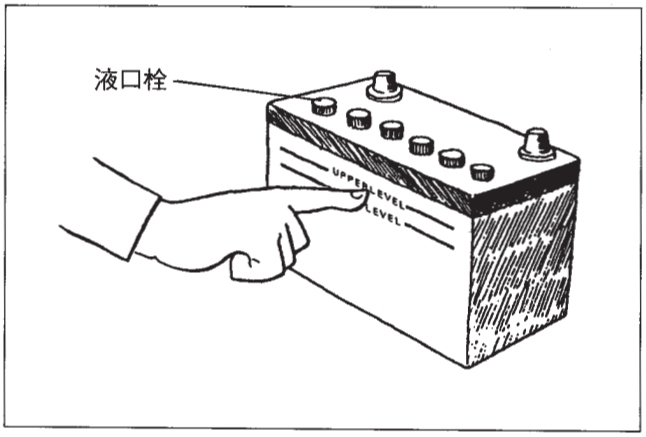
赤ゾーン……かなり放電



❺ バッテリ液量の確認

(1) 使用状態での充電電流によりバッテリ液が電気分解され，しだいに液面が低下します。バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

(2) 減っていれば，バッテリ補充液を《**UPPER LEVEL**》まで注水補給します。



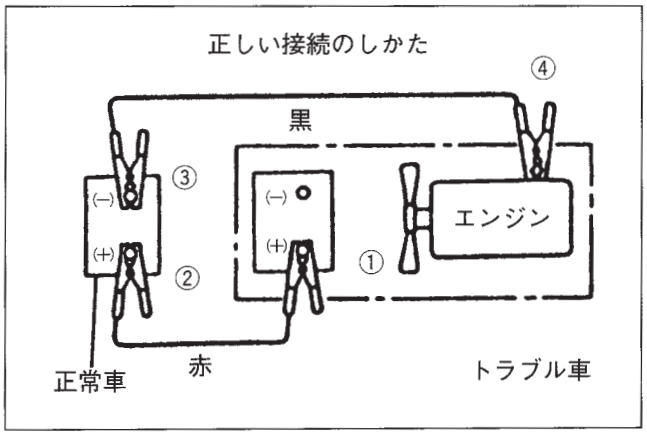
❻ ブースタケーブルの使いかた

バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。ブースタケーブルは100A以上の仕様のものを使用します。このときは次の手順を守って行います。

「ブースタケーブルの接続のしかた」

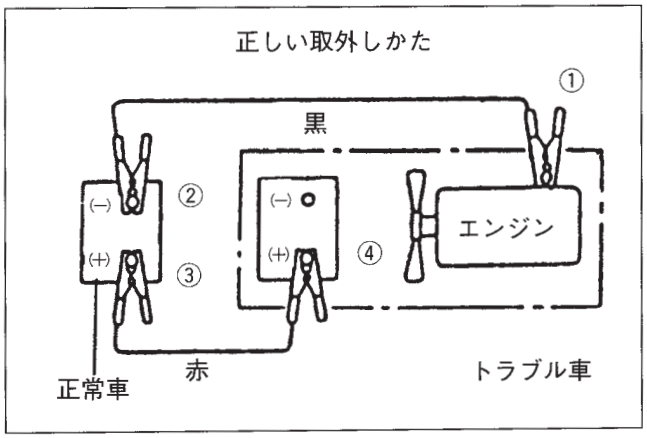
(1) 正常車のエンジンを停止して，図の①～④の順序でブースタケーブルを接続します。

(2) 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくい時は正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。



「ブースタケーブルの取外し方」

(1) エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。

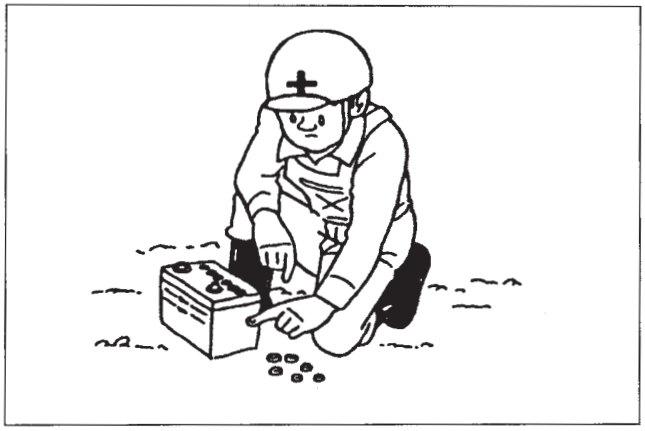


❼ バッテリの充電

(1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，**「キー」**を抜取ります。

(2) 機械からバッテリを取外します。

(3) 充電するときは**「液口栓」**をすべて取外します。

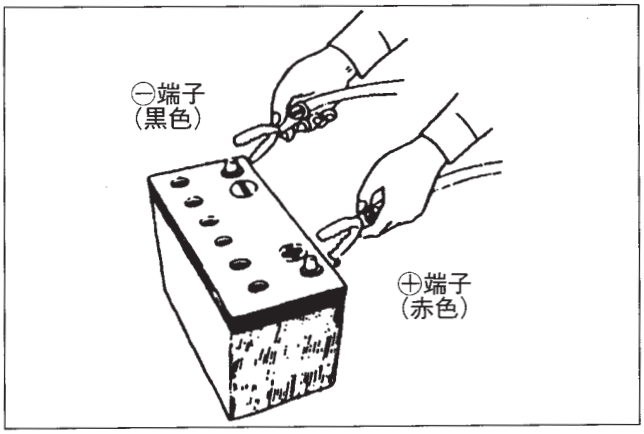


(4) 急速充電はできるだけ避け，普通充電し液温が**「45℃」**を超えないようにします。

(5) **「水素ガス」**が滞留しないよう風通しのよい場所で充電をします。

(6) **「火気」**を近づけたり**「スパーク」**による電気火花が発生しないようにします。

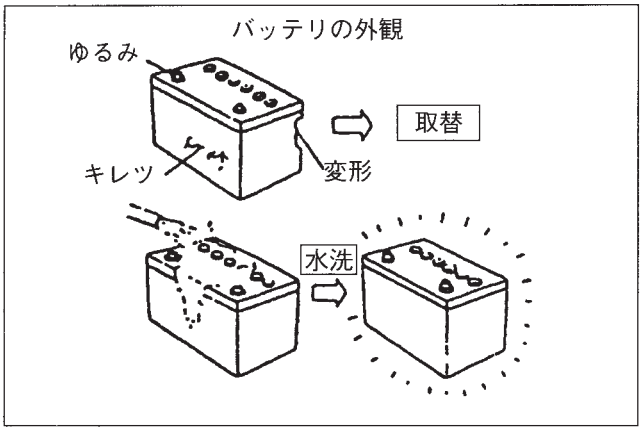
(7) 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを**「切」**にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。



(8) 充電のとき**「バッテリ液」**が飛散することがあるので眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにします。

取扱いのポイント

- 各端子は「ゆるみ」がないように締付けてください。
- 取付けのとき，バッテリ部は布などで油等をふき取ってください。取付け後バッテリ部には，腐食防止のためグリスを塗布してください。
- バッテリ⊕端子のゴムブーツは，取付けてください。
- 厳寒時は，機械を格納するときにバッテリを取外して暖かい所に保管してください。
- 亀裂や変形のあるバッテリは新品と取替えてください。汚れていれば清水で洗浄してください。洗浄後は水分を拭きとってください。
- 化学繊維製布による拭きとりは，静電気が発生する恐れがありますのでさけてください。



10. コンプレッサベルトの張り調整［キャビン装備機］

❶ **点検……**

(1) コンプレッサベルトのタワミは，下図のように中央部を押して（押す力約10kg）18～20㎜の範囲であれば良好です。

❷ **調整……**

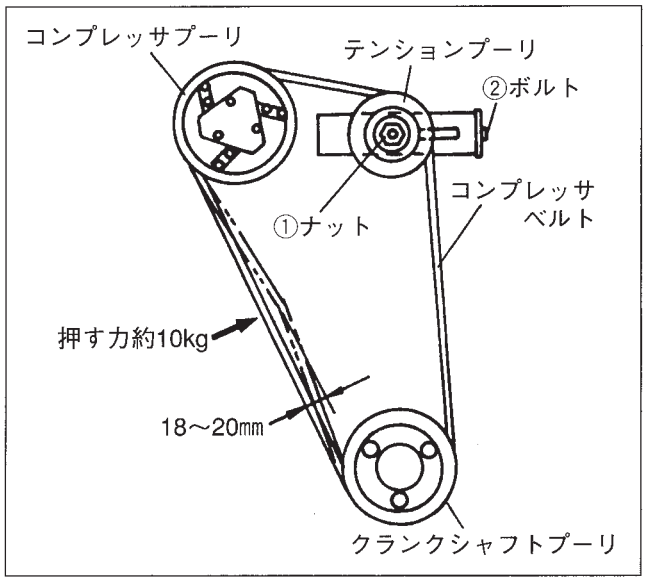
(1) アワメータが50時間経過後，コンプレッサベルトの張り調整を行います。

1）テンションプーリの①ナットをゆるめます。

2）テンションプーリの②ボルトを右に回して調整します。

3）テンションプーリの①ナットを締付けます。

締付トルク　3.7～4.2kgf・m



4）コンプレッサおよびレシーバへのスチーム洗浄は，冷媒ガスの圧力が上昇して危険ですので避けてください。

長期格納のしかた

1．機械の掃除・洗浄・格納

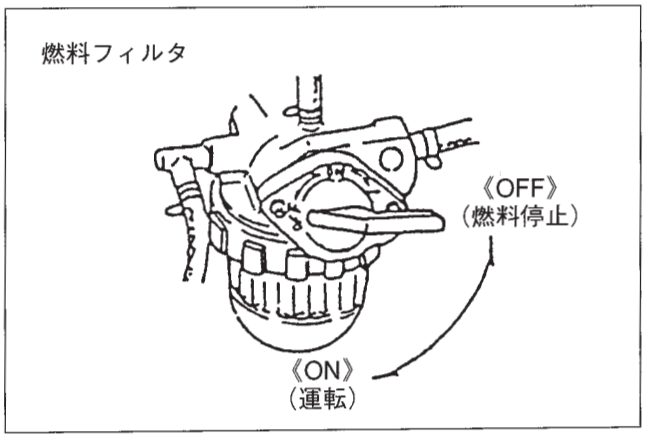
トラクタを保管するときは各部の汚れをよく掃除したうえで次の処置をします。

❶ 金属露出部，ネジ部にグリスやオイルを塗って錆止めします。

❷ 油もれ個所，各部の油量を点検し約５分間エンジンを回してオイルを各部にゆきわたらせます。

❸ 不凍液の濃度を調整します。(95～96ページ参照)

❹ 燃料タンクに軽油を満タンにし，燃料フィルタのコックを《ＯＦＦ》（**燃料停止**）にします。



❺ タイヤの老化を防止するために空気圧を高めに入れてタイヤの下に板等を敷いて直接地面に置かないようにします。

❻ 作業機（ロータリなど）を地面におろします。

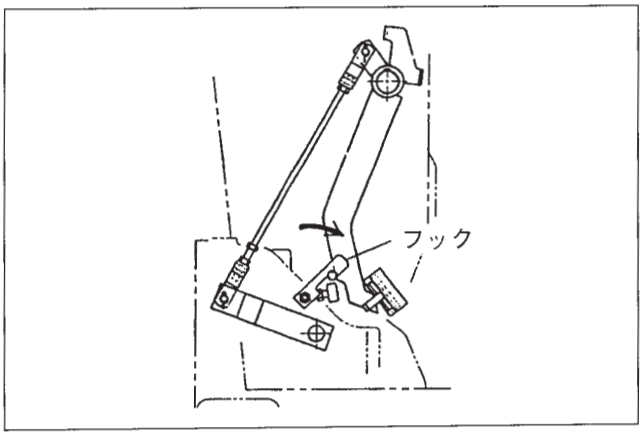
⚠警告 火災防止のために

◆機械にシートカバーを掛ける時はエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときにシートカバーを掛けると火災の原因になることがあります。

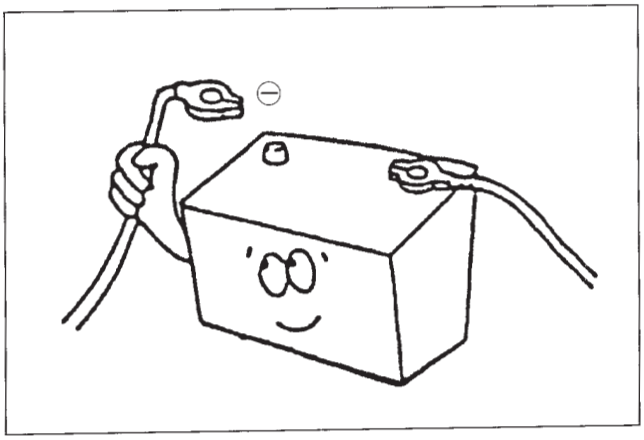
❼ 保管場所は屋内とする。やむをえず屋外におく場合は風雨にさらさないようシートカバーを使用します。また停止直後の「**熱い状態**」ではシートカバーをかけないようにします。

❽ ウエイト類を取外します。

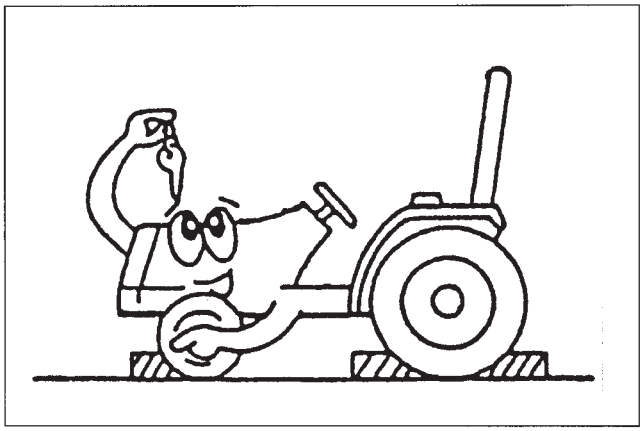
❾ クラッチこう着防止のため，クラッチペダルを踏込み，フックをかけてクラッチ「**切**」の状態にします。



❿ 保管中の不意な漏電，発火を防ぐためバッテリを車体から取外し，風通しの良い屋内に保管します。また機体に取付けたまま保管するときはバッテリのコードのアース側㊀端子を外しておきます。



⓫ 保管中，不意にトラクタが動き出すのを防ぐため，タイヤに歯止めをし，キーを抜取っておきます。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**
- **高圧洗車機にて洗浄する場合には，メータパネルおよび電装品に直接水をかけないでください。**
- **エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。**

2．格納中の手入れ

❶ １ケ月に１度，防錆，バッテリ補充電のためエンジンを約10分間運転します。

❷ 金属露出部，ネジ部を点検し，防錆処置をします。

❸ 油もれ，水もれの有無を点検し不具合のある場合は処置します。

取扱いのポイント

- **エンジンを回す前に保管準備で処置した項目を点検し復元してください。**

3．再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部の点検を入念に行なった後に運転します。

❶ 保管準備で処置した項目を点検し，復元します。

❷ 運転前の点検を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や，調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し，点検を受けてください。
・その時は不調の状況とあわせて「**型式**」・「**機械番号**」をお知らせください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整・整備は，機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，作業機を降ろしエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジンまわりを点検・整備するときは，エンジンが冷えてから行なってください。

1．エンジン部

1．始動しない，または始動困難

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶キーを回しても，スタータが回らない	○クラッチペダルの踏込み不足	・ペダルをいっぱい踏込みます	―
	○バッテリの放電	・バッテリを充電又は交換します	108～110
	○バッテリ端子の外れ，ゆるみ，腐食	・端子部を掃除して確実に締付け，グリスを塗布し防錆しておく	108～110
	○ヒューズⓁ又はⓂの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	24～26
❷スタータは回るが，エンジンがかからない	○燃料タンクに燃料がない。	・補給する	93
	○燃料フィルタのコックが《ON》（運転）になっていない	・《ON》（運転）にする	―
	○燃料フィルタ詰まり	・フィルタの掃除または交換をする	94
	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	94～95
	○ヒューズⓃの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	24～26
	○ヒューズⒷの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	24～26

2. エンジン出力不足およびエンジン自然停止

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶エンジン回転が不規則	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	94～95
	○燃料フィルタの水・ゴミ詰まり	・フィルタの掃除または交換をする	94
	○パイプ系の燃料もれ	・クランプの締付け，パイプ交換をする	―
	○噴射ノズルの水・ゴミ詰まり	・サービス工場で修理する	―
❷エンジンが過回転する	○ガバナにゴミ等が詰まっている	・サービス工場で修理する	―
❸運転中エンジンが突然停止した	○燃料不足	・燃料補給とエア抜きを行う	93～95
	○ヒューズⓁ又はⓂの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	24～26
	○ヒューズⒷの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	24～26
	○ノズル不良	・サービス工場に依頼し交換をする	―
	○オイル不足によるエンジン焼付き	・サービス工場に依頼する	―
❹エンジンが過熱する	○ラジエータの目詰まり	・ラジエータスクリーンを掃除する	101
	○冷却水の不足	・冷却水を補給する	95～96
	○ファンベルトのゆるみ，破損	・ベルトの張り調整または交換をする	103
	○エンジンオイル量が少ない	・規定量まで補給する	92
❺エンジンの排気色が白い（除く始動直後）	○エンジンオイル量が多すぎる	・点検し適正量にする	92
❻エンジンの排気色が黒すぎる	○エアクリーナが詰まっている	・エレメントの掃除をする	101
	○燃料が悪い	・正規の燃料に入替える	93
❼エンジンの出力不良	○エアクリーナの詰まり	・エレメントを掃除する	101
	○燃料不足，燃料フィルタの詰まり	・燃料系統をチェックする	93～95
❽運転中オイルランプが点灯する	○エンジンオイル量が少ない	・規定量まで補給する	92
	○エンジンオイルの粘度が低い	・適正粘度のオイル交換する	92
	○エンジンオイルフィルタの目詰まり	・オイルフィルタを交換する	93
❾運転中にチャージランプが点灯する	○ファンベルトのゆるみまたは破損	・張り調整またはベルト交換をする	103

2．走行・運転操作部

1．走らない，ブレーキがきかない

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶クラッチがすべる	○ペダルの調整不良 ○クラッチライニングの摩耗・焼付き	・ペダルの遊びを調整する ・サービス工場でクラッチを交換する	103 —
❷クラッチが切れない	○ペダルの調整不良 ○クラッチライニングのこう着	・ペダルの遊びを調整する ・サービス工場で修理する	103 —
❸ブレーキの効きが悪いまたは片効きである	○ブレーキペダルの遊び量が大きすぎる ○ブレーキライニング摩耗・焼付き ○左右の踏込み量が異なる	・ペダルの遊びを調整する ・サービス工場でブレーキディスクを交換する ・踏込み量を左右同じにする	105 — 105
❹ブレーキペダルの戻りが悪い	○ブレーキ戻しスプリングの損傷 ○各摺動部のグリス切れ	・スプリングを交換する ・グリスアップをする	— 99
❺ダイヤクイックターンが作動しない	○ヒューズⒹの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する 故障したときは4駆切替レバーを速やかに《4WD》または《2WD》位置にしてください。	24〜26

2. パワーステアリング

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶ハンドルが空転する	○油量不足（ミッションオイル）	・油（油圧作動油）を規定量まで補給する	97
	○配管の損傷，油もれ	・増締め，又は交換する	—
	○ポンプの故障	・サービス工場で修理する	—
❷ハンドルが重い ハンドルが取られる	○タイヤ空気圧の不揃い	・左右共に規定空気圧にする	106
	○ロッドエンドの遊び発生	・サービス工場で交換する	—
	○使用オイルの粘性大	・オイル交換または暖機運転を十分に行う	97
	○トーイン不良	・修正をする	104
❸前輪のふらつき（ハンドルの遊びが多い）	○各締付部のゆるみ発生	・増締めをする	—
	○ロッドエンドの遊び発生	・サービス工場で交換する	—
	○トーイン不良	・修正をする	104
	○油圧シリンダにエア混入	・油量を点検しエア抜きをする	97，107
❹油圧回路系の異常音	○油量不足（ミッションオイル）	・油（油圧作動油）を規定量まで補給する	97
	○暖機運転不足	・暖機運転を十分に行う	—
	○油圧オイルフィルタの詰まり	・油圧オイルフィルタの交換	98
		・パイプのつぶれ等は修理	—

3．油圧部

1．油圧関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶油圧回路の異常音	○油量不足（ミッションオイル） ○暖機運転不足 ○油圧オイルフィルタの詰まり	・油（油圧作動油）を規定量まで補給する ・暖機運転を十分に行う ・油圧オイルフィルタの交換をする ・パイプのつぶれ等は修理する	97 ー 98 ー
❷リフトアームが上がらない	○油量不足（ミッションオイル） ○油圧オイルフィルタの詰まり ○ギヤポンプの故障 ○コントロールバルブの故障	・油（油圧作動油）を規定量まで補給する ・交換する ・サービス工場で修理する ・サービス工場で修理する	97 ー ー ー
❸配管に油もれがある	○各部ジョイントのゆるみ ○パイプの亀裂	・増締めを行う ・サービス工場で交換する	ー ー
❹リフトアームが下がらない	○作業機降下速度調節レバーが《**固定**》位置になっている ○コントロールバルブの故障	・《**速い**》の方向に操作する ・サービス工場で修理する	30 ー

4. 電気・自動制御部

1. 電気関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶電装品各部が作動しない	○ヒューズの溶断	・配線をチェックし各ヒューズを交換する	24〜26
❷ランプ，インジケータが点灯，点滅しない	○電球（バルブ）切れ	・各電球を交換する	ー

2. 自動制御関係［マイコン装備機］

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶マイコンが作動しない	○ヒューズⒹの溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	24〜26
❷ポジションコントロールが作動しない	○作業機降下速度調節グリップが《**固定**》されている	・《**速い**》方向に操作する	30
	○作業機切替ダイヤルが《**チェック**》か《**油圧取出**》になっている	・作業機の種類にあわせて切替える	58〜60
❸耕深自動が作動しない	○耕深カプラが外れている	・接続し，耕深自動スイッチを押す	61〜63
	○耕深設定ボリュームが《**うねたて**》になっている	・耕深量を設定する	
	○作業機切替ダイヤルが《**チェック**》か《**油圧取出**》になっている	・作業機の種類にあわせて切替える	
❹作業機が水平にならない	○傾斜設定ボリュームが《**水平**》になっていない	・《**水平**》にする	64〜65

取扱いのポイント

- **各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も合わせて行なってください。**
- **ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。**

5. キャビン部

1. キャビン関係

状　況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
❶スイッチが作動しない	○ヒューズ切れ	・配線をチェックし各ヒューズを交換する	24〜26
❷ワイパ（前）が作動しない	○ブレーカが突出している	・ワイパブレードに雪や落ち葉がつもっていたら取除き，60秒経過してからブレーカを押す	76
❸ウォッシャ液が出ない。	○ウォッシャ液不足	・補給する	100
❹室内灯が点灯しない	○電球（バルブ）切れ	・電球（バルブ）を交換する	—
❺作業灯が点灯しない	○電球（バルブ）切れ	・電球（バルブ）を交換する	—
❻冷・暖房がきかない	○エアコンスイッチが《OFF》になっている	・《ON》にする	85
❼風量が少ない	○フィルタ目詰まり	・フィルタを掃除する	102

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も合わせて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

付　　表

1．主要諸元

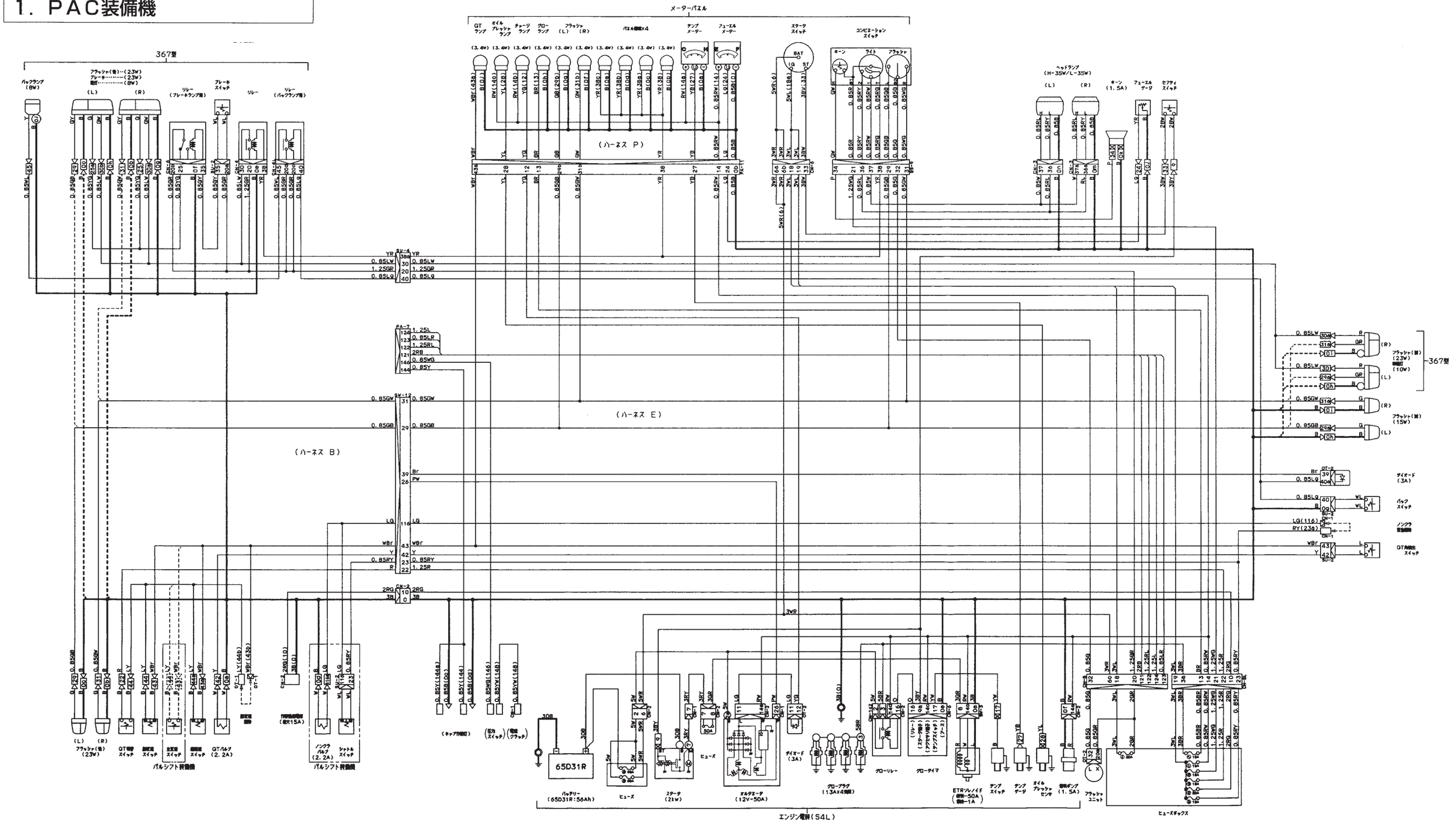
型式			337型	367型		
区分			標準車	標準車	超低速車	高速PTO車
駆動方式			4輪駆動			
機体寸法	全長（ロワリンク先端）	mm	3295			
	全幅	mm	1480			
	全高（ハンドル上端）	mm	1940〈1995〉（1500）	2040〈1995〉（1500）		
	最低地上高	mm	365			
機体質量（重量）	全重量	kg	1500〈1650〉	1520〈1670〉		
	前輪／後輪	kg	645〈700〉／855〈950〉	655〈715〉／865〈955〉		
エンジン	形式名		S4L	S4L2		
	種類		水冷4サイクル4気筒ディーゼル			
	総排気量	cc{ℓ}	1500{1.500}	1758{1.758}		
	出力／回転速度	PS{kW}／rpm	33{24.3}／2800	36{26.5}／2700		
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量	ℓ	35			
	バッテリ	V・Ah	12・56（5）			
走行部	タイヤ 前輪		8－18－4PR			
	タイヤ 後輪		12.4－28－4PR			
	軸距	mm	1835			
	輪距 前輪	mm	1220			
	輪距 後輪	mm	1150～1645			
	クラッチ形式		乾式単板			
	ブレーキ形式		ディスク式（湿式）			
	かじ取方式		パワーステアリング			
	変速方式		同期かみ合い式			
	変速段数		前進16段，後進16段			
	走行速度 前進	km/h	0.23～14.80	0.29～24.10	0.22～19.60	0.29～24.10
	走行速度 後進	km/h	0.21～13.31	0.20～16.43	0.15～13.36	0.20～16.43
	最小旋回半径	m	2.55			
PTO	回転速度 正転	rpm	598,815,1081,1416	589,787,1054	589,787,1054	589,787,1478
	回転速度 逆転	rpm	573,780,1034,1355	564,758,1008	564,753,1008	564,753,1414
	軸径	mm	35（6スプライン）			
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール			
	装着方式		3点リンクJIS1型			

〈　〉内の値はキャビン装備機を示す。

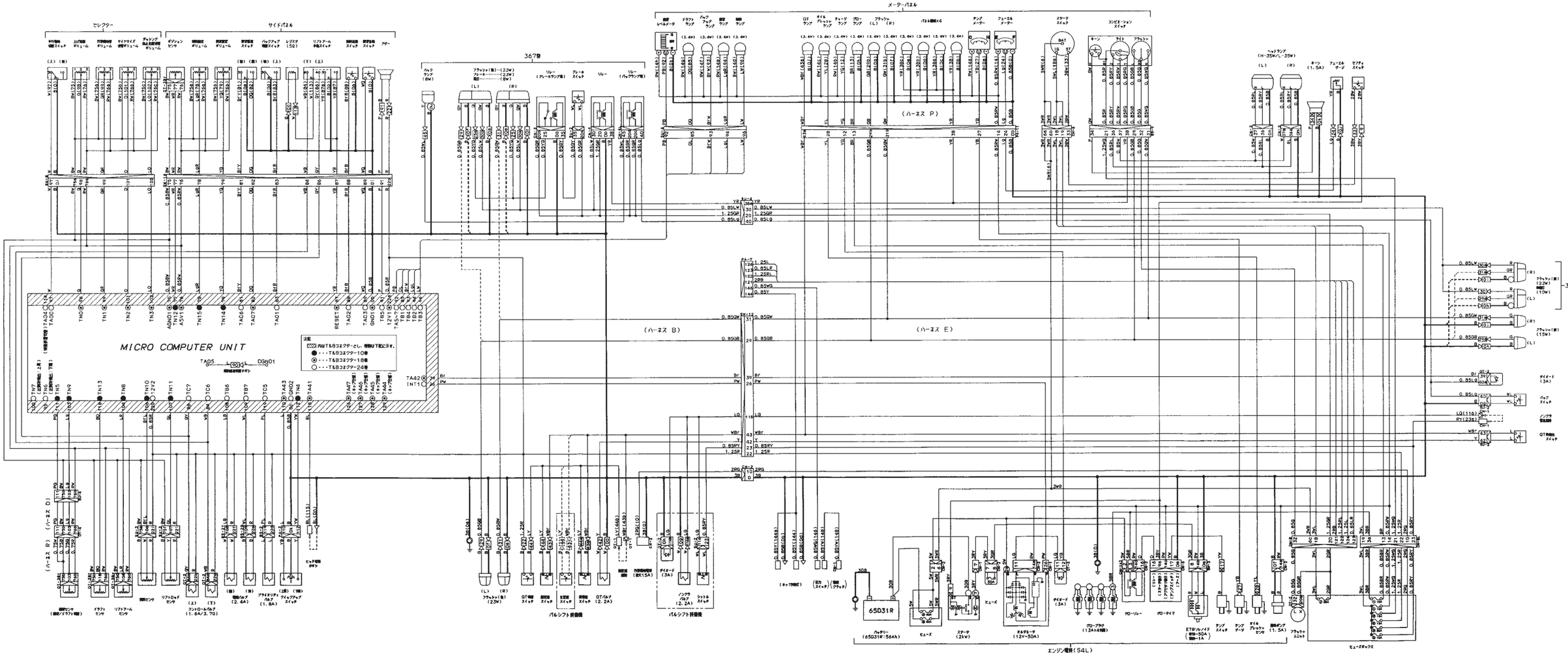
※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

2. 電気配線図

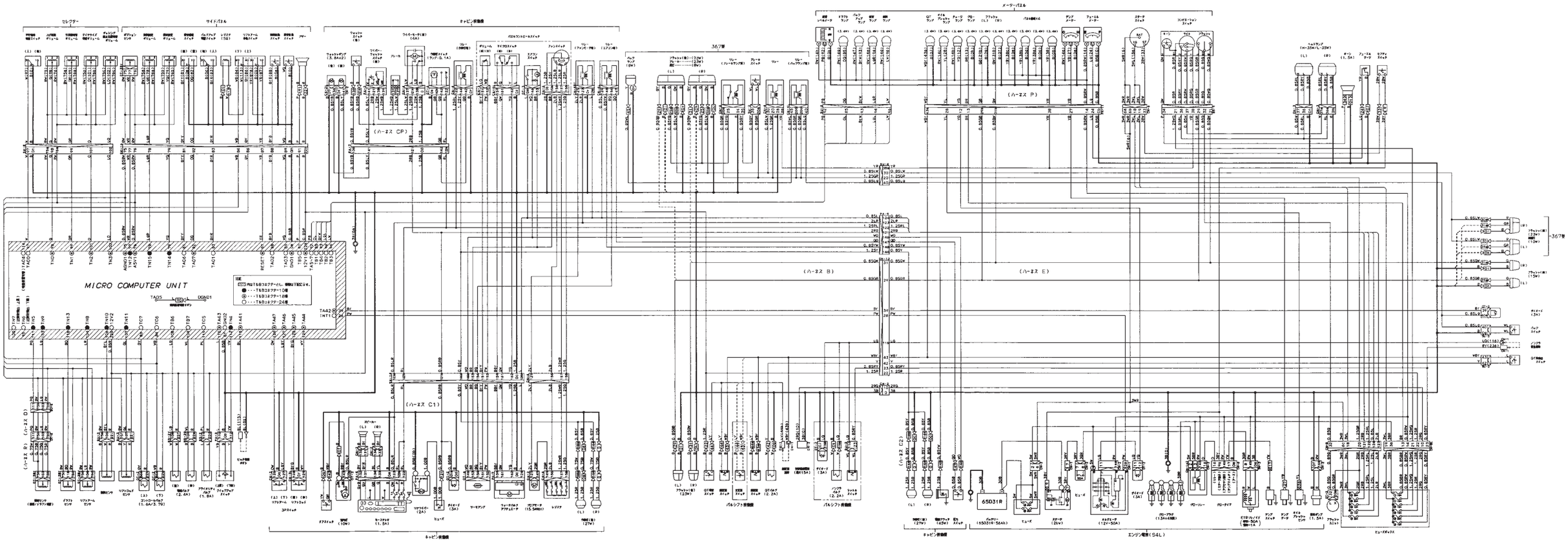
1. PAC装備機



2. マイコン装備機

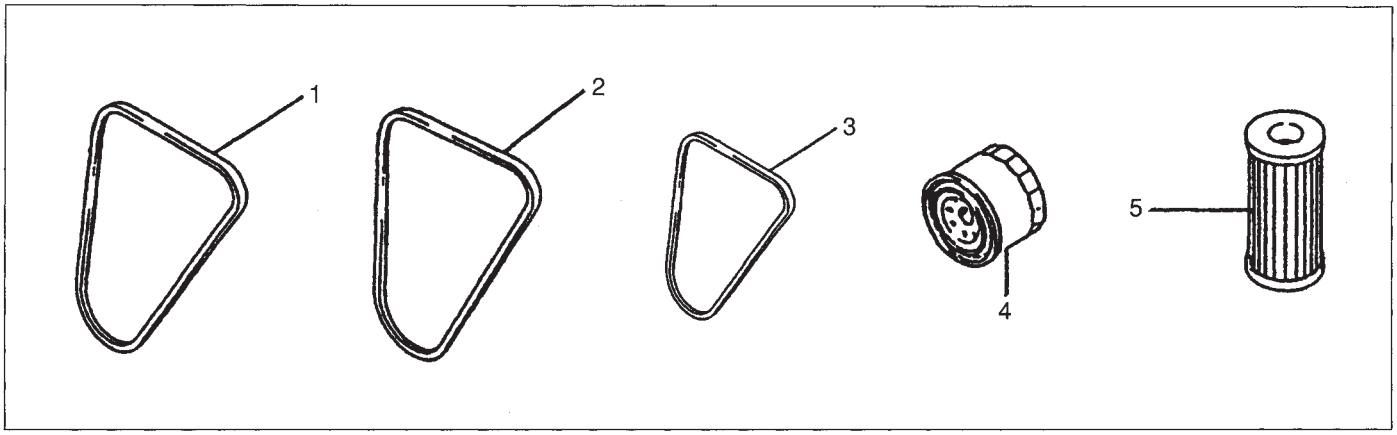

MICRO COMPUTER UNIT
セレクター
サイドパネル
メーターパネル
367型
(ハーネス P)
(ハーネス B)
(ハーネス E)
(ハーネス R)
(ハーネス D)
65D31R
バッテリー
(65D31R:56Ah)
ヒューズ
ステータ
(2kW)
オルタレータ
(12V-50A)
グロープラグ
(13A×4個)
グローリレー
グロータイマ
ETRソレノイド
(時間-50A)
(時間-1A)
ヒューズボックス
エンジン電装(S4L)
パルシフト装置箱
パルシフト装置
ヘッドランプ
(H-35W/L-35W)
ターンシグナル
(ハザードランプ兼用)
ドラフトランプ
リフトアームランプ
ブレーキランプ
バックアップランプ
ルームランプ
ターンシグナルスイッチ
ハザードスイッチ
ヘッドライトスイッチ
ワイパースイッチ
ホーン
ヒータスイッチ
ドラフトセンサ
リフトアームセンサ
ヒューズ
ダイオード
(3A)
バックアップスイッチ
ニュートラルスイッチ
ブレーキスイッチ
ドラフトスイッチ
リフトアームスイッチ
ヒータリレー
(時間-50A)
(時間-1A)
ヒータ
(1.5kW)
ヒータユニット
ヒータセンサ
(1.5A)
ヒータスイッチ
ヒータタイマ
ヒータプレッシャセンサ
ヒータポンプ
(1.5A)
ヒータユニット

3．マイコン，キャビン装備機



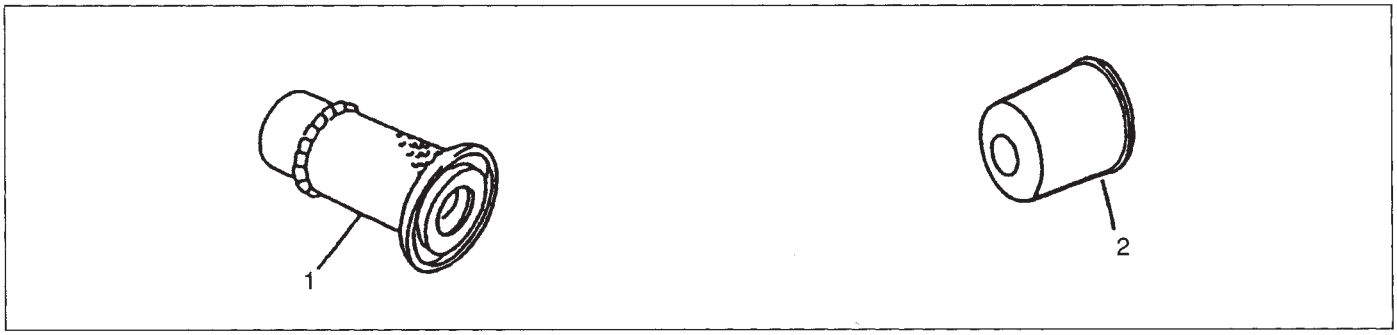
3. 主な消耗部品

1. エンジン関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型寸	備考
1	MD088955	ファンベルト	1		HM L=980，MT367用
2	MD041704	ファンベルト	1		HM L=970，MT337用
3	10366359000	コンプレッサベルト	1		Aゴールド L=1324
4	MD134953	フィルタアセンブリ	1		
5	MM320886	エレメント	1		

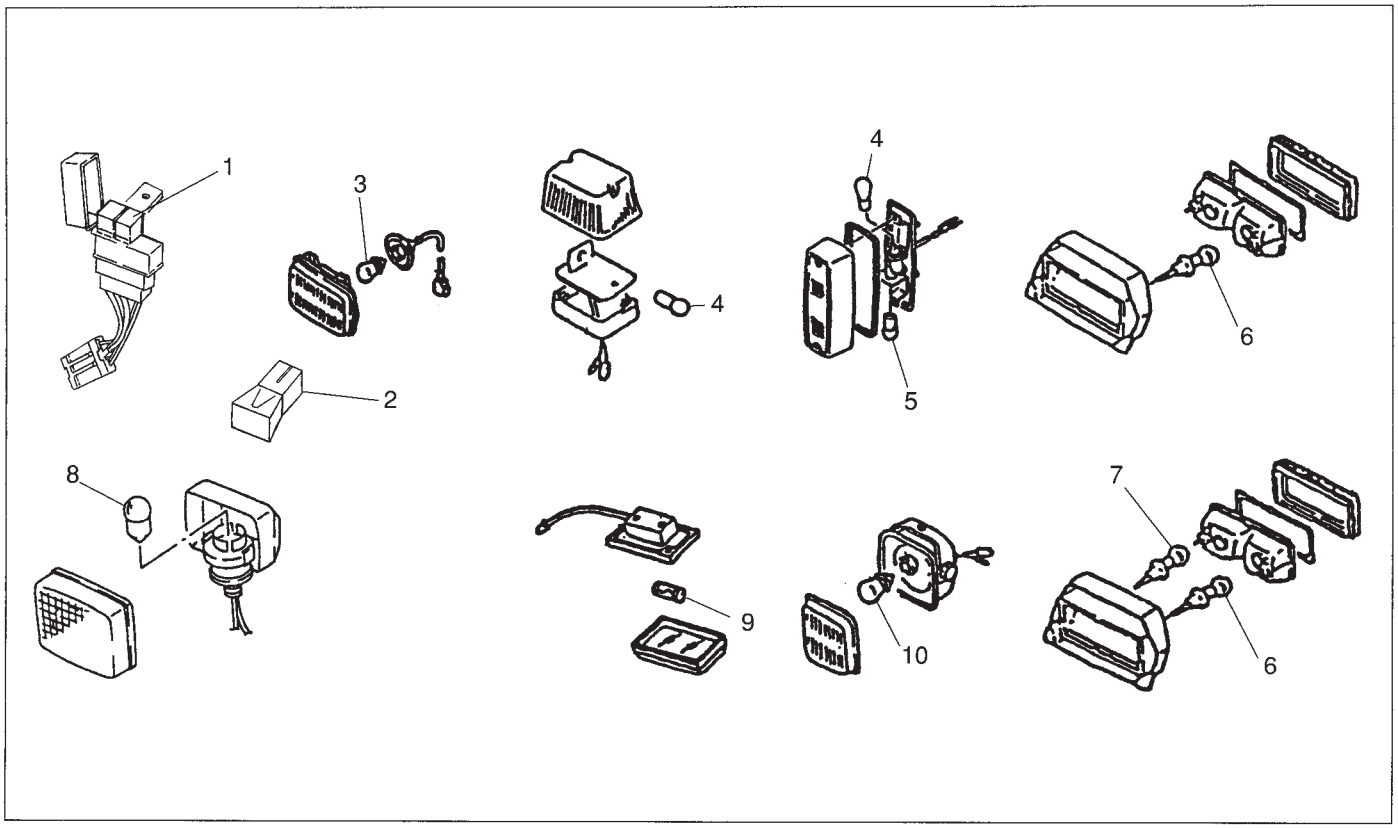
2. エアクリーナ・油圧ライン関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型寸	備考
1	1031 0511 200	エレメント	1		
2	1031 2518 000	油圧オイルフィルタ	1		

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3. 電装関係



見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型寸	備考
1	1037 5502 200	ヒューズ	2	60A	
2	1037 5581 200	ヒューズ	1	50A	
3	0980 8123 509	バルブ	2	12V-35/35W	前照灯
	6740 4-01 720	バルブ	2	12V-35/35W	前照灯〔367型〕
4	0980 8121 504	バルブ	2	12V－15W	方向指示灯(前)
	0980 8122 304	バルブ	2	12V－23W	方向指示灯(前)〔367型〕
5	0980 8121 001	バルブ	2	12V－10W	車幅灯〔367型〕
6	0980 8121 504	バルブ	2	12V－15W	方向指示灯(後)
	0980 8122 304	バルブ	2	12V－23W	方向指示灯(後)〔367型〕
7	1035 2816 200	バルブ	2	12V-23/8W	制動灯／尾灯〔367型〕
8	0980 8120 801	バルブ	1	12V－8W	後退灯〔367型〕
9	3532 3833 200	バルブ	1	12V－10W	室内灯〔キャビン装備機〕
10	1035 6281 200	バルブ	4	12V－27W	作業灯〔キャビン装備機〕

4. アタッチメント一覧表

次のアタッチメントを基本作業機として準備しておりますのでご利用ください。

	コードNo.	名　称	型　式	337型	367型	主な仕様
1	3211110010	リンケージドローバ	LDJIS1	○	○	JIS1型
2	3211020050	ドローイングヒッチ	SD－F3	○	○	スイング式
3	3210120030	バンパウェイト	BW－1848MT	○	○	20kg 5 個まで装着可
4	3210150161	バンパウェイト	BW－F1	○	○	20kg 6 個まで装着可
5	3210150171	バンパウェイト	BW－F2	○	○	22kg 6 個まで装着可
6	3210150211	シャーシウェイトA	SW－F3A	○	○	32kg
7	3211650110	ルーフキット(フード)	F－GX	○	○	2 柱折り畳み式
8	3258310170	クラッチBキット	KT－AL1K	○	○	スーパーヒッチ用作業機側クラッチ
9	3214112821	LKホイル（LA）	RLA20－1228MT	○	○	12.4－28，13.6－26用
10	3215210556	ダイヤホイル	ND－2811	○	○	12.4－28用
11	3215210586	ダイヤホイル	ND－2613	○	○	13.6－26用
12		逆転キット(サイド用)	FR－KIT17	○	○	RC171S用
13		逆転キット(サイド用)	FR－KIT18	○	○	RC181S用
14		逆転キット(サイド用)	FR－KIT19	○	○	RC191S用
15	3255910276	クイックレベラ	JKL－1640F1	○	○	レベラ幅2.4m
16	3255910216	クイックレベラ	JKL－1640DXF1	○	○	レベラ幅2.4m，デラックス型
17	3250511630	畦立器ブラケット	F23NK	○	○	固定式（ℓ：130）
18		反転式畦立器ブラケット	TBL－F23N	○	○	反転式（ℓ：130）
19	3250511910	畦立器45型	DX45－F23NK	○	○	底幅135㎜
20	3250511920	畦立器 6 型	DX60－F23NK	○	○	底幅180㎜
21	3252111191	反転式片培土器(右)	FKR12－GX	○	○	横反転式（右用）底幅120㎜
22	3252111450	反転式片培土器(左)	FKL12－GX	○	○	横反転式（左用）底幅120㎜
23	3252111211	反転式片培土器(右)	FKR19－GX	○	○	横反転式（右用）底幅190㎜
24	3252111460	反転式片培土器(左)	FKL19－GX	○	○	横反転式（右用）底幅190㎜
25		ロードマスター	HLD3336GX	○	○	制限荷重500kg，手動レバー式
26		ロードマスターIC	HLD3336GXIC	○	○	制限荷重500kg,電磁バルブ式(キャビン車専用)
27	3281411241	標準バケット	B－AD2848	○	○	容量0.2㎥
28	3281411261	爪付きバケット	TB－AD2848	○	○	
29	3281411252	広幅バケット	WB－AD2848	○	○	容量0.2㎥
30	3281411281	マニアフォーク	M－AD2848	○	○	フォーク長さ800㎜×6本
31	3281411291	ヘイフォーク	H－AD2848	○	○	フォーク長さ1400㎜×8本
32	3281411301	グレーダ	G－AD2848	○	○	排土量0.4㎥
33	3281411272	広幅爪付バケット	WTB－AD2848	○	○	
34	3281411311	広幅マニアフォーク	WM－AD2848	○	○	フォーク長さ800㎜×9本
35	3214113611	ローディングフック	L－AD2848	○	○	
36	3281411321	パレットフォーク	P－AD2848	○	○	フォーク長さ805㎜
37	3212410640	サブバルブ 1 連(手動)	D1－3336GX	○	○	安全フレーム用手動レバー式,単復切換式 1 連
38	3212410650	サブバルブ 2 連(手動)	D2－3336GX	○	○	安全フレーム用手動レバー式,単復切換式 2 連
39	3212410660	サブバルブ 1 連(電磁式)	DS－3336GXCAB	○	○	キャビン車専用電磁式,単復切換式 1 連
40	3212410670	サブバルブ 2 連(電磁式)	DD－3336GXCAB	○	○	キャビン車専用電磁式,単復切換式 2 連

5. 潤滑油について

オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

1. エンジンオイルについて

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSTOUオイル（SAE・10W－30）
全農	クミアイディーゼルマルチオイル（SAE・10W－30）
三菱石油	ダイヤモンドHDS－3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル

取扱いのポイント

●やむをえず他メーカのオイルを使用される場合はAPIサービス分類CD級オイルをお使いください。

2. ミッション，フロントアクスルオイルについて

APIサービス分類　GL－4級以上のオイルで湿式ブレーキ適性のあるもの。

銘柄（メーカ）	オイル商品名	
三菱農機純正油	マルチGBオイル	（SAE・80W）
〃	マルチSTOUオイル	（SAE・10W－30）
三菱石油	ダイヤモンドファームギヤオイルB	（SAE・80W）
〃	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	（SAE・10W－30）
日本石油	アントイルB	（SAE・80W）
全農	クミアイトラクタオイル	（SAE・80W）
昭和シェル石油	ギヤオイルHTS－56スーパー	（SAE・80W）

※商品名は変更することがあります。

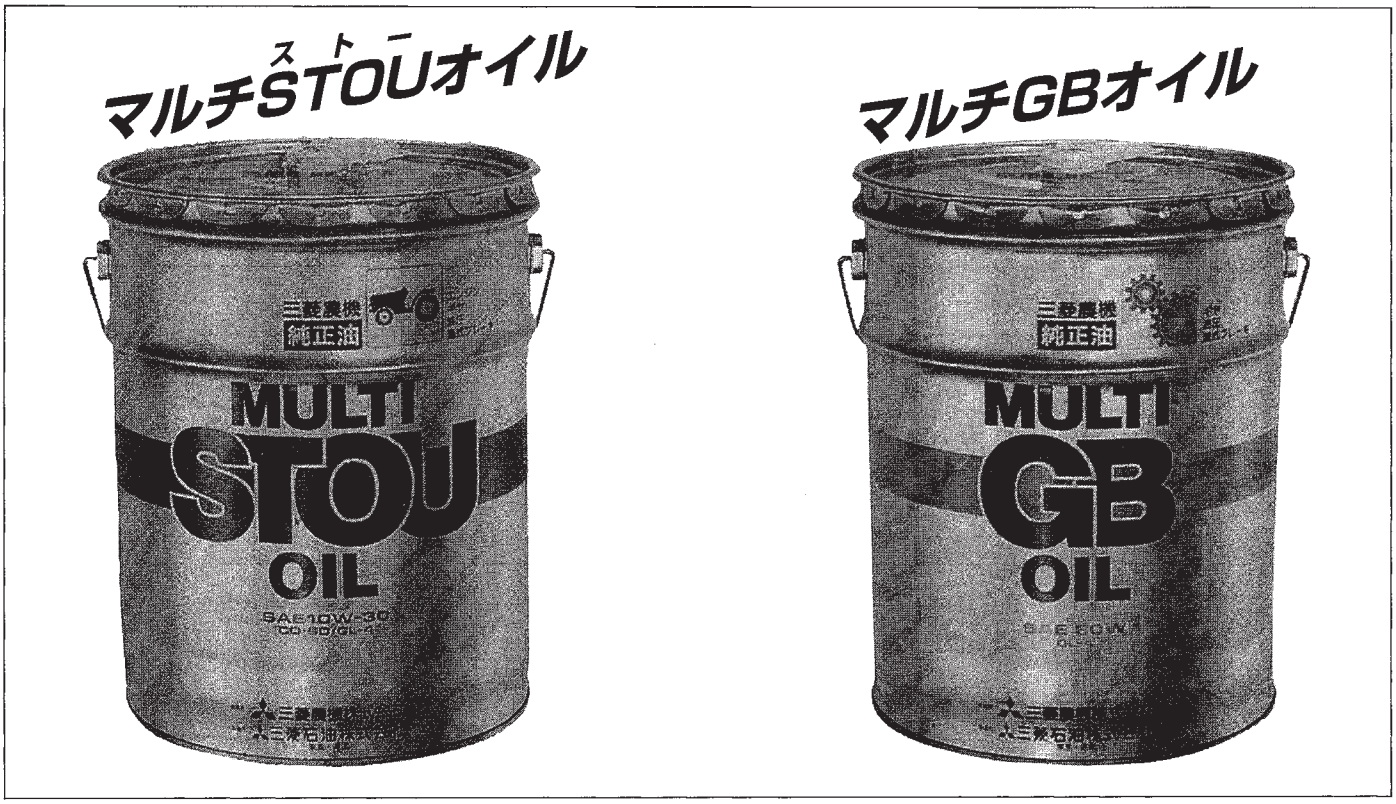
取扱いのポイント

●パルシフト装備機のトランスミッションオイルは，マルチSTOUオイルをお使いください。

3. 三菱農機（純正油）マルチオイルペアについて

・マルチSTOU（ストー）オイルは，１種類でエンジンオイル，ギヤオイルとして，一年中ご使用いただける，オールシーズンタイプです。

・マルチGBオイルは，ギヤおよび湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（G）と湿式ブレーキ（B）専用オイルです。



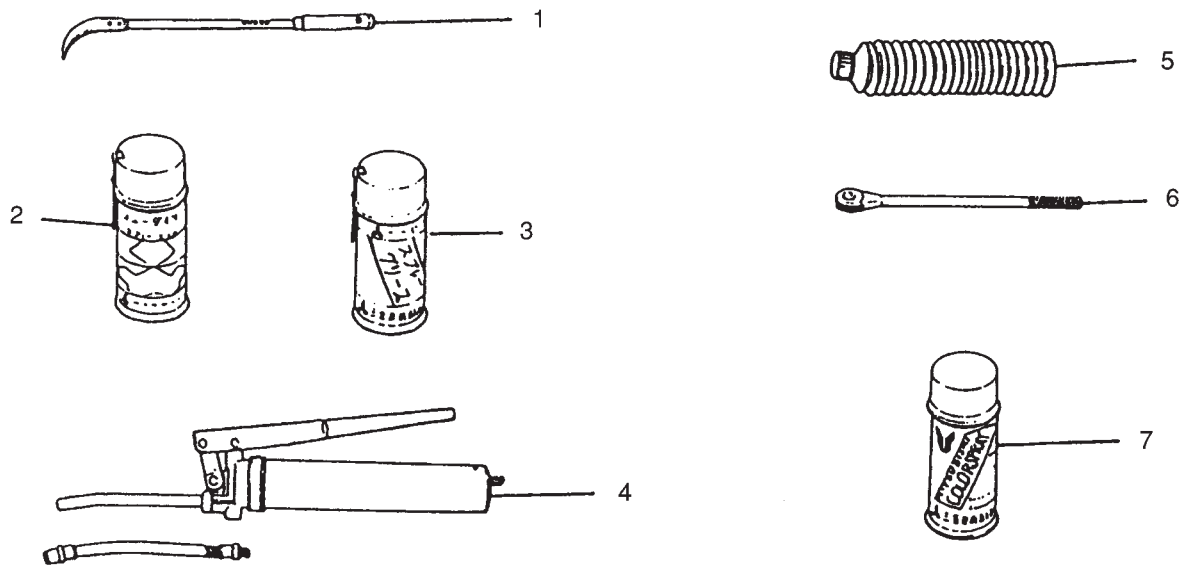
性状＼品名		マルチSTOUオイル	マルチGBオイル
密度	15℃ g／cm³	0.881	0.893
引火点	℃	210	230
流動点	℃	－37.5	－35.0
動粘度cSt	@ 40℃	62.0	78.4
	@ 100℃	10.8	9.8
粘度指数		168	104
ＡＰＩサービス分類		SD／CD／GL－４	GL－４
ＳＡＥ粘度番号		10W－30	80W
荷姿		ドラム・20ℓ缶	20ℓ缶

・お買い求めは，弊社「特約販売店」で取扱っていますのでご相談ください。

6. トラクタ関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商 品 番 号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	ラチェットレンチ（17）	HT3100	爪の脱着，増締
7	カラースプレー（赤）	0975　0000　490	
	〃　（白）	0975　0000　160	補修用塗料
	〃　（黒）	0975　0000　470	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

7. 用語解説

（アイウエオ順）

アタッチメント……トラクタ購入後に取付ける部品。

アワメータ……作業時間の集計を表示する装置。

安全フレーム……運転者を保護する目的のフレーム。

インジケータランプ……メータパネル内の光る表示灯。

オルタネータ……発電機

グロー……予熱

3点リンク……トップリンク，ロワリンク，リフトロッドの3点で作業機を支持する構造。

ＪＡＣ……耕深を自動的にコントロールできるとともに，耕うん面を水平に保持することができる装置。

スーパーヒッチ……トラクタにのったままでロータリの着脱や作業機の装着がえが容易にできる取付装置。

セレクタ……スイッチの切替えで自動制御を切換える装置。

ダイヤクイックターン……旋回時に前側のタイヤが高速で回転し，小回りできる構造。

チェックチェン……中央を回転させることによりロッドの長さを変えて，ロワリンクのふれを調整できる部品。

トーイン……前輪を上からみて前方が後方よりせまくなっている状態。

トップリンク……作業機の上部とトラクタを連結する部品。

ドローバ……トラクタ後部に取付けることによって，トレーラ等をけん引することができる部品。

トレッド（輪距）……左右のタイヤ中心間の距離。

ＰＡＣ……耕深を自動的にコントロールする装置。

ヒューズ……電気装置に過電流が流れた時に電気をしゃだんする部品。

ＰＴＯ……作業機の動力軸。

フロントアクスル……前輪部を駆動させる部分。

フロントローダ……トラクタ前部に取付ける作業機で，ローダ作業を行うもの。

ＭＡＣ……耕深，作業機の傾斜をコンピュータにより自動的に最適に設定する装置。

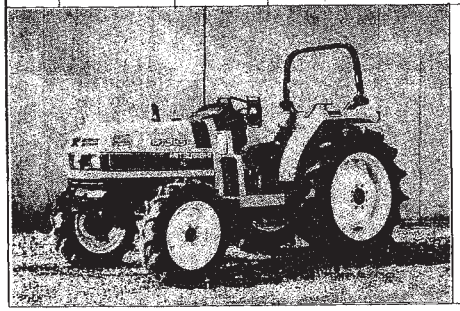
リフトアーム……トラクタが作業機を上げる為のアーム。

リフトロッド……リフトアームとロワリンクを連結する部品。

ロワリンク……作業機の下部とトラクタを連結する部品。

農用トラクター（乗用型）検査成績表

合格番号	型式名	三菱MT365
93050	依頼者名	三菱農機株式会社
	住所	島根県八束郡東出雲町大字揖屋町667番地1



- 4輪駆動
- 大型特殊自動車
- 機関呼称出力：26.5kW｛36PS｝／2700rpm
- 走行速度段数：前進16段　後進16段
  （シャトル変速）
- クリープ変速付き
- PTO変速段数：正3段，逆3段
- パワーステアリング付き
- 旋回時前輪増速機構付き
- 水平・耕深制御装置付き
- 安全キャブ付きもあり
- 装着安全フレーム：型式名 三菱 2F365
  （合格番号：93057）

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ

- 全長：3.30m（バンパ～下部リンク後端）
- 全幅：1.48m（前輪最外側）
  試験時の前輪輪距1.22m
  試験時の後輪輪距1.15m
- 全高：2.04m（安全フレーム上端）
- 質量：1530kg（付加重錘なし）
  前輪 641kg　後輪 889kg
- 軸距：1.84m
- 輪距：前輪 1.22m（固定）
  後輪 1.15，1.26，1.35，1.44
  1.55，1.65m　（6段階）
- タイヤ：前輪 8-18-4 PR
  後輪12.4-28-4 PR
- PTO軸高さ：0.60m
- PTO軸端～下部リンク後端：0.63m

2．機　関

- 種類：水冷4サイクル4気筒ディーゼル
- 呼称出力：26.5kW｛36PS｝／2700 rpm
- 総行程容積：1.758 l
- 燃焼室形式：渦流室式
- 過給機：なし

3．伝動装置

- 主クラッチ形式：乾式単板
- 主変速：4段
- 副変速：2段
- クリープ変速：2段
- 前進：16段（0.3～22.6 km／h）
- 後進：16段（0.2～15.4 km／h）
- デフロック装置：あり（後輪）

4．PTO

- クラッチ形式：普通型
- 規　格：6スプライン軸径35㎜
- 回転数（機関定格回転数のとき）：
  正転 589，787，1054 rpm
  逆転 564，753，1008 rpm

5．けん引装置

- 形式：スウィングドローバ

6．作業機昇降装置

- 制御方式：ポジション及び
  ドラフトコントロール
- 油圧外部取出口：RC1／2，1個
- 作業機装着装置：3点リンク1形

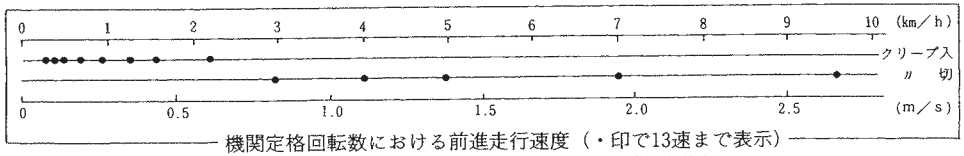
7．かじ取装置

- 形式：油圧式（全油圧式）

8．装着安全フレーム

- 型式名：三菱 2F365

（合格番号：93057）



機関定格回転数における前進走行速度（・印で13速まで表示）

※上段：クリープ変速（入）　下段：クリープ変速（切）

II　検　査　成　績

1．PTO性能

- トルクバックアップ比：1.19
- 弾　性　値：2.25
- 最大出力時：

出　力	燃料消費率	PTO軸回転数	排気煙濃度
24.2kW｛32.9PS｝	296g／kW・h｛218g／PSh｝	578rpm	6%

2．けん引性能（コンクリート上）

条　件	けん引力	けん引出力	速　度
最大けん引力	11.91kN｛1214kgf｝	8.85kW｛12.0PS｝	2.67km／h（9速）
7.5km／hに最も近い速度段	11.11kN｛1133kgf｝	18.4kW｛25.0PS｝	5.97km／h（12速）
最大けん引出力	5.96kN｛608kgf｝	20.1kW｛27.3PS｝	12.12km／h（14速）

3．作業機昇降装置性能

- リリーフ弁設定圧力：16.9MPa｛172kgf／㎠｝
- 油圧ポンプ性能：

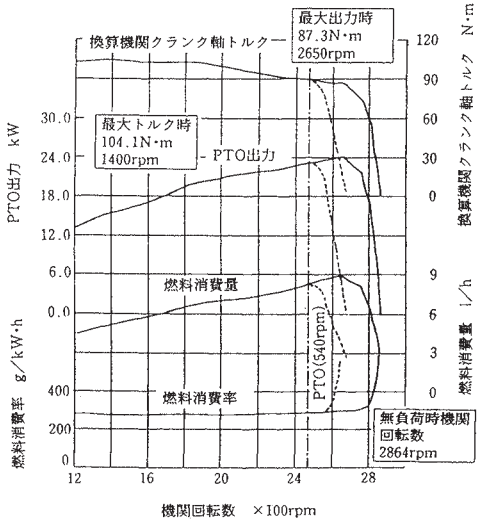
条　件	流　量	圧　力	出　力
最大出力	31.6 l／min	15.2MPa｛155kgf/㎠｝	8.00kW｛10.88PS｝
リリーフ弁設定圧力の90%	31.6 l／min	15.2MPa｛155kgf/㎠｝	8.00kW｛10.88PS｝

- 揚力

条　件	揚　力
下部リンクヒッチ点	16.72kN｛1705kgf｝
フレーム上	10.69kN｛1090kgf｝

4．騒音（運転者の耳もと）：86dB(A)

5．静的横転倒角：39°



※　調速レバー位置
実線：全開位置
点線：標準PTO回転数で最大出力の得られる位置

図　PTOの性能曲線

6．最小旋回半径（コンクリート上）

ブレーキ使用時：2.66m

7．安全装備　可動部・高温部の防護カバー，昇降部の落下防止装置，その他の装置

8．その他　旋回時前輪増速機構，水平・耕深制御装置は円滑に作動した。

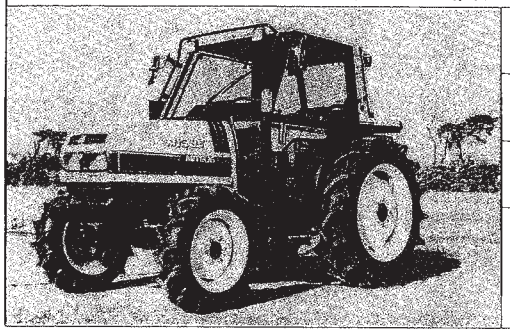
トルクバックアップ比：最大トルクと最大出力時トルクの比。大きい方が良好。
弾性値：（最大出力時と最大トルク時の機関回転数の比）×（トルクバックアップ比）。大きい方が良好。
排気煙濃度：排気ガスの黒煙の濃度を0～100%の範囲で示す。小さい方が黒煙が少ない。
最大けん引力：コンクリート上でスリップ率15%時のけん引力又はその速度段の最大けん引出力時のけん引力のどちらか小さい方の値を最大けん引力としている。
揚力：最大揚力を実際のリリーフ弁設定圧力の90%の圧力に換算した実用的揚力値。
騒音：無負荷時走行速度が7.5km／hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時の最大騒音レベル値。

III　付　　記

本機は，高性能農業機械等の試験研究，実用化の促進及び導入に関する基本方針（平成5年8月30日農林水産大臣公表）に定められたトラクターの第II類に属するものである。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成6年2月1日
生物系特定産業技術研究推進機構



型式名：三菱 CF365

合格番号：93055

種　　類：安全キャブ

依頼者名：三菱農機株式会社
住　　所：島根県八束郡東出雲町大字揖屋町667番地1

I 装着可能トラクター

1．型式名
三菱 MT365　　三菱 MT335

2．主要諸元

■型式名		:	三菱 MT365	三菱 MT335
■種類		:	4輪駆動	4輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	:	1656	1649
■軸距	mm	:	1835	1835
■機関出力/回転数	kW{PS}/rpm	:	26.5{36}/2700	24.3{33}/2800

II 構造の概要

1．構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してミッションケース部及び後車軸ケース部にボルトで装着。ウインドスクリーン，ドア（両側），後窓を装備。

2．主な装備
暖冷房装置，電動ワイパー（前），ルーフハッチ，シートベルト（2点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		:	90.5 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		:	130.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		:	86.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		:	83.5 cm
■戸口の幅	（上部）	:	69.5 cm
	（中部）	:	80.0 cm
	（下部）	:	40.5 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	:	123.5 cm
■最低位ステップの高さ		:	43.5 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	:	199.5 cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	:	130.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		:	28.5 cm

※1．三菱 MT365（タイヤサイズ ： 前輪 8-18　後輪 12.4-28 ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，GXシート
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主フレーム：STK 400，STKR 400，S25C，SPHC，SPCC
■装着ブラケット：SS 400，SPHC
■組立・装着ボルト：S45C，SCM 435

III 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，キャブの後部右側，側部左側に対して実施。
■基準質量：1750 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.82 kJ {287 kgf・m}
側部負荷　3.54 kJ {361 kgf・m}
■圧壊力：25.74 kN {2625 kgf}
2）試験後のキャブの永久変位
■後部（前方へ）：右側　2.5 cm　左側　3.0 cm
■前部（後方へ）：右側　−1.5 cm　左側　−3.5 cm
■側部（右側方へ）：前側　19.5 cm　後側　17.5 cm
■上部（下方へ）：前部 右側　2.5 cm　左側　0.0 cm
後部 右側　3.0 cm　左側　0.5 cm
3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 7.0 cm

2．騒音 ※
■ 83 dBA 〔三菱 MT365〕　82 dBA 〔三菱 MT335〕

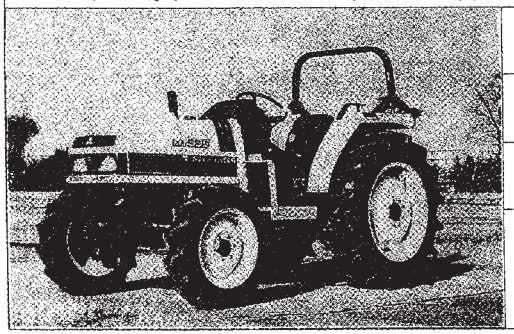
※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

IV 付記

強度試験は，コードIIにより実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成16年2月1日
生物系特定産業技術
研究推進機構



型 式 名：三菱 2F335

合格番号：９３０５６

種　　類：安全フレーム(２柱式)

依頼者名：三菱農機株式会社
住　　所：島根県八束郡東出雲町大字揖屋町
667番地１

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型 式 名
三菱 ＭＴ335

2．主要諸元

■型　　式　　名		：	三菱 ＭＴ335
■種　　類		：	４輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	：	1484
■軸　　距	mm	：	1835
■機関出力/回転数	kW(PS)/rpm	：	24.3{33}/2800

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，防振ゴム・取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備
シートベルト（２点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	81.5 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	123.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		：	80.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	－ cm
■戸口の幅	（上部）	：	－ cm
	（中部）	：	－ cm
	（下部）	：	－ cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	－ cm
■最低位ステップの高さ		：	44.0 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	：	194.0 cm
■フレームの全幅		：	102.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	34.5 cm

※1．三菱 ＭＴ335（タイヤサイズ ： 前輪 8-18　後輪 12.4-28 ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，ＧＯシート
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主 フ レ ー ム：STKR 400，SS 400，SPHC，STKM 11A，STKM 12C，SM 490B 他
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S45C，SCM 435

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。
■基 準 質 量：1550 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.50 kJ {255 kgf･m}
側部負荷　3.27 kJ {333 kgf･m}
■圧 壊 力：22.80 kN {2325 kgf}
2）試験後のフレームの永久変位
■後 部（前 方 へ）：右側　4.5 cm　左側　6.5 cm
■側 部（右側方へ）：14.0 cm
■上 部（下 方 へ）：右側　3.0 cm　左側　0.5 cm
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 ： 8.0 cm

2．騒 音 ※
■ 86 dBA 〔三菱 ＭＴ335〕

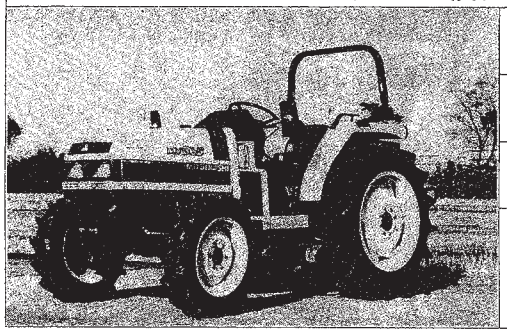
※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付 記

強度試験は，コードⅡにより実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成16年2月1日
生物系特定産業技術研究推進機構



型 式 名：三菱 2F365

合格番号：９３０５７

種　　類：安全フレーム(２柱式)

依頼者名：三菱農機株式会社
住　　所：島根県八束郡東出雲町大字揖屋町667番地１

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型 式 名
三菱 ＭＴ365

2．主要諸元

■型式名		：	三菱 ＭＴ365
■種類		：	４輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	：	1544
■軸距	mm	：	1835
■機関出力／回転数	kW{PS}/rpm	：	26.5{36}/2700

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，防振ゴム・取付金具を介して後車軸ケース部にボルトで装着。
なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備
シートベルト（２点式）

3．主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	91.5 cm
■フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	133.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		：	85.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	－ cm
■戸口の幅	（上部）	：	－ cm
	（中部）	：	－ cm
	（下部）	：	－ cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	－ cm
■最低位ステップの高さ		：	44.0 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	：	204.0 cm
■フレームの全幅		：	102.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	34.0 cm

※1．三菱 ＭＴ365（タイヤサイズ ： 前輪 8-18 後輪 12.4-28 ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，ＧＯシート
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主 フ レ ー ム：STKR 400，STKM 11A，STKM 12C，SS 400，SM 490B 他
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S45C，SCM 435

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，フレームの後部右側，側部左側に対して実施。
■基 準 質 量：1550 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷 2.50 kJ {255 kgf･m}
側部負荷 3.27 kJ {333 kgf･m}
■圧 壊 力：22.80 kN {2325 kgf}
2）試験後のフレームの永久変位
■後 部（前 方 へ）：右側 4.5 cm 左側 6.5 cm
■側 部（右側方へ）：14.0 cm
■上 部（下 方 へ）：右側 2.5 cm 左側 0.5 cm
3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 ： 9.5 cm

2．騒 音 ※
■ 86 dBA 〔三菱 ＭＴ365〕

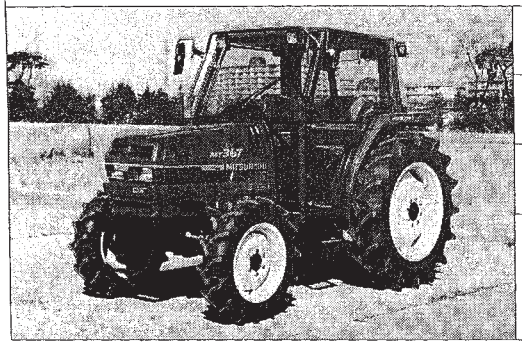
※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付 記

強度試験は，コードⅡにより実施した。

農用トラクター(乗用型)用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成９年４月２日
生物系特定産業技術
安全性検査機構



型 式 名：三菱 CF367

合格番号：９６１００

種　　類：安全キャブ

依頼者名：三菱農機株式会社
住　　所：島根県八束郡東出雲町大字揖屋町667番地１

Ⅰ 装着可能トラクター

1．型 式 名
三菱 ＭＴ３６５　　三菱 ＭＴ３３５

2．主 要 諸 元

■型　　式　　名		：	三菱 ＭＴ３６５	三菱 ＭＴ３３５
■種　　類		：	４輪駆動	４輪駆動
■質量（キャブ付き）	kg	：	1711	1702
■軸　　距	mm	：	1835	1835
■機関出力/回転数	kW{PS}/rpm	：	26.5{36}/2700	24.3{33}/2800

Ⅱ 構造の概要

1．構造及び装着法
供試キャブは，鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり，防振ゴム・取付金具を介してミッションケース部及び後車軸ケース部にボルトで装着。
ウインドスクリーン，ドア（両側），後窓を装備。

2．主 な 装 備
シートベルト（２点式），暖冷房装置，電動ワイパー（前・後），ルーフハッチ

3．主 要 寸 法 ※

■座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ		：	90.0 cm
■フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ		：	131.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるキャブの内幅		：	78.5 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅		：	85.5 cm
■戸口の幅	（上部）	：	71.0 cm
	（中部）	：	99.5 cm
	（下部）	：	40.0 cm
■戸口の高さ	（フートプレートから）	：	124.0 cm
■最低位ステップの高さ		：	44.0 cm
■キャブ装着時のトラクターの全高	（キャブ上端まで）	：	199.5 cm
■キャブの全幅	（フェンダーを含む）	：	129.0 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離		：	29.0 cm

※1．三菱 ＭＴ３６５（タイヤサイズ ： 前輪 8-18　後輪 12.4-28 ）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式 ： 難波プレス工業，ＧＸシート
3．ステアリングホイールのチルトは中央位置に調節。

4．主要材料
■主 フ レ ー ム：STK 400, STKR 400, SS 400, SPHC, SPCC, S25C
■装着ブラケット：SS 400
■組立・装着ボルト：S45C, SCM 435

Ⅲ 検査成績

1．強度試験
1）水平負荷試験は，キャブの後部右側，側部左側に対して実施。
■基　準　質　量：1750 kg
■所要吸収エネルギー：後部負荷　2.82 kJ { 287 kgf･m}
側部負荷　3.54 kJ { 361 kgf･m}
■圧　　壊　　力：25.74 kN {2625 kgf}
2）試験後のキャブの永久変位

■後　部（前 方 へ）：	右側	2.5 cm	左側	4.0 cm
■前　部（後 方 へ）：	右側	−3.5 cm	左側	−4.0 cm
■側　部（右側方へ）：	前側	18.0 cm	後側	16.0 cm
■上　部（下 方 へ）：	前部 右側	3.0 cm	左側	−0.5 cm
	後部 右側	2.5 cm	左側	−0.5 cm

3）側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差 ： 6.5 cm

2．騒　　音 ※
■ 81.5 dBA 〔三菱 ＭＴ３６５〕　　80 dBA 〔三菱 ＭＴ３３５〕

※7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付　記

強度試験はコードⅡにより実施した。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

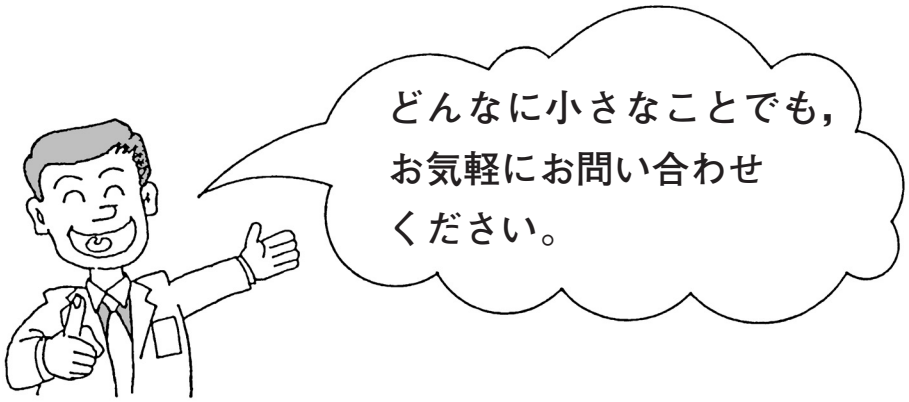
●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)